

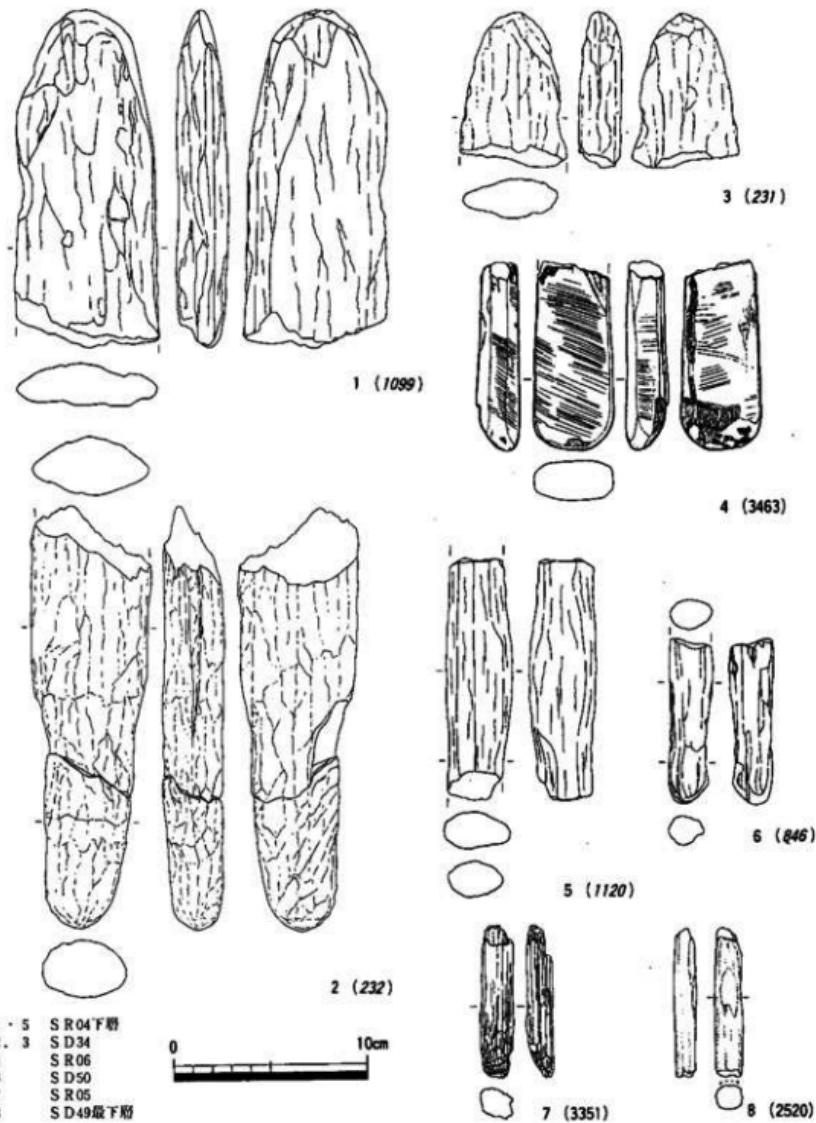
<結晶片岩製石剣・石棒類>（第255図）

凸帯文系土器が少量出土した溝 S D34からは、土器に伴って「石剣」と報告された結晶片岩製の石製品2片（第255図2,3）が出土している。また同様な破片がS R04下層で出土しており（第255図1）龍川五条I式期（前期前半）にはば限定できる遺物である。「石剣」として報告されているように器体は幅6～7.5cmの扁平な菱形を呈し、下端部に長さ11.5cm、幅4.4cmの柄を作り出すものである。断面菱形とはいっても鋒は不明瞭で、刃部の研ぎ出しもきわめて粗雑。切先の破片（3）も先端は尖っていない。それに対して柄の下端部は丸く丁寧に仕上がっており、S R04出土例は先端部の形状が3と類似することから上半部の破片と考えられるが、一方の刃部のみがやや鋭く研磨されるのみで全体的に粗雑な作りである。石材はいずれも石英結晶や節理の空隙が目立つ質の悪い結晶片岩で、石斧や石庖丁に使用される節理が顕著な粗質の緑泥片岩とくらべてもさらには劣る。このような石材は、近畿地方を中心として縄文時代晚期後半の凸帯文期に発達する長さ40～50cm、幅5cmほどの石棒によく見られるもので、瀬戸内沿岸においてもその種の石棒は兵庫県口酒井遺跡第11次調査（南1988）、同県大開遺跡（前田1993）、徳島県三谷遺跡（勝浦1997）、香川県井手東II遺跡（山元1995）など凸帯文期から弥生前期前半の遺跡で出土している。この石製品の全長がどれほどのものか推測する材料には乏しいが、2の上端の厚みが3cmあるのに対して、同一個体と推定される3の下端の厚みが2cmと薄くなっている。先端に向かってスムーズに薄くなるものとすれば全長50cm程と見込まなければ不自然である。

この種の石製品が先の磨製石剣のような北部九州や朝鮮半島南部に遡源する大陸系磨製石器、あるいは青銅武器を模倣した武器形石製品の系譜に直接関与しないのは明かであるが、唐古遺跡などで出土する前期の剣形木製品には全長が60cmを越える断面が扁平な菱形を呈するものがあり（中村1980）、石材や素材あるいは形態的にも変容を来たした武器形祭器が各地域で個別的に展開した可能性も十分に考えられる。石英結晶や節理の空隙が目立つ質の悪い結晶片岩を、それも敲打成形後に充分な研磨を施さない状態で製品とする特徴は、石材選択、技術的系譜そしてそのサイズの面でも先に指摘した凸帯文期の粗製の石棒類に類似しており、在來の祭祀遺物との系譜関係にも注意を払う必要があろう¹¹。もっとも大陸系磨製石器の未製品である可能性も全く否定することはできない。しかし最終研磨したとしても石材からみて実用に耐えうる武器にはなり得ない。

4～8は粗質の結晶片岩や緑泥片岩を素材とする石製品である。4は幅4cm、厚さ2cm

の基部片で研磨は1～3より丁寧である。5～8は形態や大きさにバラツキがあるが断面を円～楕円形に仕上げる共通性もある。このような棒状の石製品が祭祀具として機能したかどうかはわからない。石器・石材流通における付属的な交換財であった可能性もあり、しばしば「搬入石材」として一括して他の石材と一緒に取り扱われることも多い。しかし石材が共通する1～3の祭器と絡めた型式学的研究も進める必要を提起させる一群である。



第255図 結晶片岩系石剣・石棒類の諸例

(2) 摩滅痕のある打製刃器（第26表）

当地域に特徴的な金山産サヌカイトを使用した打製石庵丁は、長さ10~15cm、幅3~6cmほどの横長剥片の両側縁に抉りを入れ、背部を敲打して潰し、下縁部に調整加工を施すものを定型的なものとして器種が認定される。しかし、かねてから指摘されている通り打製石庵丁が定型化するのは前期末ごろ（佐原1964）であり、それ以前から存在する当遺跡出土資料中には典型的な打製石庵丁がきわめて少ない。かつて近隣の五条遺跡で出土した抉りの無い剥片石器について、縄文時代後期に系譜をたどれる「異形石庵丁」として報告され（松本1961）、「紫雲出山」報告において「定型化以前の打製石庵丁」と評価された（佐原1964）ものについても、その後の普通寺市永井遺跡出土のスクレイパー類に少なからず含まれる状況（渡部1990）が判明してきており、縄文時代後期以前に遡るイネ資料の増加に連動して、定型化以前の石庵丁が「石庵丁状石器」などとして縄文時代後期まで遡る可能性が指摘される（平井1994）ようになった。

ところがスクレイパーのすべてが定型化以前の石庵丁と認められる訳ではなく、その分類の基準は非常に曖昧である¹¹。一方で指摘されているように、これらを使用痕の観察・分析に基づき客観的に評価する方法が求められている（佐原1964）。近年では、型式学的研究に加えて使用痕を顕微鏡で観察・分類し、これらの不定形石器あるいは定形石器においても具体的な機能推定を進める手法も開発されている（御堂島1989・阿子島1989）。それらの使用痕分析は、金属顕微鏡による摩滅面の観察で使用痕自体の分類を行い、土掘りやイネ科植物の切断のみならず皮革や肉類の切断や木材加工など多くの類型を設定しているが、残念ながら今回それを援用できる筆者自身の経験的知識がなく、観察する器具類も揃っていないために、不十分な状態での使用痕の判断を行わざるを得ない。しかし、今回使用した80倍を限度とする実体顕微鏡下でも使用痕は少なくとも肉眼より良好に見ることができ、典型的な打製石庵丁の使用痕と比較検討した結果、多くの剥片石器にも同様あるいはそれに類似する使用痕と考えられる「摩滅痕」を認めることができた¹²。

もちろん器表面の摩滅がすべて穂摘み（イネ科植物の収穫）による使用痕とは限らず、除草やイネ葉の調整などさまざまな用途が各地域で検討されている（斎野1993・1994）。それらを含めて、ここでは「定型化以前の打製石庵丁」の実態を追究するために、特にスクレイパー類、さらに楔形石器などに転用されたものを含めて、使用痕と考えられる「摩滅痕」をもつものを「摩滅痕のある打製刃器」として、それを形態や素材剥片の選択等によって分類し、摩滅痕との関係をみるとこととした。

なおイネ科植物の収穫等と同様、石器に摩滅を及ぼす行為に「土掘り」がある。打製石斧の使用痕と石庵丁の使用痕は次のような違いがある。

打製石斧は器体が肉厚で短刃を中心に比較的広い範囲に強い摩滅痕をもち、ほぼ例外なく刃縁部に線状痕が観察できる。器体中央部では剥離の稜線を境にして上下、あるいは左右で摩滅度に違いがある。顕微鏡で観察すると、器面の皺の凹凸に関わらず摩滅が及ぶものが多く、それがより強くなると完全な平坦面を形成するのがわかる。

これに対して、打製石庵丁はあまり強い摩滅痕をとどめるものではなく、刃縁部を中心として剥離の稜線自体が摩滅するものが多い。器体は全体的にロウを塗ったような滑りがみられ、顕微鏡で観察すると器面の皺の凸部が摩滅するが凹部にまでは摩滅が及ばないものが多い。器体の厚みが中間的で、刃縁部が残らないものはこのような器面の皺の顕微鏡の観察に基づいて両者の摩滅痕を区分している。

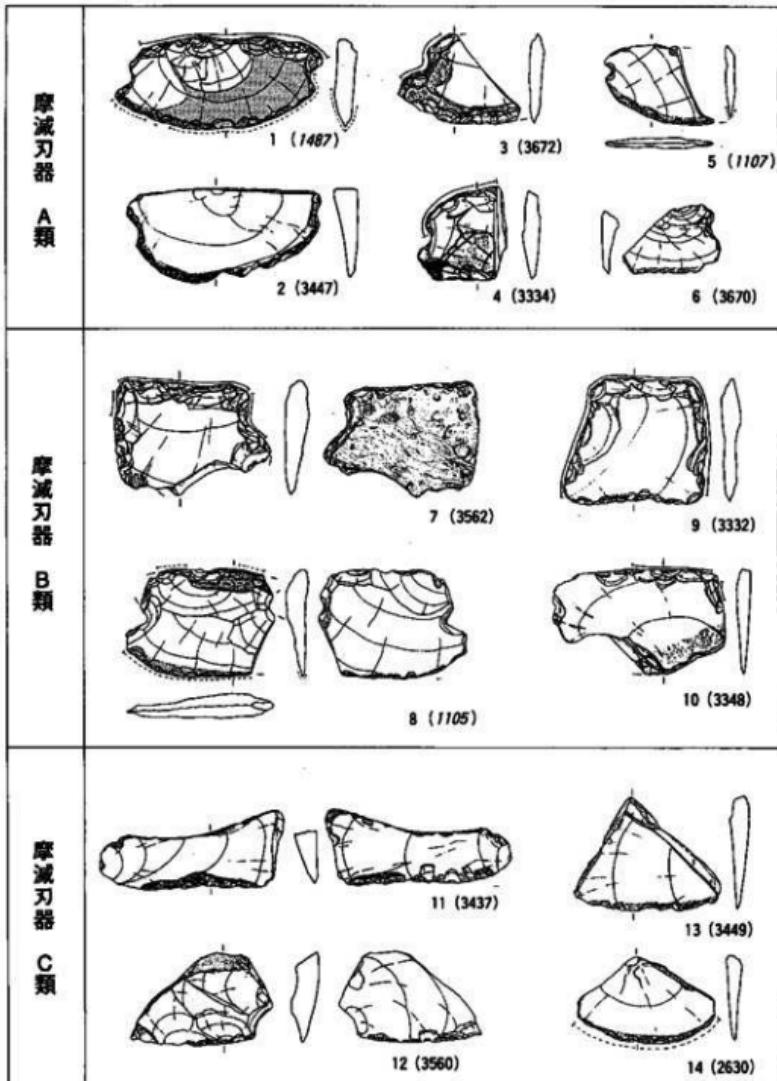
摩滅痕のある打製刃器の分類（第256図）

摩滅痕が確認できるものを、形態と素材に基づき次の3種に区分する。

- 刃器A　典型的な打製石庵丁を含む長さ10～15cm、幅4～5cmのものを標準とし、その相似形のものを含む。剥片の上部を敲打して形状を整えており、両側縁に抉りを入れるものが多いが、同様な法量で抉りをもたないものもある。
- 刃器B　長さ8～10cm、幅5～7cmの幅広のものを標準とし、その相似形のものを含む。上縁を丁寧に敲打して稜線を潰すものが多い。両側縁あるいは一側縁に抉りを入れるものを含む。
- 刃器C　長さ7～10cm、幅3～8cmと法量や形状にバラツキがあり、上縁や側縁に素材の自然面を残すものが多い。不定形な剥片の下縁部に長さ5～7cmの調整加工を施し、それ以外の部分は若干敲打するものもあるが、多くは未調整のままである。

使用痕との関係（第257図）

- 刃器A　刃縁部に例外なく摩滅がみられ、特に強い摩滅がある。体部も1点を除いて強弱はあるが摩滅がみられる。抉りの有無と使用痕は無関係である。



第256図 摩滅刃器の分類

第26表 摩滅刀器一覧表

刀器A		國版 (拡大写真)		出土遺構	層位	長さ	幅	厚さ	重量	使用痕付着状況	刃様部	体部	備考
2808	51	86	S D50	最下層	8.55	5.5	1.3	71.38	○	△			
3334	93	121(257)	S R05		4.75	4.6	0.9	21.05	○	○			
3444	110	130	S R06		10	4.7	1.2	54.38	○				
3445	110	131	S R06		7.2	4.15	0.8	32.52	△	△			
3670	168	148	S R07		5.05	3.35	0.9	13.23	△	○			
3672	168	148	S R07		6.4	4.5	7.5	19.18	○	○			

刀器B		國版 (拡大写真)		出土遺構	層位	長さ	幅	厚さ	重量	使用痕付着状況	刃様部	体部	備考
2922	58	91	S D50	下層	6.5	4.75	0.9	32.09	△	△			
2990	65	96	S D50	不明	7.6	5.4	0.6	31.33		△			
3141	79	107	S R04	下層	5.1	6.1	1	24.18	△				
3332	92	120(257)	S R05		7.3	6.5	1	60.45	△	△			
3448	111	131	S R05		8.9	5.45	0.75	41.09	○	△			
3562	152	142	S D61		8.1	5.9	1.5	64.08	○				

刀器C		國版 (拡大写真)		出土遺構	層位	長さ	幅	厚さ	重量	使用痕付着状況	刃様部	体部	備考
2517	27	62	S D49	最下層	5	4.3	1.05	21.12	○				
2630	34	73(257)	S D49	中～下層	7.1	4.4	0.8	20.17	○				
3142	79	108	S R04	下層	5.85	4.4	0.7	18.87	△				
3144	79	108	S R04	下層	5.6	5.9	1.75	52.49					○ 打製石斧の可能性あり
3155	81	110	S R04	下層	5.6	4.3	1.2	28.16	○				
3437	109	129	S R06		9.5	4	1.3	44.9	○○				
3438	109	130	S R06		5.6	5.1	0.9	23.32	○○				
3439	109	129	S R06		5.2	3.65	0.5	10.98	○○				
3440	109	130	S R06		3.9	3.4	1	10.4	○○				
3449	111	131	S R06		7.6	6	1	37.25	○○				
3450	111	131	S R06		5.7	3.7	0.8	44.47	○○				
3451	111	131	S R06		5.4	2.8	0.7	10.69	○○				
3452	111	131	S R06		2.7	4.6	1.3	12.83	○○				
3453	111	131	S R06		2.4	4.1	0.8	9.73	○○				
3458	114	133	S R06		7.3	4.5	1.8	60.06	○○				
3560	151	142	S D61		7.3	4.6	2	47.89	△				
3674	168	149	S R07		6.25	3.35	1.1	33.52	○○	打製石斧の可能性あり			

刀部片		國版 (拡大写真)		出土遺構	層位	長さ	幅	厚さ	重量	使用痕付着状況	刃様部	体部	備考
2518	27	62(257)	S D49	最下層	4.8	1.3	0.55	3.86	○	○ 再調整あり			
2519	27	62	S D49	最下層	3.2	3.8	0.7	7.99		△			
2769	46	83	S D49	不明	2.95	2.4	0.7	4.05	○	○ ○ 再調整あり			
2923	58	91	S D50	下層	4.65	2.1	0.8	6.83	○				
2924	58	91(257)	S D50	下層	6.05	2.35	0.8	9.08	○				
2993	65	96	S D50	不明	3.7	2.4	0.35	3.28	○				
3333	93	121	S R05		4.5	3.1	0.6	7.21	○				

刀部片		國版 (拡大写真)		出土遺構	層位	長さ	幅	厚さ	重量	使用痕付着状況	刃様部	体部	備考
2639	36	73	S D49	中～下層	2.6	3.2	0.9	9.11		○			
2640	36		S D49	中～下層	2.7	3.45	0.95	10.44		○			
2938	61	94	S D50	下層	2.9	2.9	5.5	6.18		△			
2987	64	96	S D50	不明	4.7	1.7	0.9	8.15		○			
2991	65	96	S D50	不明	3.6	5.2	1.1	18.4	△				
3013	70		S D51		4.9	3.4	1.2	25.24		△			
3146	80	108(257)	S R04	下層	4.6	2.4	0.7	8.46		○			
3343	94	123	S R05		4.4	4.3	1.1	21.5		△			
3344	94	123	S R05		4.8	3	0.9	17.78		○			
3446	110	131	S R06		7	4.5	0.8	36.64	△	○			
3447	110	131	S R06		5.6	4.6	0.95	28.04	○	○			
3520	147	138	S D60		5	2.3	0.8	13.28	△	○○			
3671	168	148	S R07		3.7	4.3	0.8	17.02	△	○○			
3673	168	149	S R07		6.6	2.9	1.95	23.61	○				

○…強い摩滅 ○…弱い摩滅 △…僅かな摩滅

- 刃器B 刃縁部に1点を除いて摩滅がみられるが、摩滅の範囲が狭いか部分的で弱いものが多い。体部が摩滅するものは半数あるが、すべて弱い。抉りをもつものは少ない。
- 刃器C 刃縁部の摩滅は幅が4mm以下で、刃部幅全体に広がるものが多い。体部に摩滅が見られるものは多くないが、図化できないような微妙な摩滅をもつものは多い。

以上の分類・集計の結果、刃器Aについては形態的には従来の「打製石庖丁」としての概念に合致するもので、それに相当する使用痕が確認できた。抉りをもたない「異形石庖丁」とされた五条遺跡の一群（松本1961）もこの類型に該当しよう。これに対して、刃器Bは刃部の長さの割に器体の幅が大きいという刃器Aとの形態差が使用痕のあり方に影響している可能性がある。部分的に使用痕がみられる状況を加味して、今後検討を要しよう。刃器Cは自然面を残すものが多く、サヌカイト素材石核から初期に剥離された剥片を利用している。そのために形状にバラツキがあり、きわめて便宜的に準備される道具という印象をもつ。それにもかかわらず、刃縁部に一様な摩滅をとどめるものが多く、むしろ刃器A類とは使用方法や使用期間の安定度の差として位置づけることが可能ではないだろうか。

ここで「摩滅痕のある打製刃器」として区分したものは、特に刃器Cについては同様の形態で使用痕が付着しないものも多く、それらはスクレイパーとして一括せざるをえない。使用痕が認識できないほどの少ない回数しか使用に供されなかった可能性、あるいは全く異なる使用痕をとどめない使用方法の可能性などが考えられるが、素材の準備が便宜的である以上それ以上の推測は成しえない。

一方では刃器Aの形状や使用頻度の安定性が注目されるであろう。3444のように上縁に自然面をとどめるものはあるが、多くは器体の全長の少なくとも1.5倍程度の横長剥片を素材として、またそれらを連続的に剥離した先行するネガ面などをもって、打面を丁寧に敲打する技術的な安定性も兼ね備えている。刃器Cのように便宜的に準備される道具と併存することからみると、石器の製作工程においては目的的剥片として剥取されて然るべき特徴と条件が存在する。これらが板状素材を母岩とする遺跡内における剥片剥離工程のなかで自給的に位置づけることが可能かどうか、生産・流通にかかる側面についても問題を提起する。



(1)



(2)



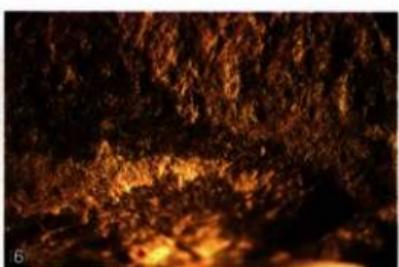
(3)



(4)



(5)



(6)

- | | |
|-----------------|------------|
| (1) 3334摩減刀器 A類 | 刃部摩減痕 |
| (2) 2518摩減刀器刃部片 | 摩減痕を切る刃部調整 |
| (3) 3332摩減刀器 B類 | 刃部摩減痕 |
| (4) 2630摩減刀器 C類 | 刃部摩減痕 |
| (5) 2924摩減刀器刃部片 | 刃部摩減痕 |
| (6) 3146摩減刀器体部片 | 体部摩減痕 |

第257図 摩減刀器使用痕拡大写真



- (1) 3138 石錐刃部の摩減痕・線状痕
(2) 2712 打製石斧刃部の "
(3) 3339 "
(4) 3336 "
(5) 3337 打製石斧体部の摩減痕・線状痕
(6) 3338 打製石斧刃部の "

第258図 石錐・打製石斧使用痕拡大写真

(3) 土掘具

土掘具である打製石斧は今回報告するもので合計19点を数えた。使用痕が判別しにくい安山岩・流紋岩系石材のものは形態から認定したが、サヌカイト製のものについては使用痕が確実に確認できるものに限定して器種を認定した数量である。「龍川五条Ⅰ」では56点を打製石斧として報告しているが、使用痕が観察できないものを含んでいたために、同一基準で認定すればもう少し数量は減少する可能性がある。なお、今回報告する中で背面あるいは打面部にのみ使用痕をとどめる刃部再調整剥片が6点出土している。

形態（第259図）

長さは最小が7cm、最大が15cmで、13~15cmサイズのもの（1~4）と長さ7~11cmサイズのもの（5・6）がある。永井遺跡の縄文晩期前半に見られる長さ20cmを越える大型のものではなく、後期中葉以来継続的に組成する中型・小型の短冊形の打製石斧を引き離している。最大幅は3.5~8cmとバラツキがある。ただし、着柄部付近で計測すると幅5cm前後に概ね収束し、一部小形のものは3~4cmにまとまる傾向にある。厚さは0.6cmが最小、2.7cmが最大で、2cmほどの厚みをもつものが一般的である。7・8は刃部幅が広い割に薄い一群である。重量は小型のものは30~80gに収まり、通常サイズは130~250gとなる。

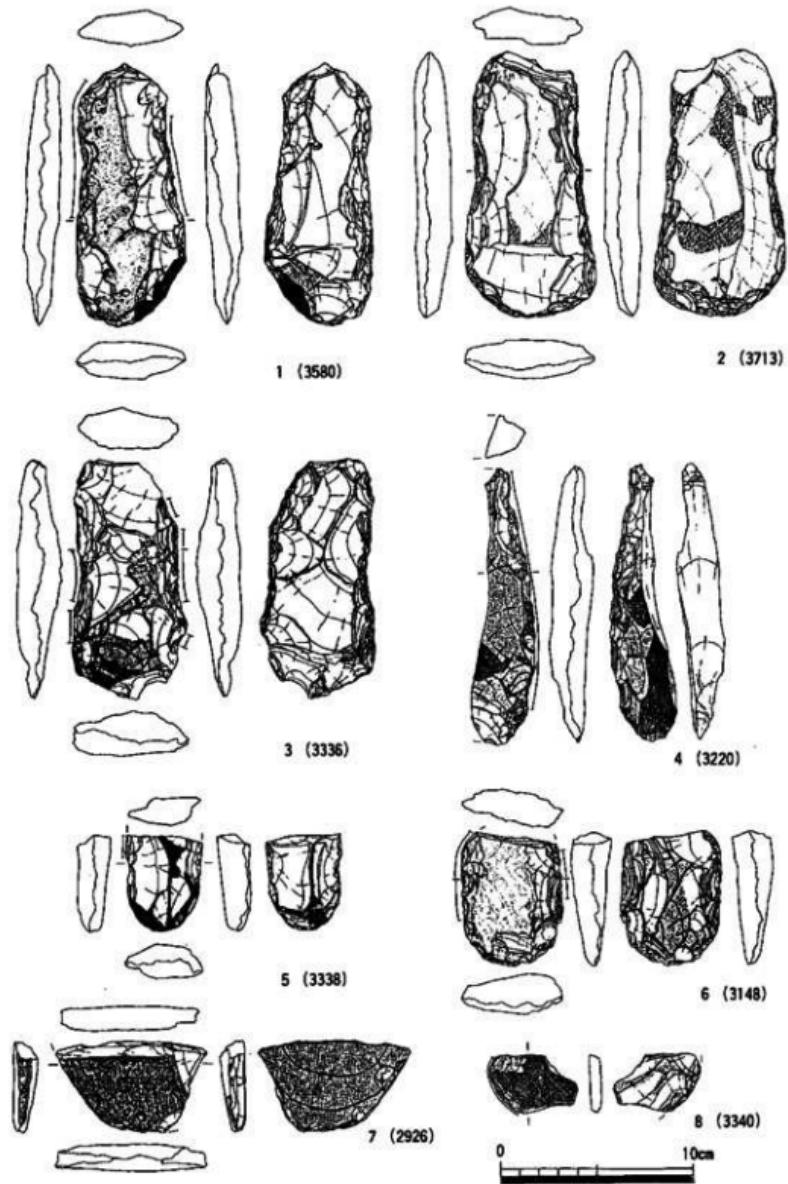
使用痕（第258図）

使用痕は刃部を中心に強い摩滅が確認できる。1のように刃縁部付近の狭い範囲に偏るものあれば、4のように器体のほぼ全面にわたって摩滅がみられるものもある。また、基部の上端にも刃部と同様の摩滅が見られる個体もある（1~4）。これは永井遺跡でも指摘されたように天地を逆転して使用する（渡部1990）こともあったことを示している。ただ刃部に比べて基部の摩滅は概して弱い。

顕微鏡下では摩滅箇所にはほぼ例外なく線状痕が観察できる。ほとんどは器体に平行する垂直方向のものであるが、20°ほど左右に振った方向の線状痕も少量観察できる。これは中間的な方向のものが介在せず、2方向の線状痕として認識できるものが多いことから、器体を斜めに傾けて使用するか、あるいは着柄方法に2種類あったかを考える必要がある。

折損・転用

刃部から上3~5cmのところで横方向に折損する破片（5・7・8など）が圧倒的に多い。4のように上下方向の強い衝撃によって截断面を形成するものはきわめて稀で、折損した後に楔形石器に転用されるものは多いが、使用に際しては截断面を形成するほどの上



第259図 土器具の諸形態

下の衝撃は加わっていなかった可能性が高い。

以上の土掘具の諸属性を検討した結果を踏まえ、使用された場と使用方法を推定した場合、裁断面をもつ個体が少ない点で疊混じりの微高地上を恒常に掘り込む状況は想定しにくい。細かな線状痕が観察され、きわめて平滑化した摩滅をもつ点で砂分を多く含む河川埋没層などの湿润地における使用が考えられよう。また、線状痕の観察についてはもう少し細かな観察や分析が必要であろうが、複数の着柄状況が想定される。使用実験などをを行い検証することも重要である。

(4) 石器組成とその背景について

石器組成の概要（第27・28表）

以上の確認事項を踏まえて石器組成を検討する。集計に当たって、次の条件を定めた。

- ①転用石器については元の器種がわかる場合に限って両方に含めており、総数は個体数とは一致しない。
 - ②摩滅痕のある打製刃器については、刃器A～Cが収穫に使用された局面が少なからず推定できるものと考え、打製石庖丁や石鎌と一緒にして「収穫具」として集計することとした。これには、本文あるいは観察表でスクレイパーとしたもの一部を含む。
 - ③未製品は組成に加えず、また上記摩滅刃器や打製石庖丁の刃部片、打製石斧の再調整剥片も含めない。
 - ④結晶片岩製の実用に耐えない武器形祭器などの祭祀具は除外した。
 - ⑤石器製作に関わる石核、剥片、素材類は除外した。なお楔形石器は小型石器に対応する石核として考え、これも除外した。
 - ⑥遺跡全体の組成を考えるために、器種認定にやや差はあるが「龍川五条Ⅰ」で報告された石器をそこで認定された器種に含めた。変動する余地としては収穫具がもう少し増える可能性があり、土掘具が逆に減少する可能性がある。
- その結果、石鎌が214点で最も多く、全体の39%に相当する。収穫具、スクレイパー、土掘具はそれぞれ60～75点が出土しており、いずれも10～15%である。土掘具が若干減少することはあっても、10%前後までと予想され、前期前半から継続する遺跡として縄文後期以来の系譜を色濃く残している。

磨製石斧類は加工斧が18点とやや多いが、その内訳は柱状片刃石斧の刃部片が7点、基部片が4点、扁平片刃石斧が5点である。しかし、全体から見ると3%にすぎず、伐採斧も8点（1%）で決して多くはない。木工に特に偏重する傾向はこの遺跡では見られない。

表27 石器組成算出基礎表

第28表 石器組成一覧表

種別	器種	数量合計			比率合計 (%)		
		I	II	I + II	I	II	I + II
武器類	石鎌	80	134	214	35.4	41.6	39.1
	磨製石劍	0	1	1	0.0	0.3	0.2
加工具	石錐	23	21	44	10.2	6.5	8.0
	石匙	1	0	1	0.4	0.0	0.2
取扱具	スクレイバー	30	45	75	13.3	14.0	13.7
	穂摘具	32	37	69	14.2	11.5	12.6
土掘具	石鏟	1	1	2	0.4	0.3	0.4
	打製石斧	15	56	71	6.6	17.4	13.0
木工・伐採具	磨製伐採斧	2	6	8	0.9	1.9	1.5
	柱状片刃石	2	11	13	0.9	3.4	2.4
その他	扁平片刃石	3	2	5	1.3	0.6	0.9
	砥石	5	6	11	2.2	1.9	2.0
	叩石	5	0	5	2.2	0.0	0.9
	台石・石皿	11	2	13	4.9	0.6	2.4
	使用痕剥片	16	0	16	7.1	0.0	2.9
	合計	226	322	548	100.0	100.0	100.0

※ I … 「龍川五条」 II …本書

石器組成の特性と背景

他の遺跡の組成等と比較して、当地域の石器組成の特性とその背景について触れておきたい。

<生業>

まず、打製石斧については縄文時代の石器というイメージに反して、少なくとも10%を越える組成（実点数で71点）を示す点は重要である。遺跡の下層、あるいは近辺に縄文期の造構等（自然河川はあるが、人工遺物は出土しない）がないことから、混在品とは考えられず、弥生時代前期段階において型式的にも従前と変わらない打製石斧が使用されていたことを示すものである。この現象は決して例外的ではなく、前期Ia期から開始される坂出市下川津遺跡で79点（10%ほど）出土しており、また当遺跡に隣接する前期IIb期から開始される五条遺跡でも8点（6%ほど）見られることから、縄文後期段階の永井遺跡で見られる50%近い組成から、次第に減少しつつ、弥生中期以降に消滅する器種であることがわかる。つまり弥生時代に至って突然消滅するといったような現象は生じていない。

ところで、下川津遺跡では長さ20cmを越える大形の有肩打製石斧が出土している。この

ような大形の打製石斧は徳島県や鳥取県などで散見されるものであるが、弥生文化における畑作系譜の要素の一つではないかとの見方もある。ともすると、香川県の弥生期の石器に打製石斧が多いのはこのような畑作系譜の弥生文化の一派が定着したことによるとの考え方もできないことはない。しかしながら、少なくとも当地域では縄文時代後期以来短冊形の打製石斧が主体で、弥生期に至っても同様の型式が継続する。つまり、前期 I a 期に開始される下川津遺跡において仮に新たな文化要素としての大形有肩打製石斧が製作されたとしても、少なくともその後当地域には定着することなく、旧態前とした短冊形打製石斧を使用し続けている。

収穫具は71点（15%）が出土した。これには磨製石鎌2点、磨製石庖丁22点が含まれる。西日本の弥生時代の収穫具の比率は、前期段階で10~20%、中期以降に30%を越える地域が多い。香川県においても高松市浴長池遺跡で中期前半で20%を越える比率を示す。当遺跡の組成はそのような上昇傾向の収穫具の数量と見てよいであろう。ただし他の50点あまりは在地のサヌカイトを石材とする打製の収穫具である。すでに記したが、刃部等の摩滅の観察を通して、今回はスクレイパーとの区分を試みた。しかし形態的に同じでも、摩滅が観察されるものもあれば、確認されないものもある。型式学的な区分が難しく、いわば万能刃器に供されるサヌカイトの特殊性を示している。

当遺跡出土の打製収穫具は、両端に抉りをもつ「打製石庖丁」が丁度定型化し始める段階に相当するものと考える。それは両端に抉りをもつ個体の形態的なバラツキが大きいことによる。摩滅刃器分類のAの多くは通常のサイズと形態を備えているが、Aでも小形のものや、Bに分類した幅の広いもの等においても両端、あるいは一方だけに抉りを入れるものがある。これは、縄文時代後期段階からすでに不定型な刃器に抉りを入れるものが少量であるが認められることからみて、複数存在したであろう刃器の使用法の一つが、後に定型化した打製石庖丁の形態として採用されたものと推測される。一方で瀬戸内海対岸の岡山県では、石器の終末まで同じ金山のサヌカイトを石材としているながら、抉りを入れない打製石庖丁が多く見られ、香川県の様相とは全く異なっている。これは作物の収穫にあたっての具体的な使用方法について地域毎にバラツキがあり、それぞれ独自の機能性を追求する方向で定型化したことを反映している。つまり、定型化の過程は石材産地ではなく石材消費地で個別に進行した訳で、素材となる石材が縄文期以来連続と続く流通網を媒介として安定して入手可能であったことが前提となる。ここにも縄文期からの連続性を認め

ることができる。

また、今回のような摩滅痕に基づいて縄文後晩期のスクレイバーを観察すると、収穫具として認定できるものも多く含まれている。ただ全体として摩滅の度合いが弱く、摩滅刃器Aと同様の形態のものが多いが、当遺跡出土例ほど顕著な摩滅は見られない。刃部付近が少し摩滅する程度のものが圧倒的に多く、摩滅の状況からすると、当遺跡の摩滅刃器B、Cの刃部付近の摩滅に近いようである。つまり当遺跡出土の摩滅刃器との違いは、一定の形態を備えた摩滅の度合いが強い一群（摩滅刃器Aの一部）の有無にある。これには、一定の形態を備えた刃器を特に長期間使用する機会が多くなったか、あるいは特に強い摩滅を伴う新たな作物（この場合は水稻と限定してよいだろう）を収穫するようになったか、という複数の回答例が想定できる。また、入手される石材の総量が弥生期に至って減少し、一個体の刃器の使用頻度が増したためという考え方もある。ただ、そうであれば当遺跡に摩滅の度合いが低い刃器B、Cが多く出土する点の説明が付きにくい。つまり、2つの回答例の内、前者は弥生期以降の収穫具の定型化の傾向と整合し、後者は現段階で遡りうる水田遺構（坂出市川津下樋遺跡の弥生前期水田）の上限と合致する。いずれとも判断のしようがないが、少なくとも比較論的に推定すれば縄文後期段階では区画された集約的な水田を想定するのは困難で水稻以外の収穫作物の栽培を想定すべきであり、弥生前期に至ってもそのような水稻以外の収穫作物の栽培は、集約的な水稻耕作と並行して一定程度それが継続していたといえる。先にみた打製石斧の動向とも一致する点である。

堅果類等の調理具と推定される石皿については、13点（5%）が出土している。しかし、その多くはアバタ状の敲打痕が多く見られ、磨面はさほど顕著でないもので、主として石器製作時の台石として使用された可能性が高いと考える。永井遺跡で出土している縄文時代後期～晩期の石皿もやはり敲打痕を留めるものは多いが、磨面が特に顕著で往々にして中央部に使用による窪みをもつものが目立っている。そのような形態の石皿は当遺跡においては、S R 06で出土した3456が唯一のもので、遺跡内の製粉作業が縄文時代後期～晩期ほどの頻度で行われたとは考えにくい。永井遺跡では縄文時代後期中葉および後葉の河川から出土する石皿類が非常に多く、その後晩期前半の打製石斧の盛行に伴って減少傾向にあるとされる（渡部1990）。同時に収穫具と考えられる先の刃器類も一旦減少する傾向にあるが、弥生期に至ると当遺跡含めて収穫具が増加する傾向には、石皿類の動向は一致していない。つまり、石皿、打製石斧、刃器類は各々が別個の収穫具を対象とした生産・

調理用具として機能した可能性が高いのではないだろうか。石皿類は永井遺跡出土の多数の堅果類を根拠として堅果類の製粉に、打製石斧は同じく永井遺跡の晩期前半の組成比率において、調理具・収穫具を圧倒するように組成を伸ばしている点からみて、堅果類や雑穀類とは異なる地下植物の収穫（鈴木1975）^{**}に、そして刃器類は弥生前期段階に比率を伸ばす点から見て水稻を含めた雑穀類の収穫に対応する可能性が考えられる（森下1996）。水稻耕作は刃器類に反映される雑穀類の獲得を下地として、前代から部分的に存在した可能性はあるが、ある段階において集約的な農法を伴って貫入するといった印象が強い。

<社会>

武器の組成は、石鎌と磨製石剣を合計して40%をしめる。ただし、磨製石剣は1点のみの出土であり、主として石鎌で占められている。形態的な特性は大形のものはほとんどなく、縄文時代後期以来継続する小形の石鎌で占められる。石鎌の増加傾向は凸帯文期から弥生前期段階に特徴的な傾向にあるとされる。これについて、いわゆる「縄文人」と「弥生人」との接触期の緊張関係を反映するとの見方がある。しかし、これまでの当遺跡あるいは周辺遺跡における石器の連続的要素を基に考えた場合、そのような両系譜集団の対立的な構図が描けるかどうか、やや疑問に思う。他の石器と併せて比較する組成の相対比較では判断しにくい部分もある。そこで武器の絶対量について検討する材料として、遺跡の面積当たりの保有量を算出する方法を試みた。

石鎌の量を遺跡面積で算出して100m²あたりの絶対量を求めた結果が第30表である。これによれば、縄文時代後期～晩期、凸帯文期、前期前半の遺跡の保有量は概ね1個以下に収まっており、前期中葉以降の遺跡が1～4個である点と比べ決して多くなっている訳ではない。むしろ鴨部川田、五条といった環濠集落は、その前後と比べて高い数値を示す。すなわち、弥生前期に関しては、後半になるほど武器の保有量が次第に増加し、それに併せて環濠も掘開されるようになる。「縄文人」と「弥生人」との対立関係ではなく、弥生時代の展開に応じて、緊張関係が生じてその比率が増加していると考えられよう。

なお、中期後半以降の平野部の遺跡では平均で1個以下の遺跡が多く、それに対して紫雲出山や鳥帽子山などの高地性集落は桁違いにその数量が多い。絶対数の比較は常に調査箇所の性格や調査精度そして集落の継続期間など比較以前の問題があるので、一概にこのグラフをもって武器装備の状況を復元するのは難しいが、環濠集落や高地性集落といった緊張状態を反映した集落構成に適合する推移を示している。

第29表 石器保有量の比較

遺跡名	時期	調査面積	対象	石器数	単位保有量	環濠	立地
永井	縄文後期～晩期	27,000	調査面積	134	0.5	×	低地
林坊城	凸帯文	約4,000	B地区	12	0.3	×	低地
下川津	前期前半	約24,000	第1・第2微高地	37	0.2	×	低地
龍川五条	前期中葉	約15,000	I～IV区・前池	214	1.4	○	低地
中の池	前期後半	700	調査面積	11	1.6	○	低地
五条	前期後半	500	調査面積	23	4.6	○	低地
鴨都川田	前期後半	5,000	調査面積	146	2.9	○	低地
川津一ノ又	中期前半	12,220	調査面積	285	2.3	×	低地
浴長池	中期前半	14,920	調査面積	22	0.1	×	低地
平岡	中期前半	11,000	調査面積	77	0.7	×	丘陵上
矢ノ塚	中期後半	11,800	調査面積	230	1.9	×	傾斜地
紫雲出山	中期後半	約1,000	面調査は276m ²	284	28.4	×	山頂
鳥帽子山	中期後半	200	調査面積	23	11.5	×	山頂
久米池南	中期後半	10,000	調査面積	66	0.7	×	丘陵上
北原	後期初頭	600	調査面積	3	0.5	×	丘陵上
太田下須川	後期初頭	25,000	調査面積	14	0.1	×	低地
上天神	後期初頭	24,800	調査面積	29	0.1	×	低地
		(m ²)		(個)	(個/100m ²)		

ただ、10m四方に数個の違いでしかない前期後半のピークは、集落面積が例えば6,000m²であったとしても、全体で100本の矢が200本に増えた程度の違いであり、倍増する点に意義を見いだすことも不可能ではないが、紫雲出山のように20倍もの差を考えると、環濠集落という集落形態自体に強く、かつ恒常的な緊張状態を想定するのは難しい。

今回のデータのように複数の環濠の掘削に時間差が想定されたり、あるいは掘削後未管理で早期に埋没したりする状況は、集落規模に応じた個別の一時的な緊張状態が反映されたものと考えられ、石器の絶対量が倍増する意義を認めるにしてもいわば日常的な武器装備の延長として、時にその装備をやや強める必要が生じた結果と考えるのが妥当であろう。その意味で前代と変わらない形状、重量の石器を使用することも理解できるものといえる。

一方で中期後半から後期初頭に県内に多く出現する丘陵頂部に位置する高地性集落は、平地の集落とはかけ離れた絶対量を保有していることは明かで、日常的な武器装備とは異なる性格をもつ装備として改めて評価すべきものであろう。

第 5 節 龍川五条遺跡の変遷 —まとめと今後の課題—

以上、土器編年や土器の胎土・付着物、石器の組成等について断片的な特論を記述した。このほかにも遺跡内における石器生産の具体的な検証手段としての「サヌカイト素材の剥片剥離技術」の問題や、「流紋岩・安山岩系磨製石器生産技術」の問題、さらに他地域に産出する石材を素材とした石器の遺跡への搬入形態とその再加工の状況など、弥生時代前期段階の生産と流通を巡る問題について言及しようと試みながら、果たせなかった事柄も多い。これらは機会を改めて提示することとしたいが、最後に弥生時代前期段階の先の土器編年に基づいた当遺跡全体の遺構の細かな変遷を辿り、加えてその後の遺跡内の概略的変遷を記述してまとめとしておきたい。

(1) 弥生前期前半（龍川五条Ⅰ式）

遺構分布の概要

当遺跡の初現は、「龍川五条Ⅰ」で報告された凸帯文土器が出土した溝 S D34 が最も古い様相をもつ。ただ、S D34 と同一溝と推定される S D40 から弥生前期に属す土器（堀か？）底部片が出土していることから、S D34 にみられる凸帯文土器が弥生時代前期に残存する「凸帯文系土器」であることが知られる。同様の凸帯文系土器は微高地縁辺を流れる河川 S R04 や、2 条の環濠のうち内側に相当する S D50 や環濠内をさらに方形に区画する S D48 などにおいても、それに後出する土器群とともに出土していることから、未だ凸帯文系土器を組成する段階（龍川五条Ⅰ式）から微高地を中心に集落の営みが開始されたことがわかる。

この段階に所属する遺構は、今回の調査区においては外側の環濠のさらに外側に位置する S K87 が該当する。また、内側の環濠 S D50 は、今回の調査では出土していないが「龍川五条Ⅰ」では凸帯文系が少量ながら報告されている。当該環濠はⅡ式に掘開される S D49 と異なり、数度の掘り直しが確認されることから考えても、この段階では S D49 に先行して内側の環濠 S D50 のみが掘開されていた可能性が高い。

環濠

環濠は微高地の南西部で河川 S R04 に取り付くことが明らかとなった。自然地形を取り込んだ集落設定が行われているが、人工的に環濠を掘削した範囲については北側と東側が

直線的で、東西に長い隅丸方形に近いものとなる。卵形か円形の平面形をもつこの時期の一般的な環濠とは形状がやや異なっている。内側の環濠の立ち上がりを基準に環濠に囲まれた範囲を推定すると、南北45m、東西約70mとなる。北西側の状況が不明瞭であるが、少なくとも延長約200mの環濠に囲まれた3,200m²の面積が居住域と推定することができる。また、自然河川S R04を介して西側対岸で検出されたSR03は、これらの環濠の延長として掘開されたL字状の溝の可能性が考えられる。

なお、今回検出した不定形な落ち込みSX07は環濠と河川S R04の合流部に相当し、2条の環濠間で検出した唯一の遺構である。環濠には基盤層ブロックの流入があることから環濠の両側に土堤状隆起があったことが推定されるが、SX07部分ではそのような土堤状隆起が環濠に直交する方向で途切れていたことを示唆する。河川岸の管理のための機能も推定されるが、同時に環濠で囲まれた居住域と外域とを繋ぐ通路としての機能も併せ持った可能性もある。環濠全体のプランからみて南西部分に相当する。これは後述する環濠内部の方形区画の出入口と推定される方向と同じ位置である。

環濠内部の方形区画

環濠の内側は「龍川五条Ⅰ」において報告されたように、溝SD48でさらに方形に区画された区域が隣接して2カ所でみられる。西側の区画は東西にやや長く43mをはかり、南北は約35mである。東側の区画は区画溝の合流位置からみて、西側区画に後出して設置された可能性が高く、東西32m、南北30mをはかる。区画の内部は削平が著しいために、浅い柱穴や土坑が部分的に遺存するのみで、特別な遺構が存在したような形跡はない。「龍川五条Ⅰ」で指摘されたように居住区域の一部として理解するのが適当であろう。遺存する柱穴の配置を検討すると、区画外で住居跡と推定された柱穴列ほど明確ではないものの、直径10m前後のやや大きめの円形柱穴列がそれぞれ1基ずつ存在するようにも推定される。この方形区画で注目されるのは、区画方位性と入り口部の位置づけである。区画はほぼ正確に正方位に合致した方向性を持っており、近年報告された、県内志度町の鴨部川田遺跡の方形区画においても正方位を採用するものが多い点（森1997）も偶然の一一致とは思われない。入り口については西側区画が区画溝の南西隅が途切れてやや開き気味となること、東側区画についてはその南西隅が途切れていることから、いずれも南西隅に推定できる。環濠の両側に盛り上げられたと推定される土堤状隆起が途切っていたと推定されるSX07も環濠全体のプランからみた場合に南西隅に相当する点でこれに共通する。つまり、内部区画と環濠のいずれもが方形を意識した平面観と正方位性、入り口部分の規定などにおいて

て、何らかの規格性のもとに配置された可能性が考えられる。

居住遺構

区画の外側は3棟の円形住居と1棟の掘立柱建物が復元されている。これらは内側の環濠に囲まれた範囲の東西の中央付近に比較的密に分布しており、それより東には遺構が全くみられず、それに対して西側には土坑が多く分布する。このように環濠の内側についてはある程度の利用区分が存在したことを示唆する遺構分布状況である。ただ土坑については所属時期が判明するものの、住居跡についてはそれを示す材料が乏しく、それ以上の細かな分布を把握することはできない。

墓域

河川 S R04を挟んで居住域より西側に存在する3基の周溝墓（S T01～03）とその他の木棺墓についても、出土遺物は少なく細かな時期比定は難しい。少量の土器片をもとに敢えて述べると、S T01は196の無文で頸部が強く内傾する大形壺、200の1帶の沈線間刺突文壺などの状況から龍川五条I式に所属する可能性が最も高い。また、S T02出土の重弧文施文の壺胴部片（204）、S T03から出土した頸部が強く内傾して口縁部の屈曲が著しい中形壺（211）などはI式段階に位置づけられ、積極的にII式以後に下らせる材料は今のところ見いだせない。当遺跡で居住が開始された初期（前期Ic期）から周溝墓を採用する墓制が存在したものと考えられる。

用水路

微高地東側の低地部においても、用水路と推定されるS D51がI式の土器を含むことから、河川Cの西岸方向への導水もこの段階に行われたものと考えられる。

このように、I式段階（弥生時代前期前半新相）においては河川を取り込む1重環濠とその内側の居住遺構、さらに環濠の外側に若干の土坑と、おそらくは周溝墓などの墳墓も形成され、集落の基本構造は完成していた可能性が高い。さらに周辺の水田開発が用水路の掘削を伴って行われ始めたものと推定される。

(2) 弥生前期後半前葉（龍川五条II式）

外側の環濠S D49がこの段階で掘削され、早い段階で埋没する。環濠は一度に完成したものではなく、またその後S D49が掘り直しされていないことから、一時的な必要性から新たに外側に環濠が掘削されたものと考えられる。また、2重の環濠の間には今回の柱穴

や土坑などの居住関係の遺構は確認できていないが、それだけでなく環濠の内部に流入した土砂が基盤層をブロック状に含みながら、かつ基盤に疊層がある部分では疊が多く、そうでない部分では少ないという関連もみられることから、掘削土はその両側に盛り上げられ、土堤状を呈していた可能性が高いものと考えた。土堤を加えて濠の深さを見積もると、2m以上になり、かなりの防御性を備えたものとなる。しかし、SD49は外側の環濠という性格上、掘り直しなどの管理がなされることなく早期に埋没したことが埋没土の状況から推定される。

そのほか、今回の調査では検出されなかったが、環濠内外の土坑からこの時期の土器が出土している。また、この時期までSR04の河川機能が継続している。

内側の環濠SD50の恒常的な掘り直しは、居住域に近接する関係上、必ずしも防御的意味合いのみでなく生活残滓の廃棄場としての機能も想定すべきであり、その再生としての再掘削も当然あり得たであろう。

このような水路などの新規掘削や維持管理には、多大な労力を費やしたものと推定される。例えば幅2m深さ1.5mの溝を仮に延長200m分掘削するための土量を算出すると600m³となり、一日10名が作業に携わったとして、現在の掘削用具で換算すると約2ヶ月の作業量である。他の集団構成員に依存しないとすると、年間1/6の日数を再生産のための基盤整備や維持管理、あるいは防御設備の拡充等に投資することになり、たとえ毎年の工事ではないにしても年間の生活サイクルの中で果たして許容できる範囲であるか、あるいは他集団との協業があり得たか、五条遺跡を含めた周辺の集落の分布とその変遷との関係で追究していく必要がある。

(3) 弥生前期後半中葉～後葉（龍川五条Ⅲ式～）

Ⅲ式まで内環濠SD50に土器投棄が行われているが、それを最後に前期後半後葉期に所属する土器群がきわめて少なくなる。櫛描文施文の段階の土坑等が存在するが数は少なく、断続的あるいは一時的な土地利用にとどまっている。

SR04は河川機能がほぼ停止して後背湿地化し、黒色～褐色の水平堆積層からみて、小さな水田が営まれていたものと推定される。外側の環濠SD49もほぼ埋没し、浅いくぼみを地表に留める程度であったと推定され、上層で確認された窪地の埋め戻しについてはこれより新しい土器が含まれないことから、この段階で行われた可能性が高い。

環濠内部は方形区画溝SD48出土の土器からこの時期まで居住が継続していたものと考えられ、Ⅲ式の土坑も分布する。大規模に当集落自体が拡大する傾向はみられない。

隣接する五条遺跡においてはこれまで知られた資料からみる限り、Ⅲ式段階から集落が開始されている。龍川五条遺跡が収束に向かう過程で、一部で重複しながらその後五条遺跡で興隆がみられることから、両集団間の密接な関係が推察されるが、今後五条遺跡の調査が進展するに従い、具体的な考察が可能となるものと思われる。

(4) 弥生中期

中期初頭は、内環濠（S D50）の下層より鶴描文をもつ壺が出土している点と、環濠内部に位置するSK45より中期初頭の土器群が出土していることから、一時的な環濠の掘り直しや居住を考える必要があるが、前期段階の土器量と比べるときわめて少量に留まっている。また、SR04上層の後背湿地には均質な粘質土の窪地堆積がみられ、中層の水平堆積層と比較して上層では中央が窪む状態で粘土層が緩やかに堆積していることから、長期の未管理状態が想定される。したがって、微高地はかなり長期間人々の居住しない空閑地となっていたことが伺われる。またSR04では、そのすでに水流が絶たれ、後背地を利用した水田造作も行われていなかったようである。周辺河川における河川水量あるいは河床面の変化などに対応する可能性があり、西日本全体で認められるという「完新世段丘Ⅰ面」（高橋1995）の形成と関わるものであろうか。

一方で調査地東の低地部では依然としてSD51が掘り直しされながら中期初頭までは機能を存続させる。すなわち河川C西岸に推定した水田域には導水が継続していたものと考えられ、龍川五条遺跡における居住は停止しても、主たる生産域は存続していることがわかる。

その後、中期中葉に至ると当遺跡では東低地部を含めて全く土器が出土せず、生活の痕跡が完全に欠落する。五条遺跡においても中期前業をもって土器資料が欠落しており、縄文時代後期以降離続的にみられた河川後背湿地を中心とした遺跡立地が、平野内の他グループもふくめて大きく変化する時期にあたる。

中期後業の土器は東低地部やSR04東岸の不明遺構SX04で出土している。SX04は、前期段階と判定されているSX03と組み合わせると、SR04東岸に近接して方形に区画するように配置されており、凹線文をもつ鉢が完形で出土していることからみて、形状や立地が弥生時代後期に多くみられる周溝墓に類似する。明確な証拠はないが方形周溝墓の可能性も考えておく必要があるだろう。またIVB区（東側低地部）で少量ながら中期後半の土器が出土することから、再び中期後業に土地利用があったことが推定される。しかし

その後の資料は欠落しており、後期後半まで再び空開地となっている。

(5) 弥生後期後半～古墳時代前半

東低地部のS R 06で土器が出土している。出土量は必ずしも多くなく、古墳時代まで土器が少量ずつ出土する状況が継続する。土器の器面の遺存状態が良好なものが多く「龍川五条Ⅰ」で古墳時代前期の竪穴住居跡が1基検出されていることからみて、小規模集団の居住がこの段階から開始された可能性が考えられる。

生産域は基幹河川Cの後背湿地を中心としたものと考えられるが、平野内の他遺跡ではこの時期から微高地上に掘開された出水状遺構などを補助的な水源とする灌漑方式が採用されており（山下編1991）、一旦高燥化した当地域に再び集落が開始された背景に示唆を与えている。当遺跡において微高地上の一部がこの段階から生産域として機能し始めたことを示すものとしてはS D51・S R 05上部堆積とそれに取り付く排水路と推定されるS D52がある。S R 06はこの時期に河床がかなり低下して主要な自然流路となっており、S D51・S R 05上部堆積とは約2mの比高差をもつに至っている。それに伴い東岸（V区）の高燥化が進行したものと考えられる。S D52などは少なくともその微高地縁辺部についての水田化が進行したことを裏付けるもので、河川Cまでの間の微高地への導水をアプローチしていた可能性も、これにより推察可能である。古代末から中世にかけて埋没したS D63が掘開されるまでの間、微高地縁辺の灌漑を担っていたものと考えられる。

(6) 古墳時代後半

東低地部の河川S R 06河床部の窪地の埋没が始まるのは出土した須恵器から7世紀中葉ごろと推定される。それに伴って方形枠付田下駄などの木製品が少量出土している

田下駄の出土は下川津遺跡で7世紀代の資料がある（大久保1990）が、今回の資料はそれと同じかあるいはその上部で出土した完形の須恵器を根拠とすると6世紀中葉ごろの資料となる。形態的には近畿地方で弥生時代前期から一般的な形態（秋山1993）に共通し、在地的な変容が認められない。

S R 06の流路機能は7世紀中葉ごろまで継続したものと考えられ、上部堆積の粘土層に含まれる須恵器からみて遅くとも7世紀末から8世紀初頭においては後背湿地化していることがわかる。溝田として利用されていたかどうか確証に欠ける。いずれにしても安定した水流はもはや存在せず、穏やかな堆積環境に移行しており、かといって全く土砂供給が

絶たれている訳ではないことから、水田として利用されていたとすれば、人工的な用水路の掘開を考える必要があるかもしれない。S D60・S D61で8世紀中葉以降の須恵器が少量ながら出土する点を考慮すると、それら条里型地割に沿った溝が掘開された時期が、S R06の上部堆積の粘土層出土土器が示す8世紀初頭頃まで遡る可能性も考えておく必要があろう。

(7) 古代～中世

今回の調査では前池地区において多数の掘立柱建物が検出された。前池地区の北側に位置する「龍川五条Ⅰ」のⅡ・Ⅲ区では少数の掘立柱建物が散在する傾向にあったが、前池地区では同一箇所において数回の建て直しがみられる。

これらの建物は、概ね条里型地割に合致する方向を示すことから、8世紀以降に位置づけられる。このうちS B16が60～70cmクラスの柱穴掘り方をもち、褐色系の埋土をもつことから古代前半と考えられるが、それ以外は出土遺物等からみて11世紀後半から13世紀前半までのものである。床面積は20～30m²と小規模である。北側に欄列（板塀か？）を伴い、さらに東にも欄列が復元される。建物に付属する区画溝としてはS D57～60が相当する。

東低地部では現状の条里型地割から復元される想定坪界線からやや東に偏った位置に2条で併走するS D60・61の基幹水路が掘開されている。埋没時期は12世紀代に下るが出土遺物は8世紀中葉からみられる。S R06埋没後にその機能を引き継いで掘開された可能性もあるが、正確な掘削時期は明瞭ではない。

両溝で注目すべき点は調査区中程まで走行方位が北を向き、その後両溝とも屈曲して30°西偏する点である。その屈曲部位は現状地割りから復元される一町方格のうち南北間の半町部分に概ね一致する。これは、調査区中程より南側については旧河道S R06の走行方向などの自然地形に制約をされるものの、ある地点からは条里型地割に合致する方向に変換し、周辺の条里型水田に導水する基幹水路としての役割をもつたことによるものと推定される。同様な事例は普通寺市永井遺跡においても認識（森下1997）され、また普通寺周辺を描いた中世絵図にも同様な表現がある。V区では、S D63についてはS R06やS D51の上部堆積の方向に制約された方向に流れるが、それ以東の溝については地割りに沿った方向性をもつものが多い。これは周辺微高地の開発が自然河川のS R06に依拠して主として河川C後背地を生産域とした段階から、それを積極的に付け替えたかどうかは不明であるものの、基幹水路にその役割を変換して河川C以西の微高地部分の灌漑を積極的に進める

新たな段階に達したことを見測せるものといえる。

しかし、中世後半の14世紀代になると前池地区の居住域や東低地部の基幹水路に変化がみられる。前池地区では建物がほぼすべて廃絶し耕地化したものと考えられる。その際の水路と考えられる S D52は条里型地割とは異なる方向に掘開され、また基幹水路の S D60・61もその時期には完全に埋没して、S R06の後背湿地を開拓して流れる河川 S R07が新たに出現する。その契機については、前池堤防の複数回の築造の痕跡と S R07河床の土石流のような堆積状況から、前池の前身となる溜池の堤防の決壊などを想定すべきかとの提起を行ったが、必ずしも十分なデータが揃っている訳ではない。現段階では基幹水路の水路底が漸次上昇した結果として、ある段階で一気に S R06後背湿地側にオーバーフローした状況を確認するに留めておきたい。S R07は早々に埋没して上層に水平堆積のシルト層がみられることから、14世紀以降は S D62を導水路とする後背地水田が営まれたものと考えられる。その段階、すなわち14世紀以降、従来 S D60・61によって導水していた微高地上の水田はどのような推移をしたか、それを示す材料は残念ながら確認できない。近世段階で現在とほぼ同様な田地割に至るまでの間、荒蕪地であったのか、導水不能なために畠地として存続したのか、あるいは微高地上へ導水する水路の水源が変化して S R07後背地水田とは異なる浅い水路網が整備されたか。いずれとも判断が付かない。ちなみに近世から現在までの水路網も S R07後背地水田と微高地上の水田とは系統が異なっており、水源の転換が14世紀段階まで遡る可能性は高いものといえる。

(8) 近世

18世紀後半ごろ、東低地部の S R07後背地西肩付近が整地されて現在の田地割と同様の景観が形成された。S R07後背地東岸のV区微高地上には、柱穴こそ確認できなかったが周辺の土坑に廃棄された生活雑器類から推定して、居住域が分布していた可能性が高い。V区は削平を少なからず被っているが、予備調査等においても柱穴はまったくみることがなく、すなわち礎石かあるいは石列による基礎構造による建物であったことを予想させる。土坑出土の遺物には瓦が多く含まれており、瓦葺き建物への変換を示す可能性が高い。

出土した陶磁器類はその多くが肥前系で、コンニャク印判による施文を施すいわゆる「くらわんか手」や、陶胎染付碗、唐津系刷毛目塗などを含み、18世紀後半から19世紀前半の時期に収まるものである。瀬戸・美濃や、在地系の源内焼、香西焼、富田焼など18世紀後半以降に開始される陶磁器（主として陶器）も含まれていない。一方で、焙烙などの土

師質土器は御殿系や岡本系などが使用されており、陶磁器類との流通事情の差を感じさせる。S E 03やS K 90などの一括廃棄資料は在地の培塿や羽釜などの系譜分類や縦年枠組みを作成するにあたって良好な資料となろう。

(9) おわりに

瀬戸内海に面した中規模平野が展開する香川県地域は、現在もなお水不足に悩まされることが多いほど、年間降水量が少ない地域である。土地条件的に縄文時代後期から弥生時代前期において、十分な植物性食料が得られる場所は限られていた可能性が高く、また、その時期の遺跡立地は継続していた。

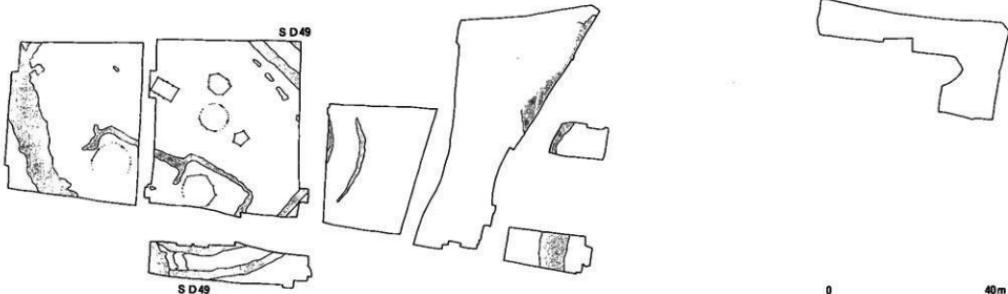
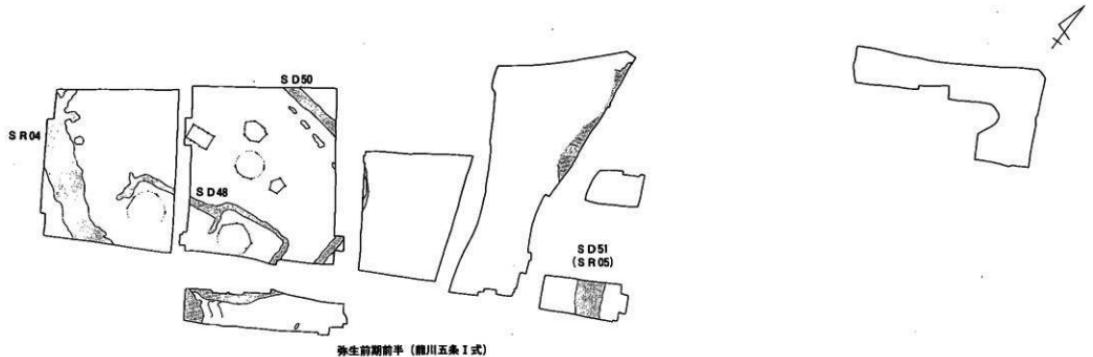
今回、弥生時代前期前半から菅みが開始した龍川五条遺跡の土器、石器、その他の遺構等を検討した結果として、土器においては凸帯文段階の特徴を留める凸帯文系土器の残存状況、あるいは石器石材、石器組成における継続的要素、そして遺跡の立地について、縄文時代の在地的様相をあらゆる局面で継承しながら、前期後半段階で瀬戸内堺の出現や収穫具の定型化傾向など新たな展開を見せていることを指摘した。

一方で、当遺跡では円形・方形周溝墓などの新しい要素、また建物の方形区画溝、環濠など、縄文時代に確認されない性格のものが確実に出現していることも事実である。このうち、時間差をおいて2条巡らせた環濠については石籬の保有量などから防御性を追究した機能的側面を検証したが、周溝墓、方形区画溝、内側の環濠（S D50）については当初ごろから設営された可能性が高い。これらは前期前半段階の集落内の社会構造を今後検討する上で重要な材料となる。

また、積み残すこととなった大陸系磨製石器の製作や流通の問題は下川津遺跡などの前期前半期の遺跡の状況や、他地域の状況とを比較することによって、上記の弥生期以降の新しい要素の定着・推移がたどれる可能性があろう。

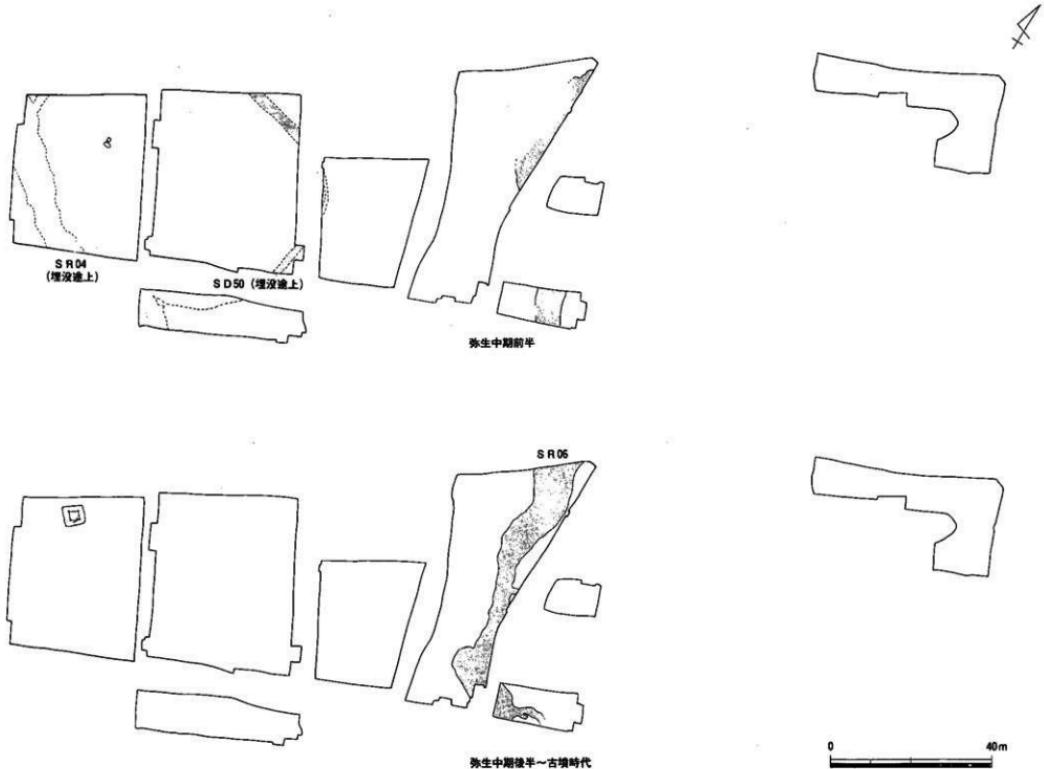
このように、弥生期に始まる諸要素については今回必ずしも十分に検討できなかつたために、当地域における弥生時代の開始に係る諸問題について、未だ確信的な見解を提示するには至っていない。今後、引き続き当遺跡の位置づけに関して検討作業を進めていく必要がある。

なお、「龍川五条Ⅰ」と今回の報告において、遺構・遺物の所見に一部齟齬がある。また、「龍川五条Ⅰ」の記載事項を引用した部分について、執筆者の見解とは一致しない箇所もある。それらについての責はすべて当報告の筆者にあり、「龍川五条Ⅰ」の各執筆者と協議して前書の見解が変更されたものではないという点を付記しておく。

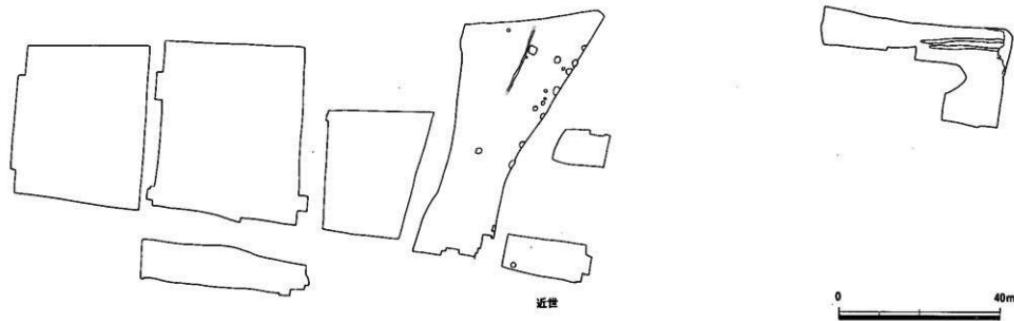
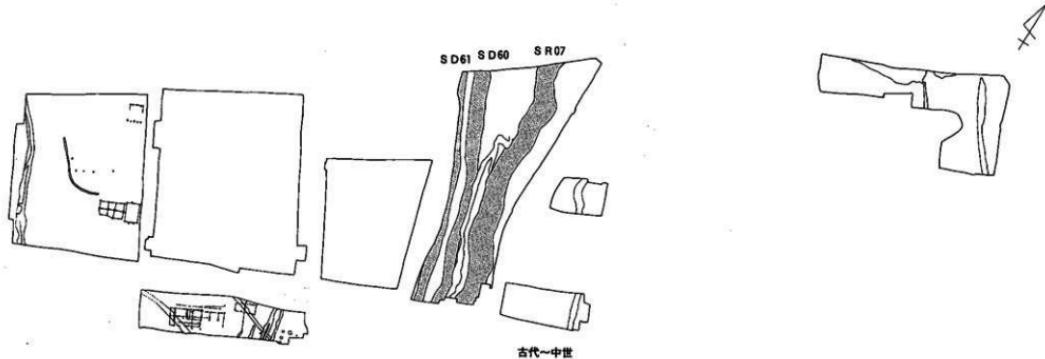


0 40m

第260図 造構変遷図(1)



第261図 造構変遷図(2)



第262図 造構変遷図(3)

註

- * 1 佐原1967の分類に従う。
- * 2 この器形変化については、特に西日本に広がる遠賀川系土器の全般的な変化に一致するもので、必ずしも地域的特性とはいえない。ただし、区画文様から脱却した文様帯の内容については、地域性が顕著となる際の重要な属性に展開する（秋山1992）。
- * 3 ヘラ状工具を用いず、半裁竹管状工具で一度に2条の沈線を加える文様（佐原1968）で、播磨、吉備、伊予、東海の各地域で多くみられ、畿内地方には多くない特徴とされる（秋山1992）。
- * 4 S D49中層～上層あるいはS D50の最下層にみられる出現当初と目される逆L字型は、当初より沈線が多条化し、共伴する2～3条の少条沈線型の口縁部はS D49と同様な外反度が弱い口縁部である点からみると、少なくとも当遺跡における逆L字形の型は完成された型式として導入された可能性が高い。S D50最下層の逆L字型（2794）がこの地域では決して多くない「凸带上を刺突する形態」（秋山浩三氏が「口縁端部に文様をもつ型」とするもの（秋山1992）の一部に相当する）である点は、その系譜を辿る上で興味深い。
- * 5 30（遺物番号2600）は竹管刺突による下向重弧文など顕著な装飾が施され、他の鉢と比べて異質である。福岡県葛川遺跡（酒井・副島1984）では環濠から出土した土器群中にこれと同様な竹管刺突文を施文した如意形口縁の型があり、また口縁部が細かな波状を呈する凸帯文系鉢がある。
- * 6 S D49最下層・下層資料とは層位的に時間差を認めるべき資料である。ただし、当該資料より古いと考えられる高松市林坊城遺跡S R01流路B（宮崎1993）には凸帯の貼り付け手法も共通する同形態の鉢がすでに含まれており、それが混在品でなければ大形鉢については先行して口縁部の逆L字形態が開始していることになる。
- * 7（第231図）の土器は胴部に沈線間の竹管刺突文が2帯巡っており、龍川五条のII式に並行するものと考えられる。
- * 8 後述の下川津遺跡流路下層資料（第230図20）参照
- * 9 一ノ谷遺跡土器満り資料（第244・245図）参照
- * 10（藤田1982）の第43図9,10
- * 11口縁部に幅広い段をもち、沈線を巡らせる形態のものは、弥生土器集成に掲載された大阪府国府遺跡出土のもの（佐原1968）をはじめ、京都府雲宮遺跡（中川1997）など畿内地方の中段階とされる資料に多くみられる。
- * 12龍川五条遺跡の開始期である龍川五条I式の位置づけについて、県内他遺跡出土資料と比較する必要があり、かつて調査が行われた下川津遺跡の第2低地帯流路1資料を出土層位別に区分することによって前期前半段階の土器編年整理が可能であるものと考えた。下川津資料の再検討は筆者と同センター信里芳紀氏が共同で行い、すでにその成果を刊行している（森下・信里1998）。ここではその成果のうち上記の理由から必要なもの（流路層位別資料）のみを抽出して掲載するものである。
- * 13福岡県福岡市雀居遺跡や福岡県宗像市大井三倉遺跡などに例がある（森下・信里1998）。

- *14大浦浜資料（真鍋1987）は口縁部が水平で、端部の刻目がない。粘土帯の接合部が粗雑な仕上げである点は共通する。また津島南池資料（藤田1982の第50図1）も口縁部は水平であるが、端部に刻目がみられる。
- *15当地域の凸帯文土器の編年は現段階では必ずしも十分でないが、概ね出現期・盛行期とその後に変容深鉢タイプの壺などを伴い、口縁部に多条のヘラ焼き文を施す段階が後続するという見通しをもっている。出現期は高松市竹元遺跡出土資料（國木1994）、盛行期は同市林坊城遺跡出土資料（宮崎1993）が該当する。後続期には前田東中村遺跡（森・古野1994）や上天神遺跡（大久保・森1989）、多肥宮尻遺跡（松本1998）などの資料が該当するものと考えておらず、川津下瀬資料はその後続期に並行するものと考える。これらについてはまだ充分な検討作業を行っていないために、機會を改めて論じたいが、ここではその概略的3区分を古相、中相、新相として仮称しておく。
- *167の土器は調査報告で別個体（第16図8・11）として報告されているが、幡上敬一氏（当時、愛媛大学学生）が資料を閲覧中に接合を見いだされ、今回改めて接合した状態で筆者が再実測を行ったものである。
- *17資料の提示に当たって、一部の土器の再実測を行った。実測・トレースに関して信里芳紀氏の協力と掲載の承認を得ている。記して謝意を表したい。
- *1834号、67号、72号、83号、87号、110号、116号、144号の各土坑である。
- *19平成7年度大川広域調査。資料の実見にあたっては大川町教育委員会藤井浩氏、大川広域事務組合萬木一郎氏にお世話になった。
- *20今回報告する平成2年度調査分のみを集計したもので、底部片も器種毎に集計に含めている。
- *21徳島県三谷遺跡（勝浦1997）では弥生時代前期前半段階（龍川五条I式に並行するものと考え）で、結晶片岩製石棒の製品や粗削段階を含む製作途上と考えられる資料が豊富に出土しており、大岡遺跡（前田1993）も同時期の石棒がある。両遺跡は凸帯文系土器が地域的な変容を来しながら残存して一定量組成する特徴が一致しており、祭祀的側面についても残存要素を認めることができる。また、当地域の前期前半大阪湾沿岸の長原遺跡についても同様である。少なくとも瀬戸内海～大阪湾沿岸地域において弥生前期前半古相に並行する凸帯文系土器に伴ってこのような石棒が多出する点で、当遺跡出土の石劍に共通性が認められる。問題は劍形を呈する形状である。この種の石棒が直径5cmほどでやや扁平なものがあるとはいって、厚みが3cmを下回るのは希であることや側縁を薄く仕上げるものがないことから、形状は異なっている。ところで、縄文時代晩期の山梨県金生遺跡（新津はか1990）では、大形の石棒とともに劍や刀の形状をもつ石製品が出土している。元来東日本に主要な分布域をもつ有頭石棒が劍や刀状を呈するものについては、大陸の青銅製刀劍の模倣であるという考え方もある。しかし金生遺跡で出土している石劍には頭部がないものもあり、縄文的な系譜に当遺跡に似た石劍も出現しうるものと考えられる。
- *22第3章では一般的な分類基準に基づき、側縁に抉りをもつ定型化した打製石庖丁と、刃部の摩滅が肉眼でも判別できるほどの刃部破片について「打製石庖丁」と認定し、それ以外についてはスクレイバーに一括している。
- *23当センターが所有する実体顕微鏡を使用した。ライティングを左右どちらか一方からのみ強く照射すると、石表面の皺の突出部分の摩滅状況が鮮明に見えてくる。ただし、表面の自然風化と摩滅痕が、完全かつ客観的に区分できたという訳ではない。同様の風化度をもつ打製石庖丁の刃部や側面

と比較して類似するものを「摩滅痕」と認定したが、曖昧なものが多く残る結果となった。これらは原則として摩滅痕の認定から除外したが、今後、客観的な認定方法の確立に加え前記の金属頭微鏡等による「使用痕分析」の必要性を感じた。

*24根茎類の収穫を考古学的に検証するのは、種子や花粉を持たないといった生物学的特性からみて、きわめて困難である。縄文後期から弥生前期まで継続する短冊形打製石斧について、「耕起具（石鋤）」として使用されたとの見解もある（平井1994）。陸稻などの播種の際に使用した可能性も指摘されている（広瀬1997）。前者は柄に直交して着装し、後者は柄に平行して着装する。今回観察の対象とした当遺跡の打製石斧は幅について一定の大きさにまとまる傾向にあり、小形のサイズのも含まれている。それらも同様に顯著な摩滅が認められること、また、縦状痕に複数の方向をもつものがあることなどから、柄あるいは着装部分の幅には大小の区分があり、また土に対して本体が接する角度、すなわち振り下ろし方にバリエーションがあったものと想定される。これだけのデータでは柄の具体的な形状、機能について結論づけるのは難しい。現段階では刃器類との組成上の相関を十分確認できないことから、雑穀類や水稻などとの関連を積極的に考えることも難しい。現段階では、縄文時代後期において、東日本の文化要素の西漸（渡辺1975）の一環として、他の文化要素とともに理解し、根茎類採取の一時的な盛行期があった可能性を考えておくこととしたい。ただし、先の組成上の問題だけで除外した「陸稻」などの雑穀類の播種具としての機能については、今後遺跡数が増加した段階で改めて組成比率を検証して確認していきたいと考えている。

参考・引用文献

あ～お

- 秋山 浩三 1992 「弥生前期土器—遠賀川式土器の地域色と吉備一」『吉備の考古学的研究（上）』山陽新聞社
- 秋山 浩三 1993 「「大足」の再検討」『考古学研究』第40巻3号 考古学研究会
- 阿子島 香 1989 「石器の使用痕」考古学ライブラリー56 ニューサイエンス社
- 伊藤 実 1991 「瀬戸内の環濠集落と高地性集落」「児嶋隆人先生喜寿記念論集古文化論叢」児嶋隆人先生喜寿記念会
- 岩橋 孝 1991 「吉原火上山遺跡」「香川県埋蔵文化財調査年報平成2年度」香川県教育委員会
- 菊島 三郎 1992 「木器」「京都府遺跡調査報告書第16冊千代川遺跡」財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 大久保 徹也 1988 「本鶴遺跡」「香川県埋蔵文化財調査年報昭和59～62年度」香川県教育委員会
- 大久保 徹也 1990 「下川津遺跡における地形の変遷」「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書下川津遺跡」香川県教育委員会・日本道路公団・鈴鹿香川県埋蔵文化財調査センター
- 大久保 徹也 1990 「木製品」「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書下川津遺跡」香川県教育委員会・日本道路公団・鈴鹿香川県埋蔵文化財調査センター
- 大久保 徹也 1995 「讃岐地方における朱闌連資料—特に内面朱付着土器について—」『考古学

		ジャーナル』394号、ニューサイエンス社
大久保徹也	1995	『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第6冊上天神遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
・森格也		
大山義充	1988	『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告V大浦浜遺跡』香川県教育委員会
・真鍋昌		
岡内 三真	1987	『庄・藏本遺跡』『日本考古学年報1986年度』日本考古学協会

か～こ

香川県教委	1983	『新編香川叢書考古編』香川県教育委員会
片桐 孝浩	1992	『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第11冊三条番ノ原遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・鴨香川県埋蔵文化財調査センター
片桐 孝浩	1996	『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第21冊川津下緒遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・鴨香川県埋蔵文化財調査センター
片桐 孝浩	1996	『弘田川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査概報弘田川西岸遺跡平成7年度』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
片桐孝浩	1998	『弥生時代の墓制について一概ノ口遺跡の事例を中心に一』『鴨香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要VI』鴨香川県埋蔵文化財調査センター
・信里芳紀		
勝浦 康守	1997	『三谷遺跡－徳島市佐古配水場施設増設工事に伴う発掘調査』徳島市埋蔵文化財発掘調査委員会
川畠 聰	1996	『讃岐における瓦の展開』『讃岐の古瓦展』高松市歴史資料館
神原 英朗	1977	『用木山遺跡』山陽団地埋蔵文化財調査事務所
木下 晴一	1995	『10cm等高線による遺跡立地の検討』『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第15冊龍川四条遺跡』鴨香川県埋蔵文化財調査センター
木下 晴一	1995	『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第16冊川津二代取遺跡』鴨香川県埋蔵文化財調査センター
木下 晴一	1995	『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第15冊龍川四条遺跡』鴨香川県埋蔵文化財調査センター
金田 章裕	1985	『条里と村落の歴史地理学研究』大明堂
國木 健司	1988	『ガンド浜遺跡』『香川県埋蔵文化財調査年報昭和62年度』
國木 健司	1990	『西又遺跡』『香川県埋蔵文化財発掘調査概報集』香川県教育委員会
國木 健司	1996	『竹元遺跡』『香川県埋蔵文化財調査年報平成5年度』香川県教育委員会
國木 健司	1993	『生野本町遺跡発掘調査報告書』香川県教育委員会
國木 健司	1989	『御産盟山古墳』『香川県埋蔵文化財調査年報昭和63年度』香川県教育委員会
工業 普通	1986	『漆工技術』『弥生文化の研究6道具と技術II』雄山閣出版
国立歴史民俗博物館	1996	『農耕開始期の石器組成1近畿（大阪・兵庫）・中国・四国』国立歴史民俗博物館資料調査報告7
国立歴史民俗	1996	『農耕開始期の石器組成2九州』国立歴史民俗博物館資料調査報告7

博物館

- 小林行雄・佐原真1964 「紫雲出—香川県三豊郡詫間町紫雲出山弥生式遺跡の研究」
- 齋田 耕作 1987 「矢ノ塚遺跡四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 7 号」香川県教育委員会・日本道路公団・鈴香川県埋蔵文化財調査センター
- さ～そ
- 斎野 裕彦 1993 「弥生時代の大型直線刃石器（上）」「弥生文化博物館研究報告」第2集、大阪府弥生文化博物館
- 斎野 裕彦 1994 「弥生時代の大型直線刃石器（下）」「弥生文化博物館研究報告」第3集、大阪府弥生文化博物館
- 酒井仁夫 1984 「葛川遺跡—福岡県京都郡刈田町所在遺跡の調査報告」刈田町文化財調査報告第3集、刈田町教育委員会
- ・副島邦弘
- 笠川 龍一 1983 「五条遺跡発掘調査説明資料」普通寺市教育委員会
- 笠川 龍一 1984 「仲村廃寺発掘調査報告（旧練兵場遺跡内）」普通寺市教育委員会
- 笠川 龍一 1985 「城ノ宗遺跡—弘田川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告～」普通寺市教育委員会
- 笠川 龍一 1989 「仲村廃寺～旧練兵場遺跡における埋蔵文化財確認調査報告書～」普通寺市教育委員会
- 笠川 龍一 1991a 「月信遺跡 県営畑地帯総合整備事業普通寺西部地区碑設農道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」月信遺跡発掘調査団
- 笠川 龍一 1991b 「五条遺跡」「香川県埋蔵文化財調査年報平成2年度」香川県教育委員会
- 佐藤 竜馬 1993 「出水状遺構について」「空港跡地遺跡発掘調査概報平成4年度」香川県教育委員会・鈴香川県埋蔵文化財調査センター
- 佐藤 竜馬 1996 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第24号郡家田代遺跡」香川県教育委員会・日本道路公団・鈴香川県埋蔵文化財調査センター
- 佐藤竜馬 1998 「佐古川・崖田遺跡」「国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成9年度」香川県教育委員会・鈴香川県埋蔵文化財調査センター・建設省四国地方建設局
- 佐原 真 1964 「石製武器の発達」「紫雲出」、詫間町文化財保護委員会
- 佐原 真 1967 「山城における弥生式文化の成立—畿内第1様式の細別と雲ノ宮遺跡出土土器の占める位置—」「史林第50巻第5号」史学研究会
- 佐原 真 1968 「畿内地方」「弥生式土器集成本編2」東京考古学会
- 佐原 真 1975 「かつて戦争があった—石鐵の変質—」「古代学研究」第78号
- 塩崎 誠司 1997 「旧練兵場遺跡IV」香川県教育委員会
- 下條 信行 1982 「石矛の提唱—木葉形磨製石製武器について—」「賀川光夫先生還暦記念論集」賀川光夫先生還暦記念会
- 下條 信行 1993 「西部瀬戸内における出現期弥生土器の様相」「論苑 考古学」坪井清足さんの古稀を祝う会
- 下條 信行 1994 「弥生時代・大陸系磨製石器の編年網の作成と地域間の比較研究」

- 下條 信行 1996 「扁平片刃石斧について」『愛媛大学人文学会創立20周年記念論集』
- 下條 信行 1997 「柱状片刃石斧について」『古文化論集—伊達先生古稀記念論集—』
- 鈴木 忠司 1975 「石器」『京都府舞鶴市桑河下遺跡発掘調査報告書』平安博物館
- た～と
- 高橋 学 1995 「臨海平野における地形環境の変貌と土地開発」『古代の環境と考古学』古今書院
- 田崎 博之 1988 「土器と集團(一)～(三)」『九州文化史研究所紀要第33～35号』九州大学九州文化史研究施設
- 田崎 博之 1994 「夜臼式土器から板付式土器へ」『牟田祐二君追悼論集』
- 田崎 博之 1996 「遠賀川式(系)土器のデザイン」『鍋と壺 そのデザイン—第4回東海考古学フォーラム』
- 出原 恵三 1994 「四国西南部における弥生文化の成立」『文化財論集』奈良大学文化財学科
- 徳島大学埋蔵文化財調査室編 1998 「庄・藏本遺跡1—徳島大学藏本キャンパスにおける発掘調査—」徳島大学埋蔵文化財調査報告第1巻
- 外山 秀一 1996 「丸亀平野における遺跡の立地と環境その2—郡家一里屋遺跡、飯野・東二瓦疊遺跡—」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第20冊 飯野・東二瓦疊遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・鰐香川県埋蔵文化財調査センター

- な～の
- 永嶋 正春 1996 「漆から見た縄文・弥生時代」『考古学ジャーナル』401号、ニューサイエンス社
- 中川 一哉他 1997 「京都府遺跡調査報告書第22冊雲宮遺跡」財團法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
- 中村 友博 1980 「弥生時代の武器形木製品」『東大阪市遺跡保護調査会年報1979年度』東大阪市遺跡保護調査会
- 仲谷 英夫 1990 「普通寺市永井遺跡出土の動物遺体(1)」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第9冊永井遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・鰐香川県埋蔵文化財調査センター
- 奈良国立文化財研究所編 1993 「木器集成図録 近畿原始編」
- 新津健・梶原洋 1990 「金生遺跡Ⅱ(縄文時代編)」山梨県教育委員会
- ・金子浩昌ほか
- 西岡 達哉 1989 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第6冊稻木遺跡」香川県教育委員会・日本道路公団・鰐香川県埋蔵文化財調査センター
- 西岡 達哉 1990 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第7冊一ノ谷遺跡」香川県教育委員会・日本道路公団・鰐香川県埋蔵文化財調査センター

西岡 達哉	1997	「旧練兵場遺跡」(鴨川埋蔵文化財調査センター)
西本 登弘	1990	「普通市寺永井遺跡産出の動物遺体(2)」「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第9冊永井遺跡」香川県教育委員会・日本道路公団・鴨川埋蔵文化財調査センター
丹羽 祐一	1994	「古墳時代」「新編丸亀市史4 史料編」丸亀市
能城修一 ・鈴木三男	1990	「普通市寺永井遺跡の木材化石群集」「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第9冊永井遺跡」香川県教育委員会・日本道路公団・鴨川埋蔵文化財調査センター
信里 芳紀	1997	「室本遺跡について」「香川考古第6号」香川考古刊行会
は～ほ		
畑 大介	1994	「堤防考古学の視角と課題」「帝京大学山梨文化財研究所研究報告第5集」帝京大学山梨文化財研究所
平井 勝	1987	「第三章 繩文時代」「岡山県の考古学」吉川弘文館
平井 勝	1994	「弥生時代の石器」考古学ライブラリー
平井 勝	1995	「岡山平野における速賀川系土器の出現—津島遺跡南池地点出土土器の再検討—」「古代吉備」第17集
廣瀬 和雄	1997	「縄文から弥生への新歴史像」
廣瀬 常雄	1994	「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第10冊金蔵寺下所遺跡・西碑殿遺跡」香川県教育委員会・日本道路公団・鴨川埋蔵文化財調査センター
廣瀬 常雄	1995	「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第17冊郡家大林上遺跡」香川県教育委員会・日本道路公団・鴨川埋蔵文化財調査センター
藤尾 健一郎	1993	「生糞から見た縄文から弥生」「国立歴史民俗博物館研究報告」第48集、国立歴史民俗博物館
藤田 慎司	1982	「中部瀬戸内の前期弥生土器の様相」「倉敷考古館集報第17号」
藤好 史郎	1982	「中の池遺跡発掘調査概要—香川県丸亀市金倉町所在の弥生時代遺跡の調査—」丸亀市教育委員会
藤好史郎 ・西村尋文編	1990	「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書下川津遺跡」香川県教育委員会・日本道路公団・鴨川埋蔵文化財調査センター
古市 光信	1990	「普通市寺永井遺跡(縄文時代)産出の植物遺体(種子)について」「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第9冊永井遺跡」香川県教育委員会・日本道路公団・鴨川埋蔵文化財調査センター
ま～も		
前田 佳久	1993	「大開遺跡発掘調査報告書」神戸市教育委員会
町田 洋 ・新井房夫	1992	「火山灰アトラス—日本列島とその周辺」、東京大学出版会

- 町田洋・新井房夫1986 「地層の知識—第4紀をさぐる」考古学シリーズ8、東京美術
- ・森島広
- 松井 一明 1995 「弥生時代の石器について（上）」「弥生文化博物館研究報告」第4集、大阪府弥生文化博物館
- 松木 武彦 1989 「弥生時代の石製武器の発達と地域性—とくに打製石器について—」「考古学研究」第35卷第4号
- 松村 道博他 1995 「福岡空港西側整備に伴う埋蔵文化財調査報告 鶴居遺跡3」福岡市教育委員会
- 松本敏三・岩橋孝1983 「讃岐青銅器図録」瀬戸内海歴史民俗資料館
- 松本 和彦他 1998 「多肥宮尻遺跡」「県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報平成9年度」香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 松本 豊巖 1961 「香川県善通寺市出土の弥生式土器」「古代」第37号、早稲田大学考古学会
- 松本 豊巖 1961 「讃岐弥生式土器の研究—前期—」「香川県考古学会報告」第一輯
- 真鍋 昌宏 1979 「長者原遺跡」「香川県埋蔵文化財調査年報昭和53年度」香川県教育委員会
- 真鍋 昌宏 1988 「弥生時代前期の土器について」「瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告V大浦浜遺跡」香川県教育委員会
- 真鍋 昌宏 1987 「乾遺跡」「中村遺跡・乾遺跡・上一坊遺跡」香川県教育委員会・日本道路公団
- 真鍋 昭文他 1995 「持田三丁目遺跡」愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 豆谷 和之 1996 「前期弥生土器出現」「古代」第99号、早稲田大学考古学会
- 御堂島 正 1989 「「抉入打製石底」の使用痕分析」「古代文化」第41卷、第6号古代学協会
- 南 博史 1988 「口酒井遺跡第11次調査」古代学協会
- 宮崎 哲治 1993 「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊林坊城遺跡」香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 宮崎 哲治 1995 「香川における弥生前期土器の様相」「財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅲ」
- 六車恵一 1956 「讃岐瀬戸式土器聚落図録」「文化財協会報特別号第1集」香川県文化財保護協会
- 森 格也 1992 「瀬戸内の高地性集落」「吉備の考古学的研究（上）」山陽新聞社
- 森格也・古野徳久1994 「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊前田東中村遺跡」香川県埋蔵文化財調査センター
- 森 格也 1997 「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第7冊鴨部川田遺跡I」香川県埋蔵文化財調査センター
- 森下 英治 1994a 「旧練兵場遺跡—平成5年度国立善通寺病院内発掘調査報告—」香川県教育委員会
- 森下 英治 1994b 「五条遺跡」「香川県埋蔵文化財発掘調査報告—香川県土木部道路改良事業に伴う発掘調査報告集—」香川県教育委員会

- 森下 英治 1995a 「旧練兵場遺跡Ⅱ」香川県教育委員会
- 森下 英治 1995b 「北原3号墳・北原遺跡」香川県教育委員会
- 森下 英治 1996 「香川県の石器組成」「農耕開始期の石器組成1近畿（大阪・兵庫）・中国・四国」国立歴史民俗博物館資料調査報告7
- 森下 英治 1997a 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第27冊三条黒島遺跡・川西北七条Ⅰ」香川県教育委員会・日本道路公団・鈴鹿香川県埋蔵文化財調査センター
- 森下 英治 1997b 「丸亀平野条里型地割の考古学的検討」「鈴鹿香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要V」鈴鹿香川県埋蔵文化財調査センター
- 森下英治
・信里芳紀 1998 「讃岐地方における弥生土器の基準資料I—下川津遺跡出土前期弥生土器を中心にして」『鈴鹿香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要VI』鈴鹿香川県埋蔵文化財調査センター

や～わ

- 家根 祥多 1993 「遠賀川式土器出現期の様相」「論苑考古学」坪井清足さんの古稀を祝う会
- 山下 平重 1996 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第22冊川西北鐵冶屋遺跡」香川県教育委員会・日本道路公団・鈴鹿香川県埋蔵文化財調査センター
- 山下 平重 1993 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第13冊郡家原遺跡」香川県教育委員会・日本道路公団・鈴鹿香川県埋蔵文化財調査センター
- 山元 敏裕 1995 「一般国道11号線高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第5冊井手東Ⅱ遺跡」高松市埋蔵文化財調査報告第27集、高松市教育委員会
- 山元 敏裕 1993 「一般国道11号線高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊浴・長池遺跡」高松市教育委員会
- 山元 敏裕 1994 「一般国道11号線高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第2冊浴・松ノ木遺跡」高松市教育委員会
- 山元 敏裕 1994 「一般国道11号線高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊浴・長池遺跡Ⅱ」高松市教育委員会
- 吉留 秀敏 1993 「縄文時代後期から晩期の石器技術総体の変化とその評価—早良平野を中心として—」「古文化談叢」第30集（上）、九州古文化研究会
- 吉留 秀敏 1994 「環濠集落の成立とその背景」「古文化談叢」第33集、九州古文化研究会
- 渡部 明夫 1995 「香川の削抜式石棺—石棺の創出と移動—」「瀬戸内海地域における交流の展開」名著出版
- 渡部 明夫 1990 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第9冊永井遺跡」香川県教育委員会・日本道路公団・鈴鹿香川県埋蔵文化財調査センター
- 渡辺 誠 1975 「総括」「京都府舞鶴市桑飼下遺跡発掘調査報告書」平安博物館
- 和田 正夫 1951 「快天山古墳発掘調査報告書」「香川県史跡名勝天然記念物調査報告15」香川県史跡名勝天然記念物調査会
- 和田 素子 1993 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第12冊郡家一里塚遺

跡』香川県教育委員会・日本道路公団・鵠香川県埋蔵文化財調査センター
葛科 哲男 1988 「石器原材の産地分析」『鎌木義昌先生古稀記念論集 考古学と関連科学』
・東村 武信 同刊行会

四国横断自動車道建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告

第二十九冊

龍川五条遺跡Ⅱ

飯野東分山崎南遺跡

第1分冊

平成10年10月30日 発行

編集 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001番の4

電話 (0877) 48-2191

発行 香 川 県 教 育 委 員 会

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

日本道公団

印刷 株式会社 成光社



四国横断自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

第二十九冊

龍川五条遺跡Ⅱ
飯野東分山崎南遺跡

第2分冊

1998.10

香川県教育委員会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
日本道路公団

四国横断自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

第二十九冊

龍川五条遺跡Ⅱ
飯野東分山崎南遺跡

第2分冊

1998.10

香川県教育委員会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
日本道路公団

第2分冊

目 次

第1部 龍川五条遺跡Ⅱ

遺物観察表

第30表 土器観察表	1
第31表 石器観察表	73
第32表 木器観察表	89

第2部 飯野東分山崎南遺跡

第1章 調査の経緯	91
-----------------	----

第2章 立地と環境	93
-----------------	----

第3章 各地区の概要

(1) C地区（飯野東分山崎南遺跡）の概要	98
(2) D地区の概要	99

第4章 出土遺物

(1) C地区出土遺物	101
(2) D地区出土遺物	107

第5章 まとめ	115
---------------	-----

遺物観察表	117
-------------	-----

図版目次

龍川五条遺跡Ⅱ

- 図版1 前池地区全景
- 図版2 IVB区全景
- 図版3 V①②区全景
- 図版4 (1) V④区全景
(2) V⑥区全景
- 図版5 前池地区弥生前期面全景(西より)
- 図版6 (1) 前池地区東半部(南より)
(2) 前池地区SD49の砂礫層基盤
- 図版7 (1) 前池地区SD49土層断面③
(東より)
(2) 前池地区SR04・SD49合流部
土層断面④(西より)
- 図版8 (1) 前池地区SD49最下層土器出
土状況(東より)
(2) 前池地区SD50土器出土状況
(東より)
- 図版9 (1) 前池地区SD50土器出土状況
(東より)
(2) 前池地区SR04(東より)
- 図版10 (1) 前池地区SX07及び小ピット
群(西より)
(2) 前池地区SR04基盤河川自然
木出土状況(東より)
- 図版11 (1) V④区SD51土層断面(南より)
(2) V④区SD51(北東より)
- 図版12 (1) IVB区SR05北半河床面
(南より)
(2) IVB区SR05土層断面①
(南より)
- 図版13 (1) IVB区SR05土層断面③
(北より)
(2) IVB区SR05土器出土状況
- 図版14 (1) V④区SD52(西より)
(2) V④区SD52土層断面(西より)
- 図版15 (1) V④区SD52高杯出土状況
(2) IV区SR06全景(南より)
- 図版16 (1) IVB区SR06北半部(南より)
(2) IVB区SR06(南より)
- 図版17 (1) IVB区SR06(南より)
(2) IVB区SR06土層断面②
(南より)
- 図版18 (1) IVB区SR06土層断面③
(南より)
(2) IVB区SR06土層断面④
(北より)
- 図版19 (1) IVB区SR06土層断面⑥
(南より)
(2) IVB区SR06土層断面⑦
(南より)
- 図版20 (1) V④区SR06土層断面⑨
(南東より)
(2) V④区SR06土層断面⑨
(南より)
- 図版21 (1) IVB区SR06木製品等出土状
況(南より)
(2) IVB区SR06断面⑥木製品出
土状況(南より)
- 図版22 (1) IVB区SR06田下駄部材出土
状況
(2) IVB区SR06灰青色砂礫層土
器出土状況(南より)
- 図版23 (1) IVB区SR06黒色シルト層土
器出土状況
(2) IVB区SR06ブロック層須恵
器杯身出土状況(南より)
- 図版24 (1) 前池地区SB10~12(東より)
(2) 前池地区SP11(SB13)遺
物出土状況
- 図版25 (1) 前池地区SP11(SB13)遺
物出土状況
(2) 前池地区SP14(SB13)方
形柱痕
- 図版26 (1) 前池地区SP88(SB13)遺
物出土状況
(2) 前池地区SP88(SB13)遺
物出土状況
- 図版27 (1) 前池地区SB15北半部(南より)
(2) 前池地区SB16(南より)
- 図版28 (1) 前池地区SP109(SB16)
土層断面(北より)
(2) 前池地区SP76(SA02)土
器出土状況
- 図版29 (1) 前池地区SD53(南より)

- 図版30 (1) 前池地区 S D53 (南より)
(2) 前池地区 S D54 (西より)
- 図版31 (1) 前池地区 S D55 (南より)
(2) 前池地区 S D56 (南より)
(3) 前池地区 S D57・58 (南より)
(4) 前池地区 S D58・59合流部土層断面 (南より)
- 図版32 (1) IV B 区 S D60中央畦土層断面 (北より)
(2) IV B 区 S D60・62土層断面① (北より)
(3) IV B 区 S D60・62土層断面③ (北より)
- 図版33 (1) IV B 区 S D61土層断面③ (北より)
(2) IV B 区 S D62土層断面④ (南より)
- 図版34 (1) V ④区 S D63 (北より)
(2) V ④区 S D63南畦北面 (北より)
- 図版35 (1) V ⑥区 S D63土層断面 (南より)
(2) V ①区 S D64 (南より)
- 図版36 (1) V ①②区 S D64土層断面 (南より)
(2) V ①②区 S D66・67 (東より)
- 図版37 (1) IV B 区 西上段部 S R07肩部整地層除去後 (北より)
(2) IV B 区 東下段部 S R07上層検出状況 (北より)
- 図版38 (1) IV B 区 北半近世遺構群全景 (南より)
(2) IV B 区 S R07完掘状況 (南より)
- 図版39 (1) IV B 区 S R07中央畦 (北より)
(2) IV B 区 S R07最下層土器出土状況
- 図版40 (1) IV B 区 近世土坑群全景 (南より)
(2) IV B 区 S K89土層断面 (西より)
- 図版41 (1) IV B 区 S K90土層断面 (東より)
(2) IV B 区 S K90下部集石 (東より)
- 図版42 (1) IV B 区 S K91土層断面 (東より)
(2) IV B 区 S K92下部集石 (東より)
- 図版43 (1) IV B 区 S K92完掘状況 (南より)
(2) IV B 区 S K93断面 (西より)
- 図版44 (1) IV B 区 S K93集石 (西より)
(2) IV B 区 S K94土層断面 (東壁より)
- 図版45 (1) IV B 区 S K95断面・集石 (西より)
(2) IV B 区 S K95集石 (南より)
- 図版46 (1) IV B 区 S K97完掘状況 (南より)
(2) IV B 区 S K97完掘状況・下部 (南より)
- 図版47 (1) IV B 区 S K97最下層 (西より)
(2) IV B 区 S K98完掘状況 (西より)
- 図版48 (1) V ④区 S K99検出状況 (東より)
(2) V ④区 S K99土層断面 (北より)
- 図版49 (1) V ②区 S X08 (西より)
(2) V ②区 S X08西側畦土層断面 (西より)
- 図版50 (1) IV B 区 S D68全景 (南より)
(2) IV B 区 S D68畦E (南より)
- 図版51 (1) IV B 区 S E03井戸立ち割り (南より)
(2) IV B 区 S E03完掘状況 (北より)
- 図版52 (1) V ①区 S X09 (北より)
(2) V ③区調査区全景 (東より)
- 図版53 (1) IV B 区 調査風景
(2) 前池地区堤防西壁断面
- 図版54 (1) S K87出土遺物
(2) S D49最下層出土遺物①
- 図版55 S D49最下層出土遺物②
- 図版56 S D49最下層出土遺物③
- 図版57 S D49最下層出土遺物④
- 図版58 S D49最下層出土遺物⑤
- 図版59 S D49最下層出土遺物⑥
- 図版60 S D49最下層出土遺物⑦
- 図版61 S D49最下層出土遺物⑧
- 図版62 S D49最下層出土遺物⑨
- 図版63 S D49最下層出土遺物⑩
- 図版64 (1) S D49最下層出土遺物⑪
(2) S D49下層出土遺物①
- 図版65 S D49下層出土遺物②
- 図版66 S D49下層出土遺物③
- 図版67 S D49中～下層出土遺物①
- 図版68 S D49中～下層出土遺物②
- 図版69 S D49中～下層出土遺物③
- 図版70 S D49中～下層出土遺物④
- 図版71 S D49中～下層出土遺物⑤
- 図版72 S D49中～下層出土遺物⑥
- 図版73 S D49中～下層出土遺物⑦
- 図版74 S D49中～下層出土遺物⑧

- | | | |
|-------|---------------------|----------------------|
| 图版75 | S D49上层出土遗物① | (2) S R05出土遗物① |
| 图版76 | S D49上层出土遗物② | 图版118 S R05出土遗物② |
| 图版77 | S D49上层出土遗物③ | 图版119 S R05出土遗物③ |
| 图版78 | S D49上层出土遗物④ | 图版120 S R05出土遗物④ |
| 图版79 | S D49上层出土遗物⑤ | 图版121 S R05出土遗物⑤ |
| 图版80 | S D49上层出土遗物⑥ | 图版122 S R05出土遗物⑥ |
| 图版81 | S D49层位不明出土遗物① | 图版123 S R05出土遗物⑦ |
| 图版82 | S D49层位不明出土遗物② | 图版124 S X07出土遗物 |
| 图版83 | S D49层位不明出土遗物③ | 图版125 (1) S D52出土遗物 |
| 图版84 | S D49层位不明出土遗物④ | (2) S R06出土遗物① |
| 图版85 | S D50最下层出土遗物① | 图版126 S R06出土遗物② |
| 图版86 | S D50最下层出土遗物② | 图版127 S R06出土遗物③ |
| 图版87 | (1) S D50最下层出土遗物③ | 图版128 S R06出土遗物④ |
| | (2) S D50最下层出土遗物① | 图版129 S R06出土遗物⑤ |
| 图版88 | S D50下层出土遗物② | 图版130 S R06出土遗物⑥ |
| 图版89 | S D50下层出土遗物③ | 图版131 S R06出土遗物⑦ |
| 图版90 | S D50下层出土遗物④ | 图版132 S R06出土遗物⑧ |
| 图版91 | S D50下层出土遗物⑤ | 图版133 S R06出土遗物⑨ |
| 图版92 | S D50下层出土遗物⑥ | 图版134 S R06出土状况⑩ |
| 图版93 | S D50下层出土遗物⑦ | 图版135 (1) S R06出土遗物⑪ |
| 图版94 | S D50下层出土遗物⑧ | (2) S B13出土遗物 |
| 图版95 | (1) S D50上层出土遗物 | 图版136 (1) S A02出土遗物 |
| | (2) S D50层位不明出土遗物① | (2) S A03出土遗物 |
| 图版96 | S D50层位不明出土遗物② | (3) S P57出土遗物 |
| 图版97 | S D50层位不明出土遗物③ | (4) S P107出土遗物 |
| 图版98 | S D50层位不明出土遗物④ | (5) S D53出土遗物 |
| 图版99 | S D51出土遗物 | 图版137 (1) S D59出土遗物 |
| 图版100 | S R04下层出土遗物① | (2) S D60出土遗物① |
| 图版101 | S R04下层出土遗物② | 图版138 S D60出土遗物② |
| 图版102 | S R04下层出土遗物③ | 图版139 S D61出土遗物① |
| 图版103 | S R04下层出土遗物④ | 图版140 S D61出土遗物② |
| 图版104 | S R04下层出土遗物⑤ | 图版141 S D61出土遗物③ |
| 图版105 | S R04下层出土遗物⑥ | 图版142 (1) S D61出土遗物④ |
| 图版106 | S R04下层出土遗物⑦ | (2) S D62出土遗物 |
| 图版107 | S R04下层出土遗物⑧ | 图版143 (1) S D63出土遗物 |
| 图版108 | S R04下层出土遗物⑨ | (2) S D64出土遗物 |
| 图版109 | S R04下层出土遗物⑩ | 图版144 (1) S D65出土遗物 |
| 图版110 | S R04下层出土遗物⑪ | (2) S D66出土遗物 |
| 图版111 | S R04下层出土遗物⑫ | 图版145 S R07出土遗物① |
| 图版112 | S R04中层出土遗物① | 图版146 S R07出土遗物② |
| 图版113 | S R04中层出土遗物② | 图版147 S R07出土遗物③ |
| 图版114 | S R04中层出土遗物③ | 图版148 S R07出土遗物④ |
| 图版115 | S R04中层出土遗物④ | 图版149 S R07出土遗物⑤ |
| 图版116 | S R04中层出土遗物⑤ | 图版150 S K90出土遗物① |
| 图版117 | (1) S R04上层·最上层出土遗物 | 图版151 S K90出土遗物③ |

- 図版152 S K90出土遺物③
 図版153 S K90出土遺物④
 図版154 (1) S K90出土遺物⑤
 (2) S E03出土遺物①
 図版155 S E03出土遺物②
 図版156 (1) S E03出土遺物③

飯野東分山崎南遺跡

- 図版1 遺跡周辺航空写真

- 図版2 (1) C地区5トレンチ（東より）
 (2) C地区2トレンチ（東より）
 図版3 (1) C地区6トレンチ（西より）
 (2) C地区6トレンチ客土層の広がり（南より）
 図版4 (1) C地区6トレンチ下部の疊散布状況（西より）
 (2) C地区6トレンチ下部の疊散布状況（東より）

- (2) 包含層出土遺物①
 図版157 包含層出土遺物②
 図版158 包含層出土遺物③

- 図版5 (1) D地区1トレンチ（東より）
 (2) D地区1トレンチ西壁断面
 図版6 C地区出土遺物①
 図版7 C地区出土遺物②
 図版8 D地区出土遺物①
 図版9 D地区出土遺物②
 図版10 D地区出土遺物③
 図版11 D地区出土遺物④
 図版12 D地区出土遺物⑤
 図版13 D地区出土遺物⑥

付 図

- 付図1 龍川五条遺跡Ⅲ区・ⅣA区・前池地区・ⅣB区・V④区・V⑥区下層遺構配置図
 付図2 龍川五条遺跡Ⅲ区・ⅣA区・前池

地区・ⅣB区・V④区・V⑥区上層遺構配置図

- 付図3 龍川五条遺跡V①②区遺構配置図

龍川五条遺跡Ⅱ
遺物觀察表

凡 例

胎 土

白……白色砂粒	大……鉱物・砂粒の径が1.1mm以上	多……鉱物・砂粒を多く含む
茶……茶色砂粒	中…… ° 0.6~1.0mm	少…… ° 少量含む
灰……灰色砂粒	小…… ° 0.5mm以下	微…… ° 僅かに含む
透……透明砂粒		

非摩擦系…摩擦した円螺を含まないもの（第5章第2節参照）

摩擦系…摩擦した円螺を含むもの (°)

橙色系…橙色系の色調で、微細な黒色砂粒を多く含むもの (°)

紫……赤色斑状を特に多く含むもの

形態上の特徴

口……口縁部	底……底部	刻……刻目	削凸……削出凸帯
頸……頸部	口頸……口頸部	文……文様	貼凸……貼付凸帯
胴……胴部	頸胴……頸胴部の境	ヘラ……ヘラ描き沈線文	横直……横描直線文
樹波……樹波状文	刺……刺突文		

内面調整・外面調整

器体の上部側からの観察結果を「、」で区切って列記した。

色 調

〔新版標準土色帖(1992年版)〕(日本色研事業株式会社)による表記

単 位 すべて cm·g に統一した

残存率 復元径測定部位における実物の割合を示した

また、便宜上小破片でも径を復元したものは、備考欄に「径は参考」と記載した

石 材 サヌカイト、砂岩以外の石材については、香川大学教育学部谷山穂先生に鑑定を依頼した結果の原文を記載した。

第30表 龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (1)

番号	標印	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	外面調整	内部調整	残存 事	形態上の 特徴	備考
2420	19 54	S K87	下層	弥生土器	(11.2)		白・透・小・中、 褐色系	多、褐色系	浅黄色(2.5 Y7/3)	明黄色(5 YR5/6)	ナデ、ヘラ 磨き	ナデ	1/6 ラ1	腹は不明瞭
2421	19 54	S K87	-	弥生土器	(15.0)		白・透・茶・透、小 ~大、多、非輪底 系	褐色系(10Y R4/1)	褐色系(10Y R4/1)	ナデ、ヘラ 磨き	ナデ	1/6	口：如意形、外 面黒斑	
2422	19 54	S K87	-	弥生土器	(18.0)		白・透・茶・透、小~大、 多、非輪底系	褐色系(10Y R6/2)	浅黄色(2.5 Y6/2)	浅黄色(2.5 Y6/2)	ナデ	1/8	口：如意形、 無文	
2423	19	S K87	下層	弥生土器	(6.2)		白・透・茶・透、小 ~大、多、非輪底 系	褐色系(10Y R5/3)	浅黄色(2.5 Y7/3)	板ナデ	板ナデ後ナ デ	1/4		
2425	22 55	S D49	最下層	弥生土器	14.4	(28.2)	8.1	白・透・茶・透、小~大、 多、非輪底系	白色(5Y5/ 6/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	板ナデ後ヘ ラ磨き	ナデ	3/4	頭：ヘラ2 胴：ヘラ1 脚：24.7cm
2426	22 55	S D49	最下層	弥生土器	13.7	(29.5)	7.8	白・透・茶・透、小~大、 少、非輪底系	褐色系(2.5 Y7/3)	浅黄色(2.5 Y6/6)	板ナデ後ヘ ラ磨き	ナデ	2/3	頭：ヘラ2 胴：ヘラ1 脚：ヘラ4 頭部文様は二 部出凸状
2427	22 54	S D49	最下層	弥生土器	(12.8)		茶・透、小~大、 多、褐色系	褐色系(5Y R6/6)	浅黄色(2.5 Y7/3)	板ナデ	ナデ、ヘラ 磨き	1/8	頭：ヘラ3 腹部文様は難 解のため不明 新	
2428	22 54	S D49	最下層	弥生土器	(15.4)		白・透、小~大、 多、非輪底系	褐色系(2.5 Y7/2)	浅黄色(2.5 Y7/2)	板ナデ	ナデ、ヘラ 磨き	1/8	頭：ヘラ1 腹部文様は難 解のため不明 新	
2429	22 54	S D49	最下層	弥生土器	(13.3)		白・透、小~大、 多、非輪底系	褐色系(5Y R6/2)	浅黄色(2.5 Y7/3)	板ナデ	ナデ、ヘラ 磨き	1/8	頭：點凸1	
2430	22 54	S D49	最下層	弥生土器	(14.3)		白・透、小~大、 多、非輪底系	褐色系(2.5 Y6/2)	浅黄色(2.5 Y7/2)	板ナデ	ナデ、ヘラ 磨き	1/8	頭：點凸1	
2431	22 54	S D49	最下層	弥生土器	(15.0)		白・透、小~大、 多、非輪底系	褐色系(5Y R6/2)	浅黄色(2.5 Y6/2)	板ナデ	ナデ、ヘラ 磨き	1/8	頭：點凸1	
2432	22 55	S D49	最下層	弥生土器	(15.4)		白・透、小~大、 多、非輪底系	褐色系(5Y R7/2)	浅黄色(2.5 Y7/2)	板ナデ	ナデ、ヘラ 磨き	1/8	-	
2433	22 55	S D49	最下層	弥生土器			白・透、小~大、 多、非輪底系	褐色系(5Y R7/1)	浅黄色(5Y R1)	板ナデ	板ナデ	1/8	口番：ヘラ 1	
2434	22 55	S D49	最下層	弥生土器			白・透、小~大、 多、非輪底系	褐色系(5Y R7/1)	浅黄色(2.5 Y7/1)	板ナデ	板ナデ	-		
2435	22 55	S D49	最下層	弥生土器			白・透、小~大、 多、非輪底系	褐色系(10Y R7/1)	灰白色(2.5 Y7/1)	ナデ	ナデ	1/8	頭：ヘラ2	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (2)

番号	鉢形	直徑	厚さ	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 土	色調(内面)	外側調整	内面調整	残存 率	形態上の 特徴	備考
2436	22 55 S D49 最下層 非選	弦生土器	多	白・透、小~中、 非選系	5 (Y4/ 1)	灰 色(5 Y4/ 1)	灰 色(5 Y4/ 1)	磨滅、ヘラ 磨き	磨滅	1/8	開: ヘラ 1 +α	
2437	22 55 S D49 最下層 非選	弦生土器	多	白・透、小~大、 非選系	Y7/2	灰 黄 色(2.5 Y6/2)	灰 黄 色(2.5 Y7/2)	ヘラ磨き	板ナデ	1/8	開: ヘラ 3	小形盤
2438	22 56 S D49 最下層 非選	弦生土器	多	白・透、小~大、 非選系	Y7/2	灰 黄 色(2.5 Y6/1)	灰 黄 色(2.5 Y7/2)	磨滅、ヘラ 磨き	板ナデ	1/8	開: ヘラ 3, 底部文様は墨 跡のため不明	頭: ヘラ 3
2439	22 56 S D49 最下層 非選	弦生土器	少	白・透、小~大、 非選系	Y7/2	灰 黄 色(2.5 Y6/2)	灰 黄 色(2.5 Y6/2)	ヘラ磨き	板ナデ	1/8	開: ヘラ 3	外面に焼化物
2440	22 56 S D49 最下層 非選	弦生土器	多	白・透、小~大、 非選系	Y6/1	灰 黄 色(2.5 Y6/2)	灰 黄 色(2.5 Y6/1)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	開: ヘラ 3, +強文	頭: 前出凸 +ヘラ 2
2441	23 56 S D49 最下層 非選	弦生土器	少	白・透、小~中、 非選系	Y7/2	灰 黄 色(2.5 Y7/2)	灰 黄 色(2.5 Y7/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	開: ヘラ 2 +α	胎土精良
2442	23 56 S D49 最下層 非選	弦生土器	多	白・黒、小~中、 非選系	Y7/1	白・黒、小~中、 非選系	白・黒、小~中、 非選系	にぶい青緑 色(10 Y R6/ 3)	にぶい青緑 色(10 Y R7/ 3)	1/8	開: 俊 +ヘ ラ 1	
2443	23 56 S D49 最下層 非選	弦生土器	多	白・黒、小~中、 非選系	Y7/1	黒 色(2.5 Y Z1)	黄 色(2.5 Y Z1)	磨滅、ヘラ 磨き	指押、拳突 後	1/8	開: ヘラ 3	
2444	23 56 S D49 最下層 非選	弦生土器	多	茶・白・透、小~大、 非選系	Y R8/3	浅 黄 色(10 Y R8/2)	浅 黄 色(10 Y R8/2)	磨滅	指押	1/8	開: ヘラ 2	
2445	23 56 S D49 最下層 非選	弦生土器	多	茶・白・透、小~大、 非選系	Y R8/3	浅 黄 色(2.5 Y R6/3)	浅 黄 色(2.5 Y R6/3)	磨滅、ヘラ 磨き	指ナデ	1/8	開: ヘラ 3 +α	
2446	23 56 S D49 最下層 非選	弦生土器	多	茶・白・透、小~大、 非選系	Y R8/1	浅 黄 色(10 Y R4/1)	浅 黄 色(10 Y R4/1)	ヘラ磨き	指押さえ	1/8	開: 貼合前 ヘラ沈	
2447	23 56 S D49 最下層 非選	弦生土器	多	白・透、小~中、 非選系	Y R8/1	浅 黄 色(10 Y R4/1)	浅 黄 色(10 Y R4/1)	磨滅	指押、拳突	1/8	開: ヘラ 3	
2448	23 57 S D49 最下層 非選	弦生土器	8.8	白・透、大、多、 非選系	Y R8/1	にぶい黄 緑 色(10 Y R6/ 4)	にぶい黄 緑 色(10 Y R6/ 4)	ヘラ磨き	剥落	完存		外面黒斑、底 面はヘラ磨き
2449	23 57 S D49 最下層 非選	弦生土器	8.4	灰・白・透、小~大、 非選系	Y6/1	灰 黄 色(2.5 Y6/1)	灰 黄 色(2.5 Y6/1)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	開: ヘラ 3	
2450	23 57 S D49 最下層 非選	弦生土器	9.0	茶・白・透、小~大、 非選系	Y7/3	浅 黄 色(2.5 Y7/3)	浅 黄 色(2.5 Y7/3)	磨滅	磨滅	1/8		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (3)

番号	探査区段	遺構名	部位名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	保存状態	形態上の特徴	備考
2451	23	57 S D49	最下層	弦生土器 壺		8.3	茶・白・透・小~大 非織紋系	浅黄色(2.5 Y7/3)	にぶい黄色 (2.5 YR 6/ 3)	ハケ後へラ 磨き		完存			
2452	23	57 S D49	最下層	弦生土器 壺		8.6	白・透・茶・小~大 非織紋系	にぶい黄色 (10 YR 5/ 3)	にぶい黄色 (10 Y R 5/ 3)	ハケ後へラ 磨き		完存			
2453	23	57 S D49	最下層	弦生土器 壺		8.3	白・透・透・少~大 非織紋系	浅黄色(2.5 Y7/3)	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	ハケ後へラ 磨き		完存			
2454	23	57 S D49	最下層	弦生土器 壺		6.4	白・透・小~大, 非織紋系	黄灰茶色(2.5 Y 6/1)	淡黄色(2.5 Y 6/3)	指押、摩滅		完存			
2455	23	57 S D49	最下層	弦生土器 壺		6.8	白・透・小~大, 非織紋系	黄灰茶色(2.5 Y 4/1)	淡黄色(2.5 Y 6/1)	摩滅、ヘラ 磨き		完存			
2456	24	57 S D49	最下層	弦生土器 壺		(12.5)	白・透・黑・多 織紋系	灰青褐色(10 Y 6/2)	暗灰黄色(10 Y 5 1/2)	暗灰黄色 (2.5 Y 6/2)	ヘラ磨き	1/5	接合面で剥離		
2457	24	57 S D49	最下層	弦生土器 壺		8.2	白・透・小~大, 非織紋系	黄灰茶色(2.5 Y 5/1)	黄灰茶色(2.5 Y 6/1)	摩滅		完存			
2458	24	57 S D49	最下層	弦生土器 壺		(7.8)	白・透・黑・小~大, 非織紋系	暗灰茶色(2.5 Y 7/2)	暗灰茶色(10 Y 6/2)	ヘラ磨き、 摩滅		1/2			
2459	24	S D49	最下層	弦生土器 壺		(8.0)	白・透・小~大, 非織紋系	黄灰茶色(N 3/)	にぶい黄色 (10 Y R 6/ 3)	ヘラ磨き、 摩滅		1/2			
2460	24	58 S D49	最下層	弦生土器 壺		(8.9)	白・透・透・小~大, 非織紋系	黄灰茶色(2.5 Y 4/1)	暗灰黄色(2.5 Y 5 1/2)	板ナデ後へ テラ磨き		1/2			
2461	24	58 S D49	最下層	弦生土器 壺		5.9	白・透・小~大, 非織紋系	灰青褐色(2.5 Y 7/2)	暗灰黄色(2.5 Y 6/2)	ヘラ磨き		完存			
2462	24	S D49	最下層	弦生土器 壺		(11.5)	白・透・小~大, 非織紋系	オリーブ黒 色(5 Y 3/1)	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	ヘラ磨き		1/5	底部へラ磨き、 内外面黒斑		
2463	24	58 S D49	最下層	弦生土器 壺		(8.4)	白・透・小~大, 非織紋系	白白色(Y 7/1)	暗灰黄色(2.5 Y 7/2)	ハケ後へラ 磨き、ナデ		1/4			
2464	24	58 S D49	最下層	弦生土器 壺		10.0	白・透・小~大, 非織紋系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	ヘラ磨き		1/2	外側黒斑		
2465	24	58 S D49	最下層	弦生土器 壺		6.8	白・透・黑・小~中, 非織紋系	所青褐色(Y R 5/2)	所青褐色(10 Y R 4/2)	指押、ハゲ 磨き		完存	内面黒斑		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (4)

番号	地図面	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	基盤 (cm)	胎 (cm)	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存 率	形態上の 特徴	備考
2466	24	58	S D49	最下層	弥生土器 釜	(6.8)	白・透 多・非透 透底系	浅黃色(2.5 Y 7/3)	灰白色(2.5 Y 8/2)	摩滅、指押 ヘラ磨き、 ナデ	ヘラ磨き、 ナデ	1/2	外面黒斑	
2467	24	58	S D49	最下層	弥生土器 釜	(4.3)	茶・白透 少・非透 透底系	灰黄色(2.5 Y 7/1)	灰黄色(2.5 Y 7/3)	摩滅、指押 ヘラ磨き、 ナデ	板ナデ	完存	底面ヘラ磨き	
2468	24	58	S D49	最下層	弥生土器 釜	(6.4)	白・透 少・非透 透底系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	暗灰色(2.5 Y 5/2)	摩滅、指押、ナデ 神	板ナデ、指 押	1/2	内面に炭化物 付着	
2469	24	58	S D49	最下層	弥生土器 釜	(8.7)	白・透 少・多・非透 透底系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	灰黄色(2.5 Y 5/2)	摩滅、指押 ヘラ磨き、 ナデ	板ナデ	完存	底面ヘラ磨き	
2470	24	58	S D49	最下層	弥生土器 釜	(6.9)	茶・白透 多・非透 透底系	灰白色(2.5 Y 7/1)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	摩滅、指押 ヘラ磨き、 ナデ	摩滅	完存	底面ヘラ磨き	
2471	24	58	S D49	最下層	弥生土器 釜	(9.6)	白・透 多・非透 透底系	黑色(10 Y R 2/1)	黑色(10 Y R 2/1)	摩滅、指押 ヘラ磨き、 ナデ	摩滅	完存	操作面に網繩	
2472	24	58	S D49	最下層	弥生土器 アマ	(4.5)	白・透 多・非透 透底系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	摩滅、指押 ヘラ磨き、 ナデ	ナデ	完存	調査時に腹部 破損	
2473	24	58	S D49	最下層	弥生土器 アマ	(33.4)	白・透 多・非透 透底系	灰黄色(10 Y 6/2)	灰黄色(2.5 Y 6/1)	摩滅	摩滅	1/8	口:如意形。	
2474	24	59	S D49	最下層	弥生土器 釜	(23.2)	白・透 多・非透 透底系(や く質)	灰黄色(7.5 Y R 8/6)	灰黄色(7.5 Y R 8/6)	摩滅	摩滅	1/8	口:如意形。 文:段	
2475	24	59	S D49	最下層	弥生土器 釜	(23.6)	白・透 多・非透 透底系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	摩滅、指押 ヘラ磨き、 ナデ	摩滅	1/8	口:如意形。 文:段	
2476	24	59	S D49	最下層	弥生土器 釜	(21.0)	白・透 多・非透 透底系	灰黄色(10 Y 4/2)	灰黄色(10 Y 4/2)	摩滅	摩滅	1/8	口:如意形。 文:ヘラ +α	
2477	24	59	S D49	最下層	弥生土器 釜	(20.9)	白・透 多・非透 透底系	灰黄色(2.5 Y 4/1)	灰黄色(2.5 Y 4/1)	摩滅、指押 ヘラ磨き、 ナデ	板ナデ	1/8	口:如意形。 文:ヘラ 1	
2478	24	59	S D49	最下層	弥生土器 釜	(20.0)	白・透 多・非透 透底系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	灰黄色(2.5 Y 7/3)	摩滅、指押 ヘラ磨き、 ナデ	板ナデ	1/8	口:如意形。 文:ヘラ 2	底は漆城のた め不明
2479	24	59	S D49	最下層	弥生土器 釜	(17.3)	白・透 多・非透 透底系	灰黄色(7.5 Y R 5/4)	灰黄色(10 Y R 3/3)	摩滅	小破 片	口:如意形。 文:ヘラ 3	底は参考	
2480	24	59	S D49	最下層	弥生土器 釜	(21.3)	白・透 多・非透 透底系	灰黄色(2.5 Y 4/1)	灰黄色(2.5 Y 5/2)	ヘラ磨き	摩片	口:如意形。 文:ヘラ 4	底は漆城のた め不明	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (5)

番号	所蔵	遺構名	部位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面部調整	残存 事実	形態上の 特徴	備考	
2481	24	59 S D49	最下層	弥生土器 甕				灰・白・黒・小~大 青・黄・赤系	にぶい黄褐色 (10YR6/ 4)	にぶい黄褐色 (10YR6/ 4)	細いハケ 板ナデ後ナ デ	板ナデ後ナ デ	口:如彫形、 半紙竹管文 文:ヘラ4		
2482	25	59 S D49	最下層	弥生土器 甕				白・透・小~中 青・黄・赤系(真 多質)	褐色(10Y R5/1)	褐色(10Y R5/1)	板ナデ後ナ デ	板ナデ後ナ デ	口:如彫形、 外面黒斑 文:全頭文 文:ヘラ2		
2483	25	59 S D49	最下層	弥生土器 甕				白・透・介~大 青・黄・赤系	灰・黃色(2.5 Y6/1)	灰・黃色(2.5 Y7/2)	板ナデ	板ナデ	口:如彫形、 金雲母微 粒		
2484	25	59 S D49	最下層	弥生土器 甕				灰・白・透・小~大 青・黄・赤系	灰・白色(5Y 8/1)	灰・白色(5Y 8/1)	指押後横ナ デ	指押後横ナ デ	口:如彫形、 口:如彫形、 内頭文:ヘラ1 +a		
2485	25	59 S D49	最下層	弥生土器 甕				灰・白・透・小~大 青・黄・赤系	灰・黃色(2.5 Y6/2)	灰・黃色(2.5 Y6/2)	指押後横ナ デ、板ナデ	指押後横ナ デ	口:如彫形、 内頭文:ヘラ2		
2486	25	S D49	最下層	弥生土器 甕				白・透・小~大 青・黄・赤系	褐色(5YR 7/6)	褐色(5YR 7/6)	摩滅	摩滅	口:如彫形、 内頭文:ヘラ2		
2487	25	59 S D49	最下層	弥生土器 甕				白・透・小・少 青・黄・赤系	灰・黃色(2.5 Y6/1)	灰・黃色(2.5 Y6/1)	摩滅	摩滅	口:如彫形、 内頭文:ヘラ2		
2488	25	S D49	最下層	弥生土器 甕				白・透・小~大 青・黄・赤系	灰・黃色(2.5 Y6/2)	灰・黃色(2.5 Y6/2)	摩滅	摩滅	口:如彫形、 内頭文:ヘラ3		
2489	25	59 S D49	最下層	弥生土器 甕				白・透・小~大 青・黄・赤系	灰・黃色(2.5 Y6/2)	灰・黃色(2.5 Y6/2)	摩滅	摩滅	口:如彫形、 内頭文:ヘラ3		
2490	25	59 S D49	最下層	弥生土器 甕				7.6 灰・白・透・小~大 青・黄・赤系	灰・黃色(2.5 Y6/2)	灰・黃色(2.5 Y6/2)	摩滅	摩滅	口:如彫形、 内頭文:ヘラ3		
2491	25	59 S D49	最下層	弥生土器 甕				(8.0) 多 青・黄・赤系	白・透・小~大 青・黄・赤系	にぶい黄褐色 (10YR7/ 3)	にぶい黄褐色 (10YR7/ 3)	摩滅、ヘラ 摩滅、指押 摩滅	摩滅、ヘラ 摩滅、指押 摩滅	口:如彫形、 内頭文:ヘラ4	
2492	25	60 S D49	最下層	弥生土器 甕				(7.8) 多 青・黄・赤系	白・透・小~大 青・黄・赤系	黑褐色(2.5 Y3/2)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	摩滅	摩滅	口:如彫形、 内頭文:ヘラ4	
2493	25	60 S D49	最下層	弥生土器 甕				(7.3) 多 青・黄・赤系	白・透・黒・透 青・黄・赤系	灰・黃色 (2.5Y5/2)	にぶい黄色 (2.5Y5/2)	摩滅	摩滅	口:如彫形、 内頭文:ヘラ4	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (6)

番号	博認回数	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	脚高 (cm)	胎 (cm)	土	色調(内面)	色調(外面)	外圓磨耗	内圓磨耗	残存 率	形態上の 特徴	備考
2494	25	60 S D49 最下層	弥生土器 甌		(6.0)	白・透、小~大、 非織紋系	灰色(5Y4/ 1)	にぶい青碧 色(10YR6/ 3)	にぶい青碧 色(2.5 Y7/2)	灰黃色(2.5 Y7/2)	磨滅	ナデ	1/3		
2495	25	60 S D49 最下層	弥生土器 甌		5.2	灰・透、小~大、 非織紋系	灰黃色(2.5 Y7/2)	灰黃色(2.5 Y7/2)	灰黃色(2.5 Y7/2)	磨滅	ナデ	完存		接合面で剥離	
2496	25	60 S D49 最下層	弥生土器 甌		6.2	白・透、小~大、 非織紋系	灰黃色(2.5 Y7/2)	灰黃色(2.5 Y7/2)	灰黃色(2.5 Y7/2)	磨滅	ナデ	完存		接合面で剥離	
2497	25	60 S D49 最下層	弥生土器 甌		(7.0)	白・灰黒・透、少 中、少、非織紋系	にぶい青色 (2.5Y6/3)	にぶい青色 (2.5Y6/3)	黄褐色(2.5 Y5/3)	板ナデ	板ナデ	1/4			
2498	25	60 S D49 最下層	弥生土器 甌		5.9	白・灰黒・透、少 中、多、非織紋系	浅黄色(2.5 Y7/3)	浅黄色(2.5 Y7/3)	灰黃色(2.5 Y7/3)	ナデ	ナデ	完存			
2499	25	60 S D49 最下層	弥生土器 甌		5.1	白・灰黒・透、少 中、多、非織紋系	浅黄色(2.5 Y7/3)	浅黄色(2.5 Y7/3)	浅黄色(2.5 Y7/3)	磨滅	ハケ	指ナデ	完存		
2500	25	60 S D49 最下層	弥生土器 甌		6.9	白・灰・透、少~大、 非織紋系	浅黄色(2.5 Y7/3)	浅黄色(2.5 Y7/3)	灰黃色(2.5 Y6/2)	ハケ	ナラ削り後	4/5		焼成後穿孔。 底面指印。蓋 の可能性あり	
2501	25	60 S D49 最下層	弥生土器 甌		7.1	灰・透、少~大、 非織紋系	灰白色(2.5 Y7/1)	灰白色(2.5 Y7/1)	灰黃色(2.5 Y6/2)	磨滅	ハケ	指ナデ	完存	焼成後穿孔。 孔、3~5 mm の安山岩	
2502	25	61 S D49 最下層	弥生土器 甌		(37.4)	白・透、小~大、 非織紋系	灰色(7.5Y 6/1)	灰黃色(2.5 Y6/2)	灰黃色(10 YR5/2)	磨滅	ヘラ	1/8		内面黒斑	
2503	25	61 S D49 最下層	弥生土器 甌		(33.4)	白・透、少~大、 非織紋系	にぶい青碧 色(10YR7/3)	にぶい青碧 色(2.5Y6/3)	灰黃色(10 YR5/2)	ナデ	指押、ナデ	1/8			
2504	25	61 S D49 最下層	弥生土器 甌		5.0	白・透、小~大、 非織紋系	灰黃色(10 YR5/2)	灰黃色(10 YR5/2)	灰黃色(10 YR5/2)	磨滅	指高	1/8		外面に焼物	
2505	25	61 S D49 最下層	弥生土器 甌		5.0	白・透、少~大、 非織紋系	灰黃色(10 YR6/3)	灰黃色(10 YR6/3)	灰白色(10Y R6/2)	磨滅	指押	小破 片			
2506	26	61 S D49 最下層	弥生土器 甌		6.0	つまみ灰・白・透、 少~大、非織紋系	黒色(2.5Y 2/1)	灰黃色(2.5 Y7/2)	灰黃色(2.5 Y7/2)	ハケ後ヘラ 磨き	ヘラ	完存			
2507	26	61 S D49 最下層	弥生土器 甌		6.5	つまみ白・灰・透、 少~大、非織紋系	灰黃色(2.5 Y6/2)	灰黃色(2.5 Y6/2)	灰黃色(2.5 Y6/2)	ハケ	指ナデ	完存		外面黒斑	
2508	26	61 S D49 最下層	弥生土器 甌		6.4	つまみ白・透、少~大、 非織紋系	灰黃色(2.5Y5/2)	灰黃色(2.5Y5/2)	灰黃色(2.5Y5/2)	指押、ナデ	指押	完存		外面黒斑	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (7)

番号	構図	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	焼存	形態上の 特徴	備考				
2509	26	S D49	最下層	弥生土器 壺	(20.5)			白・透・小~中 多・青磁系	黒褐色(2.5 Y3/1)	暗灰青色(2.5 D2.5 Y4/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	破片							
2510	26	S D49	最下層	弥生土器 壺				灰白色(2.5 Y7/1)	灰白色(2.5 Y7/1)	灰白色(2.5 Y7/1)	摩滅	摩滅	小破片							
2525	29	64	S D49	下層	弥生土器 壺	(16.8)		白・透・小~中 多・青磁系	白・透・小~大 多・青磁系	にぶい青色 (7.5 YR 7/3)	青色(2.5 Y7/3)	青色(5 YR 7/4)	青色(5 YR 7/4)	剥落	剥落	破片	縫隙: 俊			
2526	29	64	S D49	下層	弥生土器 壺			白・透・茶・透 多・非磁系	透青色(2.5 Y7/3)	透青色(2.5 Y7/3)	透青色(10 YR 5/3)	にぶい青色 (10 YR 5/3)	青色(10 YR 5/3)	青色(10 YR 5/3)	剥落	剥落	破片	縫隙: 俊 縫隙は部分的		
2527	29	64	S D49	下層	弥生土器 壺			白・透・茶・透 少・非磁系	透青色(2.5 Y6/6)	透青色(5 YR 6/6)	透青色(10 YR 7/3)	にぶい青色 (10 YR 7/3)	青色(10 YR 7/3)	青色(10 YR 7/3)	剥落	剥落	破片	縫隙: 俊 縫隙: 俊		
2528	29	64	S D49	下層	弥生土器 壺	(14.1)		灰・白・透・小~大 多・非磁系	灰白色(2.5 Y8/1)	灰白色(2.5 Y8/1)	青色(5 YR 6/4)	にぶい青色 (7.5 YR 6/4)	青色(7.5 YR 6/4)	剥落	剥落	剥落	1/3			
2529	29	64	S D49	下層	弥生土器 壺	(15.4)		白・透・小~大 多・非磁系	灰白色(2.5 Y8/2)	灰白色(2.5 Y8/2)	青色(2.5 Y8/2)	青色(2.5 Y8/2)	青色(2.5 Y8/2)	青色(2.5 Y8/2)	剥落	剥落	剥落	1/3		
2530	29		S D49	下層	弥生土器 壺			(10.3) 白・透・茶・透 大・多・非磁系	透青色(2.5 Y7/3)	透青色(10 YR 8/3)	透青色(10 YR 8/3)	透青色(10 YR 8/3)	透青色(10 YR 8/3)	摩滅	摩滅	摩滅	摩滅	摩滅	1/8	縫隙: 俊 縫隙: 俊
2531	29	65	S D49	下層	弥生土器 壺			(10.6) 白・透・小~大 多・透・色系	透青色(2.5 Y6/6)	透青色(2.5 Y6/6)	透青色(5 YR 7/3)	透青色(5 YR 7/3)	透青色(5 YR 7/3)	摩滅	摩滅	摩滅	摩滅	摩滅	1/2	
2532	29	65	S D49	下層	弥生土器 壺			(8.4) 白・透・黑・透 多・青磁系	透青色(2.5 Y4/1)	透青色(2.5 Y4/1)	透青色(2.5 Y7/3)	透青色(2.5 Y7/3)	透青色(2.5 Y7/3)	摩滅	摩滅	摩滅	摩滅	摩滅	1/2	
2533	29	65	S D49	下層	弥生土器 壺			8.6 白・透・黑・透 多・青磁系	透青色(2.5 Y6/2)	透青色(2.5 Y6/2)	透青色(10 YR 6/3)	透青色(10 YR 6/3)	透青色(10 YR 6/3)	摩滅	摩滅	摩滅	摩滅	摩滅	1/2	外面上に赤褐色 色付
2534	29	65	S D49	下層	弥生土器 壺			(6.0) 白・透・小~大 多・青磁系	透青色(2.5 Y7/3)	透青色(2.5 Y7/3)	透青色(5 YR 6/6)	透青色(5 YR 6/6)	透青色(5 YR 6/6)	摩滅	摩滅	摩滅	摩滅	摩滅	1/2	丹塗りか?
2535	29	65	S D49	下層	弥生土器 壺			(8.3) 白・透・黑・透 ~大・多・青磁系	透青色(2.5 Y5/2)	透青色(2.5 Y7/3)	透青色(2.5 Y7/3)	透青色(2.5 Y7/3)	透青色(2.5 Y7/3)	摩滅	摩滅	摩滅	摩滅	摩滅	1/2	
2536	29	65	S D49	下層	弥生土器 壺			(10.9) 白・透・小~大 多・透・色系	透青色(2.5 Y4/1)	透青色(2.5 Y4/1)	透青色(10 YR 6/4)	透青色(10 YR 6/4)	透青色(10 YR 6/4)	摩滅	摩滅	摩滅	摩滅	摩滅	1/4	縫隙: 上底
2537	29	65	S D49	下層	弥生土器 壺			(6.8) 白・透・黑・透 ~大・多・青磁系	透青色(2.5 Y6/4)	透青色(2.5 Y6/4)	透青色(10 YR 6/4)	透青色(10 YR 6/4)	透青色(10 YR 6/4)	摩滅	摩滅	摩滅	摩滅	摩滅	1/2	接合面で一部 剥離

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (8)

番号	地図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存 率	形態上の 特徴	備考
2538	29	65	S D49 下層	弥生土器 蓋	(3.4)	6.3	白・透 透色系 少	透 透色系 少	白・透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	はげ 底:上底	接合面で剥離	
2539	29	65	S D49 下層	弥生土器 ミニチュ ア版	(3.4)	(2.7)	白・透 透色系 少	透 透色系 少	にぶい黄 褐色(2.5 Y6/1)	透 透色(5Y R7/7)	透 透色(10Y R7/3)	透 透色(10Y R7/2)	1/2		
2540	30	65	S D49 下層	弥生土器 蓋	(23.8)		白・透 透色系 少	透 透色系 少	白・透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	1/2		
2541	30	65	S D49 下層	弥生土器 蓋	(23.8)		白・透 透色系 少	透 透色系 少	にぶい黄 褐色(5Y R6/6)	透 透色(5Y R8/4)	透 透色(7.5Y R8/4)	透 透色(7.5Y R8/4)	1/8	口:如意形, 文:ヘラ3	
2542	30	65	S D49 下層	弥生土器 蓋	(23.8)		白・透 透色系 少	透 透色系 少	白・透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	1/8	口:如意形, 文:ヘラ3	
2543	30	65	S D49 下層	弥生土器 蓋	(23.8)		白・透 透色系 少	透 透色系 少	白・透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	1/8	口:如意形, 文:ヘラ2	
2544	30	66	S D49 下層	弥生土器 蓋	(23.8)		白・透 透色系 少	透 透色系 少	白・透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	1/8	焼成前に底面 剥離	
2545	30	66	S D49 下層	弥生土器 蓋	(23.8)		白・透 透色系 少	透 透色系 少	白・透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	1/3		
2546	30	66	S D49 下層	弥生土器 蓋	(23.8)		白・透 透色系 少	透 透色系 少	白・透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	1/3		
2547	30	66	S D49 下層	弥生土器 蓋	(23.8)		白・透 透色系 少	透 透色系 少	白・透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	1/3		
2548	30		S D49 下層	弥生土器 蓋	(38.6)		白・透 透色系 少	透 透色系 少	白・透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	1/5	接合面で剥離	
2549	30		S D49 下層	弥生土器 蓋	(38.6)		白・透 透色系 少	透 透色系 少	白・透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	1/5		
2555	31	67	S D49 中~下 層	弥生土器 蓋	(38.6)		白・透 透色系 少	透 透色系 少	にぶい黄 褐色(10Y R7/2)	にぶい黄 褐色(7.5Y R6/4)	にぶい黄 褐色(10Y R7/2)	にぶい黄 褐色(7.5Y R6/4)	1/3		
2556	31	67	S D49 中~下 層	弥生土器 蓋	(15.4)		白・透 透色系 少	透 透色系 少	白・透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	1/6		
2557	31	67	S D49 中~下 層	弥生土器 蓋	(16.0)		白・透 透色系 少	透 透色系 少	白・透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	透 透色系 少	1/6	摩滅顯著	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (9)

番号	持団回版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 (cm)	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存 率	形態上の 特徴	備考
2558	31	67	S D49 中～下	弥生土器 壺	(13.2)			白・灰・透・小～大、 非漆系	ふしい黄色 (2.5Y6/3)	黄褐色(2.5 Y5/3)	剥落	剥落、ナメ	1/7	頭：ヘラ1	
2559	31	68	S D49 中～下	弥生土器 壺	(15.6)			白・透、小～大、 非漆系	透灰黄色 (2.5Y5/2)	ふしい黄色 (2.5Y6/3)			1/8	頭：ヘラ2 +α	
2560	31	67	S D49 中～下	弥生土器 壺	(15.8)			白・透、小～大、 非漆系	透灰白色 (2.5 Y7/1)	灰青色(2.5 Y7/2)	摩滅	摩滅	3/8	頭：ヘラ3 +α	内面黒斑
2561	31	68	S D49 中～下	弥生土器 壺	(19.6)			白・透・灰・小～大、 非漆系	透青色(2.5 Y7/2)	透青色(2.5 Y7/3)	摩滅	摩滅	1/4	頭：貼凸1 +指押削	
2562	31	68	S D49 中～下	弥生土器 壺	(13.8)			白・透、小～大、 非漆系	透青褐色(10 YR8/3)	明黄褐色(10 YR6/6)	剥落	剥落	1/8	頭：ヘラ1 +α	
2563	31	68	S D49 中～下	弥生土器 壺	(15.8)			白・透・透、小～大、 非漆系	にぶい青褐色 (10YR7/ 4)	にぶい青褐色 (10YR6/ 4)	摩滅	摩滅	1/8	頭：ヘラ1 +α	
2564	31	68	S D49 中～下	弥生土器 壺	(19.4)			白・透、小～大、 非漆系	にぶい青褐色 (10YR7/2)	透白色(2.5 Y8/2)	摩滅	摩滅	1/8		
2565	31	68	S D49 中～下	弥生土器 壺	(14.6)			白・透、小～大、 非漆系	透白色(2.5 Y7/2)	透白色(2.5 Y8/2)	摩滅	摩滅	1/8		
2566	31	68	S D49 中～下	弥生土器 壺				白・透、小～大、 非漆系	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	浅黄色(2.5 Y7/4)	摩滅	摩滅	1/8	頭：貼凸+ 目	
2567	31	68	S D49 中～下	弥生土器 壺				白・透、小～大、 非漆系	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	浅黄色(2.5 Y8/3)	摩滅	摩滅	1/8	頭：ヘラ2 +半裁竹管 剥突	
2568	31	68	S D49 中～下	弥生土器 壺				白・透、黑・小～中 非漆系	透黄色(2.5 Y7/3)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	摩滅	摩滅	1/8	頭：貼凸1	
2569	32	68	S D49 中～下	弥生土器 壺				白・透、透、小～大、 非漆系	黄褐色(2.5 Y6/1)	にぶい青褐色 (10YR7/ 2)	摩滅	摩滅	1/8	頭：ヘラ3	
2570	32	68	S D49 中～下	弥生土器 壺				白・透、透、大、 非漆系	にぶい青褐色 (10YR7/2)	透青褐色(10 YR8/3)	摩滅	剥落、指ナ	小破 片	頭：ヘラ2	
2571	32	S D49 中～下	弥生土器 壺				白・透、小～大、 非漆系	青灰色(2.5 Y4/1)	青灰色(2.5 Y4/1)	摩滅	摩滅	1/8	頭：ヘラ3		
2572	32	68	S D49 中～下	弥生土器 壺				白・透、小～大、 非漆系	にぶい青褐色 (10YR6/ 3)	にぶい青褐色 (10YR6/ 3)	摩滅	摩滅	1/8	頭：貼凸+	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (10)

番号	探査回数	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	底高 (cm)	胎 土	色調(内面)	色調(外面)	外面部調整	内面部調整	種存	形態上の特徴	備考	
2573	32	69	S D49 中～下	弥生土器 釜 & 罐			灰・白・透 小～大, 灰・非透 深系	灰白色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	磨滅	磨滅	小破 片	口頭：駿織 4	施文は細縞 内面赤色顔 料遺存	
2574	32	69	S D49 中～下	弥生土器 釜			白・透 小～大, 非透 深系	灰白色(2.5 Y 6/2)	にぶい黄褐色 (10 Y R 7/ 2)	磨滅	磨滅	小破 片	口頭：駿織 4	施文は細縞 内面赤色顔 料遺存	
2575	32	69	S D49 中～下	弥生土器 釜			白・透 大, 非透 深系	多	にぶい黄褐色 (10 Y R 7/ 2)	磨滅, ヘラ 磨き	ナダ	小破 片	磨滅	内面黒斑	
2576	32	69	S D49 中～下	弥生土器 釜			自・灰・黑・透, 多	浅黄色(2.5 Y 7/3)	にぶい黄褐色 (10 Y R 6/ 3)	磨滅	板ナダ後ヘ ラ磨き	小破 片	磨滅	外面部黒斑 内面黒斑	
2577	32	69	S D49 中～下	弥生土器 釜			灰・白・透 小～大, 白・非透 深系	灰白色(2.5 Y 7/3)	にぶい黄褐色 (10 Y R 7/ 3)	磨滅	ヘラ磨き	小破 片	磨滅	外面部黒斑 内面黒斑	
2578	32	69	S D49 中～下	弥生土器 釜		10.0	白・灰・透 大, 非透 深系	灰白色(2.5 Y 6/2)	にぶい黄褐色 (10 Y R 7/ 3)	磨滅	磨滅	剥落	完存	外面部黒斑 内面黒斑	
2579	32	69	S D49 中～下	弥生土器 釜		7.6	自・透 小～大, 非透 深系	灰白色(2.5 Y 6/1)	にぶい黄褐色 (10 Y R 7/ 3)	磨滅	磨滅	指押, 鹿誠	完存	外面部黒斑 内面黒斑	
2580	32	69	S D49 中～下	弥生土器 釜		9.4	白・灰・黑・透, 小 多・非透 深系	薄灰色(2.5 Y 4/1)	にぶい黄褐色 (10 Y R 6/ 3)	磨滅	ヘラ磨き	完存	接合面で剥離		
2581	32	69	S D49 中～下	弥生土器 釜		8.3	白・灰・透 小～大, 非透 深系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	にぶい黄褐色 (10 Y R 6/ 3)	板ナダ後ヘ ラ磨き	磨滅, ナデ	完存	外面部黒斑		
2582	32	69	S D49 中～下	弥生土器 釜		(9.8)	白・透 小～大, 非透 深系	糊灰色(10 Y R 4/1)	糊色(2.5 Y 6/6)	磨滅	板ナ ダ, 指押	指押	1/4	内面黒斑	
2583	32	69	S D49 中～下	弥生土器 釜		7.0	白・透 小～大, 非透 深系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	にぶい黄褐色 (10 Y R 6/ 3)	磨滅	ヘラ磨き	指押, ナデ	完存	接合面で剥離	
2584	32	S D49 中～下	弥生土器 釜		(8.6)	白・透 小～大, 非透 深系	浅黄色(2.5 Y 8/3)	にぶい橙色 (7.5 Y 7/4)	指押, 摩滅	指押, 摩滅	指押	1/2			
2585	32	S D49 中～下	弥生土器 釜		(7.6)	白・透 小～大, 非透 深系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	磨滅	磨滅	ヘラ 磨き	1/2	外面部黒斑		
2586	32	S D49 中～下	弥生土器 釜		(7.6)	白・透 小～大, 非透 深系	にぶい黄褐色 (10 Y R 7/3)	青灰色(2.5 Y 4/1)	磨滅	磨滅	指押	1/2			
2587	32	S D49 中～下	弥生土器 釜		(7.8)	白・透 小～大, 非透 深系	浅黃褐色(7.5 Y R 6/6)	橙色(5 Y R 6/6)	磨滅	磨滅	指押	1/4			
2588	32	S D49 中～下	弥生土器 釜		(9.1)	白・黑・透 小～大, 非透 深系	青灰色(2.5 Y 5/1)	にぶい黄褐色 (2.5 Y 6/3)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	指押	1/5			

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 [1]

番号	標図	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	外面調整	内面調整	異形	形態上の特徴	備考	
2559	32	69	S D49	中~下	弥生土器 壺		(8.0)	白・透・小~大、 非漆滅系	灰質褐色(10 YR 6/2)	灰質褐色(10 YR 6/2)	ナダ	3/8		外面黒墨、底 面はヘラ磨き		
2560	32	69	S D49	層	中~下	弥生土器 壺		7.5	白・透・小~大、 非漆滅系 (2.5Y 5/2)	灰質褐色(10 YR 6/2)	ヘラ磨き、 板ナダ	7/8				
2561	32	70	S D49	中~下	弥生土器 壺		(6.0)	白・透・小~大、 非漆滅系	灰 色(5Y 6/1)	淡黃褐色(10 YR 8/3)	板ナ ダ	3/8				
2562	32	70	S D49	中~下	弥生土器 壺		(8.3)	白・透・透・小~大、 非漆滅系	灰 色(10Y R 6/3)	淡黃褐色(10 YR 8/3)	板ナ ダ	1/4				
2563	32		S D49	層	中~下	弥生土器 壺		(6.4)	白・透・小~大、 非漆滅系	灰 色(10Y R 6/1)	にぶい黄褐色 (10Y R 5/4)	板ナ ダ	1/6		底面ヘラ磨き	
2564	33	70	S D49	中~下	弥生土器 壺	(17.4)			白・透・小~大、 非漆滅系	灰 色(10Y R 7/7)	にぶい黄褐色 (10Y R 7/7)	板ナ ダ	1/8	口:圓形、 側面:無文		
2565	33	70	S D49	中~下	弥生土器 壺	(28.8)		白・透・小~大、 非漆滅系	灰 色(10Y R 7/7)	灰白色(2.5 Y 8/2)	横ナ ダ	1/8	口:圓形、 側面:無文			
2566	33	70	S D49	中~下	弥生土器 壺	(22.4)		白・透・小~大、 非漆滅系	灰 色(10Y R 7/7)	灰白色(2.5 Y 7/2)	ヘラ磨き	1/8	口:圓形、 側面:無文			
2567	33	70	S D49	中~下	弥生土器 壺	(28.9)		白・透・透・大、 非漆滅系	灰 色(10Y R 7/7)	灰白色(2.5 Y 8/4)	横ナ ダ	1/8	口:圓形、 側面:無文			
2568	33	70	S D49	中~下	弥生土器 壺	(25.0)		白・透・透・小~大、 非漆滅系	灰 色(10Y R 7/7)	灰質褐色(10 YR 5/2)	横ナ ダ	1/8	口:圓形、 側面:無文			
2569	33	70	S D49	中~下	弥生土器 壺	(22.7)		白・透・透・小~大、 非漆滅系	灰 色(10Y R 6/6)	灰質褐色(10 YR 6/6)	横ナ ダ	1/4	口:圓形、 側面:無文			
2600	33	70	S D49	中~下	弥生土器 壺	(15.4)	13.7	(6.7)	白・透・中~大、 非漆滅系	橙 色(5Y R 6/6)	にぶい橙色 (7.5Y R 7/ 4)	横ナ ダ	1/4	口:山形突 起4個2対、 側面:無文	下唇と接合	
2601	33	70	S D49	中~下	弥生土器 壺				白・透・透・小~大、 非漆滅系	黄 色(2.5 Y 5/1)	黄 色(2.5 Y 4/1)	ナ ダ	小破 片	文:ヘラ3 +a	径は参考	
2602	33	70	S D49	中~下	弥生土器 壺				白・透・透・小~大、 非漆滅系	橙 色(5Y R 6/6)	橙 色(5Y R 6/6)	横ナ ダ	小破 片	口:如意形、 側面:無文		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器觀察表 (12)

番号	地図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	胎	色調(内面)	色調(外面)	外側調整	内面調整	残存 率	形態上の 特徴	備考
2603	33	70	S D49 中~下	弥生土器 壺				白・透・黒、小~中 多・透・青滅系	浅黃色(2.5 Y7/3)	浅黃色(2.5 R4/2)	黒滅、ナデ ナデ	ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ2	外面に炭化物
2604	33	70	S D49 中~下	弥生土器 壺				白・透・黒、小~大 多・透・青滅系	暗灰色(10 Y R4/5)	暗灰色(10 Y R5/2)	ヘラ磨き	ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ2	外面に炭化物
2605	33	70	S D49 中~下	弥生土器 壺				白・透・黒、小~大 多・透・青滅系	暗灰色(10 Y R6/4)	暗灰色(10 Y R5/2)	黒滅、ナデ	ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ4	口縁端部残存 不規
2606	33	70	S D49 中~下	弥生土器 壺				白・透・黒、小~大 少・透・青滅系	暗灰色(7.5 Y R4/2)	暗灰色(7.5 Y R4/2)	ヘラ磨き	ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ7	外面黒斑
2607	33	70	S D49 中~下	弥生土器 壺				白・透・黒、小~大 多・透・青滅系	暗灰色(2.5 Y 4/2)	暗灰色(2.5 Y 6/1)	黒ナデ	ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ3	外面黒斑
2608	33	71	S D49 中~下	弥生土器 壺				白・透・黒、小~大 多・透・青滅系	暗灰色(2.5 Y 4/1)	暗灰色(2.5 Y 5/3)	ヘラ磨き, ナデ	ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ4	外面黒斑
2609	33	71	S D49 中~下	弥生土器 壺				白・透・黒、小~大 多・透・青滅系	暗灰色(2.5 Y 4/2)	暗灰色(10 Y R6/4)	削削	ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ4	外面黒斑
2610	33	71	S D49 中~下	弥生土器 壺				白・透・黒、小~大 多・透・青滅系	明赤褐色(5 Y R5/6)	明赤褐色(5 Y 3/1)	黒滅、ナデ	ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ4	外面黒斑
2611	33	71	S D49 中~下	弥生土器 壺				白・透・黒、小~大 少・透・青滅系	暗灰色(2.5 Y 6/2)	暗灰色(2.5 Y 6/2)	黒滅、ナデ	ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ4	外面黒斑
2612	33	71	S D49 中~下	弥生土器 壺				白・透・黒、小~大 多・透・青滅系	暗灰色(5 Y R5/6)	暗灰色(5 Y 6/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/2	口:如意形, 文:ヘラ4	擦合面で剥離
2613	33	71	S D49 中~下	弥生土器 壺				白・透・黒、小~大 多・透・青滅系	明赤褐色(5 Y 6/2)	明赤褐色(5 Y 6/2)	黒滅、ナデ	ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ4	外面黒斑
2614	33	71	S D49 中~下	弥生土器 壺				白・透・黒、小~大 少・透・青滅系	暗灰色(2.5 Y 5/2)	暗灰色(2.5 Y 6/2)	ヘラ磨き	ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ4	外面黒斑
2615	33	71	S D49 中~下	弥生土器 壺				白・透・黒、小~大 多・透・青滅系	暗灰色(10 Y R7/3)	暗灰色(10 Y R7/2)	ヘラ磨き	ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ4	外面黒斑
2616	33	71	S D49 中~下	弥生土器 壺				白・透・黒、小~大 多・透・青滅系	暗灰色(10 Y R5/2)	暗灰色(10 Y R5/2)	黒ナ ナ	ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ4	外面黒斑
2617	34	71	S D49 中~下	弥生土器 壺				白・透・黒、小~大 多・透・青滅系	暗灰色(10 Y R6/3)	暗灰色(10 Y R6/3)	黒滅、ナデ	ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ4	外面黒斑

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (3)

番号	探査回数	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 (cm)	土	色調(内面)	色調(外面)	外表面調整	内面調整	縫合	形態上の特徴	備考
2618	34	71	S D49	中～下層	弦生土器 瓶		7.2	白・透・小～中・ 非縫合系	にぶい黄褐色 (10Y R 6/2)	にぶい黄褐色 (10Y R 7/7)	磨滅、ヘラ 磨き後指押	磨滅、指押	无缝		焼成後の穿孔 1.底面黒斑
2619	34	72	S D49	中～下層	弦生土器 瓶			白・透・小～大・ 多・非縫合系	にぶい黄褐色 (7.5 Y R 5/4)	にぶい黄褐色 (10Y R 6/4)	磨滅	磨滅	小縫 片	口：無文 文：如童形	
2620	34	72	S D49	中～下層	弦生土器 瓶			白・透・透・大・ 多・非縫合系	にぶい黄褐色 (10Y R 6/3)	にぶい黄褐色 (10Y R 7/4)	磨滅	磨滅	破片	文：削凸 ヘラ2	
2621	34	72	S D49	中～下層	弦生土器 鉢		(8.4)	灰・白・透・小～大・ 多・縫合系	灰黃色(2.5 Y 4/1)	灰黃色(2.5 Y 6/2)	磨滅	磨滅	ナテ	1/4	内面に擦痕、 柄部遺体付着
2622	34	72	S D49	中～下層	弦生土器 高杯			白・透・透・小～大・ 多・非縫合系	にぶい黄褐色 (10Y R 7/3)	にぶい黄褐色 (2.5 Y 6/2)	磨滅	磨滅	指押、磨滅	无缝	
2623	34	72	S D49	中～下層	弦生土器 蓋		5.0	白・黒・透・小～大・ 多・縫合系	灰黃色(2.5 Y 6/2)	にぶい黄褐色 (2.5 Y 6/3)	磨滅	磨滅	板ナ テ		
2624	34	72	S D49	中～下層	弦生土器 蓋		5.8	白・透・透・小～大・ 多・縫合系	白・自色(2.5 Y 7/1)	にぶい黄褐色 (10Y R 7/4)	磨滅	磨滅	指押された 光好		
2625	34	S D49	中～下層	弦生土器 蓋		(4.7)	白・透・小～大・ 少・縫合系	にぶい黄褐色 (10Y R 5/4)	板ナ テと ヘラ磨き	板ナ テと R 6/6	磨滅	磨滅	ナテ	1/2	
2626	37	S D49	上層	弦生土器 蓋		(11.2)		素・白・透・小～大・ 多・縫合系	透青褐色(10 Y R 8/2)	灰白色(10 Y R 8/2)	磨滅	磨滅	ナテ	1/8	
2627	37	S D49	上層	弦生土器 蓋		(14.2)		素・白・透・小～大・ 多・縫合系	にぶい黄褐色 (7.5 Y R 7/4)	透青褐色(10 Y R 8/4)	磨滅	磨滅	ナテ	1/7	
2628	37	S D49	上層	弦生土器 蓋		(15.6)		白・透・小～大・ 多・縫合系	褐色(10Y R 5/1)	にぶい黄褐色 (10Y R 7/2)	磨滅	磨滅	ナテ	1/8	
2629	37	S D49	上層	弦生土器 蓋		(14.6)		灰・白・透・小～大・ 多・縫合系	灰黃色(2.5 Y 6/2)	にぶい黄褐色 (2.5 Y 6/3)	磨滅	磨滅	ナテ、ヘラ 磨き	1/4	口輪内面に 白竹管2段、 口沿へツノ 彫刻、貼凸1
2630	37	S D49	上層	弦生土器 蓋		(13.8)		白・透・中～大・ 多・非縫合系	灰白色(2.5 Y 8/2)	淡黄色(2.5 Y 8/3)	磨滅	磨滅	口唇：削凸1 文：削凸1 + 刻突1	1/8	頭部剥離は断 続的

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (4)

番号	神園	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	脚高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調査	内面調査	焼存 率	形態上の 特徴	備考
2647	37	76	S D49 上層	弥生土器	(16.0)			多・透、小~大、 非漆系	にぶい黒色 (2.5Y6/3)	褐黄色(10 YR8/3)	摩滅、指押	指押後板ナ テ	5/8	頭:頭凸+ ヘラ4	経は参考
2648	37		S D49 上層	弥生土器	(13.2)			白・透、透、小~大、 非漆系	褐色(5YR 7/8)	褐色(5YR 7/8)	摩滅、指押	指片			
2649	37		S D49 上層	弥生土器				灰・透、透、小~大、 非漆系	灰白色(2.5 Y6/1)	灰白色(2.5 Y6/1)	摩滅、指押	小破 片	ナガ、ヘラ 1		
2650	37		S D49 上層	弥生土器				茶・白透、透、小~大、 非漆系	灰白色(2.5 Y6/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	摩滅、指押	指片	ナガ、ヘラ 1		
2651	37		S D49 上層	弥生土器				白・透、透、小~大、 非漆系	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	浅黄色(2.5 Y7/3)	摩滅、指押	指片	ナガ、ヘラ 2		
2652	37		S D49 上層	弥生土器				白・茶・透、透、小~大、 非漆系	褐色(5YR 6/6)	褐色(5YR 6/6)	摩滅、指押	指片	ナガ、ヘラ 3		
2653	37	76	S D49 上層	弥生土器				白・透、少、透、 非漆系	にぶい黄褐色 (10YR6/ 3)	にぶい黄褐色 (10YR6/ 3)	摩滅、指押	指片	ナガ、ヘラ 1		
2654	37	76	S D49 上層	弥生土器				白・透、透、小~大、 非漆系	灰褐色(5Y5/ 1)	にぶい黄褐色 (10YR6/ 3)	摩滅、指押	指片	ナガ、ヘラ 3		
2655	37		S D49 上層	弥生土器				白・透、大、多、 非漆系	灰白色(2.5 Y8/1)	灰白色(2.5 Y8/1)	摩滅、指押	指片	ナガ、ヘ ラ3		
2656	37	76	S D49 上層	弥生土器				白・透、茶・透、 非漆系	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	灰黄色(10 YR5/2)	摩滅、指押	指片	ナガ、ヘラ 2		
2657	37	76	S D49 上層	弥生土器				白・透、透、小~大、 非漆系	明褐色(2.5 Y6/1)	青灰色(2.5 Y6/1)	摩滅、指押	指片	ナガ、ヘラ 1		
2658	37	76	S D49 上層	弥生土器				白・透、透、小~中、 非漆系	灰黄色(2.5 Y8/2)	灰白色(2.5 Y8/2)	摩滅、指押	指片	ナガ、ヘラ 2		
2659	37	76	S D49 上層	弥生土器				白・透、透、小~大、 非漆系	灰褐色(5Y6/ 1)	浅真黄色(5Y6/ 6)	摩滅、指押	指片	ナガ、ヘラ 3		
2660	38		S D49 上層	弥生土器				(14.0) 白・透、透、 非漆系	暗灰黑色 (2.5Y5/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	摩滅、指押	指片	ナガ、ヘラ 3		
2661	38		S D49 上層	弥生土器				白・透、透、透、 非漆系	灰色(5Y5/ 1)	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	摩滅、指押	指片	ナガ、ヘラ 3		
2662	38		S D49 上層	弥生土器				白・透、透、透、 非漆系	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	摩滅、指押	指片	ナガ、ヘラ 3		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (5)

番号	検出箇所名	層位名	器種	口径(cm)	胎高(cm)	胎土	色調(内面)	外面調整	内面調整	異存事	形態上の特徴	備考
2663	38	S D49 上層	弥生土器 壺	(8.0)	白・透、小~中、 非漆滅系	胎(7.0)	褐灰色(10Y R5/2)	灰黃褐色(10Y R6/2)	ヘラ磨き	摩滅、指押	1/2	底面はヘラ磨 き
2664	38	S D49 上層	弥生土器 壺	(7.0)	多・白・透、小~大、 非漆滅系	胎(9.7)	褐灰色(10Y R5/2)	灰黃褐色(10Y R7/2)	ヘラ磨き	摩滅、ヘラ 磨き	1/4	底面はヘラ磨 き
2665	38	S D49 上層	弥生土器 壺	(7.6)	白・灰・黒・透、小 ~大、多・漆滅系	胎(9.7)	褐灰色(2.5 Y5/1)	灰黃褐色(2.5 Y5/1)	ヘラ磨き	摩滅、ヘラ 磨き	完存	接合面で剥離
2666	38	S D49 上層	弥生土器 壺	(7.6)	白・透、小~大、 非漆滅系	胎(5.7)	褐灰色(2.5 Y7/2)	灰黃褐色(5 Y5R6/4)	にぶい黄褐色 (10Y R 7/2)	摩滅	1/4	底面はヘラ磨 き
2667	38	S D49 上層	弥生土器 壺	(6.0)	白・灰・茶・小~大、 非漆滅系	胎(5.7)	褐灰色(2.5 Y5/1)	灰黃褐色(5 Y5/1)	にぶい黄褐色 (10Y R 7/3)	摩滅、ヘラ 磨き	1/2	底面はヘラ磨 き
2668	38	S D49 上層	弥生土器 壺	(8.0)	白・透、黑・小~大、 非漆滅系	胎(8.0)	灰黃褐色(2.5 Y7/3)	灰黃褐色(2.5 Y5R5/2)	にぶい黄褐色 (10Y R 6/2)	摩滅	1/2	接合面で剥離
2669	38	S D49 上層	弥生土器 壺	(6.0)	白・透、小~大、 非漆滅系	胎(6.0)	灰黃褐色(2.5 Y5/2)	灰黃褐色(2.5 Y5/2)	にぶい黄褐色 (10Y R 6/2)	摩滅、板ナ ダ	1/4	
2670	38	77 S D49 上層	弥生土器 壺	(8.8)	白・灰・透、小~大、 非漆滅系	胎(8.8)	灰黃褐色(2.5 Y6/2)	灰黃褐色(2.5 Y6/2)	にぶい黄褐色 (10Y R 6/2)	摩滅	1/4	
2671	38	S D49 上層	弥生土器 壺	(8.6)	灰・茶・白・透、小~ 大、多・非漆滅系	胎(8.3)	灰褐色(7.5 YR5/4)	浅黄褐色(10 YR8/3)	摩滅	板ナダ後ヘ ラ磨き	1/3	接合面で剥離
2672	38	77 S D49 上層	弥生土器 壺	(9.3)	白・灰・透、小~大、 非漆滅系	胎(9.3)	灰褐色(7.5 YR5/6)	灰褐色(7.5 YR5/6)	摩滅	板ナダ後ナ ダ	2/3	底面はヘラ磨 き後ナデ
2673	38	77 S D49 上層	弥生土器 壺	(6.2)	白・灰・透、小~大、 非漆滅系	胎(6.2)	灰褐色(7.5 YR6/3)	灰褐色(7.5 YR6/3)	摩滅	板ナダ後ナ ダ	1/3	
2674	38	S D49 上層	弥生土器 壺	(3.3)	茶・白・透、小~大、 非漆滅系	胎(3.3)	灰褐色(2.5 Y7/2)	灰褐色(2.5 Y6/1)	摩滅	摩滅	3/4	外面黒斑
2675	38	77 S D49 上層	弥生土器 壺	(21.4)	白・透、小~大、 非漆滅系	胎(21.4)	灰褐色(10Y R7/3)	灰褐色(10Y R7/6)	摩滅	板ナダ	完存	底面はヘラ磨 き
2676	38	77 S D49 上層	弥生土器 壺	(22.8)	白・透、小~大、 非漆滅系	胎(22.8)	灰褐色(10Y R6/4)	灰褐色(10Y R6/4)	摩滅	摩滅	1/8	口:如意形, 文:無文
2677	38	77 S D49 上層	弥生土器 壺						ハケ後ナダ	破片	口:逆二字 文:ヘラ?	口輪は折り曲 げ

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (6)

番号	地図区版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調査	内面調査	残存率	形態上の 特徴	備考	
2678	38 77	S D49	上層	弥生土器 甕				灰・白・透 色	小~大 多	褐色(2.5Y R6/6)	にぶい黄褐色 (10Y R6/ R4/1)	摩滅	摩滅	1/8	口:如彫形, 文:ヘラ3	
2679	38 77	S D49	上層	弥生土器 甕	(18.5)			白・透 多	小~大 多	褐色(2.5Y R4/1)	灰褐色(10Y R5/2)	板ナデ後へ ラ磨き	ナデ	破片	口:如彫形, 文:ヘラ2	
2680	38 77	S D49	上層	弥生土器 甕	(17.0)			白・透 多	小~大 多	褐色(2.5Y R4/1)	にぶい黄色 (7.5Y R6/ 4)	ナデ	小破 片	口:如彫形, 文:ヘラ2 +α	文:参考	
2681	38 78	S D49	上層	弥生土器 甕				白・透 多	小~大 多	褐色(2.5Y R8/2)	灰褐色(2.5Y R5/2)	摩滅	摩滅	小破 片	口:如彫形, 文:ヘラ2	
2682	38 78	S D49	上層	弥生土器 甕				白・透 多	小~大 多	褐色(2.5Y R3/3)	にぶい黄色 (10Y R6/ 3)	板ナデ後へ ラ磨き	摩滅	小破 片	口:如彫形, 文:全彫 文:ヘラ3 +α	
2683	38 78	S D49	上層	弥生土器 甕				白・透 多	小~大 多	褐色(2.5Y R4/1)	黄灰色(2.5 Y4/1)	板ナデ後へ ラ磨き	板ナデ	破片	口:如彫形, 文:ヘラ2	
2684	38 78	S D49	上層	弥生土器 甕				白・透 多	小~大 多	褐色(2.5Y R8/2)	灰白色(2.5 Y7/2)	摩滅	摩滅	小破 片	口:凸系, 文:黑	
2685	38 78	S D49	上層	弥生土器 甕				白・透 少	小~大 少	褐色(7.5 Y R4/1)	灰褐色(7.5 Y R4/2)	摩滅	摩滅	小破 片	口:凸系, 文:黑	
2686	39	S D49	上層	弥生土器 甕				7.2	灰・白・透 多	小~中 多	褐色(2.5 Y 6/1)	にぶい黄褐色 (10Y R6/ 3)	板ナデ後へ ラ磨き	ナデ	1/4	
2687	39	S D49	上層	弥生土器 甕				7.0	白・透 多	小~大 多	灰 (1)	黄灰色(2.5 Y 6/1)	摩滅	摩滅	完存	
2688	39	S D49	上層	弥生土器 甕				6.0	白・透 多	小~大 多	灰褐色(10 Y R6/2)	にぶい黄褐色 (10Y R6/ 3)	摩滅	摩滅	1/4	接合面で剥離
2689	39	S D49	上層	弥生土器 甕				(5.0)	白・透 多	小~大 多	褐色(10Y R4/1)	灰褐色(10Y R5/2)	板ナデ	指神	1/2	
2690	39	S D49	上層	弥生土器 甕				5.0	白・透 多	小~大 多	にぶい黄褐色 (10Y R5/ 3)	板ナデ	摩滅, 指ナ ア	完存	接合面で剥離	
2691	39 78	S D49	上層	弥生土器 甕				6.8	白・透 多	小~大 多	黄灰色(2.5 Y 5/1)	にぶい橙色 (7.5Y R6/4)	ナデ	完存	施部にモミ压 痕	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (1)

番号	種別	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調査	内面調査	残存 率	形態上の特徴	備考
2692	39	78	S D49 上層	弥生土器 甌			(7.5)	白・黒・透 黄灰系	小~大、 黄灰系	灰青褐色(2.5 Y5/1)	灰青褐色(10 YR5/2)	摩滅、ハケ 削除	ナデ	1/3		黄の可能性あり
2693	39	78	S D49 上層	弥生土器 甌			5.5	白・透、小~大、 黄灰系	黄灰系	灰青褐色(2.5 Y5/1)	灰青褐色(10 YR4/1)	摩滅	摩滅	完存		
2694	39	78	S D49 上層	弥生土器 甌			(5.0)	白・透、小~大、 黄灰系	黄灰系	黄褐色(5YR 6/6)	黄褐色(5YR 7/4)	摩滅	摩滅	1/3		
2695	39	78	S D49 上層	弥生土器 甌			(7.0)	白・透、小~大、 黄灰系	黄灰系	灰青褐色(2.5 Y6/2)	灰青褐色(10YR 6/3)	板ナデ、摩 滅	板ナデ	1/3		底面は削離か
2696	39		S D49 上層	弥生土器 甌			(8.2)	茶・白・透、小~大、 黄灰系	黄灰系	黄褐色(7.5Y 6/1)	黄褐色(10YR 7/3)	摩滅	摩滅	1/4		
2697	39		S D49 上層	弥生土器 甌			(7.4)	白・透、小~大、 黄灰系	黄灰系	黄褐色(5YR 6/2)	黄褐色(10YR 7/6)	摩滅	摩滅	1/3		焼成後の穿孔?
2698	39		S D49 上層	弥生土器 鉢				白・透、小~中、 黄灰系	黄灰系	黄褐色(7.5 YR6/3)	黄褐色(10YR 7/3)	板ナデ、摩滅	板ナデ	1/8		
2699	39		S D49 上層	弥生土器 鉢				白・透、小~大、 黄灰系	黄灰系	黄褐色(7.5 YR8/2)	黄褐色(2.5 YR8/2)	摩滅	摩滅	1/8		
2700	39		S D49 上層	弥生土器 鉢			(9.6)	白・透、小~中、多 量黄灰系	黄灰系	黄褐色(2.5 Y6/1)	黄褐色(2.5 Y6/1)	ヘラ削き、 摩滅	摩滅	1/8		網文系
2701	39		S D49 上層	弥生土器 甌			(7.8)	つまみ・白・黒・透、小 黄灰系	黄灰系	黄褐色(2.5 Y7/3)	黄褐色(2.5 Y7/3)	板ナデ後ナ デ	摩滅	1/6		
2702	39		S D49 上層	弥生土器 甌			(5.3)	つまみ・白・透、小~大、 黄灰系	黄灰系	黄褐色(10YR 7/3)	黄褐色(10YR 7/3)	板ナデ後ナ デ	板ナデ後ナ デ	1/3		
2703	39		S D49 上層	弥生土器 甌			(7.3)	つまみ・白・透、小~大、 黄灰系	黄灰系	黄褐色(5YR 6/1)	黄褐色(5YR 7/2)	摩滅、ヘラ 削き	ナデ	完存		
2704	39		S D49 上層	弥生土器 甌				白・透、小~大、 黄灰系	黄灰系	黄褐色(2.5 Y6/2)	黄褐色(10YR 7/3)	ヘラ削き、 ナデ	ヘラ削き、 ナデ	1/8		着口縁の可能 性もある

龍川五条Ⅱ遺跡 土器觀察表 (18)

番号	構造	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	鉢高 (cm)	胎 (cm)	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	焼付 率	形態上の 特徴	備考
2721	43	82	S D49 不明	弥生土器 蓋	自・透、小~大、 多、非漆系	17.0	3.0	白・透、小~中、 多、漆系	[に]ぶい黄褐色 (10YR7/4)	[に]ぶい黄褐色 (10YR7/4)	摩擦	摩擦	1/6	頭: 12, 底: 12,	頭部段は不明 瞭
2722	43	81	S D49 不明	弥生土器 蓋	白・透、黒、小~中、 多、漆系	14.8	2.5	白・透、小~大、 多、非漆系	[に]ぶい黄褐色 (10YR6/3)	[に]ぶい黄褐色 (10YR6/3)	指押後ヘラ 磨き	指押後ヘラ 磨き	2/3	頭: 12, 底: 12	胸径: 23.5cm 頭頂: 23.5cm
2723	43	81	S D49 不明	弥生土器 蓋	白・透灰、小~大、 多、非漆系	11.6	2.5	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ハケ後ヘラ 磨き	指ナデ後ヘ ハケ後ヘラ磨 き	1/2	頭: 前凸 + 頭幅: 2列 + 底: 3列	図上復元、S R04下層より 同一個体複数 出土	
2724	43	82	S D49 不明	弥生土器 蓋	灰・白・透、小~大、 多、漆系	13.0	2.5	灰・白・透、小~大、 多、漆系	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	摩擦	摩擦	1/8	頭: 12	頭: 12
2725	43	82	S D49 不明	弥生土器 蓋	白・透、小~大、 多、非漆系	16.4	2.5	白・透、小~大、 多、漆系	[に]ぶい黄褐色 (2.5Y6/3)	[に]ぶい黄褐色 (2.5Y6/3)	指ナデ後ヘ ハ磨き	指ナデ後ヘ ハ磨き	1/4	頭: 12	外腹黒斑
2726	43		S D49 不明	弥生土器 蓋	白・透、小~大、 多、漆系	14.0	2.5	白・透、小~大、 多、漆系	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	頭: 12	全體母地、徑 は参考
2727	43	82	S D49 不明	弥生土器 蓋	白・黒・透、小~大、 多、漆系	11.8	2.5	白・黒・透、小~大、 多、漆系	[に]ぶい黄褐色 (2.5Y6/3)	[に]ぶい黄褐色 (2.5Y6/3)	指ナデ後ヘ ハ磨き	指ナデ後ヘ ハ磨き	1/6	頭: 12	頭: 12
2728	43		S D49 不明	弥生土器 蓋	白・透、黒、小~中、 少、漆系	16.2	2.5	白・透、小~大、 多、漆系	[に]ぶい黄褐色 (10YR7/3)	[に]ぶい黄褐色 (10YR7/3)	指押、ナデ 磨き	ナデ、磨滅	1/8	頭: 無文	
2729	43		S D49 不明	弥生土器 蓋	白・透、小~大、 多、漆系	11.8	2.5	白・透、小~大、 多、漆系	灰白色(2.5 Y7/3)	灰白色(2.5 Y7/3)	摩擦	摩擦	1/8		
2730	43	82	S D49 不明	弥生土器 蓋	白・透、小~大、 多、漆系(漆質)	10.5	2.5	白・透、小~大、 多、漆系(漆質)	[に]ぶい黄褐色 (10YR7/2)	[に]ぶい黄褐色 (10YR7/2)	摩擦	摩擦	1/8	頭: 12	細長い安山岩 歩行含む
2731	43	82	S D49 不明	弥生土器 蓋	白・黒、小~中、 多、漆系	11.0	2.5	白・黒、小~中、 多、漆系	灰白色(7.5 YR8/4)	灰白色(7.5 YR8/4)	指押、摩擦	摩擦、磨滅	1/8	頭: 12	径は参考
2732	43		S D49 不明	弥生土器 蓋	白・透、小~大、 多、漆系	10.5	2.5	白・透、小~大、 多、漆系	浅黄色(2.5 Y7/3)	浅黄色(2.5 Y7/3)	摩擦	摩擦	1/8	頭: 12	径は参考
2733	44	82	S D49 不明	弥生土器 蓋	白・透、黒、小、 多、漆系	10.5	2.5	白・透、黒、小、 多、漆系	浅黄色(2.5 Y7/3)	浅黄色(2.5 Y7/3)	板ナデ	板ナデ	1/8	頭: 12	内面絞り目
2734	44	82	S D49 不明	弥生土器 蓋	白・透、茶、透、 多、漆系	10.5	2.5	白・透、茶、透、 多、漆系	[に]ぶい黄褐色 (10YR7/3)	[に]ぶい黄褐色 (10YR7/3)	磨滅、ヘラ 磨き	磨滅、ヘラ 磨き	1/8	頭: 前凸 + ヘラ2	
2735	44	82	S D49 不明	弥生土器 蓋	白・透、黒、小~中、 多、漆系	10.5	2.5	白・透、黒、小~中、 多、漆系	浅黄色(10 YR8/4)	浅黄色(10 YR8/4)	板ナデ、ナ 磨片	板ナデ、ナ 磨片	1/8	頭: 12	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器觀察表 (19)

番号	撲因箇所	遺物名	部位名	器種	口径 (cm)	高 (cm)	底径 (cm)	胎 土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	焼存 率	形態上の 特徴	備考
2736 44	S D49 不明	弥生土器						白・灰・透・小~大 多・非透底系	灰黃色(2.5 Y7/2)	灰黃色(2.5 Y5/1)	ハケ後ヘラ 磨き	指ナデ	小破 片	網:ヘラ3	外側黒斑
2737 44	S D49 不明	弥生土器			(8.0)			白・透・小~大 多・非透底系	灰黃色(2.5 Y7/2)	灰黃色(2.5 Y7/3)	ハフ磨き, 磨き	ナデ, ヘラ	1/2		外側黒斑
2738 44	S D49 不明	弥生土器			(8.0)			白・透・小~大 多・非透底系	灰黃色(2.5 Y6/1)	灰黃色(2.5 Y6/1)	磨滅	剥落	完存		内面は接合面 で剥離か
2739 44	S D49 不明	弥生土器			7.3			白・灰・透・小 多・透・小	灰黃色(2.5 Y7/3)	灰黃色(2.5 Y7/3)	ハケ後ヘラ 磨き	指ナデ	2/3		外側黒斑
2740 44	S D49 不明	弥生土器			7.7			白・透・小~大 多・非透底系	灰黃色(2.5 Y7/4)	灰黃色(2.5 Y4/1)	ハラ磨き	ナデ	完存		外側黒斑
2741 44	S D49 不明	弥生土器			(5.5)			白・透・小~大 多・非透底系	にぶい黄 色(7.5YR 7/4)	にぶい黄 色(7.5YR 7/4)	ハラ磨き	指ナデ	完存		
2742 44	S D49 不明	弥生土器			11.3			白・灰・透・小~大 多・透・小	にぶい黄 色(10YR 6/3)	にぶい黄 色(10YR 6/3)	板ナデ後ハ 磨き	板ナデ後ハ 磨き	完存		内面に黒斑 接合面で剥離
2743 44	S D49 不明	弥生土器			8.8			白・透・小~大 多・透・小	灰黃色(2.5 Y4/1)	灰黃色(2.5 Y7/3)	ハラ磨き	指ナデ	完存		
2744 44	S D49 不明	弥生土器			(9.0)			白・透・小 多・透・小	にぶい黄 色(10YR 7/2)	にぶい黄 色(10YR 7/3)	板ナデ後ナ ダ	板ナデ後ナ ダ	1/6		
2745 44	S D49 不明	弥生土器			(24.5)			白・透・小~大 多・非透底系	褐褐色(10 YR4/1)	黑褐色(10 YR3/1)	ハラ磨き	ナデ	1/8	口:如彫形, 文:ヘラ2	外側黒斑 +削欠
2746 44	S D49 不明	弥生土器			(24.8)			白・透・小~中 少・非透底系	褐褐色(10 YR4/1)	にぶい黄 色(10YR 6/3)	指ナデ後焼	板ナデ	1/8	口:如彫形, 文:下端	
2747 44	S D49 不明	弥生土器						白・透・小~中 多・非透底系	にぶい黄 色(10YR 6/3)	にぶい黄 色(10YR 6/3)	板ナデ後焼	板ナデ	1/8	口:如彫形, 文:ヘラ3	
2748 44	S D49 不明	弥生土器						白・透・小~中 少・非透底系	灰黃褐色 (10YR 6/2)	灰黃褐色 (10YR 6/2)	指押, 板ナデ	ナデ	1/8	口:如彫形, 文:ヘラ2	外側黒斑 +削欠
2749 44	S D49 不明	弥生土器						白・透・大・多 非透底系(裏) 多	にぶい黄 色(10YR 7/3)	にぶい黄 色(7.5YR 7/3)	摩滅	ナデ	破片	口:如彫形, 文:ヘラ3	金縫母微
2750 44	S D49 不明	弥生土器						白・透・小~大 多・透底系	にぶい黄 色(10YR 6/3)	灰黃褐色 (10YR 6/2)	摩滅	破片	口:如彫形, 文:ヘラ2		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (2)

番号	地図	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2751	44	S D49 不明	弦生土器 甕			灰・白・透・小~大 2.5 Y 7/3	浅灰黄色(2.5 2.5 Y 7/2)			にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	灰黄色(2.5 2.5 Y 4/2)	板ナデ	摩滅	破片	文:ヘラ3	内面黒斑
2752	44	S D49 不明	弦生土器 甕			白・灰・透・小~大 2.5 Y 6/3	少	多	少	灰黄色(2.5 2.5 Y 6/3)	にぶい黄色 (2.5 Y 4/2)	ハナ	ナデ	1/8	口:如意形, 口縁端部遺存 不規	口縁端部遺存 不規
2753	44	S D49 不明	弦生土器 甕		7.2	白・透・小~大 2.5 Y 6/2)	灰黄色系(黄 質)	灰黄色(2.5 2.5 Y 8/3)	深灰黄色 (2.5 2.5 Y 8/2)	灰黄色(2.5 2.5 Y 7/3)	ハケ後板ナ デ	ナデ	完存			金雲母微 光
2754	44	S D49 不明	弦生土器 甕		(8.0)	白・透・小~大 2.5 Y 3/1)	黑褐色(2.5 2.5 Y 3/1)	脚	脚	灰黄色(2.5 2.5 Y 5/2)	板ナデ後ナ デ	ナデ	後ナデ後ナ デ	1/8	内面に炭化 物	内面に炭化 物
2755	45	S D49 不明	弦生土器 甕		(5.6)	白・透・小~大 2.5 Y 6/2)	灰黄色(2.5 2.5 Y 6/2)	脚	脚	灰黄色(2.5 2.5 Y 4/2)	ハラ磨き,	摩滅	3/8		内面黒斑	内面黒斑
2756	45	S D49 不明	弦生土器 甕		7.2	白・透・黑・小~中 2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 2.5 Y 6/3)	脚	脚	灰黄色(2.5 2.5 Y 6/2)	板ナデ後ナ デ	ナデ	指揮, 完存		底面はヘラ削 り	
2757	45	S D49 不明	弦生土器 甕		(9.2)	白・透・小~大 2.5 Y 10/6)	灰黄色(2.5 2.5 Y 4/1)	脚	脚	灰黄色(2.5 2.5 Y 6/2)	指揮, 摩滅	摩滅	1/2			
2758	45	S D49 不明	弦生土器 甕		5.6	灰・白・透・小~大 2.5 Y 7/6)	褐色(2.5 2.5 Y 6/6)	脚	脚	褐色(2.5 2.5 Y 6/6)	板ナデ後ナ デ	ナデ	摩滅	3/4		
2759	45	S D49 不明	弦生土器 甕	(47.4)		白・透・小~大 2.5 Y 6/6)	褐色(2.5 2.5 Y 6/6)	脚	脚	褐色(2.5 2.5 Y 6/6)	板ナデ後ナ デ	ナデ	摩滅	1/8	口:逆L字 形, 削, 摩 滅	口:如意形, 口縁端部遺存 不規 + 直弧文
2760	45	S D49 不明	弦生土器 甕			白・透・小~大 2.5 Y 5/1)	灰色(5Y 5/ 5Y 6/1)	脚	脚	灰色(5Y 5/ 5Y 6/1)	ハラ磨き	摩滅	摩滅	1/8		
2761	45	S D49 不明	弦生土器 甕			白・透・小~大 2.5 Y 6/3)	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	脚	脚	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	ハラ磨き	ハラ磨き	ハラ磨き	1/4		
2762	45	S D49 不明	弦生土器 甕		(8.9)	白・透・小~大 2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 2.5 Y 7/2)	脚	脚	灰黄色(2.5 2.5 Y 4/1)	摩滅	ナデ		7/8		
2763	45	S D49 不明	弦生土器 甕			白・透・小~大 2.5 Y 6/1)	灰黄色(2.5 2.5 Y 6/1)	脚	脚	灰黄色(2.5 2.5 Y 4/1)	ハラ磨き,	ナデ	摩滅	1/8		
2764	45	S D49 不明	弦生土器 甕?			白・透・小~大 2.5 Y 7/2)	にぶい褐色 (2.5 Y 7/2)	脚	脚	にぶい褐色 (2.5 Y 7/2)	指揮後ナ デ	摩滅	摩滅	1/8	文:點凸+	器種不明

(2) 龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (2)

番号	地図	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	色調(外面)	外因調整	残存 率	形態上の 特徴	備考
2792	50	S D50	最下層	弥生土器 釜	4.0	白・透 透、小~中、 多	灰白色(2.5 Y6/2)	にぶい黒褐色 (10 YR 7/2)	7/8	内面黒斑	
2793	51	86	S D50	最下層	弥生土器 釜	(21.6)	白・透 透、黑、小~ 大、多	黄灰色(2.5 Y4/1)	板ナデ、擦 痕	1/8	口部は堅城 断面
2794	51	86	S D50	最下層	弥生土器 釜	(20.4)	白・透 透、黑、小~ 大、多	黑褐色(10 Y5/2)	ハケ	1/8	口部は堅城 断面
2795	51	86	S D50	最下層	弥生土器 釜		白・透 透、小~大、 多	暗灰褐色(2.5 Y4/2)	板ナデ、擦 痕	1/8	口部は堅城 断面
2796	51	86	S D50	最下層	弥生土器 釜		白・透 透、黑、小~ 大、少	暗灰褐色(2.5 Y3/2)	剥落	1/8	外面部化物 口部は刺突、 文: ヘラ8
2797	51	S D50	最下層	弥生土器 釜		白・透 透、小~大、 多	暗灰褐色(2.5 Y6/2)	ヘラ跡き	1/8	口部は刺突、 文: ヘラ3	
2798	51	S D50	最下層	弥生土器 釜		白・透 透、小~大、 少	暗灰褐色(2.5 Y6/2)	指押、摩滅	1/8	口部は刺突、 文: ヘラ7	
2799	51	S D50	最下層	弥生土器 釜	(7.4)	白・透 透、小~大、 多	橙色(2.5 R6/6)	摩滅、ハゲ、 指押後ナデ	1/4		
2800	51	S D50	最下層	弥生土器 釜	6.8	白・透 透、小~大、 多	灰白色(2.5 Y6/2)	板ナデ、指 押後板ナデ	1/4		
2801	51	S D50	最下層	弥生土器 釜	(6.6)	白・透 透、小~中、 多	黄褐色(2.5 Y6/1)	ハケ、ナデ	1/4		
2802	51	S D50	最下層	弥生土器 釜	(4.0)	白・透 透、小~大、 多	にぶい褐色 (5 YR 7/4)	摩滅	1/4		
2811	53	S D50	下層	弥生土器 釜	7.0	白・透 透、黑、少、 多	にぶい黄褐色 (10 YR 7/6)	指押、ナデ	1/4	接合面で剥離	
2812	53	S D50	下層	弥生土器 釜	4.8	白・透 透、小~大、 多	灰褐色(2.5 Y7/2)	板ナデ後ハ ラ跡き	7/8		
2813	53	87	S D50	下層	(16.1)	白・透 透、非整流系	褐色(10 Y R6/1)	摩滅、ヘラ 跡き	1/8	口部: ヘラ 1 金雲母微	
2814	53	S D50	下層	弥生土器 釜	(14.3)	白・透 透、大、 多	灰白色(10 Y R8/2)	にぶい褐色 (2.5 YR 6/3)	摩滅	1/8	頭: 前凸+ ヘラ1+a
2815	53	87	S D50	下層	(15.4)	白・透 透、小~大、 多	灰褐色(5 YS R5/2)	摩滅	1/8	赤色斑点多	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器調査表 (2)

番号	神園園版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 (cm)	土	色調(内部)	色調(外面)	外面調整	残存 事	形態上の 特	備考
2814	53	S D50	下層	弥生土器				白・灰・透・小~大 多・非漆無系	透青褐色(7.5 YR 8.4)	にぶい黄色 (7.5 YR 7.4)	摩滅	破片	頭: ヘラ 1 +α	
2815	53	87	S D50	下層	弥生土器			白・透・小~大 少・非漆無系 (2.5 Y 6.3)	透黄色(2.5 Y 7.3)	ヘラ磨き、 摩滅	破片	頭: ヘラ 2		
2816	53	S D50	下層	弥生土器				白・透・小~大、 少・非漆無系	透青褐色(10 YR 8.3)	透青褐色(10 YR 8.3)	摩滅	小破 片		
2817	53	87	S D50	下層	弥生土器			白・透・小~大、 少・非漆無系	透青褐色(10 YR 6.2)	にぶい黄褐色 (10 YR 6.3)	摩滅	小破 片		摩滅調査
2818	53	87	S D50	下層	弥生土器			白・透・小~大、 少・非漆無系	透白色(2.5 Y 7.7)	透白色(2.5 Y 7.7)	摩滅	破片	頭: ヘラ 2	
2819	53	87	S D50	下層	弥生土器			白・透・小~大、 少・非漆無系	透白色(2.5 Y 5.1)	透白色(2.5 Y 4.1)	摩滅	破片	頭: ヘラ 3 +α	
2820	53	87	S D50	下層	弥生土器			白・透・小~大、 少・非漆無系	透白色(10 Y R 6.3)	にぶい黄褐色 (10 YR 6.4)	摩滅、ヘラ 磨き	指ナデ	2/3 頭: 指凸 +α	最下層と接合 ヘラ 3
2821	53	87	S D50	下層	弥生土器			白・透・小~大、 少・非漆無系	透灰色(10 Y R 5.1)	にぶい黄色 (7.5 YR 7.4)	摩滅	指押、摩滅	1/3 頭: 指凸 1 赤色液較多	
2822	53	88	S D50	下層	弥生土器			白・透・小~大、 少・非漆無系	透白色(2.5 Y 5.1)	透白色(2.5 Y 4.1)	摩滅	1/8 頭: 摩滅状 文 + 鋼 11 単位		
2823	53	88	S D50	下層	弥生土器			白・透・小~大、 少・非漆無系	透灰色 (2.5 Y 5.2)	灰色(5 Y 4.1)	摩滅	1/8 頭: 指凸 3 + 刃目 摩滅調査		
2824	53	S D50	下層	弥生土器				白・透・小~大、 少・非漆無系	にぶい黄色 (2.5 Y 6.3)	にぶい黄色 (10 Y R 6.3)	ハケ 摩滅、ナデ	小破 片	頭: 刃 + α	
2825	53	88	S D50	下層	弥生土器			白・透・墨・小~中、 少・非漆無系	透白色(2.5 Y 7.2)	にぶい黄色 (10 Y R 6.3)	摩滅	指押、摩滅	1/8 頭: 削凸 + 竹管削突	
2826	53	88	S D50	下層	弥生土器			白・透・墨・小~中、 少・非漆無系	透白色(2.5 Y 8.2)	透青褐色(10 YR 8.3)	摩滅、ヘラ 磨き	ナデ	頭片 + α	外西黒塗
2827	53	88	S D50	下層	弥生土器			白・透・墨・小~大、 少・非漆無系	透青色(2.5 Y 7.2)	透青色(2.5 Y 7.3)	摩滅	小破 片	頭: ヘラ 1 + α	
2828	53	S D50	下層	弥生土器				白・透・墨・小~中、 少・非漆無系	透青色(2.5 Y 6.2)	透青色(2.5 Y 7.3)	板ナデ、摩 滅	1/6 頭: 山形 文 + α + α	頭: ヘラ 1 + α	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (2)

番号	押出圧版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	施	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	残存 率	形態上の 特徴	備考
2829	53	88	S D50 下層	弥生土器				白・透、小~大、 多、非織維系	にぶい黃色 (2.5Y 6/3)	にぶい黃色 (10Y R6/3)	ヘラ磨き	指ナデ	小破 片	開: ヘラ2 +α	
2830	53	88	S D50 下層	弥生土器				白・透、小~大、 少、非織維系	にぶい黃色 (10Y R6/3)	灰色(5Y 4/ 4)	ヘラ磨き	指ナデ	小破 片	開: ヘラ3 +α	外面黒斑
2831	53	88	S D50 下層	弥生土器				白・透、黒、小~大、 多、非織維系	にぶい黒色 (7.5Y R7/4)	にぶい黒色 (5Y R6/4)	ヘラ磨き	指ナデ	1/8	開: ヘラ2 +α、竹刷突	
2832	53	88	S D50 下層	弥生土器				白・透、黒、小~大、 多、非織維系	灰压色(2.5 Y 6/1)	灰压色(2.5 Y 7/2)	ヘラ磨き、 壓滅	板ナデ後へ 搬片	1/8	開: ヘラ2 +α、竹刷突	
2833	54	88	S D50 下層	弥生土器				白・透、黒、小~大、 多、非織維系	にぶい黒色 (2.5Y 6/3)	黄褐色(2.5 Y 5/3)	ヘラ磨き、 壓滅、ナデ	板ナデ後指 押	1/4	開: ヘラ6 +α	
2834	54	88	S D50 下層	弥生土器				白・透、小~大、 少、非織維系	灰白色(2.5 Y 7/1)	灰压色(2.5 Y 6/1)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	小破 片	開: ヘラ8 +α	外面黒斑
2835	54	88	S D50 下層	弥生土器				白・透、小~中、 多、非織維系	灰白色(5Y 7/1)	灰白色(5Y 7/1)	ヘラ磨き	板ナデ	小破 片	開: ヘラ3 +α	
2836	54	88	S D50 下層	弥生土器				白・透、小~大、 少、非織維系	透黄色(2.5 Y 6/3)	橙色(2.5Y R 6/6)	壓滅、指押	1/8	開: ヘラ3 +α	内面黒斑	
2837	54	88	S D50 下層	弥生土器				白・透、小~中、 多、非織維系	灰压色(2.5 Y 6/1)	灰压色(2.5 Y 5/1)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	小破 片	開: ヘラ4 +α	外面に焼物
2838	54	88	S D30 下層	弥生土器				白・透、小~中、 多、非織維系	灰白色(2.5 Y 6/1)	灰白色(2.5 Y 6/1)	壓滅	板ナデ	小破 片	開: ヘラ3 +α	赤色斑紋多
2839	54	88	S D30 下層	弥生土器				白・透、小~大、 少、非織維系	にぶい黒色 (10Y R6/ 3)	にぶい黒色 (10Y R6/ 3)	壓滅	板ナデ	小破 片	開: ヘラ1 +α	凸凹貼付部に ヘラ化
2840	54	88	S D30 下層	弥生土器				白・透、小~大、 少、非織維系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	壓滅、ヘラ 磨き	板ナデ	1/8		
2841	54	88	S D30 下層	弥生土器				白・透、小~大、 少、非織維系	灰压色(2.5 Y R4/1)	灰压色(2.5 Y R4/1)	壓滅	板ナデ	1/2		
2842	54	88	S D30 下層	弥生土器				白・透、小~大、 多、非織維系	灰压色(2.5 Y 5/1)	灰压色(2.5 Y 5/1)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/4		
2843	54	88	S D30 下層	弥生土器				白・透、小~大、 少、非織維系	灰压色(2.5 Y 4/1)	灰压色(2.5 Y 5Y 5/2)	板ナデ後へ 板ナデ	板ナデ	1/2		内面黒斑
2844	54	88	S D30 下層	弥生土器				白・透、小~大、 少、非織維系	にぶい黄褐 (10Y R6/ 3)	にぶい黄褐 (10Y R6/ 3)	板ナデ	板ナデ	1/8		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 [2]

番号	探査区	遺跡名	層位名	器種	口径(cm)	器高(cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存事	形態上の特徴	備考
2845	54	S D50	下層	弥生土器 釜		(8.8)	白・灰・黒・透・多・繊維系	灰青褐色(10YR 5/2)	にぶい褐色(10YR 5/4)	摩滅	ナデ	1/3		
2846	54	S D50	下層	弥生土器 釜		(5.8)	白・透・小~大、 非繊維系	透灰色(5YR 5/1)	にぶい赤褐色 (10R 6/3)	摩滅		1/4	外面黒斑	
2847	54	S D50	下層	弥生土器 釜		(7.0)	白・透・小~大、 非繊維系	透灰色(10YR 6/1)	にぶい黄色 (2.5Y 6/1)	摩滅	ナデ	1/2	外面黒斑	
2848	54	S D50	下層	弥生土器 釜		(7.6)	白・透・小~中、 非繊維系	透青褐色(10YR 5/2)	透青褐色(2.5Y 6/2)	摩滅	ナデ	1/2	外面黒斑	
2849	54	S D50	下層	弥生土器 釜		(7.0)	白・透・小~中、 非繊維系	透青褐色(10YR 7/3)	にぶい青褐色 (10YR 7/2)	摩滅	ナデ	1/2	外面黒斑	
2850	54	S D50	下層	弥生土器 釜		(7.2)	白・透・小~大、 多・非繊維系	透青褐色(10YR 6/3)	透青褐色(2.5Y 7/3)	摩滅	ヘラ磨き	1/2	外面黒斑	
2851	54	S D50	下層	弥生土器 釜		(6.4)	灰・白・透・小~大、 多・非繊維系	浅黄色(2.5Y 7/3)	浅黄色(2.5Y 6/1)	摩滅	板ナデ	7/8	底面はナデ	
2852	54	S D50	下層	弥生土器 釜		(7.1)	白・透・小~大、 非繊維系	黑褐色(2.5Y 3/1)	にぶい青褐色 (10YR 5/4)	摩滅	板ナデ		内面黒斑	
2853	54	S D50	下層	弥生土器 釜		(4.6)	白・透・小~大、 非繊維系	灰黄色(2.5Y 7/2)	浅黄色(2.5Y 7/3)	摩滅	板ナデ後 板ナデ	完存	内面黒斑、底 面はナデ	
2854	55	89	S D50	下層	弥生土器 釜	(26.1)	白・透・小~大、 多・非繊維系	透褐色(7.5YR 6/4)	にぶい褐色 (10YR 7/2)	摩滅	板ナデ	1/6	口:加彫形、 斜文:虎、 虎文:虎	
2855	55	89	S D50	下層	弥生土器 釜	(21.2)	白・透・茶・透・小~ 大、多・繊維系	浅黄色(2.5Y 7/3)	透黄色(2.5Y 7/3)	摩滅		1/9	口:加彫形、 斜文:虎、 虎文:虎	
2856	55	89	S D50	下層	弥生土器 釜	(12.8)	白・透・黑・透・小~中、 多・繊維系	褐色(10YR 5/1)	透青褐色(10YR 5/2)	摩滅	指押	1/6	口:加彫形、 斜文:虎、 虎文:虎	
2857	55	89	S D50	下層	弥生土器 釜	(23.6)	白・透・小~大、 多・非繊維系	青灰色(2.5Y 5/1)	透青褐色(2.5Y 6/2)	摩滅	ナデ	1/8	口唇部の剥落 は部分的	
2858	55	89	S D50	下層	弥生土器 釜		白・透・小~大、 非繊維系	暗灰青色 (2.5Y 4/2)	暗灰青色 (2.5Y 4/2)	摩片	口:逆L字 形、ヘラ?	参考		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (26)

番号	地図	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	縦高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外觀調整	内面調整	残存 率	形態上の 特徴	備考
2859	55	89	S D50 下層	弥生土器 甕				白・透・非漆系 多	白・大 Y 6/2	灰黃色(2.5 Y 6/2)	灰黃色(2.5 Y 6/2)	ナデ	ヘラ磨き	破片	口：逆L字 文：ヘラ 9 +α	僅は参考
2860	55	89	S D50 下層	弥生土器 甕				白・透・非漆系 多	白・小～中 Y 6/2	灰黃色(2.5 Y 6/2)	暗灰黃色 (2.5 Y 4/2)	ナデ	1/8	口：逆L字 文：ヘラ 6 +α	台面は複合面 で削離	
2861	55	89	S D50 下層	弥生土器 甕		(19.6)		白・透・非漆系 多	白・透・小～大 Y 6/2	灰黃色(2.5 Y 6/2)	にぶい褐色 (7.5 YR 5/3)	ナデ、ヘラ 磨き	1/8	口：逆L字 文：無文 +α	口：如意形、 文：無文	
2862	55	89	S D50 下層	弥生土器 甕		(15.8)		白・透・非漆系 多	白・透・小～大 Y 6/2	にぶい黃褐色 (10 YR 6/ 3)	にぶい黃褐色 (10 YR 6/ 3)	ヘラ磨き	1/8	口：如意形、 文：無文	桂は参考、28 61と同一個体 の可能性あり	
2863	55	89	S D50 下層	弥生土器 甕				白・透・小～大 多	白・透・大 Y 4/1	暗灰黃色 (2.5 Y 5/2)	暗黃色 (2.5 Y 4/ 1)	ナデ	1/8	口：如意形、 文：無文	口：如意形、 文：無文	
2864	55		S D50 下層	弥生土器 甕				白・透・大 少	白・透・大 Y 4/1	暗褐色 (2.5 Y 4/ 1)	暗褐色 (2.5 Y R 6/6)	板ナデ	小破 片	口：如意形、 文：無文 +α	口：如意形、 文：無文	
2865	55		S D50 下層	弥生土器 甕				白・透・小～中 多	白・透・小～中 Y 7/1	灰白色(2.5 Y 7/1)	灰白色(2.5 Y 7/1)	ナデ	小破 片	口：如意形、 文：無文 +α	口：如意形、 文：無文	
2866	55	89	S D50 下層	弥生土器 甕				白・透・小～大 多	白・透・大 Y 7/1	にぶい黃褐色 (10 Y R 7/ 3)	明褐色 (10 Y R 7/ 2)	漏落	破片	口：如意形、 文：無文 +α	ヘラ剥突	
2867	55	89	S D50 下層	弥生土器 甕				白・透・多 非漆系	黑色(NZ)	黑色(NZ)	指押、漆滅	破片	口：如意形、 文：無文 +α	口：如意形、 文：無文		
2868	55	89	S D50 下層	弥生土器 甕				白・透・黑、 少 非漆系	白・透・黑、 少 非漆系 Y 4/1	浅黃色(2.5 Y 7/3)	ナデ、漆滅	指押、板ナ デ	1/8	口：如意形、 文：無文 +α	口：如意形、 文：無文	
2869	55	89	S D50 下層	弥生土器 甕				白・透・大 多 非漆系	白・透・大 Y 6/3	にぶい黃褐色 (2.5 Y 6/3)	ナデ、漆滅	ヘラ磨き	小破 片	口：如意形、 文：無文 +α	口：如意形、 文：無文	
2870	55	89	S D50 下層	弥生土器 甕				白・透・大 多 非漆系	白・透・大 Y 6/3	にぶい黃褐色 (2.5 Y 6/3)	ナデ、漆滅	ヘラ磨き	小破 片	口：如意形、 文：無文 +α	口：如意形、 文：無文	
2871	55	89	S D50 下層	弥生土器 甕				白・透・少 非漆系	白・透・少 Y 4/1	にぶい黃褐色 (10 Y R 5/ 4)	ナデ、漆 滅	ナデ	小破 片	口：如意形、 文：無文	口：如意形、 文：無文	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (2)

番号	種別	遺跡名	層位名	器 横 (cm)	器 高 (cm)	底径 (cm)	胎	色調(内面)	色調(外面)	外而調整	内面調整	残存 率	形態上の 特徴	備 考
2872	55	89	S D50 下層	弥生土器 甌			茶・白・透・小~大、 多・非透・系系	にぶい黄褐色 (10YR6/3) 3)	にぶい黄褐色 (2.5YR6/3)	摩滅	ナデ	小破 片	口: 透 L 字 形: 無文	
2873	55	89	S D50 下層	弥生土器 甌			白・透・小~大、 多・非透・系系	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 2)	にぶい褐色 (7.5YR5/ 4)	摩滅	板ナデ	小破 片	口: 透 L 字 形: 無文	横流は4条1 單位
2874	55	89	S D50 下層	弥生土器 甌			白・透・小~大、 少・非透・系系	暗灰褐色 (10YR6/2) 2)	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	摩滅	板ナデ	破片	文: ヘラ 4 +α	
2875	55	89	S D50 下層	弥生土器 甌			白・透・小~大、 多・非透・系系	暗灰褐色 (10YR6/4) 4)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	摩滅	板ナデ	破片	文: ヘラ 6 +α	
2876	55	89	S D50 下層	弥生土器 甌			白・透・小~大、 少・非透・系系	暗灰褐色 (10YR5/3) 3)	黒褐色(2.5 Y3/1)	摩滅	ヘラ	破片	文: ヘラ 5 +α	外面に炭化物
2877	55	89	S D50 下層	弥生土器 甌			白・透・小~大、 多・非透・系系	透黄色(2.5 Y7/3)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	摩滅	板ナデ	破片	文: ヘラ 3	
2878	55		S D50 下層	弥生土器 甌			白・透・小~大、 多・非透・系系	(17.0) 少・ 透黄色(7.5YR5/4) 4)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	摩滅	板ナデ	破片	文: ヘラ 3	
2879	55		S D50 下層	弥生土器 甌			白・透・小~大、 多・非透・系系	(8.0) 多・ 透白色(7.5Y/ 2)	黄灰色(2.5 Y4/1)	摩滅	板ナデ	破片	文: ヘラ 3	
2880	55		S D50 下層	弥生土器 甌			白・透・小~大、 多・非透・系系	(7.8) 多・ 透白色(7.5Y/ 2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	摩滅	板ナデ	破片	文: ヘラ 3	
2881	55		S D50 下層	弥生土器 甌			白・透・小~大、 多・非透・系系	6.8 多・ 透白色(7.5Y/ 2)	浅黄色(2.5 Y7/3)	摩滅	板ナデ	指押	完存	
2882	56		S D50 下層	弥生土器 甌			白・透・小~大、 多・非透・系系	(7.4) 多・ 透白色(7.5Y/ 2)	灰白色(5Y 7/1)	にぶい黄褐色 (10YR6/ 3)	摩滅	板ナデ	指押	ナデ
2883	56		S D50 下層	弥生土器 甌			白・透・小~中、 少・非透・系系	(8.0) 少・ 透白色(7.5Y/ 2)	にぶい黄褐色 (10YR7/ 2)	摩滅	板ナデ	指押	ナデ	1/6
2884	56		S D50 下層	弥生土器 甌			白・透・小~大、 少・非透・系系	7.7 少・ 透白色(7.5Y/ 2)	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	摩滅	板ナデ	指ナデ	完存	外而黒斑
2885	56		S D50 下層	弥生土器 甌			白・透・黑・小、 少・非透・系系	(5.7) 白・透・ 少・非透・系系	暗灰黄色 (2.5Y5/2) 2)	摩滅	板ナデ	指ナデ	後	1/3
2886	56		S D50 下層	弥生土器 甌			白・透・小~大、 多・非透・系系	(6.8) 多・ 透白色(2.5 Y3/1)	黒褐色(2.5 Y3/1)	摩滅	指押	1/6		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (2)

番号	種別	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	盤高 (cm)	底径 (cm)	土	色調(内面)	色調(外面)	外周調整	内面調整	残存 率	形態上の 特徴	備考	
2887	56	S D50	下層	弥生土器 甕	(6.5)	白・灰・透 透・非透 透・非透 透系	小~大	明赤褐色(5 YR 5/6)	暗灰・黃色 (2.5 Y 4/2)	摩滅、ハケ にぶい黄褐色 (7.5 Y R 5/ 4)	指ナデ	1/4				
2888	56	S D50	下層	弥生土器 甕	(7.2)	白・灰・透 透・非透 透系	小~大	明赤褐色(5 YR 5/6)	暗灰・黃色 (2.5 Y 4/2)	摩滅、ハケ にぶい黄褐色 (7.5 Y R 5/ 3)	剥落	1/4				
2889	56	S D50	下層	弥生土器 甕	(6.0)	灰・白・透 透・非透 透系	小~中	暗灰・黃色 (2.5 Y 5/2)	暗灰・黃色 (2.5 Y 5/2)	摩滅、ハケ にぶい黄褐色 (7.5 Y R 5/ 4)	板ナデ	1/4			内面に炭化物	
2890	56	S D50	下層	弥生土器 甕	(5.6)	白・透 透・非透 透系	小~大	灰・黃色 (Y 6/2)	灰・黃色 (2.5 Y R 4/2)	摩滅、ハケ にぶい黄褐色 (7.5 Y R 6/ 3)	板ナデ	1/3				
2891	56	S D50	下層	弥生土器 甕	(12.1)	白・透 透・非透 透系	小~大	橙色(7.5 Y R 6/6)	暗灰・黃色 (10 Y R 6/ 3)	摩滅、板ナ デ	摩滅、ナデ	1/3			底面は接合面 で剥離	
2892	56	S D50	下層	弥生土器 甕	(8.7)	白・透 透・非透 透系	小~大	透・黃色 (Y 7/3)	透・黃色(2.5 Y 6/2)	透・黃色(10 Y R 6/3)	摩滅、板ナ デ	1/4				
2893	56	S D50	下層	弥生土器 甕	(6.6)	白・透 透・非透 透系	小~大	黑褐色(2.5 Y 3/3)	灰白色(2.5 Y 8/2)	摩滅、板ナ デ	摩滅	1/4			内面黒斑	
2894	56	S D50	下層	弥生土器 甕	(7.5)	白・透 透・非透 透系	小~大	透・黃色 (Y 7/3)	透・黃色(2.5 Y 6/2)	透・黃色(10 Y R 6/2)	剥落、摩滅 にぶい黄褐色 (7.5 Y R 7/4)	剥落、摩滅 にぶい黄褐色 (7.5 Y R 8/ 3)	1/4			
2895	56	S D50	下層	弥生土器 甕	(5.5)	白・透 透・非透 透系	小~大	透・黃色 (Y 7/3)	透・黃色(2.5 Y 6/2)	透・黃色(10 Y R 6/2)	剥落、摩滅 にぶい黄褐色 (7.5 Y R 7/4)	剥落、指押 ナデ	1/4			
2896	56	S D50	下層	弥生土器 甕	(5.0)	茶・白・透 透・非透 透系	小~大	灰 色(5 Y 5/ 3)	にぶい黄褐色 (7.5 Y R 5/ 3)	にぶい黄褐色 (7.5 Y R 8/ 3)	ヘラ磨き	1/4				
2897	56	90	S D50	下層	弥生土器 甕	(41.2)	白・透 透・非透 透系	小~大	透・黃色 (2.5 Y 5/2)	透・黃色 (2.5 Y 5/2)	透・黃色 (2.5 Y 5/2)	ヘラ磨き 指ナデ後ナ デ	完存			底面穿孔追上 接合面で剥離
2898	56	90	S D50	下層	弥生土器 甕		自・透 透・非透 透系	小~大	にぶい黄褐色 (7.5 Y R 8/ 3)	浅黄・橙色 (7.5 Y R 8/ 6)	指押、ナデ 摩滅	1/8	口・逆L字 形、無文		最下層と接合 凸帯貼付前	
2899	56	S D50	下層	弥生土器 甕	(27.6)	白・透 透・非透 透系	小~大	多 透・非透 透系	透・黃色(5 Y R 6/8)	透・黃色(2.5 Y R 8/3)	摩滅	1/8	口・彫像形、 文: ヘラ3 不良		縁溝部保存	
2900	56	90	S D50	下層	弥生土器 甕	(23.4)	灰・白・透 透・非透 透系	小~大	灰白色(10 Y R 8/2)	浅黄・橙色 (10 Y R 8/3)	摩滅	破片	S D49最下層 ラ3	S D49最下層 と接合		
2901	56	90	S D50	下層	弥生土器 甕	(19.4)	茶・白・透 透・非透 透系	小~大	透・黃色(2.5 Y 6/2)	黑褐色(10 Y R 2/1)	摩滅、ナデ ヘラ磨き	1/8	口・彫像形、 文: ヘラ3		内面黒斑	

荒川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (2)

番号	博園図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	施	土	色調(内面)	色調(外面)	外表面調査	内面調査	残存 率	形態上の 特	形態上の 特	備考
2902	56	90	S D50 下層	弦生土器 鉢	(22.4)		白・灰・透・非漆系 少	白・灰・透・小~大・ 少	にぶい黄褐色 (10YR 5/ 4)	灰黄褐色(10 YR 5/2)	ハラ磨き、 擦滅	ハラ磨き後ヘラ 磨片	口:如意形、 刃文:無文	口:如意形、 刃文:無文	径は参考	
2903	56	90	S D50 下層	弦生土器 鉢	(19.4)		白・灰・透・非漆系 少	白・灰・透・小~大・ 少	速黄色(2.5 Y7/3)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ハケ	ナデ	破片	口:如意形、 刃文:無文	口:如意形、 刃文:無文	径は参考
2904	57	90	S D50 下層	弦生土器 鉢	(12.5)		白・灰・透・非漆系 少	白・灰・透・小~大・ 少	にぶい黄褐色 色(10YR 6/ 3)	にぶい黄褐色 色(10YR 6/ 4)	擦滅ナデ、板	ハケ後ナデ	破片	口:速L字 形、文:無 文	口:速L字 形、文:無 文	径は参考
2905	57	90	S D50 下層	弦生土器 鉢			灰茶・白・透・小 地中、多・非漆系 系	灰黄褐色(10 YR 6/2)	にぶい黄褐色 色(10YR 6/ 3)	灰黄褐色(10 YR 6/4)	擦滅	擦滅	小破 片	口:如意形、 刃文:ヘラ2	口:如意形、 刃文:ヘラ2	接合面で剥離
2906	57	90	S D50 下層	弦生土器 鉢			白・透・非漆系 少	白・透・小~大・ 少	にぶい黄褐色 色(10YR 6/ 4)	にぶい黄褐色 色(10YR 6/ 4)	擦滅	指押	小破 片	口:如意形、 刃文:ヘラ2	口:如意形、 刃文:ヘラ2	接合面で剥離
2907	57	91	S D50 下層	弦生土器 高杯			(8.2) 多・ 非漆系	白・透・小~大・ 少	赤褐色(10R 5/4)	赤褐色(10R 5/4)	擦滅	擦滅	1/6			
2908	57	91	S D50 下層	弦生土器 變蓋			つまみ 透5.1 多・ 非漆系	白・透・小~大・ 少	褪灰色(10Y 2.5Y 6/3) R4/1)	褪灰色(10Y 2.5Y 6/3) R4/1)	指ナデ、ヘ ラ磨き	ナデ	完存			外周黒斑
2909	57	91	S D50 下層	弦生土器 變蓋			つまみ 透5.8 多・ 非漆系	白・透・小~中・ 透2/1)	黒 色(2.5Y 2/1)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ヘラ磨き	板ナデ後ナ デ	7/8			天井部へラ磨 き、赤色 料?
2910	57	91	S D50 下層	弦生土器 變蓋			継 29.2 多・ 非漆系	白・透・小~大・ 少	浅黄褐色 (7.5Y R 6/ 6)	にぶい黄褐色 (7.5Y R 5/ 3)	ヘラ磨き	指押、摩滅	1/8			径は参考
2911	57	91	S D50 下層	弦生土器 變蓋	(29.2)		継 29.5 多・ 非漆系	白・透・小~大・ 少	灰白色(5Y 7/1)	灰白色(5Y 7/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8			内面黒斑、径 は参考
2912	57	91	S D50 下層	粘土器 粘土車	(5.7)	最大厚 6.5	白・透・小~大・ 少	にぶい黄褐色 色(10YR 6/ 3)	にぶい黄褐色 色(10YR 6/ 4)	擦滅	ナデ	3/7			摩擦痕	
2943	62	95	S D50 上層	弦生土器 蓋			白・透・小~中・ 多・非漆系	にぶい黄褐色 色(10YR 6/ 3)	にぶい黄褐色 色(10YR 6/ 3)	擦滅	指押	1/4	頭:ヘラ3、 肩:ヘラ3	頭:ヘラ3、 肩:ヘラ3	頭部の段は不 明瞭	
2944	62	95	S D50 上層	弦生土器 蓋			白・透・小~大・ 多・非漆系	にぶい黄褐色 色(2.5Y 6/3) R4/4)	にぶい黄褐色 色(2.5Y 6/3) R4/4)	ヘラ磨き	ナデ	破片	頭:ヘラ3 +α	頭:ヘラ3 +α		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器類表 (3)

番号	持國國版	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調(内面)	色調(外面)	外側調整	内面調整	残存 小破 片	形態上の 特徴	備考
2945	62	S D50 上層	弦生土器 釜		(8.2)	白・透・ 多・非 鉢底系	小~中	灰黃色(2.5 Y7/2)	にぶい 褐色 (7.5 YR5/ 4)	ヘラ磨き	板ナデ		頭脚・鋸歯 形: 段+ヘ タ3+a	底面黒斑
2946	62	S D50 上層	弦生土器 釜		(7.4)	白・透・ 多・非 鉢底系	小~大	灰黃色(2.5 Y7/3)	にぶい 褐色 (7.5 YR6/ 3)	ヘラ磨き	板ナデ	1/5		底面黒斑
2947	62	S D50 上層	弦生土器 釜		(6.6)	白・透・ 多・非 鉢底系	小~中	灰黃色(2.5 Y6/2)	にぶい 褐色 (7.5 YR6/ 3)	ヘラ磨き	板ナデ	1/8		
2948	62	S D50 上層	弦生土器 釜		(6.4)	白・透・ 多・非 鉢底系	小~大	灰黃色(2.5 Y6/2)	にぶい 褐色 (10 YR6/ 3)	ヘラ磨き	板ナデ	1/2		
2949	62	S D50 上層	弦生土器 釜		(6.4)	白・透・ 多・非 鉢底系	小~大	灰黃色(2.5 Y6/2)	にぶい 褐色 (10 YR6/ 3)	ヘラ磨き	板ナデ	1/4		
2950	62	S D50 上層	弦生土器 釜		(6.0)	白・透・ 多・非 鉢底系	小~大	灰黃色(2.5 Y6/2)	にぶい 褐色 (7.5 YR6/4)	ヘラ磨き	板ナデ	1/8	口: 逆L字 形: ヘラ13	凸唇點付前 に赤色調斜 材
2951	62	S D50 上層	弦生土器 釜		(6.0)	白・透・ 多・非 鉢底系	小~大	灰黃色(2.4 Y4/1)	にぶい 褐色 (7.5 YR6/4)	ヘラ磨き	板ナデ	1/8	口: 逆L字 形: ヘラ7	凸唇點付前 に赤色調斜 材
2952	62	S D50 上層	弦生土器 釜		(6.0)	白・透・ 多・非 鉢底系	小~大	灰黃色(2.5 Y4/1)	にぶい 褐色 (10 YR6/ 3)	ヘラ磨き	指押, ナデ	1/4		
2953	62	S D50 上層	弦生土器 釜		(6.0)	白・透・ 多・非 鉢底系	小~大	灰黃色(2.5 Y6/1)	にぶい 褐色 (10 YR7/ 4)	ヘラ磨き	指押, ナデ	1/8		底面は剥落か
2954	62	S D50 上層	弦生土器 釜		(7.2)	白・透・ 多・非 鉢底系	小~大	灰黃色(2.5 Y6/2)	にぶい 褐色 (7.5 YR7/ 4)	ヘラ磨き	指押, ナデ	1/4		
2955	63	S D50 不明	弦生土器 釜		(12.8)	白・透・ 多・非 鉢底系	小~大	灰黃色(2.5 Y6/2)	にぶい 褐色 (7.5 YR7/ 4)	ヘラ磨き	板ナデ	1/8		
2956	63	S D50 不明	弦生土器 釜			白・透・ 少・非 鉢底系	小~大	耐候黃色 (2.5 Y5/2)	耐候黃色 (2.5 Y3/1)	ヘラ磨き	板ナデ	1/8	頭脚: 凸+ 形: ヘラ3	
2957	63	S D50 不明	弦生土器 釜			白・透・ 多・非 鉢底系	小~大	耐候黃色 (2.5 Y7/2)	耐候黃色 (2.5 Y7/2)	ヘラ磨き	指押後板ナ デ	1/6	頭: 凸+ 形: ヘラ3	
2958	63	S D50 不明	弦生土器 釜			白・透・ 多・非 鉢底系	小~中	耐候黃色 (7.5 YR5/1)	耐候黃色 (7.5 YR5/ 4)	ヘラ磨き	板ナデ, 指 押	1/8	頭: ヘラ2 赤色斑粒多	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (3)

番号	特徴	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面部姿	内部調整	焼付 事	形態上の 微	備考
2959	63	95	S D50 不明	弦生土器				白・透・非鉛釉系	少	浅黄色(2.5 Y7/3)	にぶい黄色 (2.5 Y6/3)	ヘラ磨き後	摩滅	小破 片	黒	ヘラ 3 竹管刺突 +刺突 2
2960	63	95	S D50 不明	弦生土器				非鉛釉系	少	浅黄色(2.5 Y7/3)	にぶい黄色 (2.5 Y6/3)	ヘラ磨き、 ナデ磨き	摩滅	1/8	黒	黒 内面黒斑 凸脊部剥離者
2961	63	95	S D50 不明	弦生土器				非鉛釉系	少	浅黄色(10 Y6/3)	にぶい黄色 (10 Y6/3)	摩滅、ヘラ 磨き	摩滅	1/2	黒	黒 外面黒斑
2962	63		S D50 不明	弦生土器				非鉛釉系	少	浅黄色(12.5 Y7/3)	にぶい黄色 (12.5 Y6/3)	ヘラ磨き	摩滅	3/4	黒	黒 底面黒斑
2963	63	95	S D50 不明	弦生土器				非鉛釉系	少	浅黄色(12.5 Y7/3)	にぶい黄色 (12.5 Y6/3)	ヘラ磨き、 ナデ磨き	摩滅	3/4	黒	黒 底面黒斑
2964	63		S D50 不明	弦生土器				非鉛釉系	少	浅黄色(12.5 Y7/3)	にぶい黄色 (12.5 Y6/3)	ヘラ磨き、 ナデ磨き	摩滅	1/4	黒	黒 外側黒斑
2965	63		S D50 不明	弦生土器				非鉛釉系	少	浅黄色(12.5 Y7/3)	にぶい黄色 (12.5 Y6/3)	ヘラ磨き、 ナデ磨き	摩滅	1/4	黒	黒 外側黒斑
2966	63		S D50 不明	弦生土器				非鉛釉系	少	浅黄色(12.5 Y7/3)	にぶい黄色 (12.5 Y6/3)	ヘラ磨き、 ナデ磨き	摩滅	1/6	黒	黒 内面黒斑
2967	63		S D50 不明	弦生土器				非鉛釉系	少	浅黄色(12.5 Y7/3)	にぶい黄色 (12.5 Y6/3)	ヘラ磨き、 ナデ磨き	摩滅	1/4	黒	黒 内面黒斑 内面は擦離か で剥離か
2968	63		S D50 不明	弦生土器				非鉛釉系	少	浅黄色(12.5 Y7/3)	にぶい黄色 (12.5 Y6/3)	ヘラ磨き、 ナデ磨き	摩滅	1/3	黒	黒 内面黒斑
2969	63		S D50 不明	弦生土器				非鉛釉系	少	浅黄色(10 Y6/2)	にぶい黄色 (10 Y6/2)	ヘラ磨き、 ナデ磨き	摩滅	1/4	黒	黒 内面黒斑
2970	63		S D50 不明	弦生土器				非鉛釉系	少	浅黄色(2.5 Y7/3)	にぶい黄色 (2.5 Y6/2)	ヘラ磨き、 ナデ磨き	摩滅	1/2	黒	黒 内面黒斑
2971	63		S D50 不明	弦生土器				非鉛釉系	少	浅黄色(10 Y6/2)	にぶい黄色 (10 Y6/2)	ヘラ磨き、 ナデ磨き	摩滅	1/2	黒	黒 内面黒斑
2972	63		S D50 不明	弦生土器				非鉛釉系	少	浅黄色(2.5 Y4/1)	にぶい黄色 (2.5 Y6/3)	ヘラ磨き、 ナデ磨き	摩滅	1/2	黒	黒 内面黒斑
2973	63	96	S D50 不明	弦生土器				非鉛釉系	少	浅黄色(7.5 Y7/3)	にぶい黄色 (7.5 Y8/3)	ヘラ磨き、 ナデ磨き	摩滅	1/8	黒	黒 口:全壊 文:ヘラ 1

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (2)

番号	排國	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存 率	形態上の 特徴	備考
2974	63	S D50 不明	弦生土器 甕	(17.6)				白・透 非繩紋系	灰・黄 小~大, Y 6/2)	灰・黃色(2.5 Y R 4/2)	灰・黃色(10 Y R 4/2)	擦減		1/8	口: 逆L字 形: 楠15束 文: 楠15束 幅は4条1帶 幅は参考	
2975	63	S D50 不明	弦生土器 甕?					多	白・透 非繩紋系	灰・白 小~大, Y 6/2)	灰白色(10 Y R 8/2)	擦減		1/8	口: 逆L字 形: 楠15束 文: 楠15束 幅は参考	
2976	63	S D50 不明	弦生土器 甕					多	白・透 非繩紋系	灰・白 小~中, Y 6/2)	灰白色(10 Y R 8/2)	オリーブ黒 色(5 Y 4/ 1)	指押後擦ナ デ		小破 片	口: ハラ 1+划目 形: ハラ2
2977	64	S D50 不明	弦生土器 甕		(11.2)			多	白・透 非繩紋系	灰・白 小~大, Y 6/2)	灰白色(5 Y R 4/2)	にぶい黄橙 色(10 Y R 7/ 4)	擦減		小破 片	口: 如童形, 文: ハラ2
2978	64	S D50 不明	弦生土器 甕		(6.2)			多	白・透 非繩紋系	黄灰 小~大, Y 5/1)	灰・黃色(2.5 Y 6/2)	にぶい黄橙 色(5 Y R 4/2)	擦減		小破 片	口: ハラ 2.5 形: ハラ
2979	64	S D50 不明	弦生土器 甕		(6.6)			多	白・透 非繩紋系	黄灰 小~中, Y 4/1)	黄灰・黃色(2.5 Y 6/4)	にぶい黄橙 色(5 Y R 6/4)	擦減, 板ナ デ		小破 片	口: ハラ 2.5 形: ハラ
2980	64	S D50 不明	弦生土器 甕		(8.1)			多	白・透 非繩紋系	黄灰 小~大, Y 5/1)	黄灰・黃色(2.5 Y 4/1)	にぶい黄橙 色(5 Y R 6/3)	擦減, 板ナ デ		小破 片	口: ハラ 2.5 形: ハラ
2981	64	S D50 不明	弦生土器 甕		(6.6)			多	白・透 非繩紋系	黄灰 小~大, Y 5/1)	黄灰・黃色(2.5 Y 4/1)	にぶい黄橙 色(5 Y R 7/ 3)	擦減, 板ナ デ		小破 片	口: ハラ 2.5 形: ハラ
2982	64	S D50 不明	弦生土器 甕		(7.0)			多	白・透 非繩紋系	黄灰 小~大, Y 5/1)	黄灰・黃色(2.5 Y 4/1)	にぶい黄橙 色(5 Y R 6/3)	擦減, 板ナ デ		小破 片	口: ハラ 2.5 形: ハラ
2983	64	S D50 不明	弦生土器 甕		(4.3)			多	白・透 非繩紋系	黄灰 小~大, Y 7/2)	黄灰・黃色(2.5 Y 7/2)	にぶい黄橙 色(5 Y 6/3)	擦減		小破 片	口: ハラ 2.5 形: ハラ
2984	64	S D50 不明	弦生土器 甕		(43.6)			多	白・透 非繩紋系	黄灰 小~大, Y 7/2)	黄灰・黃色(2.5 Y 7/2)	にぶい黄橙 色(5 Y 7/2)	擦減		小破 片	口: 逆L字 形: 楠1 文: 楠1 幅は4条1帶 幅は参考
3003	69	S D51 -	弦生土器 甕					白, 少	非繩 系	黄灰 小~大, Y 4/1)	黄灰・黃色(2.5 Y 5/1)	にぶい黄橙 色(5 Y 8/3)	擦減		小破 片	口: ハラ 2 形: 楠1 文: 楠1 幅は4条1帶 幅は参考
3004	69	S D51 -	弦生土器 甕					多	白・透 非繩紋系	透黄 小~大, Y 8/3)	透黄・黃色(10 Y R 8/3)	擦減		小破 片	口: ハラ 1 形: 楠1 文: 楠1 幅は4条1帶 幅は参考	
3005	69	S D51 -	弦生土器 甕		(7.2)			多	白・透 非繩紋系	灰 小~大, Y 1)	灰・黃色(5 Y 4/ 1)	にぶい黄橙 色(5 Y 4/ 1)	擦減		小破 片	口: ハラ 2.5 形: ハラ

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (3)

番号	地図版	遺構名	部位名	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外表面調整	内部調整	残存率	形態上の特徴	備考	
3006	69 99	S D51	-	弥生土器 甌			白・灰・透・小~大、 非漆無系	少	2.5 Y7/3)	にぶい・黄色 (2.5 Y 6/3)	ナデ	ナデ	2/3	文: ヘラ1 + α、刺突	内面に付着物	
3007	69	S D51	-	弥生土器 甌			白・灰・透・大、 多 非漆無系	7.2	10 Y R7/ 2)	にぶい・黄色 (10 Y R7/ 2)	明黄褐色 (10 Y R6/6)	削減	削落	2/3		
3008	69	S D51	-	弥生土器 甌			白・透・小~大、 多 非漆無系	(6.8)	2.5 Y 7/3)	透白色 (5 Y 7/2)	透黄色 (2.5 Y 8/2)	指押、板ナ ヂ	指押、板ナ ヂ	1/2		
3009	69	S D51	-	弥生土器 甌			白・透・小~大、 多 非漆無系	6.0	2.5 Y 7/3)	透白色 (2.5 Y 4/1)	透白色 (2.5 Y 7)	指押後ナデ	ナデ	2/3		
3010	69 99	S D51	-	弥生土器 鉢			白・透・中、 多 非漆無系		2.5 Y 5/1)	透灰色 (2.5 Y)	透黄色 (2.5 Y 6/2)	ナデ	ナデ	2/3		
3014	72 100	S R04 下層	弥生土器 甌		15.0		白・透・小~大、 多 非漆無系		2.5 Y 7/2)	透黄色 (2.5 Y 7/2)	透黄色 (2.5 Y 6/2)	ハケ後ヘラ 磨き	ヘラ磨き	1/6	頭: ヘラ3 腹: 小V字	調整前施文、 内面に茶褐色 付着物
3015	72 100	S R04 下層	弥生土器 甌		12.8		白・透・小~大、 多 非漆無系		2.5 Y 3)	にぶい・青褐色 (10 Y R6/ 3)	透灰色 (2.5 Y 5/2)	ヘラ磨き、 指ナデ後ヘ ラ磨き	ヘラ磨き	1/4	頭: 無文、 腹: ヘラ1	調整前施文
3016	72 100	S R04 下層	弥生土器 甌		18.9		白・透・小~大、 多 非漆無系		2.5 Y 2)	透灰色 (2.5 Y 5/2)	透灰色 (2.5 Y 5/2)	指ナデ後ヘ ラ磨き	ヘラ磨き	1/7	頭: 段	
3017	72 100	S R04 下層	弥生土器 甌		19.2		白・透・小~大、 多 非漆無系		2.5 Y 4/1)	透灰色 (2.5 Y 5/2)	透灰色 (2.5 Y 4/1)	指ナデ後ヘ ラ磨き	指押後ヘ ラ磨き	1/8	頭: 前凸 外面に黒色付 着物	
3018	72 100	S R04 下層	弥生土器 甌		15.6		白・透・黑・小~中、 多 非漆無系		2.5 Y 5/2)	透黄色 (10 Y R5/2)	透黄色 (10 Y R4/1)	指押後ヘラ 磨き	ヘラ磨き	1/4	頭: ヘラ2	
3019	72 100	S R04 下層	弥生土器 甌		13.4		白・透・黑・小~中、 多 非漆無系		2.5 Y 4/1)	透黄色 (10 Y R5/2)	透黄色 (10 Y R4/1)	指押後ヘラ 磨き	ヘラ磨き	1/4	頭: ヘラ1	
3020	72 100	S R04 下層	弥生土器 甌		15.2		白・透・黑・小~中、 多 非漆無系		2.5 Y 6/2)	透黄色 (2.5 Y 7/2)	透黄色 (2.5 Y 6/2)	ナデ、ヘラ 磨き	ナデ、ヘラ 磨き	1/6	頭: ヘラ2, 口縁部折り 返し	
3021	72 100	S R04 下層	弥生土器 甌		15.2		白・透・小~大、 多 非漆無系		2.5 Y 6/2)	透黄色 (2.5 Y 7/2)	透黄色 (2.5 Y 6/2)	ナデ、板ナ ヂ	ナデ、板ナ ヂ	3/8	頭: 無文 外面黒斑	
3022	72 100	S R04 下層	弥生土器 甌		16.4		白・透・小~大、 多 非漆無系		2.5 Y 7/2)	透黄色 (2.5 Y 6/2)	透黄色 (2.5 Y 6/2)	擦減、ヘラ 磨き	擦減、ヘラ 磨き	1/6		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (34)

番号	地図	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	縦高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外側調整	焼付	形態上の特徴	備考
3023	72 100	S R04	下層	弥生土器	(15.0)	(2.5)	(2.5)	白・灰・透・小~中 多・非透・透系	にぶい黄色 Y7/3)	浅黄色(2.5 Y5/1)	摩拭、ヘラ 磨き	1/6	頭:前凸+ ヘラ1+α	
3024	72	S R04	下層	弥生土器	(12.6)	(2.5)	(2.5)	灰・白・透・小~大 少・非透・透系	にぶい黄色 Y6/2)	浅黄色(2.5 Y5/1)	ヘラ磨き	1/8	頭:前凸+ ヘラ1+α	外側に黒色付 着物
3025	72 101	S R04	下層	弥生土器	(13.7)	(2.5)	(2.5)	白・灰・透・小~大 少・非透・透系	にぶい黄色 R7/3)	にぶい黄色 R6/4)	ヘラ磨き	1/8	頭:ヘラ2	
3026	72 101	S R04	下層	弥生土器	(15.0)	(2.5)	(2.5)	白・灰・透・小~大 少・非透・透系	黒色(2.5 Y2/1)	灰黄色(10 Y5/2)	ヘラ磨き	小破 片	口縁部内面に 光沢	
3027	72 101	S R04	下層	弥生土器	(15.0)	(2.5)	(2.5)	白・透・小~大 少・非透・透系	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄色(2.5 Y4/1)	ヘラ磨き	破片	口縁部が橙色 化粘土	
3028	72 101	S R04	下層	弥生土器	(15.0)	(2.5)	(2.5)	白・透・小~中 少・非透・透系	黒色(2.5 Y2/1)	黑褐色(10 Y3/1)	ヘラ磨き	小破 片	外側黒色研 磨面	
3029	72 101	S R04	下層	弥生土器	(15.0)	(2.5)	(2.5)	白・灰・透・小~大 少・非透・透系	灰黄色(2.5 Y4/1)	灰黄色(2.5 Y4/2)	板ナデ後ヘ タ磨き	破片	頭:ヘラ1	
3030	72 101	S R04	下層	弥生土器	(15.0)	(2.5)	(2.5)	白・灰・透・小~大 少・非透・透系	にぶい黄色 R5/3)	にぶい黄色 R5/2)	ヘラ磨き	小破 片	頭:ヘラ3 +α	径は参考
3031	72 101	S R04	下層	弥生土器	(15.0)	(2.5)	(2.5)	白・灰・透・小~大 少・非透・透系	にぶい黄色 R7/2)	にぶい黄色 R7/1)	カケ後ヘラ 磨き	1/8	頭:前凸, ヘラ2+α	径は参考
3032	72 101	S R04	下層	弥生土器	(15.0)	(2.5)	(2.5)	白・透・小~中 少・非透・透系	黄褐色(2.5 Y4/1)	黄褐色(2.5 Y5/1)	板ナデ後ヘ タ磨き	1/4	頭:ヘラ3	
3033	72 101	S R04	下層	弥生土器	(15.0)	(2.5)	(2.5)	白・灰・透・小~大 少・非透・透系	浅黄色(2.5 Y7/3)	浅黄色(2.5 Y7/3)	摩拭、ナデ タ磨き	破片	頭:前凸+ ヘラ1+α	頭は黒漆のた め不明瞭
3034	73 101	S R04	下層	弥生土器	(15.0)	(2.5)	(2.5)	自・透・小~大 多・非透・透系	灰褐色(2.5 Y6/2)	灰褐色(2.5 Y4/1)	板ナデ後ヘ タ磨き	破片	頭:前凸 目	調整前施文
3035	73 101	S R04	下層	弥生土器	(15.0)	(2.5)	(2.5)	白・灰・透・小~大 多・非透・透系	にぶい黄色 (10Y6/3)	灰黄色(2.5 Y5/2)	ヘラ磨き	1/8	頭:ヘラ3	調整前施文
3036	73 101	S R04	下層	弥生土器	(15.0)	(2.5)	(2.5)	白・灰・透・小~大 多・非透・透系	浅黄色(2.5 Y7/3)	浅黄色(2.5 Y7/3)	板ナデ後ナ ダ	破片	頭:ヘラ3	
3037	73	S R04	下層	弥生土器	(15.0)	(2.5)	(2.5)	白・灰・透・小~大 少・非透・透系	灰白色(10 R8/2)	にぶい黄色 R8/2)	摩拭、ヘラ 磨き	小破 片	頭:ヘラ3	外側黒斑、径 は参考

龍川五条Ⅱ遺跡 土器觀察表 (55)

番号	構造図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3038	73	SR04 下層	弥生土器 壺					白・透、小~大、 多・非透、系	灰白色 (YR8/2)	浅黄色(2.5 YR8/4)	浅黄色(10 YR7/3)	摩滅、板ナ デ	摩滅、ヘラ 磨き	1/8 特：削凸+ △	佳は参考	
3039	73	SR04 下層	弥生土器 壺					白・灰、透、小~大、 多・非透、系	灰白色(2.5 YR7/3)	浅黄色(2.5 YR5/2)	浅黄色(10 YR5/2)	摩滅、ヘラ 磨き	摩滅、ヘラ 磨き	1/8 特：削凸+ △	佳は参考	
3040	73	SR04 下層	弥生土器 壺					白・灰、黑、透、小~大、 多・非透、系	灰白色(10 YR5/2)	灰白色(10 YR5/2)	灰白色(10 YR5/2)	摩滅、ヘラ 磨き	指ナデ	小破 片	小破 片	佳は参考
3041	73	SR04 下層	弥生土器 壺					白・灰、透、少、 多・非透、系	黄灰色 (Y4/1)	黄灰色(2.5 Y4/1)	黄灰色(2.5 Y4/1)	摩滅、ヘラ 磨き	摩滅、ヘラ 磨き	1/8 特：削凸+ △	佳は参考	
3042	73	SR04 下層	弥生土器 壺					白・灰、透、小~大、 多・非透、系	灰白色 (Y6/2)	浅黄色(2.5 Y6/2)	浅黄色(10 YR6/2)	摩滅、ヘラ 磨き	指ナデ	破片	破片	佳は参考
3043	73 102	SR04 下層	弥生土器 壺					白・透、小~大、 多・非透、系	灰白色 (Y6/2)	浅黄色(2.5 Y6/2)	浅黄色(2.5 Y6/2)	摩滅、ヘラ 磨き	摩滅	小破 片	小破 片	外一面の一端が 赤褐色を呈す
3044	73 102	SR04 下層	弥生土器 壺					白・透、透、小~大、 多・非透、系	灰白色 (Y6/2)	浅黄色(2.5 Y6/2)	浅黄色(2.5 Y6/2)	摩滅、ヘラ 磨き	摩滅	小破 片	小破 片	段+△
3045	73 102	SR04 下層	弥生土器 壺					白・透、小~中、 少・非透、系	灰白色 (Y6/2)	浅黄色(2.5 Y6/2)	浅黄色(10 YR6/2)	摩滅、 ヘラ磨き	指ナデ	小破 片	小破 片	段+△
3046	73 102	SR04 下層	弥生土器 壺					白・灰、透、透、 多・非透、系	灰白色 (Y6/2)	浅黄色(2.5 Y6/2)	浅黄色(10 YR6/2)	摩滅、 ヘラ磨き	摩滅	小破 片	小破 片	段+△
3047	73 102	SR04 下層	弥生土器 壺					白・灰、透、透、 少・非透、系	灰白色 (Y6/2)	浅黄色(2.5 Y6/2)	浅黄色(10 YR6/2)	摩滅、 ヘラ磨き	指ナデ	摩滅	小破 片	外一面黒斑 △
3048	73 102	SR04 下層	弥生土器 壺					白・灰、透、透、 多・非透、系	灰白色 (Y6/2)	浅黄色(5YR 7/6)	浅黄色(5YR 7/6)	摩滅	指ナデ	摩滅	摩滅	△
3049	73 102	SR04 下層	弥生土器 壺					白・透、小~大、 少・非透、系	灰白色 (2.5Y6/3)	浅黄色(10 YR5/2)	浅黄色(10 YR5/2)	摩滅、 ヘラ磨き	指ナデ	小破 片	小破 片	段+△
3050	73	SR04 下層	弥生土器 壺					白・灰、透、透、 多・非透、系	灰白色 (Y6/2)	浅黄色(10 YR5/2)	浅黄色(10 YR5/2)	摩滅、 ヘラ磨き	指ナデ	摩滅	摩滅	△
3051	73 102	SR04 下層	弥生土器 壺					白・灰、透、透、 少・非透、系	灰白色 (Y6/2)	浅黄色(10 YR5/1)	浅黄色(10 YR5/1)	摩滅、 ヘラ磨き	指ナデ	小破 片	小破 片	外一面黒色付 △
3052	73 102	SR04 下層	弥生土器 壺					白・灰、透、透、 少・非透、系	灰白色 (Y6/1)	浅黄色(2.5 Y5/1)	浅黄色(2.5 Y5/1)	摩滅、 ヘラ磨き	指ナデ	摩滅	摩滅	段+△

龍川五条Ⅱ遺跡 土器類聚表 (36)

番号	桝固図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3053	73 102 S R04 下層	弥生土器						白・透・小、少	褐灰色 (10 YR 5/1)	灰黄褐色 (10 YR 5/2)		板ナデ	小破片	脚・ヘラ2 竹管刷突		
3054	73 102 S R04 下層	弥生土器						白・黒・透・小~大、暗	灰黄褐色 (2.5 YS 2/1)	黄灰色 (2.5 YS 2/1)		板ナデ	小破片	脚・前突 脚・前凸+	刻は不明瞭	
3055	73 102 S R04 下層	弥生土器						白・透・黑・透・小~大	灰黄褐色 (10 YR 6/3)	黄灰色 (10 YR 6/3)		板ナデ後ナ	小破片	脚・ヘラ3 外腹に黑色付着物		
3056	73 102 S R04 下層	弥生土器						白・透・小~大、多	灰黄褐色 (2.5 Y 7/2)	灰黄褐色 (2.5 Y 7/2)		板ナデ	小破片	脚・ヘラ3 +富気文?		
3057	73 102 S R04 下層	弥生土器						白・透・透・小~中、多	黄褐色 (7.5 YR 6/1)	黄褐色 (5 YR 7/3)		板ナデ	小破片	脚・木葉文 +富強文		
3058	73 102 S R04 下層	弥生土器						白・透・小~大、多	灰黄褐色 (2.5 Y 7/2)	灰黄褐色 (2.5 Y 7/2)		板ナデ	小破片	脚・段+縞文		
3059	74 S R04 下層	弥生土器						白・透・透・小~中、多	灰黄褐色 (2.5 Y 7/2)	黄褐色 (2.5 Y 6/3)		板ナデ	小破片	脚・ヘラ		
3060	74 S R04 下層	弥生土器						白・透・透・小~中、多	灰黄褐色 (2.5 Y 5/1)	灰黄褐色 (2.5 Y 6/2)		板ナデ	小破片	脚・ヘラ		
3061	74 S R04 下層	弥生土器						白・透・透・小~大、多	灰黄褐色 (10 YR 6/2)	灰黄褐色 (10 YR 6/2)		板ナデ後	小破片	脚・ヘラ	外腹黒斑	
3062	74 S R04 下層	弥生土器						白・透・透・小~大、多	灰黄褐色 (2.5 Y 6/2)	灰黄褐色 (2.5 Y 7/2)		板ナデ	小破片	脚・ヘラ		
3063	74 S R04 下層	弥生土器						白・透・透・小~大、多	灰黄褐色 (10 YR 6/1)	灰黄褐色 (10 YR 6/1)		板ナデ後指押	板ナデ	脚・ヘラ		
3064	74 S R04 下層	弥生土器						白・透・透・小~大、多	灰黄褐色 (2.5 Y 7/3)	灰黄褐色 (2.5 Y 7/3)		板ナデ	小破片	脚・ヘラ		
3065	74 S R04 下層	弥生土器						白・透・透・小~大、多	灰黄褐色 (2.5 Y 6/2)	灰黄褐色 (2.5 Y 7/2)		板ナデ	小破片	脚・ヘラ		
3066	74 102 S R04 下層	弥生土器						白・透・透・小~大、多	灰黄褐色 (10 YR 6/3)	灰黄褐色 (10 YR 6/3)		板ナデ	小破片	脚・ヘラ		
3067	74 102 S R04 下層	弥生土器						白・透・透・小~大、多	灰黄褐色 (2.5 Y 5/1)	灰黄褐色 (2.5 Y 5/1)		板ナデ	小破片	脚・ヘラ		
3068	74 102 S R04 下層	弥生土器						白・透・透・小~大、多	灰黄褐色 (2.5 Y 4/1)	灰黄褐色 (2.5 Y 4/1)		板ナデ	小破片	脚・ヘラ		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (2)

番号	坪園面	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	既存	形態上の 特徴	備考
3069	74	102	S R04 下層	弥生土器 甕			7.2	白・透・小~大、 非漆経系	黄灰色(2.5 Y4/1)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ヘラ磨き、 ナデ				
3070	74	102	S R04 下層	弥生土器 甕			(10.0)	白・透・小~中、 非漆経系	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ヘラ磨き後ヘラ ナデ	座城、板ナ デ	1/4		内外面黒斑
3071	74	102	S R04 下層	弥生土器 甕			(7.9)	白・灰・茶・透、 小~大、多 非漆経系	灰黄色(2.5 Y5/1)	にぶい黄 色(10 YR 6/3)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/4		外面黒斑
3072	74	102	S R04 下層	弥生土器 甕			(9.6)	灰・白・透、小~大、 黑・透、大~ 非漆経系	黑色(2.5 Y 2/1)	にぶい黄 色(10 YR 6/3)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/6		
3073	74		S R04 下層	弥生土器 甕			(10.5)	白・灰・茶・透、小~ 大、多 非漆経系	にぶい黄 色(2.5 Y 6/3)	黄褐色(2.5 Y5/3)	板ナデ	板ナデ	1/3		
3074	74		S R04 下層	弥生土器 甕			(6.6)	白・灰・透、小~ 大、多 非漆経系	にぶい黄 色(2.5 Y 6/3)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ヘラ磨き	座城、ナデ	1/2		
3075	74		S R04 下層	弥生土器 甕			8.0	白・灰・透、小~ 大、多 非漆経系	にぶい黄 色(2.5 Y 6/3)	暗灰黃色 (2.5 Y 5/2)	板ナデ後ハ ラ磨き	板ナデ	完存		前面はヘラ削 り後ナデ
3076	74		S R04 下層	弥生土器 甕			(7.8)	灰・白・透、小~ 中、 非漆経系	灰白色(2.5 Y8/1)	灰白色(2.5 Y7/1)	板ナデ	板ナデ	1/2		
3077	74		S R04 下層	弥生土器 甕			10.3	白・灰・透、小~ 大、多 非漆経系	にぶい黄 色(2.5 Y 6/3)	暗灰黃色 (2.5 Y 5/2)	板ナデ	指揮	完存		結合面で剥離、 外側面に炭化物
3078	74	103	S R04 下層	弥生土器 甕			5.8	白・透、小~大、 非漆経系	明赤褐色 (2.5 Y 6/6)	にぶい黄 色(10 YR 5/3)	ヘラ磨き	ナデ	1/2		
3079	74	103	S R04 下層	弥生土器 甕			(8.1)	白・灰・透、小~ 大、多 非漆経系	褐色(5 YR 6/6)	稍落	ナデ	1/3	底面: ヘラ 文様		
3080	75	103	S R04 下層	弥生土器 甕			7.3	白・透、小~大、 非漆経系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	完存		内外面黒斑、 底面はヘラ磨 き
3081	75	103	S R04 下層	弥生土器 甕			7.2	灰・白・透、小~大、 非漆経系	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	板ナデ	完存			底面ヘラ磨き
3082	75		S R04 下層	弥生土器 甕			(10.4)	灰・白・透、小~中、 非漆経系	灰白色(2.5 Y7/1)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ヘラ磨き、 ナデ	ヘラ磨き	1/6		底面ヘラ磨き
3083	75		S R04 下層	弥生土器 甕			7.5	白・透、小~大、 非漆経系	浅黄色(2.5 Y7/3)	にぶい黄 色(2.5 Y 6/3)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	完存		内外面黒斑、 底面ヘラ磨き

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (3)

番号	地圖図版	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (内面)	色調 (外面)	外周調整	内面調整	残存車輪	形態上の特徴	備考
3084	75 103	SR04	下層	弦生土器		7.0	白・透、小、少 透・非透底系	透白色(2.5 Y 8/2)	透黄色(2.5 Y 7/2)	ハケ後ヘラ 磨き	板ナデ後ナ デ	2/3		内外副底部 底面ヘラ磨き
3085	75 103	SR04	下層	弦生土器		8.1	白・灰・茶・透、少 透・非透底系	透白色(10 Y 7/2)	透黄色(10 Y 7/2)	ハラ削り後 磨き	板ナデ後ナ デ	2/3		
3086	75	SR04	下層	弦生土器		(7.2)	灰・白・透、小～中、 透・非透底系	黄灰色(2.5 Y 8/1)	黄灰色(2.5 Y 7/1)	ハラ磨き	板ナデ	1/4		外面黒色付着
3087	75 103	SR04	下層	弦生土器			白・灰・透、小～大、 透・非透底系	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	ハケ後ヘラ 磨き	板ナデ後ヘ ラ磨き	1/6		複合面で削離
3088	75 103	SR04	下層	弦生土器			白・灰・透、小～大、 透・非透底系	黄灰色(2.5 Y 5/1)	黄灰色(2.5 Y 6/2)	ハラ磨き	指押磨	1/8	調：ヘラ3	因上復元
3089	75 103	SR04	下層	弦生土器		(5.6)	白・透、小～中、 透・非透底系	灰色(5 Y 4/ R 5/1)	褐色(10 Y R 5/1)	板ナデ	板ナデ	1/6		
3090	75 103	SR04	下層	弦生土器		3.6	茶・白・透、小～大、 透・非透底系	透黄色(10 Y 7/2)	透黄色(10 Y R 6/2)	ハケ後磨ナ デ	板ナデ	完存		外面黒斑
3091	76 104	SR04	下層	弦生土器	(21.5)		白・灰・透、小～大、 透・非透底系	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	ハケ、摩滅	板片	口：如意形、 外側に炭化物		
3092	76 104	SR04	下層	弦生土器	(19.6)		灰・白・透、小～大、 透・非透底系	透黄色(2.5 Y 5/5/2)	透黄色(2.5 Y 4/1)	板ナデ	板ナデ	1/8	口：如意形、 外側と開部 の境に施文	
3093	76 104	SR04	下層	弦生土器	(25.8)		白・透、小～中、 透・非透底系	透黄色(2.5 Y 5/5/2)	透黄色(2.5 Y 4/1)	指押後板ナ デ	板ナデ	1/8	口：如意形、 外側に炭化物	
3094	76 104	SR04	下層	弦生土器	(19.0)		白・透、小～大、 透・非透底系	橙色(2.5 Y R 7/6)	透黄色(2.5 Y R 8/3)	摩滅	摩滅	1/8	口：如意形、半 截竹管施文	
3095	76 104	SR04	下層	弦生土器	(19.4)		灰・白・透、小～中、 透・非透底系	黄灰色(2.5 Y 7/2)	橙色(5 Y R 6/6)	指押後板ナ デ	板ナデ後ナ デ	1/8	口：如意形、 外側黒色化 口縁磨き	
3096	76 104	SR04	下層	弦生土器			白・透、小～大、 透・非透底系	黄灰色(2.5 Y 4/1)	黄灰色(2.5 Y 5/5/2)	ハラ磨き	板ナデ	1/8	口：如意形、 外側黒色化 口縁磨き	+α
3097	76 104	SR04	下層	弦生土器	(18.4)		白・灰・透、小～大、 透・非透底系	透黄色(10 Y R 6/2)	にぶい橙色 (7.5 Y R 7/ 4)	ハケ後ナデ	板ナデ後ナ デ	1/8	口：如意形、竹 管刺突	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 [9]

番号	探査区	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存 率	形態上の 特徴	参考
3088	76 104	SR04 下層	弦生土器 甕	白灰・黒・小~大 非漆滅系	33.2			多	灰青褐色(10 YR 5/2)	灰青褐色(10 YR 5/2)	板ナデ	板ナデ	1/6	口:如意形 足:鉄鋸形 銅突2	竹管則突	
3099	76 104	SR04 下層	弦生土器 甕	白・透・小~大 非漆滅系	23.6			多	褐色(10Y R 4/1)	褐色(10Y R 4/1)	板ナデ	板ナデ	1/6	口:如意形 足:全圓 銅突2	外面に敗化物 付着、ヘラは 2条1単位	
3100	76 104	SR04 下層	弦生土器 甕	白・透・小~大、少 非漆滅系	23.4			多	褐色(10Y R 4/1)	褐色(10Y R 3/1)	ハケ後ナデ ケ	板ナデ、ハ ケ	1/6	口:如意形 足:全圓 銅突1	如意形、ヘラ4 単位	
3101	76 104	SR04 下層	弦生土器 甕	灰白・透・小~大 非漆滅系	22.6			多	灰白色(2.5 Y 7/1)	灰白色(2.5 Y 7/1)	板ナデ	板ナデ	1/6	口:如意形 足:全圓 銅突3	如意形、口 縁端部遺存 不規	
3102	76 104	SR04 下層	弦生土器 甕	灰白・透・中 非漆滅系	18.2			多	灰褐色(10 YR 4/2)	灰褐色(10 YR 3/1)	指揮	指揮	1/8	口:如意形 足:全圓 銅突1	如意形、不規	
3103	41	SR04 下層	弦生土器 甕	白・透・小~中 非漆滅系				少	褐色(10Y R 4/1)	褐色(10Y R 5/1)	ナデ	ナデ	1/8	口:如意形 足:全圓 銅突2	外面に敗化物 付着、ヘラは半裁 竹	
3104	76	SR04 下層	弦生土器 甕	白・透・中~中 非漆滅系				多	暗灰黄色 (2.5Y 4/2)	暗灰黄色 (2.5Y 4/1)	指揮	指揮	1/8	口:如意形 足:全圓 銅突3	如意形、ヘラ2 管	
3105	76	SR04 下層	弦生土器 甕	灰白・透・小~大 非漆滅系				多	暗褐色(2.5 Y 5/3)	暗褐色(2.5 Y 5/2)	ナデ	ナデ	1/8	口:如意形 足:全圓 銅突2	如意形、 口縁端部 凹凸	
3106	76 105	SR04 下層	弦生土器 甕	白・透・小~中 非漆滅系	25.4			多	褐色(7.5 Y 6/3)	褐色(7.5 Y 6/2)	指揮	指揮	1/8	口:如意形 足:全圓 銅突1	如意形、 口縫、 呼筋	
3107	76 105	SR04 下層	弦生土器 甕	茶灰・白・透 非漆滅系				中	にぶい青褐色 (10Y R 7/ 2)	にぶい青褐色 (10Y R 7/ 2)	ナデ	ナデ	1/8	脚:刺凸1	J106と同一層 底の可塑性大	
3108	76	SR04 下層	弦生土器 甕	白・透・小~中 非漆滅系				多	灰青褐色(10 YR 5/2)	灰青褐色(10 YR 4/1)	ナデ	ナデ	1/8	口:凸系 足:全圓 銅突1	如意形、 口縫、 呼筋	
3109	76 105	SR04 下層	弦生土器 甕	白・透・小~大 非漆滅系				少	透青褐色(10 YR 8/3)	透青褐色(10 YR 7/3)	刺繩	刺繩	小缺 片	口:凸系 足:全圓 銅突1	如意形、 口縫、 呼筋	
3110	77 105	SR04 下層	弦生土器 甕	白・透・中~中 非漆滅系		(7.0)		少	暗褐色(10 YR 6/2)	暗褐色(10 YR 6/2)	板ナデ後指 揮	板ナデ後指 揮	1/2			

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (4)

番号	地図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	底高 (cm)	底径 (cm)	色調(内面)	色調(外面)	外面部調整	内面部調整	焼存 率	形態上の 特徴	備考	
3111	77	SR04	下層	弥生土器 甌		(7.5)	白・透 少 多 非陶泥系	透 壓 青 色 (2.5Y 4/2 J)	透 壓 青 色 (10Y R6 J)	板ナデ	ナデ	1/5			
3112	77	105	SR04	下層	弥生土器 甌		(6.0)	透 青 色 小~大 少 多 非陶泥系	透 青 色 (2.5 Y6/2)	透 青 色 (2.5 Y4/ 6)	ヘラ磨き, ナデ	1/6			
3113	77	105	SR04	下層	弥生土器 甌		(8.4)	透 青 色 小~大 少 多 非陶泥系	透 青 色 (5Y4/ 1)	透 青 色 (2.5 Y7/2)	ハケ後ヘラ 磨き	板ナデ	1/3	底面にモミ压 痕	
3114	77	105	SR04	下層	弥生土器 甌		(8.0)	透 青 色 小~中 少 多 非陶泥系	透 青 色 (2.5 Y7/3)	透 青 色 (2.5 Y5/1)	ヘラ磨き後 板ナデ	伸	1/2		
3115	77	105	SR04	下層	弥生土器 甌		6.6	透 青 色 小~大 少 多 非陶泥系	透 青 色 (2.5Y 6/3)	透 青 色 (2.5 Y7/3)	透 青 色 (2.5 Y5/1)	ナデ	完存		
3116	77	105	SR04	下層	弥生土器 甌		(6.6)	透 青 色 小~中 少 多 非陶泥系	透 青 色 (2.5 Y4/1)	透 青 色 (2.5 Y7/2)	板ナデ後ヘ ラ磨き	板ナデ	1/4	内面に炭化物	
3117	77	105	SR04	下層	弥生土器 甌		(8.6)	透 青 色 小~大 少 多 非陶泥系	透 青 色 (2.5 Y6/2)	透 青 色 (2.5 Y7/3)	透 青 色 (2.5 Y6/2)	板ナデ	断滅	3/8	接合面で削離
3118	77	105	SR04	下層	弥生土器 甌		7.9	透 青 色 小~中 少 多 非陶泥系	透 青 色 (2.5 Y7/2)	透 青 色 (2.5 Y6/1)	指押後板ナ デ	断滅			
3119	77	105	SR04	下層	弥生土器 甌		(7.6)	透 青 色 小~大 少 多 非陶泥系	透 青 色 (5Y R7/4)	透 青 色 (10Y R7/ 2)	指押後板ナ デ, ナデ	ナデ	1/3		
3120	77	105	SR04	下層	弥生土器 甌		(8.0)	透 青 色 小~大 少 多 非陶泥系	透 青 色 (10Y R7/ 3)	透 青 色 (10Y R7/ 4)	指押, ナデ	ナデ	1/2		
3121	77	105	SR04	下層	弥生土器 甌		(7.0)	透 青 色 小~中 少 多 非陶泥系	透 青 色 (10 Y6/2)	透 青 色 (10 Y6/2)	板ナデ	板ナデ	1/3	内面に炭化物 付着	
3122	77	106	SR04	下層	弥生土器 鉢	(40.4)	26.7	(12.3) 透 青 色 大, 多 多 非陶泥系	透 青 色 (10 Y6/2)	透 青 色 (10 Y6/2)	透 青 色 (10 Y6/2)	ナデ	ナデ	1/4	
3123	77	106	SR04	下層	弥生土器 鉢	(40.4)	26.7	(12.3) 透 青 色 大, 多 多 非陶泥系	透 青 色 (10 Y6/2)	透 青 色 (10 Y6/2)	板ナデ	板ナデ	1/3	内面に炭化物 付着	
3124	77	106	SR04	下層	弥生土器 鉢	(39.4)	透 青 色 小~大 少 多 非陶泥系	透 青 色 (7.5Y R7/3)	透 青 色 (7.5Y R8/3)	透 青 色 (7.5 Y8/3)	ナデ	ナデ	1/4	内面に炭化物 付着	
3125	77	106	SR04	下層	弥生土器 鉢							口: 如意形, 文: 無文,			

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (4)

番号	博団出版	遺物名	層位名	器種	口径 (cm)	基高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調 (内面)	色調 (外面)	外表面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3124	77 106	S R04	下層	弥生土器 鉢	(39.4)			白・透、小~大、 少	非漆無	灰黄色(2.5 Y _{6/2})	灰黄色(2.5 Y _{6/2})	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	口:如意形、 文:無文	口縁部折り返 し状
3125	78 106	S R04	下層	弥生土器 鉢	(34.8)			白・透、小~大、 少	非漆無	灰黄色(2.5 Y _{7/2})	灰黄色(2.5 Y _{7/2})	ヘラ磨き、 摩滅	ヘラ磨き、 摩滅	1/8	口:如意形、 文:無文	口:如意形、 文:無文
3126	78 106	S R04	下層	弥生土器 鉢	(32.2)			白・透、小~大、 少	非漆無	灰黄色(2.5 Y _{7/2})	灰黄色(2.5 Y _{7/2})	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	口:如意形、 文:無文	口:如意形、 文:無文
3127	78 106	S R04	下層	弥生土器 鉢	(27.4)			白・透、小~大、 少	非漆無	灰黄色(2.5 Y _{7/1})	灰黄色(2.5 Y _{7/1})	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	口:如意形、 文:無文	口:如意形、 文:無文
3128	78 107	S R04	下層	弥生土器 鉢	(24.8)			白・透、小~大、 少	非漆無	灰黄色(2.5 Y _{3/2})	灰黄色(2.5 Y _{3/2})	ヘラ磨き、 摩滅	ヘラ磨き、 摩滅	1/8	口:如意形、 文:無文	口:如意形、 文:無文
3129	78 107	S R04	下層	弥生土器 鉢	(20.9)			白・透、小~大、 少	非漆無	灰黄色(10 Y _{6/2})	灰黄色(10 Y _{6/2})	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	口:如意形、 文:無文	口:如意形、 文:無文
3130	78 107	S R04	下層	弥生土器 鉢	(13.6)			白・透、小~中、 少	非漆無	灰黄色(5 Y _{4/1})	灰黄色(5 Y _{4/1})	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	口:直口、 外面部色付着	口:直口、 外面部色付着
3131	78 107	S R04	下層	弥生土器 浅鉢				白・透、小~中、 少	非漆無	灰黄色(2.5 Y _{6/2})	灰黄色(2.5 Y _{5Y_{5/2}})	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	口:直口、 外面部色付着	口:直口、 外面部色付着
3132	78 107	S R04	下層	弥生土器 浅鉢				白・透、小~中、 少	非漆無	灰黄色(2.5 Y _{4/1})	灰黄色(2.5 Y _{4/1})	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	口:直口、 外面部色付着	口:直口、 外面部色付着
3133	78 107	S R04	下層	弥生土器 浅鉢				白・透、小~少	非漆無	灰黄色(2.5 Y _{5/1})	灰黄色(2.5 Y _{4/1})	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	口:直口、 外面部色付着	口:直口、 外面部色付着
3134	78 107	S R04	下層	弥生土器 鉢	8.4	3.8	6.1	白・透、小~大、 多	非漆無	黄灰色(2.5 Y _{4/1})	黄灰色(2.5 Y _{4/1})	指押後ナデ 後ナデ	指押後ナデ 後ナデ	1/8	口:如意形、 文:無文	口:如意形、 文:無文
3135	78	S R04	下層	弥生土器 鉢	(20.0)			白・透、小~大、 少	非漆無	黄灰色(2.5 Y _{5/1})	黄灰色(2.5 Y _{5/1})	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	口:如意形、 文:無文	口:如意形、 文:無文
3160	83 112	S R04	中層	弥生土器 鉢	(17.4)			白・透、小~大、 多	非漆無	灰白色(2.5 Y _{6/1})	灰白色(10 Y _{6/2})	摩滅	摩滅	1/8	口:直口、 前凸+ 後凹	口:直口、 前凸+ 後凹
3161	83 112	S R04	中層	弥生土器 鉢	(18.4)			白・透、小~中、 多	非漆無	灰白色(2.5 Y _{8/2})	灰白色(2.5 Y _{8/2})	摩滅	摩滅	1/8	口:直口、 前凸+ 後凹	口:直口、 前凸+ 後凹

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (12)

番号	構造	遺構名	部位名	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胎 (cm)	色原(内面)	色原(外面)	外側調整	内面調整	残存 率	形態上の 特徴	備考
3162	83	S R04 中層	弥生土器	盤	(13.8)		白灰茶透、小 一矢、多 非鐵系	灰白色(10 Y R 8/2)	にぶい黄 色(10 Y R 6/3)	ヘラ磨き	刺青	破片	口唇：ヘラ 1、腹：段	
3163	83	112 S R04 中層	弥生土器	盤			茶・白透、小一矢 多・褐色系	にぶい橙 色(7.5 Y R 7/4)	にぶい橙 色(7.5 Y R 7/4)	摩滅、ヘラ 磨き	摩滅	破片	口唇：ヘラ 1、腹：段	
3164	83	S R04 中層	弥生土器	盤			灰・白透、小一矢 多・非鐵系	灰灰黄色(2.5 Y 6/1)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	ヘラ磨き	摩滅、ヘラ 磨き	小破 片	口唇：ヘラ 1、腹：段	
3165	83	S R04 中層	弥生土器	盤			白・灰・黑透、少 非鐵系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	ヘラ磨き	摩滅、ヘラ 磨き	1/8	腹：ヘラ 3	
3166	83	112 S R04 中層	弥生土器	盤			白・灰・小一矢、 多・非鐵系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	磨き	摩滅、ヘラ 磨き	1/6	頭：稍凸+ ヘラ 2 + α	
3167	83	112 S R04 中層	弥生土器	盤			白・灰・茶透、小一 矢、多・非鐵系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	ヘラ磨き	摩滅、ヘラ 磨き	1/8	頭：ヘラ 1	
3168	83	112 S R04 中層	弥生土器	盤			白・透、小一矢、 多・非鐵系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰白色(2.5 Y 6/2)	摩滅	摩滅	1/4	頭：點凸 1	
3169	83	112 S R04 中層	弥生土器	透			白・灰・黑透、少 非鐵系	浅黄色(10 Y R 8/3)	墨褐色(2.5 Y 3/1)	板ナゲ後ヘ ラ磨き	摩滅	破片	口唇：縦線 文、腹：段	
3170	83	112 S R04 中層	弥生土器	盤			白灰茶透、小一矢 多・非鐵系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	摩滅	指押、ナダ 1	1/6	頭：ヘラ 4	
3171	83	112 S R04 中層	弥生土器	盤			白・灰・黑透、少 非鐵系	白・灰・黑透、少 非鐵系	浅黄色(10 Y R 6/2)	摩滅、ヘラ 磨き	指押、ナダ 1	1/9	頭：ヘラ 3	
3172	83	113 S R04 中層	弥生土器	盤			黒・白透、小一矢 多・非鐵系	浅黄色(10 Y R 8/3)	橙色(5 Y R 7/6)	摩滅	摩滅	破片	頭：點凸 1	
3173	83	112 S R04 中層	弥生土器	盤			白・透、小一矢、 少・非鐵系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	にぶい黄 色(10 Y R 6/3)	ヘラ磨き	摩滅	小破 片	頭：ヘラ 1	
3174	83	112 S R04 中層	弥生土器	盤			茶・白透、小一矢 多・非鐵系	浅黄色(7.5 Y R 8/4)	橙色(5 Y R 7/6)	摩滅	摩滅	小破 片	頭：段+ヘ ラ 2	
3175	83	112 S R04 中層	弥生土器	盤			白・灰・透、小一矢 多・非鐵系	浅灰色(10 Y R 6/1)	にぶい橙 色(7.5 Y R 7/4)	摩滅	摩滅	小破 片	頭：ヘラ 3	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (4)

番号	神奈川版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外表面調整	内面調整	残存 部	形態上の 特徴	備考
3176	83 113 S R04	中層	弥生土器	盃				白・透・小~中、 多・非漆無系	黄灰色(2.5 Y6/1)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き、ナデ	小破 片			
3177	83 113 S R04	中層	弥生土器	盃				白・灰・少、多 非漆無系	黄灰色(2.5 Y7/1)	黄灰色(2.5 Y6/1)	指押	指押、ナデ	1/6	開：沈墨 洞突2+a	竹管刷尖	
3178	83 113 S R04	中層	弥生土器	盃				白・透・小~中、 多・非漆無系	黄灰色(2.5 Y6/1)	灰白色(10Y R7/1)	摩滅	摩滅	1/8	開：ヘラ2 +刺突	竹管刷尖	
3179	84 113 S R04	中層	弥生土器	盃				(9.0) 白・透、小~中 非漆無系	黄灰色(2.5 Y6/1)	黄灰色(2.5 Y5/1)	ヘラ磨き、 ナデ	ヘラ磨き、 ナデ	1/4			
3180	84 S R04	中層	弥生土器	盃				(10.0) 白・透・小~大、 多・非漆無系	黄灰色(2.5 Y7/2)	にぶい黄 色(10Y R7/ 2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8			
3181	84 113 S R04	中層	弥生土器	盃				7.7 白・透・小~大、 多・非漆無系	黄灰色(2.5 Y6/2)	黄灰色(2.5 Y6/2)	ヘラ磨き、 ナデ	ヘラ磨き、 ナデ	完存			
3182	84 113 S R04	中層	弥生土器	盃				(10.6) 白・透・小~中 多・非漆無系	黄灰色(2.5 Y7/3)	黄灰色(2.5 Y7/2)	ヘラ後ヘラ 磨き、ヘラ 磨き	ヘラ後ヘラ 磨き、ヘラ 磨き	3/8		外面黒斑	
3183	84 S R04	中層	弥生土器	盃				7.9 白・透・小~大、 多・非漆無系	黄灰色(2.5 Y6/3)	にぶい黄 色(2.5Y6/3)	摩滅	摩滅	2/3			
3184	84 113 S R04	中層	弥生土器	盃				7.4 白・透・小~大、 多・非漆無系	黄灰色(2.5 Y6/2)	にぶい黄 色(10Y R7/ 2)	ヘラ磨き、 ナデ	ヘラ磨き、 ナデ	完存		接合面で剥離	
3185	84 S R04	中層	弥生土器	盃				(9.4) 白・透・小~中 非漆無系	黄白色(2.5 Y8/2)	黄白色(2.5 Y7/2)	ヘラ磨き、 ナデ	ヘラ磨き、 ナデ	1/3			
3186	84 S R04	中層	弥生土器	盃				(10.1) 白・透・小~大、 多・非漆無系	黄白色(2.5 Y7/3)	黄白色(2.5 Y6/2)	板ナデ後ヘ ナデ	板ナデ後ヘ ナデ	1/4		外面黒斑、底 面はヘラ磨き	
3187	84 S R04	中層	弥生土器	盃				(6.2) 白・透・小~大、 多・非漆無系	黄白色(2.5 Y7/1)	にぶい黄 色(10Y R7/ 2)	摩滅	摩滅	1/4			
3188	84 S R04	中層	弥生土器	盃				6.5 白・透・小~大、 多・非漆無系	黄白色(2.5 Y6/2)	黄白色(2.5 Y6/2)	ヘラ磨き、 ナデ	ヘラ磨き、 ナデ	完存			
3189	84 113 S R04	中層	弥生土器	盃				7.8 白・透・小~大、 多・非漆無系	黄白色(2.5 Y7/2)	黄白色(2.5 Y7/3)	指押	ヘラ磨き後 指押				
3190	84 113 S R04	中層	弥生土器	盃				(7.5) 白・透・透・小~ 大・少・非漆無系	黄白色(2.5 Y6/2)	にぶい黄 色(2.5 (2.5Y6/3)	板ナデ後ヘ ナデ	ヘラ磨き	1/4			

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (44)

番号	押出	縁標名	層位名	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	土	色調(内面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3191	84 113	SR04	中層	弦生土器		7.0	白・透、小~大、 灰	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ハラ磨き	ハラ磨き	完存		金糸母微
3192	84 113	SR04	中層	弦生土器		(10.6)	白・灰・透、小~ 大、多、非透灰系	黄灰色(2.5 Y4/1)	黄灰色(2.5 Y6/2)	板ナデ後ヘ ララ磨き	板ナデ後ナ デ	1/4		接合面で剥離
3193	84	SR04	中層	弦生土器		8.7	白・透、小~大、 多、非透灰系	にぶい黄褐色 (10YR6/ 3)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ハケ後ヘ ラ	ハケ後	完存		底面はハラ磨 き、外面黒斑
3194	84 114	SR04	中層	弦生土器	(19.6)		白・透、小~中、 多、单透灰系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 YR5/2)	指押後板ナ デ、ナデ	指押後板ナ デ	1/8	口:如意形、 口輪端部遺存	
3195	84 114	SR04	中層	弦生土器	堀		白・灰、黑・透、小~ 大、多、母透系	にぶい黒褐色 (2.5Y6/3)	にぶい黒褐色 (10YR5/ 3)	ハケ後ヘ ラ	ハケ、單滅	1/8	口:如意 形、(如意 形)、ヘラ2	不規
3196	84 114	SR04	中層	弦生土器	(24.6)		白・灰、黑・透、小~ 大、少、非透灰系	にぶい黒褐色 (2.5Y6/4)	灰黄色(2.5 Y7/3)	摩滅、ヘラ 磨き	ナデ	破片	口:如意形、 口輪端部遺存	ヘラ9
3197	84 114	SR04	中層	弦生土器	(22.2)		白・灰、黑・透、小~ 大、多、非透灰系	黄灰色(2.5 Y4/1)	黄灰色(2.5 Y6/3)	ハラ磨き	ハラ磨ナデ、 ヘラ磨き	1/9	口:如意形、 口輪端部遺存	ヘラ4
3198	84 114	SR04	中層	弦生土器			白・透、小~大、 多、单透灰系	にぶい褐色 (7.5YR5/ 3)	灰褐色(7.5 YR3/3)	摩滅、ヘラ 磨き	摩滅	残片	口:如意形、 文:ヘラ3	
3199	84 114	SR04	中層	弦生土器	堀		白・透、小~大、 少、非透灰系	にぶい黄褐色 (10YR5/ 2)	灰黄色(10Y R4/1)	指押後板ナ デ	指押後ヘ ラ	残片	文:ヘラ2	外面黒斑
3200	85 115	SR04	中層	弦生土器	堀		白・灰、小~大、 多、单透灰系	にぶい黄褐色 (10YR5/ 3)	にぶい黄褐色 (10YR7/ 3)	指押、ナデ 磨き後指押	磨滅、ヘラ 磨き	完存	+α	
3201	85	SR04	中層	弦生土器	堀		白・透、小~大、 少、非透灰系	にぶい黄褐色 (2.5Y6/3)	にぶい黄褐色 (2.5Y6/3)	ナデ、ヘラ 磨き	指押、ナデ	1/2	底端部:ヘ ラ2	半軽竹管端文
3202	85	SR04	中層	弦生土器	堀		白・透、小~大、 多、非透灰系	にぶい黄褐色 (5YR7/4)	黄灰色(2.5 Y6/1)	板ナデ後、板 ナデ	摩滅	1/6		内面黒斑
3203	85 115	SR04	中層	弦生土器	堀		白・灰、黑・透、小~ 大、多、非透灰系	にぶい黄褐色 (10YR5/ 3)	灰黄色(2.5 Y4/2)	ハラ磨き後 板ナデ	完存			内面黒斑、裏 面:ヘラ削り 後板ナデ

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (45)

番号	検査回数	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存 事	形態上の 特	備考
3204	85 114	S R04	中層	弥生土器 甌				(7.1) 白・透・小~大、 非漆滅系	黒褐色 (10Y R3/1)	にぶい黄褐色 (10Y R6/ 3)	板ナデ後ヘ ラ磨き	1/3	底面 : ハラ 2	モミジ葉 : ハラ は半載竹管		
3205	85 114	S R04	中層	弥生土器 甌				12.2 白・透・小~大、 非漆滅系	暗灰黄色 (2.5Y 4/2)	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	ハケ	磨滅、ヘラ 磨き	完存	複合面で剥離		
3206	85 115	S R04	中層	弥生土器 甌				自・透・透・小~大、 非漆滅系	にぶい黄褐色 (10Y R7/ 3)	にぶい黄褐色 (10Y R7/ 2)	漆滅	ナデ	破片	口 : 如意形、 文 : 無文		
3207	85 115	S R04	中層	弥生土器 甌	(25.5)			白・透・透・小~大、 多・非漆滅系	灰白色 (2.5 Y8/2)	灰白色 (2.5 Y8/2)	摩擦	摩擦	破片	口 : 如意形、 文 : 無文		
3208	85 115	S R04	中層	弥生土器 甌	(36.1)			白・透・透・大、 多・非漆滅系	にぶい褐色 (7.5Y 6/ 3)	にぶい褐色 (7.5Y 7/)	摩擦	摩擦	破片	口 : 如意形、 文 : 無文		
3209	85 115	S R04	中層	弥生土器 甌				白・透・透・少・ 非漆滅系	黒褐色 (2.5 Y3/1)	暗灰黄色 (2.5Y 4/2)	漆滅	漆滅	破片	口 : 如意形、 文 : 無文		
3210	85 115	S R04	中層	弥生土器 浅鉢				白・茶・黒・透・ 少・非漆滅系	黒褐色 (10Y R3/2)	にぶい黄褐色 (10Y R7/ 3)	ナデ	ナデ	破片	口 : 反、 文 : 残		
3211	85 115	S R04	中層	弥生土器 甌				白・透・透・少・中、 非漆滅系	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	灰黄色 (2.5 Y7/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	小破 片	口 : 反、 文 : 残		
3212	85 115	S R04	中層	弥生土器 甌				白・透・透・少・中、 非漆滅系	暗灰黄色 (2.5Y 7/2)	灰黄色 (2.5 Y7/2)	指押後ヘラ 磨き	板ナデ後ヘ ラ磨き	完存	天井面 : 平 底	天井面 : 平 底	
3213	85 115	S R04	中層	弥生土器 甌				白・透・透・少・大、 非漆滅系	黒褐色 (2.5 Y4/1)	灰黄色 (2.5 Y6/2)	漆滅	漆ナデ後ヘ ラ磨き	ほば はば	天井面 : 平 底	天井面 : 平 底	
3214	85 115	S R04	中層	土製 妨隔車	透5.1	最大厚 1.2	0.5	白・透・小~大、 非漆滅系	孔透	灰黄色 (2.5 Y7/2)	ナデ	7/8	穿孔 1	穿孔のため土 妨隔片転用の当 合不明		
3215	85 115	S R04	中層	土製 妨隔車	透4.0	最大厚 0.7	0.55	白・透・小~大、 非漆滅系	孔透	明帯褐色 (5 YR5/6)	漆滅	7/8	穿孔 1	穿孔のため土 妨隔片転用の当 合不明		
3223	87 117	S R04	上層	弥生土器 甌				白・透・透・少・大、 非漆滅系	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	小破 片	縫 + ヘ 外側縫		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器調査表 (46)

番号	地図版	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3224	87 117	S R04	上層	弦生土器		(7.0)	灰・白・透、小~大、灰・青色(2.5 Y7/2)	灰白色(2.5 Y7/1)		摩滅、楕円子	摩滅、楕円子		1/6			
3225	87 117	S R04	上層	弦生土器	(35.8)		灰・白・透、小~大、灰・青色系	灰白色(2.5 Y8/2)	浅黄褐色(10 YR6/3)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/6	口:段+へ	2本1単位		
3226	87 117	S R04	最上層	弦生土器	(19.4)		灰・白・透、小~大、灰・青色系	灰・青色(2.5 Y6/2)	灰・青色(2.5 Y6/2)	ナア、ヘラ磨き	ナア、ヘラ磨き	1/6				
3227	87 117	S R04	最上層	弦生土器	(35.8)		灰・白・透、小~大、灰・青色系	灰白色(2.5 Y8/2)	橙褐色(7.5 YR8/4)	ヘラ磨き	摩滅	小破片	頭:ヘラ1			
3228	89	S R05	-	弦生土器	(25.2)		多・白・透、中~大、非摩滅系	浅黄褐色(10 YR8/4)	浅黄褐色(10 YR6/6)	摩滅	摩滅	1/8		摩滅調査		
3229	89 117	S R05	-	弦生土器	(25.8)		白・透、基部、小~大、灰・青色系	灰白色(2.5 Y8/2)	にぶい黄色 色(10YR7/2)	ヘラ磨き	横ナデ、側ナデ	1/8	頭:ヘラ1			
3230	89 117	S R05	-	弦生土器	(12.6)		灰・透、小~大、非摩滅系	灰・青色 (2.5Y6/3)	にぶい黄色 色(10YR6/3)	ヘラ磨き	摩滅、指押	摩滅	頭:ヘラ3	細いヘラミガキ		
3231	89 117	S R05	-	弦生土器	(16.2)		白・灰・大、中 非摩滅系	橙色(5YR YR5/2)	浅黄褐色(10 YR5/2)	摩滅	摩滅、指押	破片	口:凸赤、 肩:凹赤 (不明瞭), 文:刻凸1	口唇部の割目 は不明瞭		
3232	89	S R05	-	弦生土器	(14.4)		白・透、小~大、 非摩滅系	浅黄褐色(2.5 Y7/3)	にぶい黄色 色(2.5Y6/3)	摩滅ナデ、摩 擦落	摩滅ナデ、側 落	1/8	頭:ヘラ3	摩滅調査		
3233	89	S R05	-	弦生土器			白・透、小~中、 非摩滅系	灰・青色(2.5 Y7/2)	浅黄褐色(10 YR7/3)	指押後ナデ	1/8	頭:削凸1				
3234	89	S R05	-	弦生土器			白・灰・透、小~大、 非摩滅系	にぶい黄色 色(10YR7/ 3)	浅黄褐色(10 YR8/3)	ナデ	小破片		+ヘラ1			
3235	89	S R05	-	弦生土器			白・透、小~大、 非摩滅系	灰・青色(10 YR6/2)	にぶい褐色 (7.5YR6/ 3)	剥落	小破片					
3236	89	S R05	-	弦生土器			白・透、小~大、 非摩滅系	灰・青色(2.5 Y7/2)	灰白色(2.5 Y7/1)	指押後摩ナ デ	摩滅	小破片		接合面で剥離		
3237	89 117	S R05	-	弦生土器	(40.8)		白・灰・透、小~大、 非摩滅系	にぶい黄色 色(10YR6/ 4)	灰白色(2.5 Y7/1)	剥落	摩片	内:貼凸1	摩滅調査			

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (4)

番号	構図	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存 率	形態上の 特徴	備考		
3238	89 118	S R 05	-	弥生土器 壺	(23.8)			白・透・中~大、 多・非輪底系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	にぶい橙色 (7.5 Y R 7/ 4)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	摩滅		1/8	内面に凸 起2点有無は不明	外面上面 斜2点凸 起2点+α		
3239	89 117	S R 05	-	弥生土器 壺	(15.4)			白・透・小~大、 多・非輪底系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	にぶい黄 色(10 Y R/ 2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	摩滅		ナデ、指押 後ナデ	指押	1/6	裏：摩滅(6 点4点)	指押構成脚指 文
3240	89 118	S R 05	-	弥生土器 壺				白・透・中・少 輪底系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	にぶい黄 色(10 Y R/ 6)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	摩滅		指押さえ	破片	1/6	裏：摩滅(6 点4点)	
3241	89 118	S R 05	-	弥生土器 壺				白・透・中~大、 少・非輪底系	灰 色(7.5 Y 4/1)	オリーブ 色(7.5 Y 1)	ヘラ磨き			指押さえ	破片	1/6	脇：ヘラ2 接合面+α	接合面で剥離
3242	89 118	S R 05	-	弥生土器 壺				白・透・小~大、 少・非輪底系	黄灰色(2.5 Y 6/1)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	浅黄色(2.5 Y 6/1)	摩滅		ナデ	破片	1/6	脇：ヘラ3 黒色付	
3243	89 118	S R 05	-	弥生土器 壺				白・透・小~大、 多・非輪底系	灰 色(5 Y 5/ 1)	灰白色(2.5 Y 8/2)	ヘラ磨き			指押	破片	1/6	脇：ヘラ2 物	
3244	89 118	S R 05	-	弥生土器 壺				白・透・中~大、 多・非輪底系	にぶい黄 色(10 Y R/ 3)	浅黄色(2.5 Y 7/4)	摩ナデ			指ナデ	破片	1/6	脇：ヘラ2 半纏竹管施文	
3245	89 118	S R 05	-	弥生土器 壺				白・透・小~大、 多・非輪底系	灰白色(2.5 Y 8/2)	灰白色(2.5 Y 6/1)	ヘラ磨き			ナデ	破片	1/6	脇：ヘラ4 +α	
3246	89 118	S R 05	-	弥生土器 壺				白・透・小~大、 多・非輪底系	にぶい黄 色(2.5 Y 6/ 3)	浅黄色(2.5 Y 7/4)	摩ナデ			指ナデ、指 押	破片	1/6	脇：ヘラ 4点	浅い色塊 が幅が狭い、砂 粒が粗い
3247	89	S R 05	-	弥生土器 壺				白・透・小~大、 多・非輪底系	にぶい黄 色(2.5 Y 6/ 3)	浅黄色(2.5 Y 7/2)	ヘラ磨き			ナデ	破片	1/6	脇：摩滅(6 点4点)	
3248	90	S R 05	-	弥生土器 壺				(9.4) 白・透・小~大、 多・非輪底系	橙 色(5 Y R/ 7/6)	灰白色(2.5 Y 8/1)	摩滅			指押	破片	1/6	脇：摩滅(6 点4点)	
3249	90	S R 05	-	弥生土器 壺				(6.8) 白・透・茶・小~大、 多・非輪底系	透 青色(10 Y R 8/3)	にぶい橙 色(10 Y R/ 2)	摩滅			ナデ	破片	1/6	脇：摩滅(6 点4点)	外側黒斑
3250	90	S R 05	-	弥生土器 壺				(11.6) 白・透・小~大、 多・非輪底系	灰 色(7.5 Y 8/2)	にぶい橙 色(7.5 Y R/ 4)	摩滅			指押後ナデ	破片	1/6	脇：摩滅(6 点4点)	
3251	90	S R 05	-	弥生土器 壺				(12.0) 透・白・小~大、 多・非輪底系	灰 色(2.5 Y 6/2)	にぶい黄 色(2.5 Y 6/3)	摩滅			ナデ	破片	1/3	脇：摩滅	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (4)

番号	伸因	遺構名	部位名	器種	口径 (cm)	底高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(外因)	色調(内面)	外面調査	内部調整	焼存 率	形態上の 特徴	備考
3252	90	S R 05	-	弦生土器 壺	(10.2)	白・透 多	非繊維系	灰黑色(2.5 Y 6/1)	にぶい褐色 (7.5 Y R 6/ 4)	黒城	黒城	1/4	接合面で剥離			
3253	90	S R 05	-	弦生土器 壺	(7.4)	白・透 多	非繊維系	暗灰色(2.5 Y 3/1)	灰褐色(2.5 Y R 5/2)	指押後板ナ デ	指押後板ナ デ	1/3				
3254	90	S R 05	-	弦生土器 壺	(7.4)	白・透 多	非繊維系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	灰褐色(2.5 Y 2/5)	剥落	黒城、ナデ	1/2				
3255	90	S R 05	-	弦生土器 壺	(9.0)	白・透 多	非繊維系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	にぶい褐色 (7.5 Y R 7/ 4)	黒城	黒城	1/4				
3256	90	S R 05	-	弦生土器 壺	(9.3)	白・透 多	非繊維系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	黄色(5 Y R 6/6)	板ナ	黒城	1/3				
3257	90	S R 05	-	弦生土器 壺	(6.0)	白・透 多	非繊維系	灰白色(2.5 Y 8/2)	灰白色(2.5 Y 7/2)	板ナ	板ナ	7/8				
3258	90	S R 05	-	弦生土器 壺	(6.7)	白・透 多	非繊維系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰白色(2.5 Y 7/2)	指押後板ナ デ	指押後板ナ デ	完存				
3259	90	S R 05	-	弦生土器 壺	(7.0)	白・透 多	非繊維系	暗灰色(2.5 Y 3/1)	灰白色(2.5 Y 8/2)	指押、ナデ	指押、ナデ	1/2				
3260	90	S R 05	-	弦生土器 壺	(6.6)	白・透 多	非繊維系	黄灰色(2.5 Y 5/1)	黄灰色(2.5 Y 6/1)	黒城	黒城	1/4				
3261	90	S R 05	-	弦生土器 壺	(7.0)	灰・白・透 多	非繊維系	黄灰色(2.5 Y 5/1)	黄白色(2.5 Y 7/1)	指押後ナデ	ナデ	1/4				
3262	90	S R 05	-	弦生土器 壺	(7.4)	灰・白・透 多	非繊維系	黄灰色(2.5 Y 5/1)	黄白色(2.5 Y 8/2)	黒城	黒城	1/4				
3263	90	118 S R 05	-	弦生土器 壺	(7.6)	白・透 多	非繊維系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	指押後ナ デ	指押後ナ デ	1/2	外側黒斑			
3264	90	118 S R 05	-	弦生土器 壺	(9.4)	白・透 多	非繊維系	灰白色(5 Y 7/1)	灰白色(5 Y 7/1)	黒城、ナデ	黒城	1/4				
3265	90	118 S R 05	-	弦生土器 壺	(8.0)	白・透 多	非繊維系	にぶい褐色 (2.5 Y 6/3)	灰褐色(2.5 Y 6/2)	指押後ナ デ	指押、完存					
3266	90	119 S R 05	-	弦生土器 壺	(7.8)	白・透 多	非繊維系	黑色(10 Y R 2/3)	にぶい褐色 (10 Y R 2/ 1)	板ナ	板ナ	完存				

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (9)

番号	探査区段	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外側調整	内面調整	残存 部	形態上の 特徴	備考
3267	90	S R 05	-	弦生土器 盞				(6.8) 白・透、小~大、 非鉛釉系	にぶい黄 色(10YR 7/3)	にぶい黄 色(10YR 7/3)	指押、ナデ		1/2			
3268	90	S R 05	-	弦生土器 盞				(10.0) 白・透、小~大、 非鉛釉系	透黃 色(7.5Y 8/6)	透黃 色(7.5Y 8/6)	指押	掌滅	3/4			
3269	90	S R 05	-	弦生土器 盞				7.4	透黃 色(7.5Y 8/6)	透黃 色(7.5Y 8/6)	ナデ		4/5			
3270	90	S R 05	-	弦生土器 盞				(7.2) 白・透、小~大、 非鉛釉系	にぶい黄 色(2.5 Y7/3)	にぶい黄 色(2.5 Y7/3)	指押、板ナ デ		1/4			
3271	90	S R 05	-	弦生土器 盞				(8.0) 白・透、中、少 非鉛釉系	透黃 色(2.5 Y7/3)	透黃 色(2.5 Y7/3)	板ナデ後ナ デ		1/4			
3272	90	S R 05	-	弦生土器 盞				(8.6) 白・透、小~大、 非鉛釉系	にぶい黄 色(5Y R7/4)	にぶい黄 色(5Y R7/4)	指押	掌滅	1/4		外面黒斑	
3273	90	S R 05	-	弦生土器 盞				(7.1) 白・透、小~大、 非鉛釉系	にぶい黄 色(10Y R7/3)	にぶい黄 色(10Y R7/3)	ナデ		1/3			
3274	90	S R 05	-	弦生土器 盞				(6.2) 白・透、小~大、 少、非鉛釉系	透黃 色(7.5 Y7/2)	透黃 色(7.5 Y7/2)	板ナデ後ナ デ		1/3			
3275	90	S R 05	-	弦生土器 盞				(11.4) 白・透、小~大、 多、非鉛釉系	にぶい黄 色(10YR 7/4)	にぶい黄 色(10YR 7/4)	指押	掌滅	1/2			
3276	90	S R 05	-	弦生土器 盞				(9.2) 白・透、小~大、 多、非鉛釉系	透黃 色(7.5 Y7/2)	透黃 色(7.5 Y7/2)	指押後板ナ デ	掌滅	1/6			
3277	90	S R 05	-	弦生土器 盞				9.0 白・透、小~大、 多、非鉛釉系	透黃 色(5Y 6/1)	透黃 色(5Y 6/1)	板ナデ後ナ デ	板ナデ			外面黒斑	
3278	91 119	S R 05	-	弦生土器 盞				(10.5) 白・透、小~大、 多、非鉛釉系	透黃 色(2.5 Y4/1)	透黃 色(2.5 Y4/1)	板ナデ後ナ デ	板片				
3279	91	S R 05	-	弦生土器 盞				6.4 白・透、小~大、 多、非鉛釉系	透黃 色(5 Y6/2)	透黃 色(5 Y6/2)	指押後ナ デ	指押後ナ デ	1/2		外面黒斑	
3280	91	S R 05	-	弦生土器 盞				(8.8) 白・透、小~大、 多、非鉛釉系	灰 色(5Y 4/1)	灰 色(5Y 4/1)	掌滅		3/8			
3281	91	S R 05	-	弦生土器 盞				9.0 白・透、大、 多、非鉛釉系	灰 色(2.5 Y4/1)	灰 色(2.5 Y4/1)	板ナデ後ナ デ	刷滑	3/4		内面は接合面 で剥離か	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器觀察表 (5)

番号	補圖	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外側調整	残存	形態上の 特徴	備考
3282	91	S R 05	-	弥生土器	(6.4)	白・透、小~大、 多・非漆系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	横ナデ、ナ 指押後ナデ	横ナデ、 指押後ナデ	1/4			
3283	91	S R 05	-	弥生土器	8.3	白・透、大、多 ・非漆系	にぶい黄橙 色(10 Y R/ 4)	明黄褐色(10 Y R/74)	摩滅、ハケ 後ナデ	摩滅、ハケ 後ナデ	2/3			
3284	91	S R 05	-	弥生土器	(9.2)	多・透、小~大、 非漆系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	摩滅、板ナ デ	摩滅、板ナ デ	1/3		外面黒斑	
3285	91	S R 05	-	弥生土器	(10.6)	白・透、大、多 ・非漆系	黄褐色(2.5 Y 8/2)	灰白色(2.5 Y 6/1)	剥落、指ナ デ	剥落、指ナ デ	1/2		外面黒斑、 1~3cmの大 きな黒物が混入	
3286	91	S R 05	-	弥生土器	(7.2)	白・透、小~大、 多・非漆系	灰黄色(2.5 Y 4/1)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	剥落 ナデ	剥落 ナデ	1/3			
3287	91 119	S R 05	-	弥生土器	(28.5)	白・透、小~大、 多・非漆系	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3) Y 6/2	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3) Y 6/2	摩滅、ハケ 後ナデ	摩滅、ハケ 後ナデ	1/8	口:如童形、 下端:凸出氣味		
3288	91 119	S R 05	-	弥生土器		白・透、小~中、 多・漆系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	ナデ、板ナ デ	板ナ デ	小破 片	口:逆L字 形、文:ヘラ10		
3289	91 119	S R 05	-	弥生土器		白・透、小~中、 多・非漆系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	指押後摩ナ デ	指押後摩ナ デ	小破 片	口:如童形 下端:全斜		
3290	91 119	S R 05	-	弥生土器		白・透、小~大、 少・漆系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰白色(2.5 Y 7/1)	横ナデ	横ナデ	小破 片	口:逆L字 形、文:ヘラ2		
3291	91 119	S R 05	-	弥生土器		白・透、小~大、 多・非漆系	灰黄色(10 Y R/6) Y 6/2	にぶい黄色 色(10 Y R/ 3)	摩滅	摩滅	小破 片	口:如童形 下端:全斜		
3292	91 119	S R 05	-	弥生土器		白・透、小~中、 多・非漆系	灰白色(2.5 Y 8/2)	灰白色(2.5 Y 8/2)	ナデ	ナデ	小破 片	口:凸形、 文:D字		
3293	91 119	S R 05	-	弥生土器		白・透、中~大、 多・漆系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰白色(2.5 Y 7/1)	摩滅	摩滅	小破 片	口:凸形、 文:ヘラ3		
3294	91 119	S R 05	-	弥生土器		白・透、小~大、 多・漆系	灰灰色(2.5 Y 5/1)	灰白色(2.5 Y 7/1)	指押後ナデ	指押後ナデ	ナデ	口:如童 形、文:ヘラ3		
3295	91	S R 05	-	弥生土器	(7.0)	白・透、漆系	にぶい黄色 色(10 Y R/ 2)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	ナデ	ナデ	1/2			

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (5)

番号	地図	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3296	91	S R 05	-	弥生土器 甕		(6.4)	白・透、小~大、 非断続系	灰	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ナデ	ナデ	1/6		
3297	91	S R 05	-	弥生土器 甕		(8.4)	白・透、小~中、 非断續系	灰	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	指揮後板ナ デ	指揮後板ナ デ	1/2		
3298	91	S R 05	-	弥生土器 甕		(6.4)	白・透、小~大、 非断續系	黄褐色	浅黄色(10 Y R5/6)	浅黄色(2.5 Y7/3)	指揮後板ナ デ	指揮後板ナ デ	1/6		
3299	91	S R 05	-	弥生土器 甕		(10.0)	白・透、小~大、 非断續系	灰	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ナデ、摩滅	摩滅	3/8	外面黒斑、底 面にモコ压痕	
3300	91	S R 05	-	弥生土器 甕		(10.0)	白・透、小~大、 非断續系	灰	灰白色(2.5 Y8/2)	灰白色(2.5 Y7/1)	ナデ	摩滅	1/4	胎土中に腐化 物含	
3301	91	S R 05	-	弥生土器 甕		(5.8)	白・透、小~大、 非断續系	灰	灰黄色(2.5 色(10 YR 6/4)	灰黄色(2.5 Y7/2)	摩滅	摩滅	1/4		
3302	91	S R 05	-	弥生土器 甕		(7.6)	白・透、小~大、 非断續系	灰	褐色(10 YR 4/4)	褐色(10 YR 4/4)	指揮後ナデ、 ナデ	指揮後ナデ、 ナデ	1/4		
3303	91	S R 05	-	弥生土器 甕		(6.2)	灰・白・透、小~大、 非断續系	灰	灰白色(2.5 Y7/1)	灰白色(2.5 Y7/1)	摩滅	ナデ	1/4		
3304	91	S R 05	-	弥生土器 甕		(7.0)	白・透、小~大、 非断續系	灰	灰黄色(2.5 Y5/1)	灰黄色(2.5 Y5/1)	ナデ	ナデ	1/4		
3305	91	S R 05	-	弥生土器 甕		(7.6)	白・透、中~大、 非断續系	灰	灰褐色(10 YR 6/2)	灰褐色(10 YR 6/2)	板ナデ後ナ デ	板ナデ後ナ デ	1/3		
3306	91	S R 05	-	弥生土器 甕		(5.2)	白・透、小~大、 非断續系	灰	ぶい褐色 (7.5 YR 6/ 4)	浅黃褐色 (7.5 YR 6/ 4)	摩滅	摩滅	1/4		
3307	91 119	S R 05	-	弥生土器 甕		(6.6)	白・透、小~大、 非断續系	灰	灰黄色(5 Y/ 1)	灰黄色(5 Y/ 1)	ナデ、剥落	摩滅	1/2	外面黒斑	
3308	91 119	S R 05	-	弥生土器 甕		(8.2)	白・透、小~中、 非断續系	灰	灰黄色(5 Y/ 1)	灰黄色(5 Y/ 1)	ハケ、ナデ	板ナデ	1/6		
3309	91	S R 05	-	弥生土器 甕		6.6	白・透、小~中、 非断續系	灰	灰黄色(2.5 Y7/3)	灰黄色(10 YR 6/2)	板ナデ、ナ デ	板ナデ	先存	撮合面で剥離	
3310	91	S R 05	-	弥生土器 甕		7.2	白・透、小~大、 非断續系	灰	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	板ナデ後ナ デ	板ナデ後ナ デ	1/5		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器觀察表 [2]

番号	構図	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3311	91 119	S R05	-	弥生土器 甌	(9.5)	白・透、小~大、 非繩縫系	灰黃色(2.5 Y7/3)	灰黃色(2.5 Y8/2)	灰白色(2.5 Y8/2)	灰黃色(2.5 Y8/2)	摩城、ハケ ナデ	摩城	1/4			
3312	91	S R05	-	弥生土器 甌	(8.8)	白・透、小~大、 非繩縫系	灰白色(2.5 Y8/2)	灰白色(2.5 Y8/2)	灰白色(2.5 Y8/2)	灰白色(2.5 Y8/2)	摩城 ナデ	摩城	1/3			
3313	91	S R05	-	弥生土器 甌	(7.8)	灰・白・透、小~大、 非繩縫系	灰黃褐色(10 YR6/2)	灰黃褐色(10 YR7/2)	にぶい黄褐色 (10 YR7/ 2)	にぶい黄褐色 (10 YR7/ 2)	摩城 ナデ	摩城	1/6			
3314	91 119	S R05	-	弥生土器 甌	(6.6)	白・透、小~大、 非繩縫系	灰黃色(2.5 Y7/2)	灰黃色(2.5 Y6/2)	灰黃色(2.5 Y6/2)	灰黃色(2.5 Y6/2)	摩城、板ナ デ	摩城	1/3	底部地或後 算孔		
3315	91 120	S R05	-	弥生土器 甌	(6.1)	白・透、小~大、 非繩縫系	黄灰色(10 Y R6/3)	黄灰色(10 Y R6/3)	にぶい黄褐色 (10 YR6/ 2)	にぶい黄褐色 (10 YR6/ 2)	摩城	摩城	1/3	底部地或後 算孔		
3316	92 120	S R05	-	弥生土器 甌	(5.8)	白・透、透、小~大、 非繩縫系	明黄褐色 (2.5Y6/6)	明黄褐色 (2.5Y6/6)	明黄褐色(2.5 Y6/2)	明黄褐色(2.5 Y6/2)	摩城、ナデ ナデ	摩城	1/8	口:(如彫形) 口文:無文		
3317	92 120	S R05	-	弥生土器 甌	(30.5)	白・透、中~大、 非繩縫系	灰 Y6/2	灰 Y6/2	明黄褐色(10 YR6/6)	明黄褐色(10 YR6/6)	剥落 ナデ	剥落 ナデ	1/8	口:(如彫形) 口文:無文		
3318	92 120	S R05	-	弥生土器 甌	(24.5)	白・透、中~大、 非繩縫系	灰 Y6/1	灰 Y6/1	明黄褐色(2.5 Y6/2)	明黄褐色(2.5 Y6/2)	摩城 ナデ、ナ デ	摩城 ナデ、ナ デ	1/8	心形、 底部地或部分 剥落		
3319	92 120	S R05	-	弥生土器 甌	(24.5)	白・透、透、小~大、 非繩縫系	多 Y6/3	多 Y6/3	にぶい黄褐色 (10 YR7/ 3)	明黄褐色(10 YR6/6)	摩城	摩城	1/8	口:(如彫形) 口文:無文		
3320	92 120	S R05	-	弥生土器 浅鉢	(19.5)	白・透、小~大、 非繩縫系	灰 Y6/1	灰 Y6/1	黄灰色(2.5 Y6/1)	黄灰色(2.5 Y6/1)	摩城 ナデ	摩城 ナデ	1/8	口内: ヘラ 口内: ヘラ	規文系	
3321	92 120	S R05	-	弥生土器 高杯	(19.5)	白・透、小~大、 非繩縫系	活版 Y6/2	活版 Y6/2	黄灰色(2.5 Y6/2)	黄灰色(2.5 Y6/2)	摩城 ナデ	摩城 ナデ	1/8	脚: 刻凸 (V字)		
3322	98 124	S X07	-	弥生土器 盞	(14.5)	茶・白・透、小~大、 非繩縫系	多 Y6/1	多 Y6/1	黄灰色(2.5 YR8/3)	黄灰色(2.5 YR8/3)	摩城	摩城	1/8	口頭部の摩城		
3323	98 124	S X07	-	弥生土器 盞	(14.5)	白・透、小~大、 非繩縫系	少 Y4/1	少 Y4/1	にぶい黄褐色 (2.5 Y4/ 1)	にぶい黄褐色 (2.5 Y4/ 1)	摩城、ヘタ ナデ	摩城、ヘタ ナデ	1/6	頭: 前凸		
3324	98 124	S X07	-	弥生土器 盞	(6.3)	白・透、小~大、 非繩縫系	強 Y5Y4/2	強 Y5Y4/2	暗 Y5Y4/2	暗 Y5Y4/2	ヘタ磨き 板ナデ後へ うき	ヘタ磨き 板ナデ後へ うき	完存			
3325	98	S X07	-	弥生土器 盞	(3.4)	白・透、小~大、 非繩縫系	強 Y7/3	強 Y7/3	暗 Y5Y4/2	暗 Y5Y4/2	指押、摩城	指押、摩城	1/3	脚: 直弧文		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (53)

番号	種別	標識名	層位名	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	粘土	色調(内面)	色調(外面)	外表面	内面調整	形態上の特徴	
													板ナデ	板ナデ
3356	98	124 S X 07	-	弦生土器 壺	(22.8)	(9.0)	白・透、小~大、 多	灰・青黒	灰黄褐色(2.5 Y 6/2)	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	板ナデ	板ナデ	1/4	口:如意形、斜 面黒斑
3357	98	124 S X 07	-	弦生土器 壺	(18.6)	(8.0)	茶・白透、小~大、 多	灰・白透、小~大、 少	灰黄褐色(2.5 Y 7/2)	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	板ナデ	板ナデ後へ 剥離	1/8	口:如意形、斜 面黒斑
3358	98	124 S X 07	-	弦生土器 壺	(10.2)	(4.5)	白・透、透、大、 多	浅黄色(2.5 Y 7/3)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	ハケ目、横 ナデ	横 ナデ	1/8	口:如意形、斜 面黒斑	
3359	98	124 S X 07	-	弦生土器 壺	(10.2)	(4.5)	白・透、透、大、 多	明赤褐色(5 Y 5/6)	明赤褐色(5 Y 5/6)	剥落	剥落	1/6	口:如意形、斜 面黒斑	
3360	98	124 S X 07	-	弦生土器 壺	(8.6)	(4.5)	茶・白透、小~大、 多	浅黄色(2.5 Y 7/3)	明赤褐色(5 Y 5/6)	剥落、指押	剥落、指押	1/2	口:如意形、斜 面黒斑	
3361	98	124 S X 07	-	弦生土器 壺	(13.0)	(6.6)	白・透、透、中、 少	灰黄褐色(7.5 Y R 4/2)	灰黄褐色(7.5 Y R 4/2)	指押、ナデ	指押、ナデ	1/2	口:如意形、斜 面黒斑	
3363	100	125 S D 52	-	弦生土器 高杯	(13.0)	(6.6)	白・透、透、中、 少	灰白褐色(2.5 Y 8/2)	灰白褐色(2.5 Y 8/2)	剥離	剥離	1/3	杯底部円盤光 境	
3368	105	125 S R 06	-	弦生土器 壺	(16.1)	(8.0)	白・透、透、中、 少	灰白色(2.5 Y 7/1)	にぶい黄色 (7.5 Y R 7/ 6)	剥離	剥離	1/3	口:如意形、斜 面黒斑	
3369	105	125 S R 06	-	弦生土器 壺	(16.1)	(8.0)	白・透、透、中、 少	灰白色(2.5 Y 7/1)	灰白色(2.5 Y 6/1)	ナデ	ナデ	1/3	口:如意形、斜 面黒斑	
3370	105	125 S R 06	-	弦生土器 壺	(24.4)	(12.0)	白・透、透、中~大、 少	にぶい橙色 (7.5 Y R 7/ 6)	にぶい橙色 (7.5 Y R 7/ 6)	剥離	剥離	1/3	口:如意形、斜 面黒斑	
3371	105	125 S R 06	-	弦生土器 壺	(16.1)	(8.0)	白・透、透、中~大、 少	にぶい橙色 (10 Y R 7/ 4)	にぶい橙色 (10 Y R 7/ 4)	剥離	剥離	1/3	口:如意形、斜 面黒斑	
3372	105	125 S R 06	-	弦生土器 壺	(24.4)	(12.0)	白・透、透、中~大、 少	灰黄褐色(2.5 Y 6/2)	灰黄褐色(2.5 Y 6/2)	横ナデ、ナ テ	横ナデ、ナ テ	1/12	口:如意形、斜 面黒斑	
3373	105	125 S R 06	-	弦生土器 壺	(24.4)	(12.0)	白・透、透、中~大、 少	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	にぶい黄色 (2.5 Y 6/4)	剥離	剥離	1/5	口:如意形、斜 面黒斑	
3374	105	125 S R 06	-	弦生土器 壺	(16.1)	(8.0)	白・透、透、中~大、 少	灰黄褐色(2.5 Y 7/2)	灰黄褐色(2.5 Y 7/2)	ナデ	ナデ	1/5	口:如意形、斜 面黒斑	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 [54]

番号	補圖	面級	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存 率	光面上の 特徴	参考	
3375	105	125	S R 06	-	弦生土器 壺	(10.0)			白・透、小~大、 多	灰 1)	灰(5Y4/ 3)	暗灰色(N 3)	擦磨ナデ、ヘ ラナデ	剥落、指押	1/6	口:凹縮文 2、頭部 縞文		
3376	105	126	S R 06	-	弦生土器 壺				8.8	白・透、中~大、 多	明赤褐色(5 YR5/6)	灰黃色(5 Y6/2)	指押後ナデ 曲き、指押 ナデ	完好		外面部斑		
3377	105	126	S R 06	-	弦生土器 壺				(8.6)	白・透、中~大、 多	にぶい黄色 (2.5Y6/3) 1)	灰 1)	剥落	ナデ	5/8	外面部斑		
3378	105		S R 06	-	弦生土器 壺				4.6	透、白、中~大、 多	灰 1)	灰黃色(2.5 Y7/2)	指押後ナデ 板ナデ	完好		外面部斑		
3379	105		S R 06	-	弦生土器 壺				(7.0)	白・透、中~大、 多	灰 1)	灰黃色(2.5 Y7/3)	指押後ナデ、ナ デ	1/2	複合面で剥離			
3380	105		S R 06	-	弦生土器 壺				(9.4)	白・灰、大、多	灰 1)	灰黃色(2.5 Y7/2)	指ナデ後へ ラ筋き	1/3				
3381	105		S R 06	-	弦生土器 壺				(9.2)	白・灰・透、大、 多	にぶい黃褐色 (10YR7/ 2)	灰 1)	板ナデ後ナ デ	ナデ	1/2			
3382	105	126	S R 06	-	弦生土器 壺				10.2	透、白、中~大、 多	灰 1)	灰黃色(2.5 Y4/1)	指押後板ナ デ、ナデ	剥落	5/8			
3383	105		S R 06	-	弦生土器 壺				(7.1)	少	白・灰・透、小~大、 多	灰 1)	にぶい黃褐色 (2.5Y6/3)	ナデ	ナデ	1/4		
3384	105		S R 06	-	弦生土器 壺				(7.0)	灰・白・透、中~大、 多	灰 1)	灰白色(2.5 Y7/1)	摩擦、ナデ	擦滅	1/8			
3385	105		S R 06	-	弦生土器 壺				7.0	白・茶・黒、小~大、 多	にぶい黃褐色 (10YR6/ 3)	にぶい黃褐色 (10YR7/ 3)	指押、指押 ナデ	完好		外面部斑		
3386	105		S R 06	-	弦生土器 壺				5.0	白・透、小~大、 多	灰 1)	灰黃褐色(10 YR6/2)	板ナデ	完好		内面部茶色付 着物		
3387	105		S R 06	-	弦生土器 壺				(8.0)	白・灰・透、小~大、 少	灰 1)	灰黃色(2.5 Y6/2)	ナデ	指ナデ	1/4	複合面で剥離		
3388	105		S R 06	-	弦生土器 壺				4.4	白・透、素、中~大、 多	灰 1)	灰黃褐色(10 YR6/3)	摩擦	完好		外面部斑		
3389	105		S R 06	-	弦生土器 壺				5.2	茶・白・灰、大、 多	褐灰色(10Y R4/1)	灰褐色(2.5 Y5/3)	ハゲ・擦滅	ナデ	完好			

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (5)

番号	探査区	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面部鑑定	内面部鑑定	残存率	形態上の特徴	備考
3390	105	S R06	-	弦生土器 鉢	(22.2)			白、小~大、少	黒色(2.5Y 2/1)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	横ナデ	横ナデ	小破片	口:凹縁文 3 + a 口端:凹縫 文2	黒縁	
3391	105	126 S R06	-	弦生土器 高杯	7.4	つまみ 径7.4	つまみ 白・灰、大、多	にぶい青色 (7.5Y 6/3)	灰青色(2.5 Y 6/2)	にぶい青色 (7.5Y R 6/ 3)	横ナデ ラ筋き	横ナデ後へ ラ筋き	1/4	口:無文	外面部無	
3392	105	S R06	-	弦生土器 甌	4.8	つまみ 径4.8	つまみ 白・灰、大、多	にぶい青色 (7.5Y R 6/ 3)	灰青色(2.5 Y 6/2)	にぶい青色 (7.5Y R 6/ 4)	横ナデ 指押さえ ナダ	横ナデ 指押	完存			
3393	105	S R06	-	弦生土器 甌	4.8	孔径 0.5	孔径 0.5	白・透、小~中、 0.5多	灰黄色(2.5 Y 7/2)	黄褐色(10Y R 6/6)	明黄褐色(10 Y 7/1)	ナデア、指押 後ナデア	1/2			
3394	105	126 S R06	-	弦生土器 甌	13.0	孔径 0.5	孔径 0.5	白・透、小~中、 0.5多	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰白色(2.5 Y 7/1)	ナデ	ナデ	完存	天井:ヘラ 1	焼成前の穿孔	
3395	106	126 S R06	-	弦生土器 甌	20.8			白・透、小~大、 0.5多	にぶい青色 (10Y R 6/ 3)	にぶい青色 (2.5Y 6/3)	横ナデ後 板ナデ	横ナデ後 板ナデ	1/4	口縁端部は 金糸母多 ナデ	金糸母多	
3396	106	126 S R06	-	弦生土器 甌	14.4			系・白、中~大、 少	青灰褐色(2.5 Y 6/1)	灰青色(2.5 Y 6/2)	横ナデ、ハ ラ筋き	横ナデ後ヘラ筋 ナデ	1/6	頭部は頭闊 おいてヘラ 筋き	角閃石・黒雲 母多	
3397	106	126 S R06	-	弦生土器 甌	13.0			白・系、小~大、 少	にぶい青色 (10Y R 6/ 3)	にぶい青色 (2.5Y 6/3)	横ナデ・棒 押	横ナデ、指 押	1/8		外面部無	
3398	106	S R06	-	弦生土器 甌	17.4			白、小~大、多	灰黄色(10 Y R 6/2)	灰色(5Y 6/ 3)	タクキ後横 ナデ	横ナデ、板 押	1/8		金糸母微量	
3399	106	126 S R06	-	弦生土器 甌	13.5			灰、小、多	灰色(7.5Y 5/1)	灰オリーブ 色(5Y 5/2)	ハケ後横ナ デ	指押、ナデ 前リ	5/8	口縁端部は 金糸母多 ナデ	高公平野西南 角閃石、胸内石	
3400	106	S R06	-	弦生土器 甌	15.0			白・系、小~大、 多	灰黄色(2.5 Y 6/2)	黄褐色(2.5 Y 5/3)	横ナデ、ハ ラ筋き	横ナデ後ヘラ筋 ナデ	1/6		吉備系	
3401	106	127 S R06	-	土師器 甌	15.0			白・系・灰、小~大、 少	にぶい青色 (7.5Y R 6/ 3)	にぶい青色 (10Y R 6/ 3)	横ナデ、ハ ラ筋き	横ナデ、剥 落、指押、棒 押	1/2			
3402	106	S R06	-	弦生土器 甌	3.1			白・透、大、多	にぶい青色 (2.5Y 6/3)	黄褐色(2.5 Y 5/3)	指押、毫滅 ナデ	ナデ	完存			

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (6)

番号	神園図版	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外側調整	内面調整	残存 部	形態上の 特徴	備考
3403	106	S R 06	-	弥生土器 甕		(3.4)	白・透、中~大、 (2.5Y6/3)	にぶい青色 (2.5Y6/3)	ハケ後ナデ テ	ハケ後ナデ テ	4/5	外側黒斑			
3404	106	S R 06	-	弥生土器 甕		(3.3)	白・透、小~大、 (10YR6/ 4)	にぶい青色 (10YR6/ 4)	黄褐色(2.5) Y5/3	ハケ	ハケ後ナデ テ	完存	金賞母 多		
3405	106	S R 06	-	弥生土器 甕		(5.7)	灰、中~大、多	黄褐色(2.5) Y5/3	オリーブ褐 色(7.5Y3/ 1)	ハケ	ヘラ削り	2/3	金賞母 多		
3406	106	S R 06	-	弥生土器 甕		(2.3)	白・透、小~大、 少	黄灰色(2.5) Y4/1	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	タキ後ナ デ	指押さえ後 ヘラ削り	完存			
3407	106	S R 06	-	弥生土器 甕		(4.5)	白、小~中、多	にぶい黄色 (2.5Y6/3) 2/1	黑色(2.5Y 2/1)	ハケ	ナデ後ハケ	1/3	角閃石・金雲 母鐵		
3408	106 127	S R 06	-	土器器 小型丸底 甕		(9.2)	8.8 脚部透 白・茶、中~大、 多	灰色(10Y5/ YR8/3)	オリーブ質 色(5Y6/3)	烟ナア、ヘ ラ削き	押ナア、指 押ナア、ヘ ラ削り	7/8	肩部に輪列 黒色付着物		
3409	106 127	S R 06	-	土器器 小型丸底 甕		(7.8)	脚部透 白、中、微 透	浅黄色(10 Y7/2)	灰黄色(10 Y7/2)	烟ナア、ハ ナア	ナア	完存			
3410	106 127	S R 06	-	土器器 小型丸底 甕		(7.8)	脚部透 茶・白、大、多	灰 色(N 5/3)	灰 色(N 5/3)	板ナデ・掌 滅	指押・掌滅	完存			
3411	106 127	S R 06	-	土器器 小型丸底 甕		(9.0)	脚部透 茶・白、大、多	灰 色(5Y5/ 1)	にぶい青色 (2.5Y6/3)	ハケ後ナデ テ	指押	1/2			
3412	107	S R 06	-	土器器 甕		(17.6)	自・茶、小~大、 多	青 色(2.5Y5/ 2)	にぶい青色 (2.5Y5/2)	ハケ後ナデ テ	ヘラ削き	1/4	複合口縫、 外側黒斑 金賞母多 賜		
3413	107	S R 06	-	土器器 甕		(16.0)	白・茶、小~大、 多	にぶい青色 (10YR7/ 4)	にぶい褐色 (7.5YR7/ 3)	指押後擦ナ グ	板ナデ後擦 ナグ	7/8	断面黒色化		
3414	107	S R 06	-	土器器 甕		(15.0)	白、小~中、少	灰 色(5Y5/2)	灰 色(5Y5/2)	区オリーブ 色	ハケ後ナデ テ、ハケ、ヘラ 削り	1/2	封形の開部、 外側黒斑 物		
3415	107	S R 06	-	土器器 甕		(31.6)	白・透、小~中、 少	浅黄色(2.5) Y7/3	にぶい青色 (10YR7/ 4)	焼 ナア、指 押ナア、ヘ ラ削き	ハケ・擦滅、 ヘラ削り	1/10	口縫縦やか に外反		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器觀察表 (57)

番号	層位名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底性 (cm)	胎 灰・素、大、少	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	焼存	形態上の 特徴	備考
3416	107	128	S R 06	-	土師器 高杯	(30.6)		灰青色(2.5 Y 6/2)	にぶい黄色 (10 Y R6/ 3)	焼ナデ後暗 文風のヘラ 焼き	1/8	口縁部凹曲 して外反	外面黒斑
3417	107	128	S R 06	-	土師器 高杯	18.9		灰青色(2.5 Y 6/2)	オリーブ黄 色(5 Y 6/3)	ハケ後ナデ	ナデ	折底部の凹 曲が甘口 像筋部は楕円 かわらけ	外面黒斑
3418	107		S R 06	-	土師器 高杯	(15.1)		にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	焼ナデ	ナデ	1/5 杯底部の屈 曲が甘口 口縁部は膨 らみ気味に 立ち上がり 立端部が凹曲 している	前面黒色化
3419	107	128	S R 06	-	土師器 高杯		14.0	にぶい黄色 (2.5 Y 6/4)	灰青色(2.5 Y 6/2)	ハケ後焼ナ デ	ナデ	脚柱部は中 間部は大き く開脚部は く余脚部は ちつ	外面黒斑
3420	107		S R 06	-	土師器 高杯			にぶい黄色 (2.5 Y 6/4)	にぶい黄色 (10 Y R6/ 3)	焼ナデ、ヘ ラ焼き	ナデ	脚柱部は中 間部は大き く開脚部は く余脚部は ちつ	外面に炭化物
3421	107		S R 06	-	土師器 高杯			にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	浅青色(2.5 Y 7/4)	指令、摩滅	ヘラ刷り、 ナデ	脚柱部は中 間部は大き く開脚部は く余脚部は ちつ	脚柱部は中 間部は大き く開脚部は く余脚部は ちつ
3422	107	128	S R 06	-	土師器 高杯		11.6	素・白、中～大、 少	灰青色(2.5 Y 7/2)	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	ナデ	1/2 脚中腹らみ、 脚部は短く開 き、脚部は く收める	外面黒斑
3423	107		S R 06	-	土師器 高杯		(10.5)	白・素、小～大、 少	オリーブ黑 色(7.5 Y 3/ 2)	ハケ後焼ナ デ	1/5 燒済丸く 見める	外面黒斑	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器觀察表 58

番号	神田 固板 遺構名	所位名	器種	口径 (cm)	脚高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	焼存 率	形態上の 特徴	備考
3424 108 129 S R 06	-	須恵器 甕		(24.0)			白、小~中、少	灰色(N6/)	灰色(N5/)	圓板ナデ、 平行ナタキ	1/2	口縁部堅く 外筋を細形 に肥厚	焼成時の際れ が目立つ	
3425 108	S R 06	-	須恵器 甕				白、少、少	灰色(N6/)	灰色(N5/)	圓板ナデ、 タキナ目	1/2	口縁部堅く 外筋を細形 に肥厚	焼成時の際れ が目立つ、34 個と同一個体	
3426 108 129 S R 06	-	須恵器 杯身		13.0	5.3	4.5	白、小~大、少	灰色(N5/)	灰色(N6/)	圓板ナデ、 ヘラ削	1/2	内面當て真直 くなく 内面は絞し て消し	焼成時の際れ が目立つ、24 個と同一個体	
3427 108 129 S R 06	-	須恵器 杯身	(10.7)	4.1	(6.3)	白、中~大、少	灰白色(5Y 7/1)	灰色(N5/)	灰色(5Y 1)	圓板ナデ、 ヘラ削	1/8	底部へ切 り込み調整	受部に砂粒附 着	
3428 108	S D 52	-	須恵器 杯身	(10.4)			白灰、少、多	灰白色(5Y 8/)	灰白色(N 7/7)	圓板ナデ、 ヘラ削	1/8			
3429 108	S D 52	-	須恵器 杯				自灰・透、少~大、 多	灰色(N5/)	灰色(N4/)	圓板ナデ、 ヘラ切り後	1/6			
3430 108	S R 06	-	土師器 杯	(14.4)	4.65		白、透灰、中~大、 多	灰黄色(2.5 Y 6/2)	暗灰、黃色 (2.5 Y 5/2)	圓板ナデ後、 指押	3/8	円盤状高台 黒色付着物 固板台土跡		
3431 108 129 S R 06	-	須恵器 高杯					灰・茶・白、中~大、 少	灰色(N6/)	灰色(N5/)	圓板ナデ、 指押	1/2			
3432 108 129 S R 06	-	土師器 蓋把手					白・透、少~大、 多	浅黄色(2.5 Y 7/3)	にぶい黄透 3)	指押後板ナ 被片				
3466 116	S B 10	-	土師器 皿	(13.6)			茶・白・透、少、 多	灰白色(2.5 Y 8/1)	灰白色(2.5 Y 8/1)	圓板ナデ	1/8			
3467 116	S B 10	-	黑色土器 碗				白・灰・素、少、 少	オリーブ黒 色(5Y 3/1) 8/2	茶	ヘラ磨き 片		口縁部陥落吸 着	黒色土器A類	
3469 121	S B 11 S B 12	-	黑色土器 碗				(7.0) 白・黑、少、 少	黄灰色(2.5 Y 5/1)	浅黄褐色 (7.5 YR 8/6)	底面指押、 高台ナデ	1/2	貼付高台、黒 色土器A類		
3470 121	S B 11 S B 12	-	須恵器 甕				白、少、少	灰色(N6/)	灰色(N5/)	梯子叩き 回転ナデ	小破 片			
3471 121	S B 11 S B 12	-	土師器 羽量				白・灰・透、少~大、 多	橙色(7.5 Y R 6/6)	明赤褐色(5 Y R 5/6)	梯子後ナ 被片				

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (59)

番号	埠園	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内部調整	残存 率	形態上の特 徴	備考
3472	123	135	S B13	-	土師器 皿	9.6	1.7	6.1	白、小、微 少	灰白色(10Y R8/2)	灰白色(10Y R8/2)	ヘラ切り後 板ナデ	回転ナデ後 ナデ	完存		
3473	123	135	S B13	-	土師器 皿	(9.1)		(6.5)	白、小、少	褐色(10Y R5/1)	にぶい黄褐色 (10Y R7/ 3)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
3474	123	135	S B13	-	土師器 杯				白・茶、小、少	浅黃褐色(10 Y R8/3)	浅黃褐色(10 Y R8/3)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	小破 片	断面黒色化	
3475	123	135	S B13	-	土師器 碗	15.6	5.9	4.8	茶・白、小、多 少	灰青色(2.5 Y7/2)	灰白色(2.5 Y8/2)	板状正直後 ナデ	板状正直後 ナデ	完形		外面に黒斑、 見込部打欠き
3476	123	135	S B13	-	黑色土器 碗			(7.4)	白、小、微 少	暗灰色(N 3)	灰白色(2.5 Y8/2)	板状正直後 ナデ	板状正直後 ナデ	1/8		
3477	123	135	S B13	-	須恵器 甕				自・透、小~中、 多	灰色(N4/1)	灰色(N6/1)	帽子叩き	帽子叩き	小破 片		
3479	127		S A01	-	黑色土器 碗				白、小、少	灰色(5Y4/ 1)	灰白色(5Y 8/1)	摩滅	摩滅	破片		黒色土器A類、 貼付高台
3480	130		S A02	-	弦生土器 甕			(7.2)	白・灰・透、小~大、 にぶい黄褐色 (10Y R6/ 4)	橙色(7.5Y R6/6)	橙色(7.5Y R6/6)	摩滅、板ナ デ	摩滅、板ナ デ	1/5		黒色土器A類、 貼付高台
3481	130	136	S A02	-	土師器 皿	(32.2)			白・黑・灰・茶・透、 にぶい黄褐色 (10Y R5/ 3)	灰褐色(10 Y5/2)	灰褐色(10 Y5/2)	ハケ後指押 板ナデ後指押 ナデ	ハケ後指押 板ナデ後指押 ナデ	1/8		
3483	131		S A03	-	弦生土器 碗			(5.3)	白・灰・透、 小、多	にぶい黄褐色 (10Y R7/ 3)	にぶい黄褐色 (10Y R7/ 4)	板ナデ	板ナデ	1/5		
3484	131	136	S A03	-	土師器 皿	(9.8)	1.7	(6.7)	茶・白・透、小~中、 多	灰褐色(2.5 Y7/2)	灰白色(2.5 Y8/2)	回転ナデ後 ナデ	回転ナデ後 ナデ	1/4		底面へラ切り
3485	134	136	S P107	-	土師器 碗	(14.9)			灰・茶、小、多	灰白色(2.5 Y8/2)	灰白色(5Y 8/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/9		底面板状圧痕
3486	134	136	S P57	-	黑色土器 碗	(15.0)			白・茶、小、少	黑色(2.5Y 2/1)	灰白色(2.5 Y8/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/5		黒色土器A類
3488	136	136	S D53	-	土師器 擂钵			(13.3)	白・灰・茶・透、小 ~大、多	にぶい黄褐色 (10Y R7/ 3)	灰黄色(2.5 Y7/2)	擦減、ハナ 押	擦減、ハナ 押	1/4		覆め4枚

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (6)

番号	検出箇所	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	焼付 率	形態上の 特徴	備考
3489	136	136	S D53	-	土師器 片			白・灰・茶、小、多	灰・黄・色 (2.5 Y 4/2)	褐・灰・色 (2.5 Y 4/2)	指ナデ	指押			
3490	141	S D57	-	土師器 片			(5.6)	白・灰・透、少	にぶい黄褐色 (10 Y R 7/2) 2)	浅黄褐色 (10 Y R 8/3)	ヘラ削き	1/8	貼付高台		
3491	141	S D57	-	須恵器	(23.2)			白・黑、小、少	灰白色 (N 7/)	灰色 (N 6/)	圓板ナデ	筆誠	1/8		
3493	143	137	S D59	-	土師器 杯	(13.9)	3.35	(7.4) 茶・白・透、少~中 多	浅黄褐色 (10 Y R 8/3)	浅黄褐色 (10 Y R 8/3)	筆誠、ヘラ 切り後ナデ	筆誠	1/8		
3494	143	137	S D59	-	須恵器			灰・白、小~大、 多	灰色 (N 5/)	灰色 (N 7/)	圓板ナデ	圓板ナデ	1/8		
3497	146	137	S D60	最下層	土師器 片			(7.4) 白、小、微	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	圓板ナデ (2.5 Y 7/2)	圓板ナデ (2.5 Y 7/2)	1/4	圓板台土跡跡	
3498	146	137	S D60	下層	土師器 片	(12.5)	(6.5)	白、小、少	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	ヘラ切り後 ナデ	圓板ナデ	1/3		
3499	146	137	S D60	下層	土師器 片	(13.8)	3.3	(7.2) 茶・白、小、多	淡青色 (5 Y R 6/4)	淡青色 (5 Y R 6/4)	圓板ナデ (2.5 Y 8/4)	圓板ナデ (2.5 Y 8/4)	1/3	貼付高台	外側に線刷。
3500	146	137	S D60	上層	土師器 片			(5.6) 茶、中、少	浅黄褐色 (10 Y R 8/3)	浅黄褐色 (10 Y R 8/3)	ヘラ切り後 ナデ	圓板ナデ	1/8	貼付高台	貼付高台
3501	146	137	S D60	上層	土師器 片	(13.9)		灰・茶、小、少	灰白色 (2.5 Y 8/2)	淡黄褐色 (2.5 Y 8/3)	指押、ヘラ 切り	筆誠	1/9	吉備系	
3502	146	138	S D60	下層	須恵器 片		(6.8)	白・透、少・大、少	灰色 (N 5/)	灰色 (10 Y 5/ 1)	圓板ナデ、 ヘラ切り	圓板ナデ	1/3		
3503	146	138	S D60	中層	須恵器	(13.0)	3.05	(7.4) 白、小、微	灰色 (N 6/)	灰色 (N 6/)	圓板ナデ、 ヘラ切り	圓板ナデ	1/6		
3504	146	138	S D60	中層	須恵器	(12.6)	3.4	(7.8) 白・透、少~中、 多	灰白色 (5 Y 8/1)	灰白色 (N 8/)	圓板ナデ、 ヘラ切り後 ナデ	圓板ナデ	1/4		
3505	146	137	S D60	下層	須恵器			(12.8) 白・灰、小、少	所白色 (N R 7/1)	所白色 (N R 7/1)	ヘラ前)	圓板ナデ	1/8		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (6)

番号	特徴	遺物名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外側調整	内面調整	保存率	形態上の特徴	備考
3506	146	137	S D60 中層	須恵器 壺				灰白色 (10.6)	白, 小~中, 多	灰白色 (N 7/7)	灰白色 (N 6/7)	圓板ナデ, ヘラ切り後 ナデ	圓板ナデ	1/4		
3507	146		S D60 下層	須恵器 壺				灰·白, 小~中, 少	灰白色 (N 8/7)	灰白色 (N 7/7)	灰白色 (N 6/7)	ヘラ切り後 ナデ	小破片	瓶子タタキ 魚山焼		
3508	146		S D60 下層	土師器 羽釜				白, 小~中, 少	灰黃色 (2.5) Y 7/2)	灰黃色 (2.5) Y 7/2)	灰黃色 (2.5) Y 7/2)	圓板ナデ, ヘラ 切り後 ナデ	小破片			
3509	146	138	S D60 下層	土師器 羽釜		(32.2)		白, 小, 少	黃灰色 (2.5) Y 4/1)	黃灰色 (2.5) Y 4/1)	黃灰色 (2.5) Y 7/1)	圓板ナデ, ヘラ 切り後 ナデ	小破片			
3510	146	138	S D60 中層	土師器 羽釜		(21.7)		白·透, 小, 少	黑褐色 (5Y R 3/1)	黑褐色 (5Y R 4/2)	黑褐色 (5Y R 4/2)	圓板ナデ, 指 押さえ	指 押さえ	1/8	ハケ, ナデ	
3511	146		S D60 下層	土師器 羽釜		(23.1)		白·灰, 小~中, 少	灰黃褐色 (10 R 6/2)	灰黃褐色 (10 R 6/2)	灰黃褐色 (10 R 6/2)	圓板ナデ, 指 押さえ	指 押さえ	1/5	ハケ, ナデ	
3512	146		S D60 下層	土師器 羽釜				白·透, 小, 少	灰黃褐色 (2.5) Y 7/2)	灰黃褐色 (2.5) Y 7/2)	灰黃褐色 (2.5) Y 7/2)	圓板ナデ, ヘラ 切り後 ナデ	破片			
3513	146	138	S D60 中層	土師器 土瓶		(29.4)		多·白·灰·透, 中·大·褐	褐色 (7.5Y R 4/3)	褐色 (7.5Y R 4/3)	褐色 (7.5Y R 4/3)	にぶい褐色 Y 7/2)	指 押さえ	1/5	ハケ, ナデ	
3514	146		S D60 下層	土師器 鉢		(28.0)		透·白, 中~大,	暗褐色 (2.5Y R 4/2)	暗褐色 (2.5Y R 4/2)	暗褐色 (2.5Y R 4/2)	圓板ナデ, ハケ ナデ	指 押さえ	1/4		
3522	149	139	S D61 中層	土師器 杯		(10.4)	2.8	(6.8) 透, 小, 少	灰黃褐色 (10 R 6/2)	灰黃褐色 (10 R 6/2)	灰黃褐色 (10 R 6/2)	圓板ナデ, ヘラ 切り後 ナデ	圓板ナデ	1/2	圓板ナデ, 高台 円盤状高台	
3523	149	139	S D61 下層	土師器 杯		(12.6)	3.4	(5.4) 透·白, 小~大, 少	灰黃色 (2.5) Y 7/2)	灰黃色 (2.5) Y 7/2)	灰黃色 (2.5) Y 7/2)	圓板ナデ, ヘラ 切り後 ナデ	圓板状	1/4	圓板状高台 内面に黒色付着物	
3524	149		S D61 最下層	土師器 杯		(14.8)	5.0	(6.0) 白, 小, 透	灰白色 (10Y R 7/1)	灰白色 (10Y R 7/1)	灰白色 (10Y R 7/1)	圓板ナデ	圓板ナデ	1/8	圓板状	
3525	149	139	S D61 下層	土師器 杯		(12.6)	4.3	(5.6) 白·透, 中~大, 少	灰褐色 (2.5) Y 5/3)	灰褐色 (2.5) Y 6/2)	灰褐色 (2.5) Y 6/2)	圓板ナデ, ヘラ 切り後 ナデ	圓板ナデ	1/3	圓板状高台 内面に黒色付着物	
3526	149		S D61 下層	土師器 碗				(7.4) 茶·白, 小, 透	灰白色 (2.5) Y 8/2)	灰白色 (2.5) Y 8/2)	灰白色 (2.5) Y 8/2)	圓板ナデ	圓板ナデ	1/4	圓板状高台 内面に黒色付着物	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (62)

番号	埋蔵層	遺物名	層位名	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	土色	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	焼青率	形態上の特徴	備考
3527 149	S D61	中層	土器器 高台付杯		(8.0)	白・灰、小、少	灰色(7.5Y R6/6)	灰白色(2.5 Y8/2)	にぶい黄橙	灰白色(2.5 Y8/3)	回転ナデ、 回転ナデ	回転ナデ、 回転ナデ	1/3	回転台土器器、 貼付高台	
3528 149	S D61	中層	土器器 高台付杯		(10.2)	茶・白、小~中	淡黄色(2.5 Y8/3)	灰黄色(2.5 Y7/2)	にぶい黄橙	灰白色(2.5 Y7/2)	回転ナデ、 ヘラ切り抜 ナデ	回転ナデ	1/4	貼付高台	
3529 149	S D61	最下層	土器器 小型丸底 壺		7.8	多	陶部透 通	中~大、灰 7/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	指押、指ナ デ	指押、指ナ デ	1/3		
3530 149	S D61	中層	須恵器 壺		(8.8)	白・灰、小、少	灰白色(N 7/)	灰白色(N 7/)	灰白色(N 7/)	灰白色(N 7/)	回転ナデ、 回転ヘラ削 ナデ	回転ナデ	2/5		
3531 149	S D61	中層	須恵器 杯			白・灰、小、微 微	灰白色(7.5 Y7/1)	灰白色(7.5 Y7/1)	灰白色(7.5 Y7/1)	灰白色(7.5 Y7/1)	回転ナデ、 回転ナデ	回転ナデ	破片		
3532 149	S D61	中層	須恵器 杯		(7.0)	透・白、小、少	灰白色(5Y 8/1)	灰白色(5Y 8/1)	灰白色(N 8/)	灰白色(N 8/)	ヘラ切り抜 ナデ	回転ナデ、 回転ナデ	1/4		
3533 149 140	S D61	中層	須恵器 杯		6.6	白、小~中、多	灰色(N6/)	灰色(N6/)	灰色(N6/)	灰色(N6/)	ヘラ切り抜 ナデ	回転ナデ、 回転ナデ	1/2	内外面に火輝	
3534 149 140	S D61	中層	須恵器 壺		(16.1)	白、小、少	灰白色(7.5 Y7/1)	灰白色(7.5 Y7/1)	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	1/8	口縁部外面灰 黒色	
3535 149 140	S D61	不明	黑色土器 壺		(17.6)	自・茶・墨、 小~大	黑色(N2/)	灰白色(2.5 Y8/2)	摩滅、擦 ナデ?	灰白色(2.5 Y8/2)	ヘラ削き	ヘラ削き	1/8	黑色土器 A類	
3536 149 140	S D61	中層	須恵器 高杯		(15.4)	多	白・透、小~中、 少	灰白色(N 8/)	燒成不足	燒成不足	燒成不足	燒成不足	1/3		
3537 149 140	S D61	中層	須恵器 壺		(9.6)	白、小~中、多	灰色(N5/)	灰色(N5/)	燒成不足	燒成不足	回転ナデ、 ヘラ切り抜 ナデ	回転ナデ、 ヘラ切り抜 ナデ	1/6		
3538 149	S D61	中層	須恵器 壺		(11.4)	灰・白、小、少	始:灰白色 (2.5Y7/1)	梅:オリーブ G Y5/1)	回転ナデ、 ヘラ切り抜 ナデ	回転ナデ、 ヘラ切り抜 ナデ	回転ナデ	1/4	内面に自然 輪		
3539 149 140	S D61	上層	須恵器 壺		(23.2)	白、中、少	灰色(5Y6/ 1)	灰色(5Y6/ 1)	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	破片		
3540 149 140	S D61	中層	須恵器 壺		10.8	白・茶・墨、小~大 少	青灰色(5B 3/1)	青灰色(5B 3/1)	指押後板ナ デ	指押後板ナ デ	指押後板ナ デ	指押後板ナ デ	0.25	底部外端に布 目	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (4)

番号	捕獲回数	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	胎 (cm)	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	残存 率	形態上の 特徴	備考	
3541	150	140	S D61	中層	土師器 羽蓋	(29.8)		白・透茶、小~大、 多	にぶい黄褐色 (10YR6/ 3)	にぶい黄褐色 (10YR6/ 3)	機ナデ、板 ナデ	1/6		内面に炭化物	
3542	150	140	S D61	中層	土師器 羽蓋	(34.6)		透・白、中~大、 多	にぶい黄褐色 (10YR7/ 3)	にぶい黄褐色 (10YR7/ 3)	機ナデ	1/8			
3543	150	140	S D61	中層	土師器 羽蓋	(29.4)		透・白、中~大、 多	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	機ナデ、指 板ナデ	1/8		骨欠損	
3544	150	141	S D61	下層	土師器 土鍋	(28.2)		白・透、大、多	にぶい赤褐色 (5YR4/ 3)	明赤褐色 (5YR5/6)	指伸さえ後ハ ケ、指ナデ	1/3		内外面に炭化物	
3545	150	141	S D61	中層	土師器 甌			茶・白・透、中~大、 多	にぶい黄褐色 (10YR7/ 3)	にぶい黄褐色 (10YR7/ 3)	ナデ	破片			
3546	150	141	S D61	中層	土師器 甌			白・灰・透、大、多	にぶい黄褐色 (10YR7/ 3)	にぶい黄褐色 (10YR5/ 3)	指伸さえ後ハ ケ、ハケ	破片		内面に炭化物	
3567	154		S D62	-	土師器	(14.4)		白、小~中、多	灰オリーブ 色(5Y6/2)	灰色(5Y6/2) 1	回転ナデ	1/8			
3568	154		S D62	-	土師器		(27.2)	透・白、中~大、 多	にぶい黄褐色 (10YR6/ 3)	にぶい黄褐色 (10YR6/ 3)	機ナデ、ハ ケ	1/8			
3569	154		S D62	-	土師器	(25.8)		白・灰、大、多	透黄色(2.5 Y7/4)	透黄色(2.5 Y7/2)	機ナデ、摩 滅	破片			
3576	156	143	S D63	-	土師器 皿	8.4	1.65	4.9	茶・透・白、小、 多	にぶい緑色 (5YR7/4)	灰白色(2.5 Y8/1)	回転ナデ後 ナデ	7/8		回転台土器
3577	156	143	S D63	-	土師器 皿	(8.0)	1.6	5.0	白、少、多	灰白色(2.5 Y8/1)	灰白色(2.5 Y8/1)	切り落ナデ	1/2		回転台土器
3578	156	143	S D63	-	黑色土器 碗		(7.2)	白・灰、少、 少	褐灰色(10Y R5/1)	灰白色(10Y R8/1)	回転ナデ、 ナデ	7/8		貼付膏古、黑 色土器A面	
3581	160	144	S D65	-	須恵器 杯	(14.6)		灰・白、少、多	灰白色(N 8/)	灰白色(N 8/)	回転ナデ、 ナデ	1/8			

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 [64]

番号	持因	遺物名	層位名	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	焼存率	形態上の特徴	備考
3582	160 144	S D65	-	須恵器 杯			(6.2)	白・灰、小、多	灰色(N7/7)	灰白色(N 8/7)	ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ	1/4	内外面に火 燒		
3583	160 144	S D65	-	須恵器 杯			(5.6)	白・灰、小、少	灰白色(N 8/7)	灰白色(N 8/7)	ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ	5/8			
3584	160 144	S D65	-	土師器 鉢			白・透、小~大、 暗灰黄色 (2.5Y 7/2)	白・透、中~大、 暗灰黄色 (2.5Y 7/2)	灰白色(N 8/7)	灰白色(N 8/7)	ヘラ切り後 ナデ	ハケ、ナデ 破片				
3585	160 144	S D65	-	平瓦	塊脊長邊大堅 12.5 2.6		白・透、中~大、 暗灰黄色 (2.5Y 7/2)	白・透、中~大、 暗灰黄色 (2.5Y 7/2)	灰白色(N 8/7)	灰白色(N 8/7)	目接タキ、 ヘラ削り	凹面 布 破片				
3586	162 144	S D66	-	須恵器 杯			白・灰、小、微 透	白・灰、小、微 透	灰白色(N 8/7)	灰白色(N 8/7)	ヘラ削り	回転ナデ	1/9	口縁部外側に 炭素吸着		
3587	162 144	S D66	-	陶器 こね鉢			白、小~中、多 透	白、小~中、多 透	灰白色(N 6/7)	灰白色(N 4/3)	オリーブ 色(7.5Y 4/3)	回転ナデ	1/6	唇縁系刷毛日 笠		
3588	162 144	S D66	-	陶器 すり鉢			白・灰、中~大、 多	白・灰、中~大、 多	胎: 灰色(N 6/6)	胎: 黒褐色 (5Y R2/1)	回転ナデ	脚目	1/8	口縁部上下 部に黒褐色 吸着	焼前系	
3589	165 145	S R07	-	土師器 皿			(8.2)	1.65	5.8 白・茶、小、少	浅黄褐色 (7.5Y R8/3) 3	浅黄褐色 (10Y R8/4)	回転ナデ ヘラ切	回転ナデ	1/2	回転台土器器 皿切後板 状压痕	
3590	165 145	S R07	-	土師器 杯			(10.8)	2.6	(6.8) 茶・小、多	灰白色(2.5 Y8/1)	灰白色(2.5 Y8/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/8	回転台土器器	
3591	165 145	S R07	-	土師器 杯			(6.0)	茶・白、透、少 7/6	少 7/6	茶色(5Y R Y8/3)	浅黄褐色(10 Y R8/3)	ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ	1/4	回転台土器器	
3592	165 145	S R07	-	土師器 杯			茶、小、多			浅黄褐色(10 Y R8/3)	褐色(7.5Y R6/6)	剥離 剥離	回転ナデ	1/4	高台剥離	
3593	165 145	S R07	-	土師器 碗			透・白、小、少	透・白、小、少	浅黄褐色(10 Y R8/3)	灰白色(10Y R8/2)	褐色(7.5Y R8/2)	剥離後ナデ、 ナデ	完存	外側下半に 乾燥クラック	高側系土器器	
3594	165	S R07	-	土師器 碗			透、中~大、微 透	透、中~大、微 透	灰白色(10Y R8/2)	灰白色(10Y Y8/1)	焼ナデ、指 横ナデ	指横ナデ	1/8		高側系土器器	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (6)

番号	博圓函番	遺構名	部位名	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	参考
3595	165	145	S R 07	-	土器器 瓶			(4. 9)	灰・系、小、多	灰白色(2.5 Y8/1)	灰白色(2.5 Y8/1)	指捺ナデ、ナ ダ	ナダ	3/5		当備系土器器 瓶
3596	165	145	S R 07	-	土器器 瓶			(5. 5)	白・系、小、少	浅灰色(10Y R6/1)	浅黄色(10Y R8/4)		ナダ	2/3		貼付高台
3597	165	145	S R 07	-	土器器 瓶			(5. 8)	白・系、小、少	灰白色(2.5 Y8/2)	灰白色(2.5 Y8/2)		ナダ	1/3		貼付高台
3598	165	145	S R 07	-	土器器 瓶			(6. 6)	白、小、幾	灰白色(10Y R8/2)	浅黄色(10 Y8/3)	半成	半成	1/6		貼付高台
3599	165	145	S R 07	-	黑色土器 碗			(5. 6)	白・透、小、多	灰(5Y4/ 1)	灰白色(2.5 Y8/2)	回転ナデ ナデ	ヘラ切り後	摩滅	1/4	黑色土器 A 頭
3600	165	145	S R 07	-	瓦器 碗			(14. 4)	白、小、少	灰色(N4/ 3)	暗灰色(N 3)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		和泉型
3601	165	145	S R 07	-	須恵器 瓶			(13. 6)	白・透、小、少	灰白色(N 8)	灰白色(N 8)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		口縁部外側に 突起付着
3602	165	145	S R 07	-	須恵器 杯型				白・透、小~中、 多	灰白色(N 8)	灰白色(N 8)	削り	ナダ	7/8		
3603	165	145	S R 07	-	須恵器 杯			(13. 0)	白、小、少	灰白色(N 7)	灰白色(N 7)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
3604	165	145	S R 07	-	須恵器 杯			(6. 4)	白、小、少	青灰色(10B G6/1)	青灰色(10B G5/1)		回転ナデ	1/4		
3605	165	145	S R 07	-	須恵器 杯			(10. 0)	白、小~大、多	灰色(N4/)	灰色(N5/)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
3606	165	145	S R 07	-	須恵器 蓋			(18. 8)	白、小~中、多	灰白色(N 7)	灰白色(N 7)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
3607	165		S R 07	-	須恵器 甕			(24. 3)	白・灰、小~中、 少	灰白色(N 7)	灰白色(N 7)	回転ナデ、 タタキ後カ 目	回転ナデ	1/4		
3608	165		S R 07	-	須恵器 甕			(13. 4)	白、中~大、多	灰白色(N 8)	灰白色(N 8)	ヘラ削り後	滑押後板ナ デ	1/4		
3609	165	145	S R 07	-	須恵器 甕			(15. 0)	灰・白、小~中、 多	灰色(N4/)	灰色(N4/)	回転ナデ ナデ	回転ナデ	1/8		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 [66]

番号	拂因國號	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底	土	色調(内面)	色調(外面)	外觀調整	焼付率	形態上の 特徴	備考
3610	165	145	S R07	-	網狀器	(15.1)	白, 少	灰白色 (N 7/)	灰色 (N 7/)	ヘラ削り後 回転ナダ後	回転ナダ	1/9		
3611	165	145	S R07	-	須惠器 こね鉢		灰・茶, 小, 少	灰白色 (N 8/)	灰色 (N 7/)	回転ナダ後	小破片		東洋系, 口縁 部外面に灰素 質吸着	
3612	165	145	S R07	-	須惠器 こね鉢	(17.1)	白・透, 小~大, 少	灰白色 (N 8/)	青灰色 (5B 6/1)	回転ナダ	1/8		口縁部外周灰 素質吸着, 東洋 系	
3613	166	146	S R07	-	土師器 甕		白・透, 小~大, 多	灰黒褐色 (10 YR 5/2)	にぶい褐色 (7.5 YR 5/ 3)	回転ナダ	1/6			
3614	166	146	S R07	-	土師器 鍋	(28.4)	白・透, 大, 多	にぶい青褐色 (10 YR 6/ 4)	にぶい青褐色 (10 YR 6/ 6)	回転ナダ	微片		孔径1.1cm	
3615	166	146	S R07	-	土師器 羽釜	(21.0)	白・透, 中~大, 多	灰黒褐色 (10 YR 5/2)	橙色 (5YR 6/6)	摩滅	1/8			
3616	166	146	S R07	-	土師器 羽釜	(22.8)	白・透, 黑, 小~大, 多	淡青褐色 (7.5 YR 6/7)	淡青褐色 (7.5 YR 6/6)	指押, ナダ	1/8		外面上に炭化物	
3617	166	146	S R07	-	土師器 羽釜		白・透, 小~中, 多	黄灰色 (2.5 Y 5/1)	黄灰色 (2.5 Y 6/1)	横ナダ, 指 押ナダ	ハケ	1/8		
3618	166	146	S R07	-	土師器 羽釜		白・透, 小, 多	灰白色 (5Y 8/2)	明黄褐色 (10 YR 6/6)	指押後ナダ	小破片			
3619	166	146	S R07	-	土師器 羽釜		自・透, 中~大, 多	黄褐色 (2.5 Y 5/4)	黄褐色 (2.5 Y 5/4)	指押, ナダ	指押後ナダ	1/8		
3620	166	146	S R07	-	土師器 羽釜		白・灰, 小, 少	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	回転ナダ	脚部 片			
3621	166	146	S R07	-	陶器 小皿	(13.8)	白, 小, 少	白; 灰白色 (N 8/)	白; 灰白色 (7.5 Y 8/1)	回転ナダ	1/8	内外に燒物,	肥前系陶器	
3622	166	146	S R07	-	陶器 皿	(24.6)	精良	白; にぶ 一色 (5Y R 6/3)	回転ナダ, 斜 板, 文様	破片		内面に象嵌 肥前系陶器		
3623	166	146	S R07	-	陶器	(9.8)	精緻(灰, 小, 灰)	胎土; 灰白色 (2.5 Y 7/3)	胎土; 透黄色 (2.5 Y 7/3)	施釉	1/5	京畿陶器, 内外面に施釉		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (67)

番号	種類	部位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3624	166 146	S R 07	-	土師質土 器燒			小・透。少	中・透。	黒褐色(2.5 Y 4/1)	黒褐色(2.5 Y 3/1)	指揮ナデ、指 押後ナデ	ハケ	小破片	口縁下部より 断面削除部 に削出物、 側面削除部 に斜め 見出物の逐点 剥落	
3683	172	S K 89	-	陶器 皿			(7.0)	灰・透。少、多	胎:灰白色 (2.5 Y 8/2)	胎:灰白色 (5 Y 8/2)	回転ナデ	回転ナデ	1/2		
3684	172	S K 89	-	陶器 碗			(3.7)	透、少、強	胎:灰白色 (5 Y 8/1)	胎:透黄色 (5 Y 8/3)	回転ナデ	回転ナデ	完存	高台部無釉 質入	側面美溝系、 質入
3685	172	S K 89	-	磁器 茶付 碗			(3.8)	精緻	胎:灰白色 (N 8/1)	胎:灰白色 (2.5 Y 8/ 1)	回転ナデ	回転ナデ	1/2		配前系
3686	172	S K 89	-	平皿	現存最端大厚 2.9	1.4	自・灰。 多	自・灰。少 中・透。	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 6/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/2		
3687	174 150	S K 90	-	土師質土 器燒	(71.6)		多	中・透。少 中・透。	灰黄色(2.5 Y 6/6)	灰黄色(2.5 Y 7/6)	指揮ナデ、指 押後ナデ	ナデ、布目	破片		
3688	174 150	S K 90	-	土師質土 器燒	(39.6)		透・白。 多	透・白。 多	胎色(5 Y R Y 8/3)	胎色(5 Y R Y 7/2)	指揮ナデ、指 押後ナデ	ナデ	1/4	點凸1+山 形文	金墨母鐵
3689	174 150	S K 90	-	土師質土 器燒	(39.8)		透・白。 少	透・白。 少	透・白。(2.5 Y 8/3)	透・白。(2.5 Y 7/2)	指揮後ナデ	ナデ	1/8		
3690	174 150	S K 90	-	土師質土 手付焰火		12.2	白・茶・透。 少	多	透・白。(10 Y R 8/3)	透・白。(10 Y R 8/6)	指揮後ナデ	ハケ	1/2		把手下部及び 底部に炭化物 焼付内石・金鉢 母鐵
3691	174 150	S K 90	-	土師質土 器燒	(28.6)		透・白。 少	透・白。 少	灰白色(10 Y R 8/2)	灰白色(2.5 Y 8/2)	指揮 後ナデ	ナデ	1/8		
3692	174 150	S K 90	-	土師質土 火鉢		25.2	白・茶・透。 少	大	灰白色(10 Y R 8/2)	灰白色(10 Y R 8/2)	ナデ、板ナ デ後指揮	ナデ、板ナ デ後指揮	2/3	三足付	
3693	175 150	S K 90	-	土師質土 火鉢	(34.7)	31.0	白・茶・透。 少	中	灰白色(2.5 Y 7/1)	灰白色(2.5 Y 7/1)	ナデ、板ナ デ後板ナデ	ナデ、板ナ デ後板ナデ	2/3	三足付	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (6)

番号	神園区段	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3694	175	151	S K 90	—	土師質土	(38.6)		白、少、多 Y 5/	黒褐色(2.5 ナダ、指押 後ハケ)	黒褐色(2.5 ナダ、指押 後ハケ)	ナダ、指押 後ハケ	ナダ後ハケ	1/8	黒軸脚系 外面上に炭化物	
3695	175	151	S K 90	—	土師質土 器 壺	(37.2)		白・透、小~大、 少	褐灰褐色(10Y R 5/1)	黒褐色(10Y R 2/2)	回転ナダ 指押	回転ナダ	1/3	黒軸脚系 外面上に炭化物	
3696	175	151	S K 90	—	土師質土	(40.0)		白、少、少	灰色(N 5/)	灰色(N 4/)	横ナダ、指 押後ナダ	横ナダ、指 押ナダ	1/8	黒軸脚系 外面上に炭化物	
3697	175	151	S K 90	—	土師質土 器 壺	(40.8)		透・白、小~中、 多	黒色(7.5Y R 2/1)	黒色(7.5Y R 4/3)	ナダ、指押 後ナダ	ナダ	1/8	黒軸脚系 外面上に炭化物	
3698	175	151	S K 90	—	土師質土 器 壺	(41.2)		白・透、小、多	天青褐色(10 Y R 5/2)	黒褐色(10Y R 3/1)	ナダ、指押 後ナダ	ナダ	1/8	黒軸脚系 外面上に炭化物	
3699	176	152	S K 90	—	土師質土 器 羽釜	(23.8)		白、少、多	灰青色(2.5 Y 5/2)	黄灰褐色(2.5 Y 5/1)	指押後ハケ ナダ、指押 後後板ナダ、 ナダ	指押 後板ナダ	1/4	縦より下に炭 化物	
3700	176	153	S K 90	—	陶器 鉢	(20.0)	9.3	(7.2) 透、白、多	胎:灰白色 (2.5Y 6/2)	胎:灰白色 (5Y 6/2)	回転ナダ、 回転ヘラ柄 6/2)	回転ナダ	1/2	口縁部玉縁 引出高台、記 削前系	
3701	176	153	S K 90	—	陶器 鉢			(9.6) 白・茶、黒、小~大、 少	胎:土・赤褐色 (10RS/4)	胎:(内)浅 黄色(2.5Y 7/4)(外)赫 黑色(10BG 2/1)	回転ナダ 底端	回転ナダ 底端	2/3	口縁部玉縁 引出高台、記 削前系	
3702	176	153	S K 90	—	陶器 鉢	(15.4)		白、少、微 透	胎:褐褐色 (5Y R 4/1)	胎:黑褐色 (10 YR Z/3)	回転ナダ	回転ナダ	1/8	口縁部玉縁 引出高台、記 削前系	
3703	176	153	S K 90	—	陶器 鉢	(19.4)		白・黒、小~大、 少	胎:白色 (2.5Y 7/1)	胎:白色 (2.5Y 7/1)	回転ナダ	回転ナダ	1/8	刷毛目塗 記削前系	
3704	176	152	S K 90	—	陶器 鉢	(8.6)	6.5	(4.4) 精緻	胎:にぶい 赤褐色(2.5 Y R 5/4)	胎:黒褐色 (10 YR 3/2)	回転ナダ	回転ナダ	1/2	刷毛目塗 記削前系	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (6)

番号	持因版	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	既存	形態上の 特徴	備考	
3705	176	S K90	-	陶器 壺利	(6.4)	白、少			胎: ぶい 質褐色 (10Y R 7/4)	胎: 速質褐 色 (10Y R 8/2)	回転ナデ	1/4	刷毛目輪、 内面無輪		
3706	176	152	S K90	-	陶器 壺	(10.4)	7.0	(4.0)	精緻	胎: 灰色 (N 6/)	胎: 明オリーブ 色 (2.5G Y 7/1)	回転ナデ	1/3	肥前系陶始樂 付、質入	
3707	176	154	S K90	-	陶器 壺	(10.4)			精緻	胎: 灰色 (N 6/)	胎: オリーブ 色 (2.5 G Y 6/1)	回転ナデ	1/4	肥前系陶始樂 付、質入	
3708	176	154	S K90	-	陶器 灯明皿	(9.9)			白、少	胎: 灰色 (N 6/)	胎: 灰色 (5Y R 4/2)	回転ナデ	1/4	肥前系	
3709	176	153	S K90	-	磁器 蓋付皿	(12.8)	3.0	(8.0)	精緻	胎: 灰白色 (N 8/)	胎: 灰白色 (5G Y 8/1)	回転ナデ	1/4	肥前系	
3710	176	154	S K90	-	磁器 蓋付碗			(5.4)	精緻	胎: 灰白色 (N 8/)	胎: 灰白色 (5G Y 8/1)	回転ナデ	3/8	内面刷毛目輪 五外花文、 波佐見系	
3711	176		S K90	-	磁器 皿	(12.4)	3.5	(4.4)	白、少	胎: 灰白色 (N 8/)	胎: 明綠灰 色 (7.5 G Y 8/1)	回転ナデ	1/2	内面刷毛目輪 底部外側輪 波佐見系	
3712	176	152	S K90	-	磁器 蓋付碗	(10.4)	5.3	(4.2)	精緻	胎: 灰白色 (N 8/)	胎: 灰白色 (10Y 7/1) 外側 灰褐色 (10G 4/1)	回転ナデ	1/3	内面刷毛目輪 二ヤク印版	
3713	176	152	S K90	-	磁器 蓋付碗	(10.6)	5.2	(3.8)	精緻	胎: 灰白色 (N 8/)	胎: 灰白色 (5G Y 8/1)	回転ナデ	1/2	内面刷毛目輪 二ヤク印版	
3714	176	152	S K90	-	磁器 蓋付碗	(10.2)	4.7	4.0	精緻	胎: 灰白色 (2.5 Y 8/1)	胎: 透明色 青色	回転ナデ	3/4	波佐見系	
3715	176		S K90	-	磁器 壺			(4.2)	白、少	胎: 灰白色 (N 8/)	胎: 背灰色 (5B 6/1)	回転ナデ	2/3	内面刷毛目輪 刺毛	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (7)

番号	種類	回転名	層位名	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	胎	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存 率	形態上の 特徴	備考	
3716 176 152	S K 90	-	縦縫 兼付鉢利	精緻	4.7	精緻	胎:灰白色 (5Y 8/1)	胎:灰白色 (5G Y 8/1)	胎:灰白色 (5G Y 8/1)	胎:灰白色 (5G Y 8/1)	回転ナデ,	回転ナデ,	完存	草花文	肥前系	
3717 176	S K 90	-	縦縫 兼付鉢利	精緻	(6.2)	精緻	胎:灰白色 (N 8)	胎:灰白色 (N 8)	胎:灰白色 (N 8)	胎:灰白色 (N 8)	回転ナデ	回転ナデ	1/2	内面無輪	肥前系	
3718 176 153	S K 90	-	青磁 鉢	精緻	(23.6)			胎:灰白色 (N 8)	胎:灰白色 (N 8)	胎:明綠灰 色(7.5 G Y 7/1)	胎:明綠灰 色(7.5 G Y 7/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/12	内面無輪	中國產?
3719 176 154	S K 90	-	平瓦	観存長幅大厚 9.1	白, 小, 多	灰色(N 5/)	板ナデ後ナ デ	板ナデ後ナ デ	1/2割り,							
3720 176 154	S K 90	-	丸瓦	観存長幅大厚 7.1	白, 少	灰色(N 4/)	板目接板ナ デ	板目接板ナ デ								
3724 184	S K 95	-	土器質土 火鉢	土器質土 (38.0)	白・灰・透・茶, ~大, 多	明赤褐色 (2.5 Y R 5/ 6)	ナデ後板ナ デ	ナデ後板ナ デ	1/6							
3726 186	S K 96	-	土器質土 燒焰	土器質土 (45.2)	灰・白, 小, 多	黃灰褐色 (7.5 Y 5/1)	黃灰褐色 (7.5 Y 4/1)	ナデ後板ナ デ	ナデ後板ナ デ	1/8	讓後部上 部口縫部上 に炭化物					
3727 186	S K 96	-	陶器 鉢	陶器 (18.4)	白・透, 小, 少	脂:にぶい 青褐色(7.5 R 5/3)	回転ナデ	回転ナデ	1/8	刷毛目並						
3728 186	S K 96	-	陶器 指輪	陶器 (29.4)	白, 小~中, 多	赤褐色(10 R S 3)	回転ナデ	回転ナデ	破片	内面に鉤目,						
3729 186	S K 96	-	陶器 指輪	陶器 (29.4)	白・茶, 小~中, 多	赤褐色(10 R S 4)	回転ナデ	回転ナデ	1/8	体部 色(10 R S 4), 内面 指輪ナデ						
3730 188	S K 97	-	土器質土 骨壺	土器質土 (26.4)	白・茶・灰, 中, 多	褐灰色(10 Y R 6/1)	横ナデ, ナ デ	横ナデ, ナ デ	1/8							
3731 188	S K 97	-	土器質土 羽釜	土器質土 (20.0)	白・灰, 小, 少	灰色(N 4/)	横ハケ, 指 輪後板ナデ	横ハケ, 指 輪後板ナデ	1/4	外面部より下 に炭化物						
3732 190	S K 98	-	土器質土 羽釜	土器質土 (22.4)	白・灰, 小, 少	黑色(7.5 Y R 2/1)	ナデ, 指 輪ナデ	ナデ, 指 輪ナデ	1/8	外面部より下 に炭化物						

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (7)

番号	拝団	遺跡名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存 率	形態上の 特徴	備考
3733	193	S X 08	-	土師質土器 羽釜脚部			白・灰、中、少	白・灰、(7.5 YR 6/4)	にぶい黒褐色 (10 YR 5/3)	にぶい黒褐色 (7.5 YR 6/4)	指ナデ	ハケ後押打 きえ			
3734	193	S X 08	-	須恵器 鉢	(32.2)		白、少、多	灰白色 (N 7/7)	灰褐色 (N 6/7)	灰褐色 (N 6/7)	指ナデ	回転ナデ	1/8	東播系	
3735	193	S X 08	-	須恵器 鉢			白、少、多	灰褐色 (N 6/7)	灰褐色 (N 6/7)	回転ナデ、 ハケ	回転ナデ、 ハケ	小破	東播系		
3736	193	S X 08	-	青磁 碗			精緻	輪・灰白色 (N 7/7)	輪・明褐色灰 色 (7.5 G Y 7/1)	輪・明褐色灰 色 (7.5 G Y 7/1)	指ナデ	回転ナデ	小破	内面に文様 片	
3737	195	S D 68	-	土器器部 羽釜脚部			白・素・透、小、 多	明褐色 (10 YR 7/6)	にぶい黒褐色 (10 YR 7/6)	ナデ	ナデ	破片			
3738	195	S D 68	-	陶器 鉢			(4.4) 精緻	胎・灰白色 (N 7/7)	胎・オリーブ 色 (2.5 G Y 6/1)	胎・灰白色 (N 7/7)	回転ナデ	1/2	黒釉系陶器 付		
3739	197	154	S E 03	-	土師質土器 火鉢		21.3	白・灰、中、多	にぶい黒褐色 (10 YR 7/3)	にぶい黒褐色 (5 YR 7/3)	指ナデ後ハ ケ	指ナデ後ハ ケ	8/8	黒部打丸	
3740	197		S E 03	-	土師質土器 手付焰燒		白、少、多	黒褐色 (2.5 Y 3/1)	黒褐色 (2.5 Y 3/1)	指ナデ後板 ナデ、ナデ、 指冲候	指ナデ後板 ナデ、ナデ、 指冲候		内・外に炭 化物		
3741	197	155	S E 03	-	土師質土器 焰燒	(38.4)	白・灰、少、多	灰褐色 (5 Y 6/ 1)	黄褐色 (2.5 Y 5/3)	指ナデ後板 ナデ、指冲候 ハケ	指ナデ後板 ナデ、指冲候 ハケ	1/6	側壓系 外側に炭 化物		
3742	197	155	S E 03	-	土師質土器 焰燒	(27.6)	白、少、少	黒褐色 (10 Y R 3/1)	黒褐色 (2.5 Y 3/1)	ナデ後板 ナデ	ナデ後板 ナデ	1/4	側壓系		
3743	197	155	S E 03	-	土師質土器 羽釜	(20.0)	透・白、少~中、 多	黄褐色 (2.5 Y 4/1)	灰褐色 (2.5 Y 5/1)	指ナデ、指冲候 ハケ	指ナデ、指冲候 ハケ	1/6	側壓より下に炭 化物		
3744	197	155	S E 03	-	土師質土器 羽釜	(19.0)	白、少、無	灰褐色 (5 Y 6/ 1)	灰白色 (N 7/7)	指ナデ、指 冲候後ハケ ナデ、指冲候 後ナデ	指ナデ、指 冲候後ハケ ナデ、指冲候 後ナデ	2/3	離形外耳を 有する 陶器		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器銀察表 (72)

番号	種類名	部位名	口徑 (cm)	脛高 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	渾厚 率	偏 色	形態上の 特徴	備考
基準	底径 (cm)													
3745 197 155 S E 03	- 土師質土器	(15.6)	白、少、少	暗灰色 (N 3/3)	灰色 (N 6/6)	糊ナデ、糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ、糊ナデ	L/2	綿形外耳を 貼付	
3746 198 155 S E 03	- 瓦質土器	23.4	12.8	灰、白、少	黄灰色 (Y 5/1)	黒色 (N 2/1)	糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ	4/5	綿形外耳を 貼付	外耳跡以外に 瓦化跡
3747 198 155 S E 03	- 瓦質土器	21.5		灰、小、微	灰色 (10 Y 1/1)	黑色 (N 2/2)	糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ	2/3	綿形外耳を 貼付	外耳跡以下に 瓦化跡
3748 198 155 S E 03	- 瓦質土器	(13.4)	白、中、微	白、白 (N 8/8)	灰色 (N 5/5)	糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ	糊ナデ、糊ナデ	1/8		
3749 198 156 S E 03	- 磁器	(8.6)	4.3	(4.0) 粗緻	胎:灰白色 (N 8/8)	胎:灰白色 (Y 8/2)	回転ナデ、 螺旋	回転ナデ、 螺旋	回転ナデ、 螺旋	回転ナデ、 螺旋	回転ナデ、 螺旋	コニニガタ	印版	
3750 198 156 S E 03	- 磁器付碗			(13.6)	白、透、少、中、 少	にぶい赤褐色 (2.5 Y R 4/4)	糊ナデ、ナ デ	糊前系						
3751 198 156 S E 03	- 新丸瓦	外区屋	13.3		灰、白、少、多	灰色 (N 5/5)	糊ナデ、ナ デ	巴文、珠文 9	貫通しない穿 孔					
3752 198 156 S E 03	- 新丸瓦				白、少、中、多 3/3	暗灰色 (N 5/5)	糊ナデ、ナ デ	糊ナデ、ナ デ	糊ナデ、ナ デ	糊ナデ、ナ デ	糊ナデ、ナ デ	糊片		

第3表 龍川五条Ⅱ遺跡 石器觀察表(1)

番号	持因	固版	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	石 材	形態・手法の特徴	残存率
2424	19	54	S K87		縛製石包丁未製品?	11.7	6.4	1.4	安山岩 (輝石含む)	側面の研磨は粗雑、打製石斧の可能性もあり	
2511	26	61	S D49	最下層	石鎚未製品	3.7	4.0	0.5	サスカイト	石鎚の可能性あり、側面に丸り	
2512	26	61	S D49	最下層	石鎚未製品	3.8	2.4	0.7	サスカイト	基部に素朴な敲打痕、側面に自然面	
2513	26	61	S D49	最下層	石鎚未製品	2.15	1.25	0.4	サスカイト	整形時の剥片	
2514	26	61	S D49	最下層	2次加工のある剥片	3.0	2.5	0.5	サスカイト	石鎚の未製品の可能性高い	
2515	26	62	S D49	最下層	縛製石包丁未製品	19.0	10.0	2.8	流紋岩 (斜方輝石、角 閃石含む)	周縁部打、自然面に擦痕	完存
2516	27	62	S D49	最下層	縛製石鎚	12.0	4.1	0.9	緑泥片岩		
2517	27	62	S D49	最下層	スクレイバー	5.0	4.3	1.05	サスカイト	刃端に研い摩滅痕	欠損
2518	27	62	S D49	最下層	打製石包丁	4.8	1.3	0.55	サスカイト	表面に擦痕	欠損
2519	27	62	S D49	最下層	スクレイバー	3.2	3.8	0.7	サスカイト	表面に弱い摩滅痕、楔形石器に転用か、	欠損
2520	27	63	S D49	最下層	棒状石製品	7.5	1.4	1.2	緑泥片岩	一部に研磨痕	欠損
2521	27	63	S D49	最下層	砾石→刃石	10.3	4.7	5	安山岩	aに研磨状斜削痕、cは凹面	欠損
2522	28	63	S D49	最下層	使用痕のある剥片	12.4	5.9	3.1	サスカイト	dに擦痕痕、斜削痕、敲打痕	完存
2523	28	64	S D49	最下層	使用痕のある剥片	5.5	4.2	0.95	サスカイト	下端部に幾層剥離痕	完存
2524	28	64	S D49	最下層	楔形石器	5.8	4.4	1.1	サスカイト	表裏面に摩滅痕、石包丁の施用品	
2525	30	66	S D49	T層	スクレイバー	4.75	6.4	0.8	サスカイト	側面に曲線的な刃部加工、b面は一部欠損	
2526	30	66	S D49	T層	縛製石包丁	3.3	5.2	0.7	安山岩 (輝石含む)	側面に研磨面	
2527	30	66	S D49	T層	楔形石器	4.2	3.85	1.1	181.5	刃部研磨に切られる光沢痕	完存
2528	30	66	S D49	T層	縛石	5.9	2.9	2.0	32.1	上半部に流れ、b面は分割面、d面は断面	欠損
2529	30	66	S D49	T層	台石	14.9	12.7	3.9	815.82	表面に擦痕及び擦状痕、ブロック	
2626	34	73	S D49	中～下層	石鎚	2.1	1.9	0.35	サスカイト	片面のみアバタ状状打痕	
2627	34	73	S D49	中～下層	石鎚未製品	1.8	1.7	0.3	サスカイト	凹基式	完存
										平基式、未製品か	先端を欠損

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(2)

番号	標図	圖版	遺物名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	石 材	形態・手法の特徴	残存率	
2628	34	73	SD49	中～下層	石鑿	4.6	3.0	0.5	サヌカイト	基部と鏡部 を折損		
2629	34	73	SD49	中～下層	石鑿未製品	4.8	2.0	1.2	サヌカイト	未製品		
2630	34	73	SD49	中～下層	スクレイバー	7.1	4.4	0.8	サヌカイト	片面刃部加工、a面鏡刃様のみ摩 擦痕	完形	
2631	34	73	SD49	中～下層	スクレイバー	4.6	3.1	0.5	サヌカイト	基部両側は欠損、刃部加工はや や不規則	欠損	
2632	34	73	SD49	中～下層	磨製石砲丁	6.9	6.3	0.7	39.69 (g)	流紋岩 (ザクロ石) 刃部再加工	両端欠損	
2633	35	74	SD49	中～下層	打削石斧	11.0	8.1	1.9	237.2	安山岩 (斜方輝石含む、周縁を敲打、刃様・側縁部に弱い 摩擦痕・擦れ痕)		
2634	35	74	SD49	中～下層	砾石	8.7	7.3	4.4	308.18	安山岩 (角閃石含む) 長石の大きな斑晶あり	a面は摩滅及び擦れ痕、b面は分割面 は消え、b面は分割面	欠損
2635	36	74	SD49	中～下層	打削石斧	8.6	5.5	1.7	95.11	安山岩	基部に横位の繊状脈	欠損
2636	36	74	SD49	中～下層	柱状片刃石斧	7.1	5.3	0.9	35.08	爆泥剥片	右側縁に抉り	欠損
2637	36	73	SD49	中～下層	楔形石鋸	2.45	4.6	0.7	9.15	サヌカイト	赤色に変色、上下縁に削れ b面 は断面	完存
2638	36	73	SD49	中～下層	楔形石鋸	1.7	2.7	0.9	4.6	サヌカイト	上下端に削れ、d面は断面、b 面はc面頸からa面に打撃による 摩擦痕	完存
2639	36	73	SD49	中～下層	楔形石鋸	2.6	3.2	0.9	9.11	サヌカイト	上下端に削れ、a面は断面、a 面はc面頸からb面に打撃による 摩擦痕	完存
2640	36	SD49	中～下層	楔形石鋸	2.7	3.45	0.95	10.44	サヌカイト	上下縁に削れ、a面は断面、下部 に弱い摩擦痕、b面は断面	完存	
2641	36	75	SD49	中～下層	台石	16.1	10.7	4.3	1111.43	砂岩	表面に粗粒な敲打痕	
2705	39	79	SD49	上層	石鑿	1.4	1.3	0.2	0.34	サヌカイト	凹凸式	完存
2706	39	79	SD49	上層	スクレイバー	4.35	3.35	9.0	9.64	サヌカイト	下縁部、右側縁に刃部加工	欠損
2707	39	79	SD49	上層	スクレイバー	6.55	1.9	0.35	6.6	結晶片岩中の石英原	下縁に不規則な刃部加工	欠損
2708	40	79	SD49	上層	スクレイバー	8.1	6.5	1.1	64.49	サヌカイト	a面の上右縁は折損面を敲打し削 す。下縫は直線的な刃部加工か	欠損
2709	40	SD49	上層	スクレイバー	6.95	4.5	0.95	38.87	サヌカイト	a面右下縁に片面刃部加工、下縫 中央部は欠損	欠損	

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(3)

番号	埠頭	遺構名	部位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	重 量 (g)	石 村	形態・手法の特徴	残存率	
Z710	40	79	S D49	上層	磨製石砲丁未製品	5.7	5.0	0.9	36.28	安山岩 軸状片刃石斧	未製品、縦状頂のこす
Z711	40	79	S D49	上層	柱状片刃石斧	7.7	5.2	1.8	118.51	軸状片岩 (粗質)	挿入、基部は斜行 下半部欠損
Z712	40	79	S D49	上層	打製石斧	3.7	2.6	0.6	16.23	サスカイト	a面に強い掌滅痕・線状痕、b面 下端に弱い掌滅痕
Z713	41	80	S D49	上層	打製石斧	13.45	6.75	1.5	210.04	流紋岩 (少量の輝石)	表裏に弱い掌滅痕 12ほ完存
Z714	41	80	S D49	上層	砾石片	7.8	10.0	11.05	98.33	安山岩	縦状頂あり、刃器に転用か 久損
Z715	42	80	S D49	上層	台石	11.6	9.3	4.5	616.38	安山岩 (産晶不明)	a面に粒状痕、b面に擦痕、c面 を鑿して分離、c面は分割面の 接合面を示す
Z716	42	80	S D49	上層	楔形石器	4.4	3.6	0.6	11.25	サスカイト	上下端に滑れ、b面左側縁に擦痕 削離痕
Z717	42	80	S D49	上層	楔形石器	4.6	2.9	0.6	8.09	サスカイト	上下端に滑れ
Z718	42	80	S D49	上層	楔形石器	2.9	2.6	0.6	5.47	サスカイト	上端に滑れ、b面は乾燥面 a面 左縁はd面敲打による滑れ
Z719	42	80	S D49	上層	使用痕のある剝片	4.6	3.3	1.3	15.61	サスカイト	下端に剥離面
Z720	42	80	S D49	上層	使用痕のある剝片	9.4	3.5	1.25	50.08	サスカイト	先端と基部 の一部折損
Z725	45	83	S D49	不明	石錐	1.8	1.9	0.5	1.31	サスカイト	凹抜式
Z766	45	83	S D49	不明	スクレーパー	6.2	4.9	0.9	24.31	サスカイト	b面が素材の主要剝離面、上下縁 に片面刃筋加工
Z767	45	83	S D49	不明	スクレーパー	4.2	3.3	0.55	6.39	サスカイト	a面下縁に曲線的刃筋加工
Z768	46	84	S D49	不明	スクレーパー	8.5	6.1	1.5	94.78	安山岩 (斜方輝石含 t)	下端に直線的刃筋加工
Z769	46	83	S D49	不明	打製石砲丁片	2.95	2.4	0.7	4.05	サスカイト	下端部に規則的な刃筋加工、表裏 に掌滅痕
Z770	46	84	S D49	不明	剥片 (石墨 o r 脣 石)	3.4	6.1	0.35	8.13	安山岩 (斜方輝石含 t)	a面に掌滅、線状痕 -
Z771	46	84	S D49	不明	叩石	11.9	6.5	4.3	443.32	砂岩	全面に擦挫痕打痕
Z772	47	84	S D49	不明	台石	21.1	11.4	5.4	1413.32	安山岩	a・c面に弱い擦痕、b面は細い 縦状痕
Z773	47		S D49	不明	楔形石器	2.9	2.9	0.45	5.02	サスカイト	上下端に滑れ、b・d面は乾燥面 完存

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(4)

番号	埠区	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	石材	形態・手法の特徴	残存率	
2774	47	S D49	不明	梯形石器	3.7	4.8	1.2	16.29	サヌカイト	欠損	
2803	51	86	S D50	最下層	石鑿	1.5	1.6	0.3	0.54	サヌカイト	先端の一部を折損
2804	51	86	S D50	最下層	石鑿未製品	2.5	1.9	0.4	1.97	サヌカイト	無縫を折損
2805	51	86	S D50	最下層	石鑿	1.1	1.4	0.2	0.27	サヌカイト	凹基式と基部を折損の一部
2806	51	86	S D50	最下層	石鑿	4.4	2.7	0.7	5.68	サヌカイト	頭部に一部縫打痕
2807	51	86	S D50	最下層	スクレーバー	8.6	5.4	1.1	44.61	サヌカイト	直線的刃部加工、刃縫部と背部に若干の滑れ
2808	51	86	S D50	最下層	打製石槌丁	8.55	5.5	1.3	71.38	サヌカイト	上縫は分離面を敲打、表裏面に弱い擦滅痕?
2809	52	87	S D50	最下層	砾石	6.5	2.3	2.5	45.28	流紋岩	石斧を底用か
2810	52	87	S D50	最下層	砾石	11.7	10.1	5.9	939.87	砂岩	
2913	57	91	S D50	T層	石鑿	1.6	1.6	0.3	0.57	サヌカイト	凹基式と基部を折損
2914	57	91	S D50	T層	石鑿	2.1	1.9	0.3	1.1	サヌカイト	凹基式
2915	57	91	S D50	T層	石鑿	2.1	1.9	0.4	1.42	サヌカイト	凹基式
2916	57	91	S D50	T層	石鑿	1.6	2.0	0.3	0.85	サヌカイト	凹基式
2917	57	91	S D50	T層	石鑿	3.2	1.2	0.4	1.41	サヌカイト	端部弱い磨耗、左側縫に微細削痕
2918	57	91	S D50	T層	石鑿	3.4	1.8	0.5	2.69	サヌカイト	完存
2919	57	91	S D50	T層	スクレーバー	7.2	4.6	0.8	24.19	サヌカイト	下縫部に曲線的な刃部加工
2920	57	92	S D50	T層	スクレーバー	7.2	5.0	0.9	38.92	流紋岩(無理品)	a面下縫及び右側縫に直線的刃部加工、c面に縫状孔
2921	57	91	S D50	T層	スクレーバー	4.25	3.3	0.75	9.41	サヌカイト	下縫に直線的刃部加工
2922	58	91	S D50	T層	打製石槌丁	6.5	4.75	0.9	32.09	サヌカイト	上縫は滑れ、a面右側縫に浅い快節をもつら、一部に擦痕
2923	58	91	S D50	T層	打製石槌丁	4.65	2.1	0.8	6.83	サヌカイト	裏板に擦痕、刃部は階段状削痕が目立つ

龍川五条Ⅱ遺跡 石器觀察表(5)

番号	博物館版	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	石 材	形態・手法の特徴	残存率
2924	58	91	SD50	下層	打製石斧丁	6.05	2.35	0.8	9.06 サスカイト	刃根部に摩滅痕 刃部に刃こぼれ痕 欠損
2925	58	92	SD50	下層	大型始刀石斧	4.2	5.2	3.0	82.23 安山岩系の脈岩	刃部に刃こぼれ痕 欠損
2926	58	92	SD50	下層	打製石斧 剥片	4.6	7.9	1.3	51.43 サスカイト	a b d面に顯著な摩滅痕 表面に強い摩滅痕と2方向の線状 痕
2927	58	92	SD50	下層	打製石斧刃部再調整 剥片	2.2	4.7	0.5	5.6 サスカイト	周縁に崩打、擦痕 欠損
2928	59	92	SD50	下層	板状剥片	9.8	6.2	2.0	184.1 浪紋岩(輝石の透晶なし)	周縁に崩打、擦痕 欠損
2929	59	93	SD50	下層	アロック状剥片	6.05	5.65	4.25	130.32 宝山岩(斜方輝石含む)	b面左側に摩滅痕、a・b面は滑 れ面に摩滅痕 欠損
2930	60	93	SD50	下層	斧片	5.4	4.0	2.4	28.35 宝山岩(角閃石含む)	c面は水滴面 欠損
2931	60	93	SD50	下層	明石	4.6	4.1	3.7	102.0 砂岩	a面にあたたか状打痕 欠損
2932	60	93	SD50	下層	橢形石器	7.8	4.0	1.3	46.93 サスカイト	上下縁に滑れ、b面は截断面 完存
2933	60	93	SD50	下層	橢形石器	5.3	6.1	1.8	71.81 サスカイト	c面に摩滅痕、打製石斧の軸用か 完存
2934	60	93	SD50	下層	橢形石器	4.8	3.4	0.55	11.81 サスカイト	上下縁に滑れ、b面は截断面 完形
2935	61	94	SD50	下層	橢形石器	4.9	3.75	1.15	26.33 サスカイト	上下縁に滑れ、b面は截断面、d 面は素朴な鋸歯の分離面 完存
2936	61	94	SD50	下層	橢形石器	5.1	4.8	1.2	33.69 サスカイト	上下縁に滑れ、c面に自然面が残 る 完存
2937	61	94	SD50	下層	橢形石器	3.5	3.7	1.1	15.84 サスカイト	上下縁に滑れ、b面は截断面 完存
2938	61	94	SD50	下層	橢形石器	2.9	2.9	5.5	6.18 サスカイト	表面に摩滅痕、打製石斧丁刃部 片を軸用 完存
2939	61	94	SD50	下層	橢形石器	2.8	1.7	0.5	2.95 サスカイト	上下縁に滑れ 欠損
2940	61	94	SD50	下層	使用痕のある剥片	7.3	5.1	1.05	39.2 サスカイト	周縁部に不規則な剥離痕 完形
2941	61	94	SD50	下層	剥片	5.05	3.65	0.95	13.45 安山岩	a面は水滴が顯著 欠損
2942	61	94	SD50	下層	使用痕のある剥片	2.1	1.9	0.3	0.93 サスカイト	側縁に微細剥離痕 欠損
2943	64	96	SD50	下層	石器	2.1	2.0	0.3	1.37 サスカイト	平基式、a面右縁は調整不十分 先端を折損
2944	64	96	SD50	不明	石器	2.8	1.1	0.3	1.1 サスカイト	凹基式、側縫は中略らみ 一部欠損
2945	64	96	SD50	不明	石器	4.7	1.7	0.9	8.15 サスカイト	a面に鋸歯の折損面が残る、表面 の素材面に摩滅痕 完存

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(6)

番号	拝団	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	厚 (mm)	重量 (g)	石	材	形態・手法の特徴	残存率
2988	64	96	S D50	不明	スクレーパー	6.2	4.2	0.8	22.59	サスカイト	下端部に不規則な刃解加工、刃部欠損	
2989	64	96	S D50	不明	スクレーパー	6.1	4.3	1.5	44.26	サスカイト	刃部端が一部摩滅	
2990	65	96	S D50	不明	スクレーパー	7.6	5.4	0.6	31.33	サスカイト	弱い摩擦痕	
2991	65	96	S D50	不明	スクレーパー	3.6	5.2	1.1	18.4	サスカイト	弱い摩擦痕	
2992	65	96	S D50	不明	スクレーパー	3.5	2.8	0.8	6.67	サスカイト	欠損	
2993	65	96	S D50	不明	スクレーパー	3.7	2.4	0.35	3.28	サスカイト	下端に直線的刃解加工、表面に弱い摩擦痕	
2994	65	97	S D50	不明	圓平片刀石斧	6.3	5.8	1.2	59.7	綠泥片岩	圓の白抜きが研磨面	
2995	65	97	S D50	不明	橢形石器	4.0	3.4	0.9	13.59	サスカイト	完存	
2996	65	97	S D50	不明	橢形石器	2.1	3.4	1	8.98	サスカイト	完存	
2997	65	97	S D50	不明	使用痕のある剥片	4.05	3.0	0.7	7.03	サスカイト	下端に微細剥離痕	
2998	65	97	S D50	不明	剥片	2.65	1.7	0.4	2.12	綠泥片岩	完存	
2999	66	97	S D50	不明	使用痕のある剥片	4.9	4.8	0.95	18.76	サスカイト	下端と側縁に微細剥離痕と刃部端の擦痕	
3000	66	97	S D50	不明	使用痕のある剥片	5.7	4.25	9.0	15.67	サスカイト	下端及び上端に微細剥離痕、上端の一部に抉り状の凹み	
3001	66	97	S D50	不明	剥片	5.5	3.9	0.9	23.88 い)	安山岩(浅晶見えな)	力学的に沿って剝離	
3002	66	98	S D50	不明	石核	16.2	9.2	3.7	620.07	サスカイト	自然面を打面としてa面に複数の剝離面、c面は素材面か	
3011	69	99	S D51	台石		15.2	13.3	7.2	1752.85	砂岩	被熱あるいは風化による色調が多い	
3012	70	S D51	台石			13.1	11.2	5.6	1201.23	砂岩		
3013	70	S D51	橢形石器			4.9	3.4	1.2	25.24	サスカイト	素材面に弱い摩擦痕	
3136	78	107	S R04	下層	石器未製品?	4.6	3.9	0.6	10.39	サスカイト	側縁部を一部欠損	
3137	78	107	S R04	下層	石器未製品	2.7	1.85	0.4	2.06	サスカイト	橢形石器削片を素材面とする	
3138	78	107	S R04	下層	石器	4.8	1.6	0.6	4.23	サスカイト	端部削減及び擦痕	
											完存	

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(7)

番号	埋蔵層	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	形態・手法の特徴	残存率
3139	78	107	S R04 下層	スクレーパー	3.9	5.5	0.85	19.95	サスカイト	下縁感・側縁部に主に片面から刃部加工	欠損
3140	79	107	S R04 下層	スクレーパー	6.7	3.8	0.5	22.59	サスカイト	直線的な両面刃感加工	完存
3141	79	107	S R04 下層	スクレーパー	5.1	6.1	1.0	24.18	サスカイト	刃部付近に摩滅痕	欠損
3142	79	108	S R04 下層	スクレーパー	5.85	4.4	0.7	18.87	サスカイト	下縁に曲線的な刃部加工、刃部付近に摩滅痕	完存
3143	79	108	S R04 下層	スクレーパー	7.05	5.1	1.2	45.04	サスカイト	下縁に粗い刃部加工	欠損
3144	79	108	S R04 下層	スクレーパー	5.6	5.9	1.75	52.49	サスカイト	下縁部に曲線的な刃部加工、素材面に摩滅痕	完存
3145	80	108	S R04 下層	磨製石器丁未製品	5.2	5.9	1.0	38.04	流紋岩(鶴内石)、輝石、カントン石含む	未製品、穿孔前の数打痕、磁石に絆用	破片
3146	80	108	S R04 下層	打製石器丁	4.6	2.4	0.7	8.46	サスカイト	下縁部に粗糲的刃部加工、表面に摩滅痕	欠損
3147	80	108	S R04 下層	スクレーパー	3.9	4.6	1.2	18.03	サスカイト	下縁部に刃部調整	欠損
3148	80	109	S R04 下層	打製石斧	6.95	5.1	1.7	81.33	サスカイト	表面に弱い摩滅痕、側縁及び刃部に慣れ	欠損
3149	80	109	S R04 下層	打製石斧	5.85	5.0	1.55	56.96	サスカイト	表面に弱い摩滅痕、分割後に石核に伝用か	欠損
3150	80	109	S R04 下層	打製石斧	3.3	5.4	1.2	18.15	サスカイト	表面に強い摩滅痕、及び縫状痕	欠損
3151	80	109	S R04 下層	打製石斧刃部再調整 打製片	2.85	3.1	0.45	3.46	サスカイト	表面に一方の縫状痕および強い摩滅痕	完存
3152	81	110	S R04 下層	橢形石器	6.2	6.9	2.0	105.69	サスカイト	上下端に流れ、a面は断面、c面は全周に渡り、b面は刃部による分断面	完存
3153	81	110	S R04 下層	橢形石器	5.8	5.2	1.3	49.25	サスカイト	自然面	完存
3154	81	110	S R04 下層	橢形石器(打製石斧 底用)	6.0	3.9	1.6	47.63	サスカイト	b面に弱い摩滅痕及び縫状痕、滑れがほぼ全周に及ぶ	完存
3155	81	110	S R04 下層	橢形石器(打製石斧 底用)	5.6	4.3	1.2	28.16	サスカイト	上下端に流れ、a面下縁に摩滅痕、b面は底断面	完形
3156	81	110	S R04 下層	橢形石器	3.0	2.2	0.6	5.41	サスカイト	上下端に流れ、b面は断面	完存
3157	81	110	S R04 下層	橢形石器	2.0	2.6	0.6	3.19	サスカイト	上下端に流れ、b面は断面	完形
3158	82	111	S R04 下層	使用痕のある剝片	7.2	6.0	1.2	45.98	サスカイト	下縁に両側削離痕	完存

龍川五条Ⅱ遺跡 石器類別表(8)

番号	埋蔵層	遺物名	層位名	器	種	測定長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	石	材	形態・手法の特徴	残存率
3159	82 111	SR04	下層	剥片		11.05	7.2	2.0	144.44	安山岩	粗削皮層の剥片	完存
3216	86 116	SR04	中層	角盤状石器		2.4	0.9	0.7	1.55	チャート	甲板面に削痕後有り	先端を折損
3217	86 116	SR04	中層	石鏃		1.5	1.5	0.3	0.6	サヌカイト	四基式	
3218	86 116	SR04	中層	スクレイバー		6.0	3.9	0.8	13.31	サヌカイト	刃部加工後上、表面に弱い擦痕?	完存
3219	86 116	SR04	中層	スクレイバー		2.8	3.2	0.7	4.9	サヌカイト	下端部に細かな刃部加工	欠損
3220	86 116	SR04	中層	打製石斧		14.1	3.0	2.1	78.27	サヌカイト	表面側面に鋸歯状断面及ぶ、d面は両面打撲による鋸歯状断面	欠損
3221	86 116	SR04	中層	打製石斧刃形再調整		2.7	5.9	0.7	9.36	サヌカイト	c面に強い擦痕及び擦痕状痕、a面は全体的に弱い擦痕	完存
3222	86 116	SR04	中層	楔形石器		3.9	2.3	0.5	5.02	サヌカイト	a面右下縁を細部調整	完存
3222	92 120	SR05		石鏃		2.0	1.4	0.3	0.51	サヌカイト	四基式	完存
3223	92 120	SR05		石鏃		2.1	1.4	0.3	0.65	サヌカイト	四基式、側縁に抉り	ほぼ完存
3224	92 120	SR05		石鏃		2.0	1.6	0.4	1.04	サヌカイト	四基式	ほぼ完存
3225	92 120	SR05		石鏃		1.7	1.2	0.3	0.39	サヌカイト	四基式、側縁に抉り	完存
3226	92 120	SR05		石鏃未製品		2.4	1.6	0.4	0.86	サヌカイト	四基式、未製品	先端を折損
3227	92 120	SR05		石鏃		1.6	1.4	0.3	0.8	サヌカイト	平基式、片面調整	先端を欠損
3228	92 120	SR05		石鏃		2.1	1.1	0.4	0.61	サヌカイト	凹基式	基部の一部を折損
3229	92 120	SR05		石鏃		2.3	1.3	0.4	0.98	サヌカイト	平基式	完存
3330	92 120	SR05		石鏃		2.6	1.6	0.5	1.7	サヌカイト	片面調整	先端を折損
3331	92 120	SR05		スクレイバー未製品		9.2	7.0	1.5	108.27	安山岩か流紋岩	下端にやや不規則な刃部調整、磨耗石端下端未製品の可能性あり	欠損
3332	92 120	SR05		スクレイバー		7.3	6.5	1.0	60.45	サヌカイト	刃部に摩擦痕	完存
3333	93 121	SR05		スクレイバー		4.5	3.1	0.6	7.21	サヌカイト	刃部に摩擦痕	欠損
3334	93 121	SR05		打製石砲丁		4.75	4.6	0.9	21.05	サヌカイト	a面左下縁に弱い擦痕痕、その他	欠損
3335	93 121	SR05		扁平片刃石斧		5.6	3.9	1.2	47.16	練泥片岩	右側縁に素材の研磨面を残す	欠損

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(9)

番号	地図	図版	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石 村	形態・手法の特徴	残存状況
3336	93	122	S R05	打製石斧		12.0	5.9	2.0	168.53	サスカイト	表面に擦滅痕及び擦状痕、側縁に 剥離面に擦滅痕及び擦状痕、欠損 痕の加工が顕著	ほぼ完存
3337	94	121	S R05	打製石斧		5.7	6.1	2.0	69.16	サスカイト	表面に擦滅痕及び擦状痕、欠損	欠損
3338	94	121	S R05	打製石斧		5.1	3.9	1.7	39.7	サスカイト	刃部に強い擦滅痕、擦状痕	欠損
3339	94	121	S R05	打製石斧		4.4	4.45	0.9	21.82	サスカイト	表面に擦滅痕、擦状痕	欠損
3340	94	122	S R05	打製石斧		3.0	4.5	6.0	10.66	サスカイト	表面に強い擦滅痕、擦状痕	欠損
3341	94	122	S R05	打製石斧刃部再調整 剥片		2.75	2.8	0.55	4.1	サスカイト	a: 面に擦状痕 b: 面に擦滅痕	欠損
3342	94	122	S R05	打製石斧刃部再調整 剥片		1.75	3.1	0.45	2.1	サスカイト	a: c: 面に擦状痕及び強い擦滅痕 b: e: 面は断面削面	完存
3343	94	123	S R05	楔形石器		4.4	4.3	1.1	21.5	サスカイト	a: e: 面は断面削面 b: d: 面に強烈な削痕	完存
3344	94	123	S R05	打製石砲丁→楔形石 器		4.8	3.0	0.9	17.78	サスカイト	c: 面に強い擦滅痕 d: 面に強い擦滅痕 e: 下端の底面は擦 削面を切る、b: 面は断面削 面は全周面に削れ	欠損
3345	94	123	S R05	楔形石器		3.95	3.9	0.8	13.78	サスカイト	は全周面に削れ	完存
3346	95	123	S R05	使用痕のある剥片		5.9	3.7	0.8	21.61	サスカイト	a: 面左下端および左端に擦削剥離 痕	完存
3347	95	123	S R05	使用痕のある剥片		1.9	3.3	0.5	3.79	サスカイト	a: 面左下端に擦削剥離 痕	完存
3348	95	123	S R05	使用痕のある剥片		3.9	3.6	0.65	6.53	サスカイト	刃部に擦削剥離痕	欠損
3349	95	123	S R05	使用痕のある剥片		2.3	2.4	0.3	2.6	サスカイト	下端にR 5 cmほどの抉り部 に強い擦滅痕、削削剥離面に強い 擦滅痕	完存
3350	95	123	S R05	使用痕のある剥片		2.45	2.4	0.4	3.46	サスカイト	a: 面左下端に擦削剥離痕	欠損
3351	95	123	S R05	椎状素朴 椎状素朴		7.8	1.7	1.5	24.36	黒色片岩	研磨無し	欠損
3362	96	124	S X07	素朴剥片		9.9	7.4	1.9	122.74	安山岩	細い敲打痕	欠損
3364	100	125	S D52	石鏃		4.7	2.8	0.5	5.14	サスカイト	平基式、大形鏃	完存
3365	100	125	S R06	石鏃		2.1	1.4	0.3	0.87	サスカイト	凹基式	先端と基部 を折損
3366	100	125	S R06	石鏃		3.0	2.1	0.6	3.42	サスカイト	錐部を折損	

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(10)

番号	博物館	通称名	層位名	器 種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	重 量 (g)	石 材	形態・手法の特徴	残存半 径
3367	100 123	SR06		剥片	6.5	3.6	0.7	24.18 麻薙片岩	a面は研磨面	欠損
3433	109 129	SR06	石鑿		1.8	1.2	0.3	0.42 サスカイト	凹基式	完存
3434	109 129	SR06	石鑿		1.7	1.4	0.4	0.65 サスカイト	凹基式	先端と基部 の一部を欠 損
3435	109 129	SR06	石鑿未製品		3.7	1.8	0.6	3.47 サスカイト		
3436	109 129	SR06	石鑿未製品		3.9	2.4	1.0	6.66 サスカイト		
3437	109 129	SR06	スクレーパー		9.5	4.0	1.3	44.9 サスカイト	刃部に摩滅痕	完存
3438	109 130	SR06	スクレーパー		5.6	5.1	0.9	23.32 サスカイト	刃部に摩滅痕	一部欠損
3439	109 129	SR06	スクレーパー		5.2	3.65	0.5	10.98 サスカイト	刃部に摩滅痕	完存
3440	109 130	SR06	スクレーパー		3.9	3.4	1.0	10.4 サスカイト	刃部に摩滅痕	欠損
3441	109 130	SR06	スクレーパー		3.6	2.6	0.5	6.03 サスカイト		欠損
3442	109 130	SR06	石匙		7.3	3.5	0.8	19.4 サスカイト		完存
3443	110 130	SR06	磨製石匙丁		7.8	6.1	0.8	51.78 開刃、孔径4.3mm	半切刃部 に丸くR	
3444	110 130	SR06	打製石匙丁		10	4.7	1.2	54.38 サスカイト	両側縁に抉り、刃部に掌滅痕	完形
3445	110 131	SR06	スクレーパー		7.2	4.15	0.8	32.52 サスカイト	表裏面に深い摩滅痕、楔形石器に 転用	110は完存
3446	110 131	SR06	スクレーパー		7.0	4.5	0.8	36.64 サスカイト	表裏面に深い摩滅痕、楔形石器に 転用	欠損
3447	110 131	SR06	スクレーパー		5.6	4.6	0.95	28.04 サスカイト	表裏面に摩滅痕、上縁部に一部 に削れ	欠損
3448	111 131	SR05	打製石匙丁		8.9	5.45	0.75	41.09 サスカイト	両側縁に浅い抉り、両面に掌滅痕	欠損
3449	111 131	SR06	スクレーパー		7.6	6.0	1.0	37.25 サスカイト	表裏面に摩滅痕	完形
3450	111 131	SR06	スクレーパー		5.7	3.7	0.8	44.47 サスカイト	表裏面に摩滅痕	欠損
3451	111 131	SR06	スクレーパー		5.4	2.8	0.7	10.69 サスカイト	表裏面に摩滅痕	欠損
3452	111 131	SR06	スクレーパー		2.7	4.6	1.3	12.83 サスカイト	表裏面に摩滅痕	欠損
3453	111 131	SR06	スクレーパー		2.4	4.1	0.8	9.73 サスカイト		欠損
3454	112 132	SR06	磨石		12.7	12.9	6.3	1277.52 砂岩	鋼錠打痕	完存

龍川五条Ⅱ遺跡 石器觀察表(1)

番号	揮抜	圓版	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	重 量 (g)	石 材	形態・手法の特徴	残存率
3455	112	132	S R06	磨石		12.4	10.1	6.7	1103.69	砂岩	完存
3456	113	132	S R06	台石		21.5	19.8	8.2	4310.0	砂岩	片面に被熱痕
3457	114	132	S R06	台石		14.4	8.5	6.2	1092.42	砂岩	片面に研面、片面に敲打痕
3458	114	133	S R06	スクレイバー		7.3	4.5	1.8	60.06	サスカイト	両面が緩やかな研面
3459	114	133	S R06	橢形石器		6.9	4.4	1.3	20.53	サスカイト	刃部に摩滅
3460	114	133	S R06	橢形石器		5.6	4.3	1.5	46.97	サスカイト	ほぼ全周に渡れ
3461	114	133	S R06	橢形石器		2.3	2.2	0.5	2.92	サスカイト	上下端に渡れ、b面は載断面
3462	115	133	S R06	二次加工のある剥片		2.6	2.0	0.5	3.0	サスカイト	欠損
3463	115	133	S R06	石棒?		9.6	4.2	2.2	141.83	黒色石岩	c面右端を強く削断し、a面中央に大きな欠損、b面は載断面
3468	115		S B11	橢形石器		1.5	1.8	0.5	1.57	サスカイト	基部
3478	123		S B13	石塊		1.3	1.0	0.3	0.41	サスカイト	-
3482	130		S A04	石鐵未製品		2.3	1.8	0.4	1.65	サスカイト	凹基式、未製品
3487	134		S P46	橢形石器		2.5	2.3	0.9	6.3	サスカイト	先端と基部を折損
3492	141		S D57, 58	打製石斧刃部再調整 剥片		1.95	1.05	0.3	0.63	サスカイト	a面に強い擦減痕及び擦状痕、b面の一部に削痕
3495	143		S D59	石塊		1.3	1.2	0.3	0.43	サスカイト	凹基式
3496	143		S D59	砾石		10	10.4	1.2	140.49	安山岩	a面に擦痕及び擦状痕
3515	147	138	S D60	最下層	石塊	1.3	1.4	0.3	0.43	サスカイト	凹基式
3516	147	138	S D60	最下層	石鐵未製品	1.7	1.3	0.3	0.49	サスカイト	先端と基部を折損
3517	147	138	S D60	中層	石塊	3.5	1.6	0.4	1.57	サスカイト	基部を折損
3518	147	138	S D60	最下層	石塊	4.0	1.4	0.5	3.75	サスカイト	側部を折損
3519	147	138	S D60	中層	石塊	2.7	1.6	0.3	1.2	サスカイト	側部を折損
3520	147	138	S D60	上層	橢形石器	5.0	2.3	0.8	13.28	サスカイト	素材面に摩減痕
3521	147	138	S D60	上層	橢形石器	2.8	3.2	0.6	8.38	サスカイト	上下端に渡れ
											完存

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(12)

番号	種類	基盤	遺構名	層位名	器	種	現存長 (cm)	現存幅 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	石	材	形態・手法の特徴	残存率
3547	151	141	S D61	上層	石鏡		1.3	1.1	0.3	0.24	サスカイト	凹基式	完存	
3548	151	141	S D61	上層	石鏡		1.4	1.5	0.3	0.45	サスカイト	凹基式	ほぼ完存	
3549	151	141	S D61	上層	石鏡		1.7	1.5	0.3	0.75	サスカイト	凹基式	完存	
3550	151	141	S D61	上層	石鏡		1.6	1.6	0.2	0.53	サスカイト	凹基式	先端を折損	
3551	151	141	S D61	上層	石鏡		2.3	1.5	0.3	0.72	サスカイト	凹基式	基部の一部 を折損	
3552	151	141	S D61	上層	石鏡		2.3	1.7	0.5	1.53	サスカイト	凹基式	ほぼ完存	
3553	151	141	S D61	上層	石鏡		2.0	1.3	0.2	0.62	サスカイト	凹基式	先端と基部 を折損	
3554	151	141	S D61	上層	石鏡		1.7	1.6	0.2	0.7	サスカイト	凹基式	基部を折損	
3555	151	141	S D61	不明	石鏡		1.9	1.2	0.2	0.89	サスカイト	基部を折損		
3556	151	141	S D61	上層	石鏡		2.7	1.1	0.5	1.48	サスカイト	凸基式	先端を折損	
3557	151	141	S D61	中層	石鏡		1.3	1.4	0.5	1.2	サスカイト	基部を折損		
3558	151	141	S D61	上層	石鏡未製品		1.9	1.9	0.5	1.87	サスカイト	未製品	基部を折損	
3559	151	141	S D61	下層	石鏡		4.1	1.7	0.7	4.73	サスカイト	基部を折損	先端を折損	
3560	151	142	S D61	最下層	スクレーパー		7.3	4.6	2.0	47.89	サスカイト	下端部に複数の片面刃加工、 刃端部に鋸い差減痕	完存	
3561	151	142	S D61	下層	スクレーパー		10.4	6.6	1.0	80.06	サスカイト	下端部に鋸い差減痕	完存	
3562	152	142	S D61	上層	打製石丸丁		8.1	5.9	1.5	64.08	サスカイト	上縁に鋸れ、両側縁に抉り、a面左 下に擦減痕、下縫部欠損	欠損	
3563	152	142	S D61	中層	楔形石器		3.6	4.1	0.7	11.29	サスカイト	上下縫に擦れ、c面は乾燥面	完存	
3564	152	142	S D61	下層	楔形石器		3.1	2.5	0.9	8.75	サスカイト	上縫は分離面を敲打、下縫は擦れ	完存	
3565	152	142	S D61	中層	楔形石器		3.6	2.55	0.9	8.49	サスカイト	上縫に擦れ、b面は折損面を行 裂	完存	
3566	152	142	S D61	上層	楔形石器		1.9	2.8	0.5	3.18	サスカイト	上縫自然面	完存	
3570	154	142	S D62		石鏡		2.0	1.4	0.3	0.5	サスカイト	凹基式	先端と基部 を折損	
3571	154	142	S D62		石鏡		1.5	1.2	0.2	0.27	サスカイト	凹基式	基部の一部 を折損	

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表[3]

番号	地図	遺構名	層位名	器	種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石	材	形態・手法の特徴	残存率
3572	154	142	S D62	石鏃	スクレハイバー	1.5	1.5	0.3	0.66	サスカイト		凹基式	先端を折損
3573	154	142	S D61	中層		6.8	5.8	1.8	76.9	サスカイト		楔形石盤に転用	完存
3574	154	142	S D62	打削石鏃丁		4.1	5.25	0.6	23.45	結晶片岩中の石英脈	側縁に抉り、上縁に漕れ		欠損
3575	154		S D62	楔形石器		1.2	1.8	0.5	1.34	サスカイト			
3579	158		S D64	スクレハイバー		4.35	4.0	0.8	14.79	サスカイト			欠損
3580	158		S D64	打削石斧		13.3	5.6	1.8	155.96	サスカイト		刃部表面及び側縁に磨滅痕、側縁に漕れ、基部にも一部磨滅痕	完存
3625	167	146	S R07	石鏃		1.2	1.1	0.4	0.32	サスカイト		凹基式	先端を欠損
3626	167	146	S R07	石鏃		1.1	1.2	0.3	0.27	サスカイト		凹基式	先端と基部の一部を折損
3627	167	146	S R07	石鏃		1.4	1.4	0.3	0.48	サスカイト		凹基式	基部の一節と先端を折損
3628	167	146	S R07	石鏃		1.5	1.3	0.3	0.44	サスカイト		凹基式	
3629	167	146	S R07	石鏃		1.2	1.5	0.2	0.35	サスカイト		凹基式	基部を折損
3630	167	146	S R07	石鏃		1.7	1.5	0.3	0.67	サスカイト		凹基式	先端を折損
3631	167	146	S R07	石鏃		1.7	1.4	0.3	0.7	サスカイト		凹基式	ほぼ完存
3632	167	146	S R07	石鏃		1.3	1.2	0.3	0.52	サスカイト		凹基式	完存
3633	167	146	S R07	石鏃		1.5	1.4	0.3	0.55	サスカイト		凹基式	先端と基部を折損
3634	167	146	S R07	石鏃		1.2	1.6	0.3	0.51	サスカイト		凹基式	先端と基部の一部を折損
3635	167	146	S R07	石鏃		1.6	1.2	0.3	0.46	サスカイト		凹基式	基部を折損
3636	167	146	S R07	石鏃		1.8	1.1	0.2	0.53	サスカイト		凹基式	基部を折損
3637	167	146	S R07	石鏃未製品		1.7	1.6	0.3	0.88	サスカイト		凹基式、未製品	基部を欠損
3638	167	146	S R07	石鏃		1.6	1.8	0.3	0.66	サスカイト		凹基式	先端と基部を欠損
3639	167	147	S R07	石鏃		2.1	1.5	0.35	0.61	サスカイト		凹基式	基部を欠損

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(4)

番号	捕獲	固原	遺構名	層位名	器	種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石	村	形態・手法の特徴	残存率
3640	167	147	S R07	石鑿			1.9	1.4	0.3	0.71	サヌカイト		凹基式	基部を折損
3641	167	147	S R07	石鑿			2.0	1.3	0.2	0.55	サヌカイト		平基式	完存
3642	167	147	S R07	石鑿未製品			2.5	1.6	0.4	0.96	サヌカイト		凹基式、未製品	完存
3643	167	147	S R07	石鑿未製品			2.4	1.5	0.3	1.11	サヌカイト		凹基式、未製品?	完存
3644	167	147	S R07	石鑿			2.4	1.5	0.3	1.1	サヌカイト		凹基式	完存
3645	167	147	S R07	石鑿			2.9	1.7	0.3	1.21	サヌカイト		圓錐は左右非対称	完存
3646	167	147	S R07	石鑿			3.4	1.4	0.4	2.05	サヌカイト		平基式	完存
3647	167	147	S R07	石鑿			3.4	1.3	0.5	2.15	サヌカイト		凸基式	先端を折損
3648	167	147	S R07	石鑿未製品			2.3	1.6	0.4	1.27	サヌカイト		未製品	完存
3649	167	147	S R07	石鑿			2.0	1.9	0.3	1.01	サヌカイト		平基式	先端を折損
3650	167	147	S R07	石鑿			2.1	2.0	0.3	1.23	サヌカイト		平基式	先端を折損
3651	167	147	S R07	石鑿未製品			1.3	1.6	0.4	0.75	サヌカイト		未製品	先端を折損
3652	167	147	S R07	石鑿未製品			1.9	1.3	0.4	0.93	サヌカイト		未製品、平基式	先端と基部 の一部を折損
3653	167	147	S R07	石鑿未製品			1.9	1.6	0.3	0.88	サヌカイト		未製品、左右非対称	先端と基部 を折損
3654	167	147	S R07	石鑿未製品			2.1	1.7	0.3	1.03	サヌカイト		凹基式、未製品	基部の一部 を折損
3655	167	147	S R07	石鑿未製品 ^{II}			1.2	1.4	0.3	0.41	サヌカイト		未製品	基部を折損
3656	167	147	S R07	石鑿未製品 ^{II}			2.5	1.2	0.4	1.12	サヌカイト		未製品	基部を欠損
3657	167	147	S R07	石鑿未製品			1.8	1.6	0.3	0.85	サヌカイト		未製品	先端と基部 を折損
3658	167	147	S R07	石鑿未製品 ^{II}			2.8	2.3	0.7	3.3	サヌカイト		未製品	先端部を折 損
3659	167	147	S R07	石鑿未製品			3.0	1.9	0.7	3.46	サヌカイト		未製品	先端部を折 損
3660	167	147	S R07	石鑿未製品			1.9	1.6	0.35	1.11	サヌカイト		未製品	完存
3661	167	147	S R07	石鑿未製品			2.2	1.65	0.3	1.0	サヌカイト		未製品	完存
3662	168	147	S R07	石鑿			5.0	2.9	0.5	9.71	サヌカイト		彫括面	ほぼ完好

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(5)

番号	捕獲回数	遺構名	部位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	重 量 (g)	石 材	形態・手法の特徴	残存率
3663	168	147	SR07	石錐	3.9	2.1	0.9	サスカイト	無部磨耗	無部及び基部を折損
3664	168	147	SR07	石錐	2.8	2.3	0.5	サスカイト	側縁に滑れ	完存
3665	168	147	SR07	石錐	2.2	3.3	0.6	サスカイト	無部を折損	無部及び基部を折損
3666	168	147	SR07	石錐	1.3	1.8	0.6	サスカイト	無部を折損	無部及び基部を折損
3667	168	147	SR07	石錐	1.2	1.0	0.3	サスカイト	無基部小片	無基部小片
3668	168	147	SR07	石錐	2.9	1.6	0.6	サスカイト	楕形石錐削片素材	無部を折損
3669	168	148	SR07	スクレーパー	2.75	3.2	0.55	サスカイト	完存	完存
3670	168	148	SR07	打製石砲丁	5.05	3.35	0.9	サスカイト	側縁に抉り、刃部は直線的に片面のみ刃部加工	欠損
3671	168	148	SR07	打製石砲丁	3.7	4.3	0.8	サスカイト	側縁に弱い磨痕有	欠損
3672	168	148	SR07	打製石砲丁	6.4	4.5	7.5	サスカイト	側縁に抉り、表面に擦痕有	欠損
3673	168	149	SR07	打製石砲丁 (+楔形石器)	6.6	2.9	1.95	サスカイト	上下縁に滑れ、素材間に摩擦痕	完存
3674	168	149	SR07	打製石斧 (-楔形石器)	6.25	3.35	1.1	サスカイト	上下縁に滑れ、素材間に摩擦痕	欠損
3675	169	149	SR07	楔形石器	4.8	4.6	0.9	サスカイト	ほぼ全面に滑れ、b面は範断面	欠損
3676	169	149	SR07	楔形石器	2.1	2.4	1.1	サスカイト	完存	完存
3677	169	149	SR07	楔形石器	2.8	2.7	0.75	サスカイト	欠損	欠損
3678	169	149	SR07	楔形石器	1.6	2.3	5.0	サスカイト	側縁に滑れ、c面を打撃して分割	側縁に滑れ、c面を打撃して分割
3679	169	149	SR07	楔形石器	2	1.8	0.5	サスカイト	側片	側片
3721	178	SK91		楔形石器	2.2	2.7	0.6	サスカイト	側縁に滑れ、c面を打撃して分割	側縁に滑れ、c面を打撃して分割
3723	182	SK94		石錐	1.3	1.2	0.2	サスカイト	凹基式	凹基式
3725	184	SK95		砾石	5.6	5.5	2.6	97.13	基部を折損	基部を折損
3753	199	156	包含層	石錐	2.0	1.4	0.4	0.74	凹基式	完存
3754	199	156	包含層	石錐	1.8	1.7	0.3	0.76	凹基式	先端と基部の一部を折損

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(16)

番号	標因	因版	遺構名	堆位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 (g)	石 材	形態・手法の特徴	残存率
3755	199	156	包含層		石鏡	1.1	1.1	0.3	0.33	サスカイト	平基式	先端を折損
3756	199	156	包含層		石鏡	1.4	1.2	0.3	0.42	サスカイト	凹基式	先端を欠損
3757	199	156	包含層		石鏡	1.2	1.0	0.3	0.28	サスカイト	凹基式	基部の一部のみ残存
3758	199	156	包含層		石鏡	1.3	1.4	0.3	0.43	サスカイト	凹基式	基部の一部が残存
3759	199	156	包含層		石鏡未製品	1.7	0.9	0.2	0.29	サスカイト	未製品	完存
3760	199	156	包含層		石鏡	1.4	1.4	0.2	0.29	サスカイト	平基式	基部の一部を折損
3761	199	156	包含層		石鏡	1.7	1.3	0.3	0.38	サスカイト	凹基式	基部の一部を折損
3762	199	156	包含層		石鏡	1.7	1.2	0.2	0.62	サスカイト	凹基式	ほぼ完存
3763	199	156	包含層		石鏡	1.7	1.2	0.3	0.58	サスカイト	凹基式	基部と基部の一部を折損
3764	199	156	包含層		石鏡	1.5	1.5	0.3	0.55	サスカイト	凹基式	先端と基部の一部を折損
3765	199	156	包含層		石鏡未製品	1.9	1.4	0.3	0.65	サスカイト	凹基式、未製品	基部を欠損
3766	199	156	包含層		石鏡	2.0	1.6	0.3	0.71	サスカイト	凹基式	先端と基部の一部を折損
3767	199	156	包含層		石鏡	1.8	1.7	0.3	0.69	サスカイト	凹基式	先端と基部の一部を折損
3768	199	156	包含層		石鏡未製品	1.6	1.2	0.2	0.49	サスカイト	平基式、未製品	先端を折損
3769	199	156	包含層		石鏡	1.6	1.8	0.4	0.89	サスカイト	平基式	先端を折損
3770	199	156	包含層		石鏡未製品	1.3	1.7	0.3	1.11	サスカイト	未製品	先端と頭様
3771	199	156	包含層		石鏡未製品	2.2	2.3	0.4	1.19	サスカイト	凹基式、未製品	先端と頭様を一部欠損
3772	199	156	包含層		石鏡	2.6	1.9	0.5	1.76	サスカイト	平基式	ほぼ完存
3773	199	156	包含層		石鏡未製品	2.5	1.4	0.5	3.43	サスカイト	未製品	

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(7)

番号	持固	遺構名	部位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	石 材	形態・手法の特徴	残存率
3774	199	156	包含層	石器未製品	2.6	2.1	0.5	サスカイト	未製品	先端を折損
3775	199	157	包含層	石塊	2.5	2.3	0.4	サスカイト	基部と腹部 を欠損	基部と腹部 を欠損
3776	199	157	包含層	石錐	3.1	2.1	0.7	サスカイト	側縁に磨打痕	基部と腹部 を折損
3777	199	157	包含層	剥片(磨製石庖丁未 製品)	4.9	5.7	0.6	安山岩	未製品の剥片、穿孔箇所を敲打	
3778	199	157	包含層	打製石斧	4.8	4.1	1.2	サスカイト	表面に鋭い摩擦痕	欠損
3779	199	157	包含層	大型始刃石斧	9.6	8.5	4.2	安山岩系の脈岩(石英 ・長石含む)	表面風化顯著	
3780	200	158	包含層	扁平刃石斧	3.4	2.8	0.65	12.41 綠泥片岩	と面が素材の研磨面、他の面は器 面が剥落	欠損
3781	200	157	包含層	素材石錐	9.2	7.3	3.3	203.39 安山岩(少量の角閃 石)	安山岩(少量の角閃 石)	欠損
3782	201	157	包含層	打製石斧	9.8	6.5	2.7	214.87 脈岩	側縁部は敲打による滑れ	欠損
3783	201	158	包含層	砾石	4.7	4.8	0.7	脈岩	表面に摩擦痕	
3784	201	158	包含層	楕形石錐	2.9	2.9	0.6	サスカイト	上下端に滑れ	完存
3785	201	158	S P193	楕形石錐	3.2	2.3	0.7	サスカイト	上下端に滑れ	完存
3786	201	158	包含層	スクレーパー	5.1	4.5	1.1	22.1 サスカイト	下縁部に摩擦痕	欠損

第32表 龍川五条Ⅱ遺跡 木器観察表

番号	持固	遺構名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	材質	木取り	残存率	備考
3464	115	134	S K06	方形容付田下點綴骨材	76.0	5.9	2.5 クリ	経日	一部欠損 使用歴あり
3465	115	135	S R06	建築部材?	65.4	3.6	2.4 不明	経日	完存



第 2 部

飯野東分山崎南遺跡

第1章 調査の経緯

丸亀市内の四国横断自動車道建設予定地のうち、飯野地区はA～Eの5小区に区分けされていた。A・B地区は昭和63年度に予備調査が行われ、その年度の後半には「飯野東二瓦窯遺跡」として本調査を実施し、古墳時代の河川・水田や中世の集落跡を検出している^{*}。

一方、C～E地区は飯野山の北斜面地に位置し、用地買収や立ち木の伐採、土砂崩壊時の流出防止施設などの事前の条件整備が難航し、平成元年の予備調査の予定がずれ込んで、平成2年度の後半になってようやく予備調査を実施する運びとなった。

予備調査はC地区から開始し、D、Eの順で断続的に行った。調査員や作業員は龍川五条遺跡のV区に配属された班が宅地退去の遅れのための待機期間を利用して行った。

なお、事前の分布調査によって、C地区で埴輪、D地区で土師器等の散布が知られていた。また、C地区は過去に大規模な採土が行われ、高さ10m以上の崖面を形成し、崖下でかつて人骨や鉄剣が出土したとの伝承がある[†]。

調査は幅1～2mのトレンチを各地区で設定し、第1表の所見を得た。

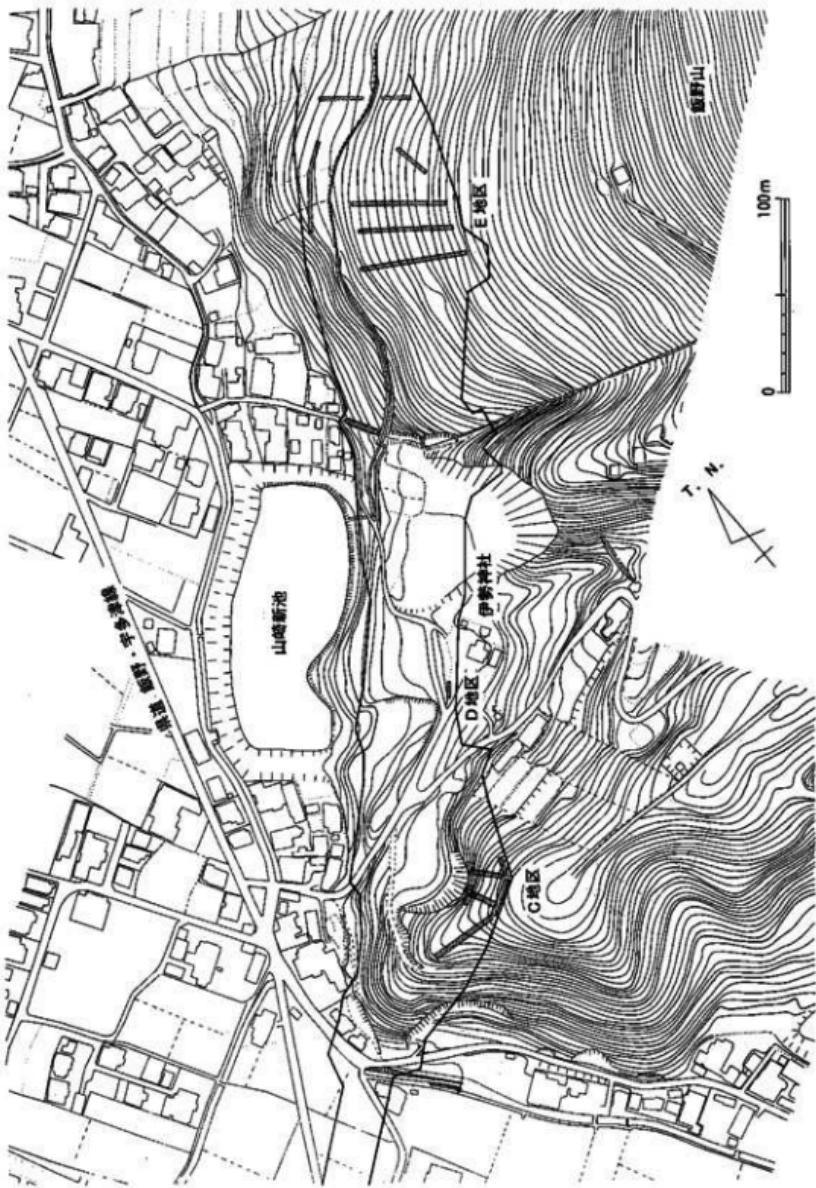
第1表 C～E地区予備調査一覧表

調査期間	地区名	トレンチ本数	所見
平成2年10月11日～15日	C地区 (飯野東分山崎南遺跡)	6	客土層から埴輪が出土し、古墳の存在が推定されたが、すでに破壊され尽くしており、出土のみの調査を行って本調査に至らず
平成2年10月16日～29日	D地区	1	谷状地形が確認される。明治時代以降の遺物が主体であり、本調査の対象から外す。後(平成9年度)の整理作業で、このトレンチから梵鐘鋳型と考えられる遺物群が出土していたことが判明。
平成2年10月29日～11月2日	E地区	9	飯野山裾の急斜面であり、遺構・遺物が全くなく、本調査に至らず。

*1 山下平重編 1996『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第20冊
飯野東二瓦窯遺跡』香川県教育委員会・財団法人埋蔵文化財調査センター・日本道路公団

*2 中西 昇編 1987『四国バイパス及び四国横断自動車道建設予定地内埋蔵文化財詳細分布・試掘調査概要』香川県教育委員会

第1図 飯野C～E地区予備調査トレーンチ配置図



第1図 飯野C～E地区予備調査トレーンチ配置図

第2章 立地と環境

(地勢)

飯野山は丸龜平野北東部の土器川と大東川に挟まれた標高421mの独立丘陵で、側面形が精美な円錐形となる姿が古くより讃岐地方の人々に注目され、「讃岐富士」と一般的に称されている。山頂付近は讃岐層群の安山岩の岩盤が露呈しやや平坦地を形成するが、裾までの斜面はきわめて急峻で、裾付近から傾斜が緩やかとなり、ヤツテ状の尾根を多数派生させ、裾野を広げる格好で低地面に収束する。飯野山周辺の低地部は先の2つの中規模河川や飯野山の小谷水等によって形成された平野である。

(旧石器時代・縄文時代)

大東川流域には県内でも特に多くの遺跡が分布することが知られる。川津一ノ又遺跡では弥生時代以降の河川内にナイフ形石器や縦長剥片石核などが混在しており、基盤土層中における旧石器時代から縄文時代の石器ブロックの存在が推定されている¹⁾。また、川津東山田遺跡では丘陵斜面地の包含層より角錐状石器が単独出土している²⁾。縄文時代は土器片が川津川西の遺跡等で新しい遺構に混在して出土するほかは明確な集落遺跡は知られていない。

(弥生時代)

凸帯文期になると遺跡数が多く、下川津遺跡・川津下樋遺跡・川津川西遺跡などでまとまって土器が出土するほか、河川内に混在して凸帯文土器が出土する例も多い。ほぼ同じ頃の下川津遺跡には当地域で最古の弥生土器が出現しているものと考えられる。標高5mの等高線を描くと、下川津遺跡周辺は東西の丘陵に挟まれた入り江状の地形をなしていたことが窺われ、海浜部を間近に控える標高4mほどの微高地が周辺地域の開拓の拠点であった³⁾。南にやや離れた川津下樋遺跡の井堰を伴う水田跡は、河川に接する緩やかな傾斜地につくられた小区画水田で、出土した土器から凸帯文期の終末頃から弥生前期にかけてのものとみらる。当初より完成された高度な灌漑技術を持っていたことを示す⁴⁾。前期後半から中期前葉の遺跡の調査例は少ないが、西又遺跡では幅2~3m、深さ1.2mの規模をもつ断面台形状の溝が確認され、多量の土器が出土した⁵⁾。西又遺跡から東にやや離れた川津一ノ又遺跡では弥生中期中葉ごろの居住域が確認されている。集落域の東南部付近の溝から出土した粘土塊は、置き塙場の把手や鋳型のガス抜き穴と想定される部位が認め



第2図 周辺遺跡分布図

第2表 周辺遺跡一覧表

No.	種別	遺跡名	所在地	時代	備考
1	散布地	飯野東分山崎南遺跡	丸亀市飯野町東分	古墳	埴輪・須恵器
2	*	飯野D地区	丸亀市飯野町東分	中～近世	陶磁器・鋳型
3	*	飯野E地区	丸亀市飯野町東分		
4	集落	下川津遺跡	坂出市川津町下川津	弥生～中世	堅穴住居・掘立柱建物・溝・土坑・水田・河川
5	古墳	青ノ山墓地公園東古墳	丸亀市青ノ山	古墳	
6	包含地	本村東遺跡	宇多津町本村東	古代	
7	寺院	法華寺跡	宇多津町本村西	古代	
8	集落	川津元結木遺跡	坂出市川津町	弥生～中世	堅穴住居・掘立柱建物
9	集落	川津中塙遺跡	坂出市川津町	弥生～中世	堅穴住居・掘立柱建物
10	集落	川津下拂遺跡	坂出市川津町	弥生～中世	水田・井堰
11	集落	川津二代取遺跡	坂出市川津町	弥生～中世	水路
12	包含地	川津六反地遺跡	坂出市川津町	弥生～中世	掘立柱建物
13	包含地	西又遺跡	坂出市川津町一ノ又	弥生	溝
14	集落	川津一ノ又遺跡	坂出市川津町	弥生～中世	堅穴住居・掘立柱建物・河川
15	集落	川津井手ノ上遺跡	坂出市川津町井手ノ上	古代	掘立柱建物
16	包含地	柳池遺跡	丸亀市飯野町大東	弥生	
17	集落	川津東山田遺跡	飯山町東坂元三の池	旧石器～中世	堅穴住居
18	集落	川津川西遺跡	坂出市川津町	弥生～中世	掘立柱建物
19	包含地	藤高池遺跡	丸亀市飯野町藤高池	弥生～中世	
20	古墳	喜田荒神古墳	飯山町東坂元三の池	古墳	
21	古墳	お四国池西2号墳	飯山町東坂元	古墳	
22	古墳	三の池古墳	飯山町東坂元三の池	古墳	前方後円墳
23	古墳	やかじ古墳	飯山町東坂元三の池	古墳	
24	古墳	三の池西古墳	飯山町東坂元三の池	古墳	
25	古墳	お四国池西1号線	飯山町東坂元	古墳	
26	古墳	大谷古墳	飯山町東坂元秋常	古墳	
27	古墳	西の宮古墳	飯山町東坂元三の池	古墳	
28	集落	飯野東二瓦窯遺跡	丸亀市飯野町	古代～中世	水田・河川
29	古墳	飯野1号墳	丸亀市飯野町神谷	古墳	
30	古墳	飯野2号墳	丸亀市飯野町神谷	古墳	
31	古墳	飯野3号墳	丸亀市飯野町神谷	古墳	
32	古墳	箱式石棺1号	丸亀市飯野町神谷	古墳	箱式石棺
33	古墳	箱式石棺2号	丸亀市飯野町神谷	古墳	箱式石棺
34	包含地	飯野山西麓散布地	丸亀市飯野町	弥生～古代	
35	包含地	飯野山山頂遺跡	丸亀市飯野山山頂	弥生	
36	墓	五重石塔	丸亀市飯野山山頂		
37	古墳	久保大塚北古墳	飯山町東坂元久保	古墳	
38	古墳	久保大塚古墳	飯山町東坂元久保	古墳	
39	古墳	坂元神社西古墳群1号墳	飯山町西坂元山ノ越207	古墳	
40	古墳	坂元神社西古墳群2号墳	飯山町西坂元山ノ越207	古墳	
41	古墳	坂元神社西古墳群3号墳	飯山町西坂元山ノ越207	古墳	
42	包含地	坂元神社遺跡	飯山町西坂元	旧石器	
43	包含地	飯野山登山道古墳	飯山町西坂元193	古代	

られ、積極的な材料に欠けるものの「青銅器鑄造関係遺物」である可能性が指摘されている¹⁶。飯野山西麓遺跡では中期末～後期初頭の土器が広範囲に分布する。発掘調査は行われていないが丘陵上に立地する高地性集落が展開するものと考えられる。また、飯野山山頂にも同時期の遺物が散布する。後期前半段階の遺跡は小規模なものが多いが、後期後半以降になると川津一ノ又・下川津等の微高地に古墳時代前期まで継続する多数の堅穴住居が展開する。

(古墳時代)

飯野山周辺には北側を除く裾部に3グループの古墳分布のまとまりがある。東裾部では全長約35mの前方後円墳である三ノ池古墳を中心に、小規模な円墳や箱式石棺など10基ほどが分布する。所属時期を示す資料は少ないが、三ノ池古墳が箱式石棺の主体部より珠文鏡が出土している点からみて古墳時代中期を中心とした時期が考えられる¹⁷。南裾部では3基の小円墳から構成される坂元神社西古墳群があるが、時期は不明。西裾部では今回調査した飯野C地区（飯野東分山崎南遺跡）付近を北限として3基の小規模横穴式石室墳と2基の箱式石棺の分布が知られる。今回の調査で6世紀前葉～中葉と考えられる埴輪の散布を確認しており、この地域で横穴式石室が一般的に導入される6世紀後半以前から小規模な群集墳が形成されていたものと考えられる。

また、山崎古墳群出土として報告されている須恵器に「装飾付須恵器」がある¹⁸。装飾付須恵器や装飾器台は飯野山周辺で多く出土する。県内では普通寺市王墓山古墳や安造田東古墳など丸龜平野に多くみられる点は興味深い。

* 1 山下平重編 1996『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第26冊

川津一ノ又遺跡Ⅰ』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団

* 2 平成2年度財団法人香川県埋蔵文化財調査センター調査

* 3 藤好史郎・西村尋文・大久保徹也 1989『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ 下川津遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団

* 4 今桐孝浩編 1996『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査報告第21冊 川津下樋遺跡』香川県教育委員会・財団法人埋蔵文化財調査センター・日本道路公団

* 5 國木健司 1989『西又遺跡』『香川県埋蔵文化財発掘調査概報集』香川県教育委員

会

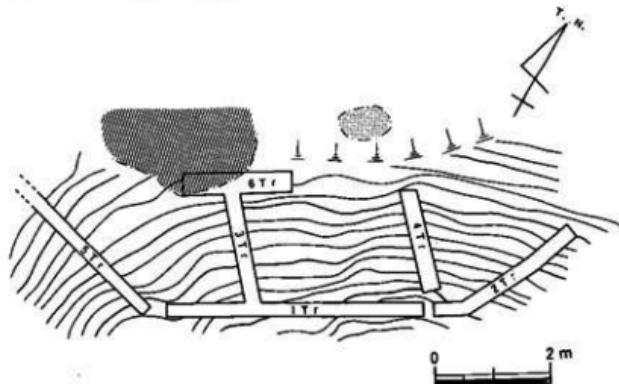
- * 6 片桐孝浩編
- * 7 松本敏三・岩橋孝 1983『讃岐青銅器図録』瀬戸内海歴史民俗資料館
- * 8 香川県教育委員会 1983『香川県史考古』

第3章 各地区の概要

(1) C地区(飯野東分山崎南遺跡)の概要(第3図)

調査地は、標高435mをはかる飯野山の裾部丘陵上に位置しており調査着手以前にすでに尾根の前面が削り取られ、花崗岩の山肌が露出する状況であった。下位に広がる土器川沖積低地部との比高差はおよそ46mをはかり、尾根上からは瀬戸内海まで見晴らしが利く。調査対象地は削られ残った尾根斜面地のうち、大きく分けて北に向くやや緩やかな傾斜の狭小な範囲と、北西方向にのびる長くやや急峻な傾斜をもつ尾根筋がある。分布調査では前者の北向きの緩斜面地から多数の円筒埴輪が採集されていたことから、そこを中心にしてトレンチを設定し、後者は尾根筋伝いに重機による長めのトレンチを設定して遺構等の確認を行った。

1~4トレンチは前者の緩斜面地に設定したトレンチである。いずれのトレンチにおいても表層の腐植土層の直下に花崗岩バイラン土が確認され、漸移的に岩盤に至ることが確認され、遺構等を見いだすことができなかった。ただし、3トレンチ北側において腐植土層の上に近年に覆われたと推定される花崗岩風化土が厚さ10~20cmで確認され、その土中に円筒埴輪片が含まれていることが判明した。すなわち、調査地外で掘削されその排土を盛り上げた痕跡と考えられた。同様の土層がさらに北側に広がっていたことから、それに直交する6トレンチを追加して設定した。



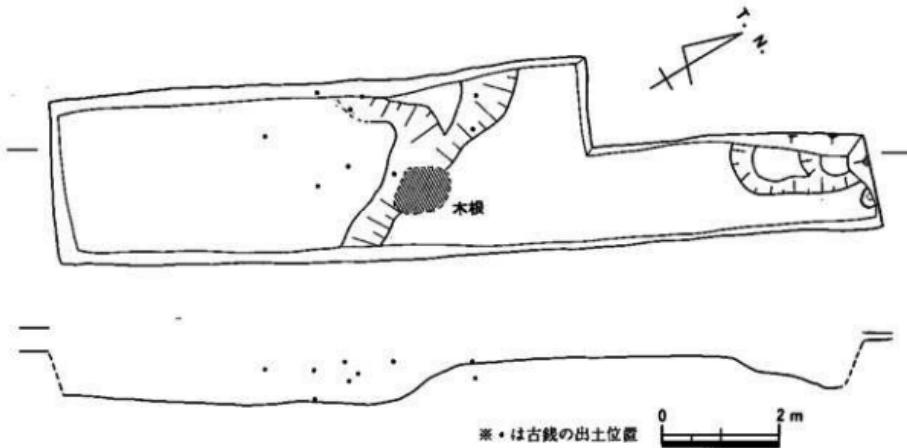
第3図 C地区トレンチ配置図

6 トレンチにおいても同様に客土層中からのみ埴輪片が出土することから、元来その埴輪が所属したであろう遺構はすでに破壊されているものと判断し、客土層を除去する過程で出土する埴輪を採集する結果となった。なお、調査中に崖面を観察したところ、急峻な崩落面の一部に拳大ほどの礫の集積がみられた。これが埴輪の分布と関係するかどうか、それ以上の調査が現実的に不可能であったことから、何を知ることはできないが、古墳が付近に存在するとすればそれに伴う葺石あるいは埋葬施設に関わるものであったかもしれない。

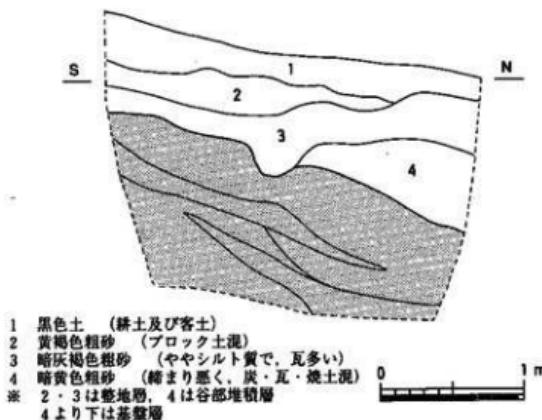
5 トレンチは後者の尾根筋伝いに掘開したトレンチで延長36mを調査したが、遺構・遺物は皆無であった。

(2) D地区の概要 (第4・5図)

D地区はC地区の尾根とE地区の尾根に挟まれたやや広い谷状地形を呈する箇所である。現在、伊勢神社境内となって平坦地が広がっているが、神社造成に伴い整地された面と推定され、旧地形を推定するのが困難であったが、比較的旧地形を留め元来より緩斜面であったと推定される箇所において、1本のトレンチを設定した。



第4図 D地区トレンチ平面図・断面図



第5図 D地区トレンチ南壁土層断面図

調査の結果、第5図に示したように、地表下約1mまで盛土層が確認され、北側へ傾斜する旧地形を検出することができた。トレンチの南西では、谷奥に向かう谷筋の傾斜が確認され、埋土中より「寛永通宝」「半錢」などの銅貨や近代の陶磁器、土師質土器などが出土した。

さらに、これらに伴って多量の焼土塊が出土した。これらの焼土塊は、その当時は建物の壁土の破碎片と判断して、明治時代の宅地が近辺にあったものと考えた。ところが、後の整理作業において少量ではあるが、鋳型と考えられる破片があることに気づき、出土状況等を写真等で確認したが、必ずしも十分な調査データが得られていない点が残念である。

なお、トレンチ北東隅では小規模な近世から近代と推定される埋甕状の遺構が検出されたが、それ以上の調査は行っていない。

第4章 出土遺物

(1) C地区出土遺物

埴輪（第6～8図）

・概要

各トレンチの客土層中より埴輪が出土した。コンテナ約1杯分に相当する。いずれも小片で、口縁部、凸帯部、底部について圓化した破片は21片である。器種はすべてが円筒埴輪で、うち1点が朝顔形、その他は普通円筒形である。普通円筒形の部位の内訳は口縁部が5点、胴部が14点、底部が1点となる。胴部片のうち透孔がみられるのは4点である。これらは、胎土、形態、成形、施文等の特徴がきわめて齊一的である。焼成は土師質の軟焼成のものから須恵質酸化焰焼成のものまでのバラツキはあるが、土師質も無黒斑の穴窓焼成であり、焼きムラのバリエーションとして把握することが可能であろう。以下、観察項目毎に記述する。

・法量と形態

いずれも小片であるために、全形を推し量る材料は少ない。口縁部片も小片であるが、復元した口径で算出して、18cm～27cmの間に収まっている。底径は21が19.2cmを示す。全長は40～50cmほどと推定される。

器形は底部から口縁部にかけて直線的に外傾するものと考えられ、口縁部は端部の拡張がなく直口で收めている。器壁は口縁部が7～8mmと薄く、胴部で約10mm、底部付近で11.5mmとなる。1の朝顔形は頸部がくの字に強く屈曲し括れ部に断面三角形の凸帯を貼り付けれる。

・成形

成形に当たっての粘土板の接合痕跡はほとんど判別できない。成形時の途中に乾燥工程をふまず、底部から口縁部まで短時間の内に成形したものと考えられる。外面調整は縱方向のハケメで、5～7条/cmの先の細い精緻な工具を使用している。縦位のハケメが施された後は、口縁部の上端から2～3cmの範囲にヨコナデが加えられるほかは、2次調整はみられない。内面は縦方向に間延びした指押さえ、あるいは指ナデである。特殊な工具をつかった痕跡はみられない。口縁部付近では横方向の条線をもつヨコナデがあるが、ハケメは施されない。

口縁端部は器面調整が施された後、一定の幅のヨコナデ原体（指か）を口縁部内面側から端部に押し当て、器面に沿ってナデ引いている。これによって外端部の粘土がはみ出し、摘み上げ状を呈することになる。これは2・5の口縁端部に特徴的にみられ、その他の口縁部も技法的には共通するものと考えられる。

・凸帯

凸帯は器面調整後に貼付けられるが、14は凸帯に覆われる幅1.5mmほどの沈線が施されており、貼付以前に施された割付線と推定される。凸帯貼付に当たっては、最初に軽く凸帯の上と下を器面に撫でつけて接着した後に、上端面と凸帶上部を指かあるいは凸帶上部についてはヘラ状の工具を使用して、条線を伴う丁寧なナデ調整を行っている。これによって凸帶上側の貼付時の接合痕がナデ消され、またナデが強く施されたものは凸帶の上側に凹線状の産みが巡る。14は貼付時の接合部とナデの位置が一致しない失敗品で、凸帯に食い込んで強いナデが施されたために接合線が明瞭に残り、また凸帯との間に低いテラス面を形成するものである。

凸帯の上端面はナデにより窪むものが多く、断面形状はM字形を呈している。摩滅が顕著なものは上端面が平坦のように見えるが、本来は強いナデによる窪みが巡っていたものと推定される。

凸帯の下は貼付時の接合痕を残すものが多く、上側ほどの強いナデはみられない。粗雑なナデ原体（親指か？）を凸帯下部に押しあてるが、接合痕を残すものは原体が接合痕に接触するほどの強さがないために、凸帯下端からやや下がった位置にナデが浅く巡り、凸帯下端とそのナデとの間に接合痕や器面調整のハケメが残ったと推定される。

・透孔

確認できるものは円形のみである。全体のどの部位に施されたかは不明。器面調整のハケメを切って穿孔されていることは解るが、凸帯の貼付との先後関係は不明。

・焼成

概要で記したように、土師質焼成のものと須恵質焼成のものがある。須恵質焼成のものはいずれも表面が濃橙色を呈する酸化面であるが、断面には暗灰色の還元部があり、酸化部をはさんで2～3面に分かれるもの（10・17）もある。

・胎土と含有鉱物等

胎土の生地はいずれもきめが細かい。含有鉱物は石英・長石・風化石英・赤色斑粒・種別不明黑色鉱物などがある。石英がもっとも普遍的で、3mmほどの角張った塊として肉眼

で観察できる。長石は1mm以下と小さく量も少ない。風化石英は灰褐色のものと赤褐色のものがあり、角がとれて摩滅したものが多い。量はさほど多くないが、6mmもある大粒の塊が含まれるものもある。赤色斑粒は量的にはさほど多くない。褐色系のものと赤色系のものがある。そのほか種別不明の微細な黒色鉱物が少量であるが含まれる。

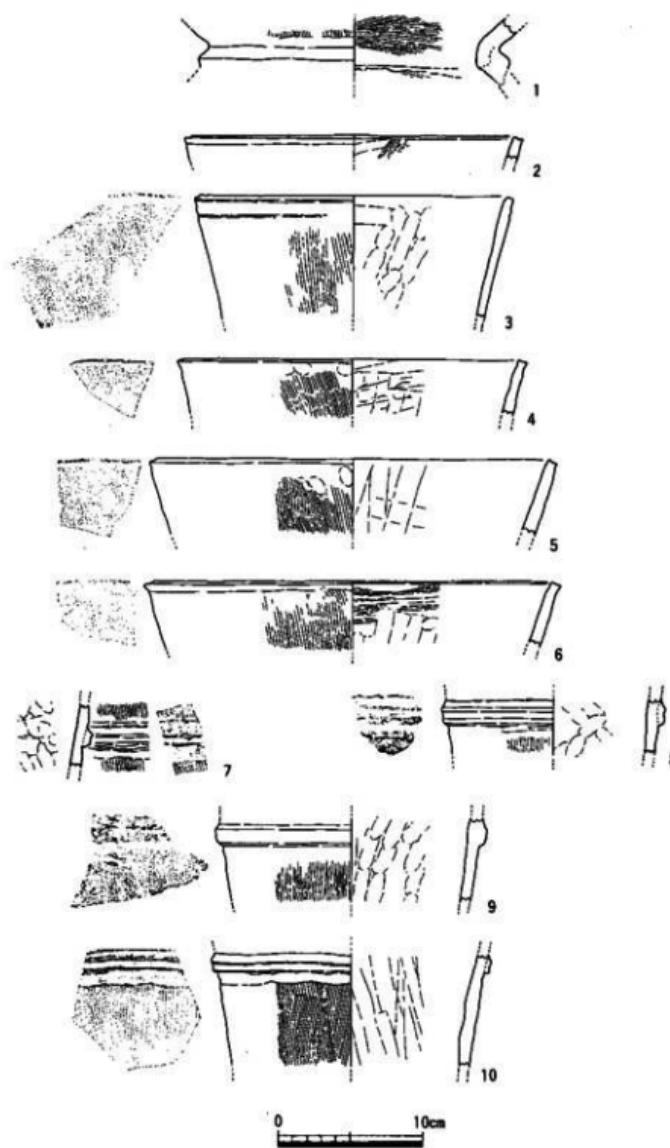
これらの鉱物等は土師質焼成のものには普遍的にみられるが、須恵質焼成の個体では石英を除いて確認できないものが多い。焼成状況により含有鉱物が変質したことによるのであろうか。

なお、ここで風化石英と分類したものは、石英と比べて有色部分が多い点と細かな亀裂が見られる点、また破断面が階段状とならず剥離面状を呈する点で石英との区別を行ったもので、チャートと類似するものである。ただチャートは本来香川県内で産出する地域はなく、また今回岩石の鑑定を経ていないために、現段階で石英が風化したものと判断して記載しているが、今後鉱物種名の変更の可能性があるものとして、付記しておく。

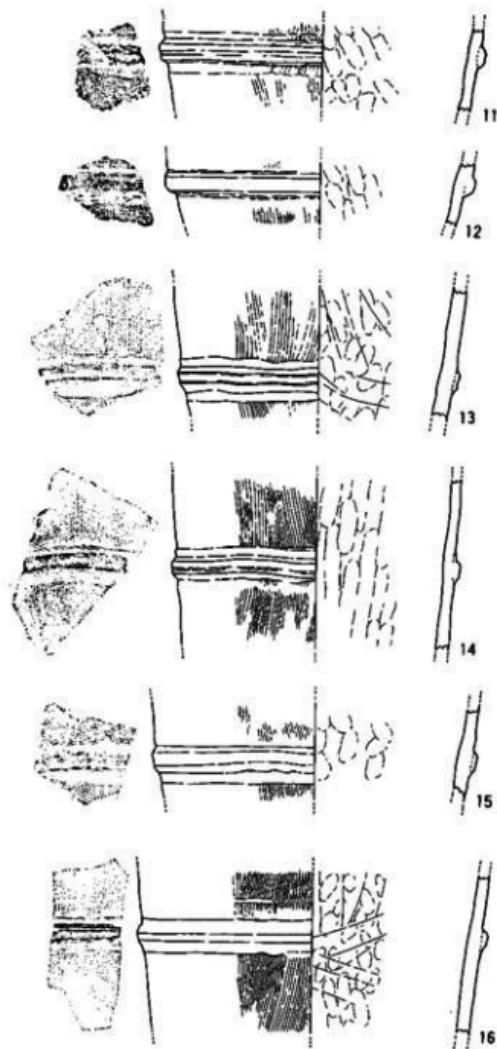
また、黒色鉱物としたものは、黒雲母に類似するものの、黒雲母であればそれが風化した金雲母が一定量含まれるべきところ、金雲母はまったくみられないことから、断定を避けた。あるいは角閃石の可能性もあるが明瞭な劈開面が観察できない。

須恵器（第8図）

壺口縁部片1点、壺体部片3点がある。壺は口径12.6cmの小形品で口縁端部を面取りして矩形に拡張するものである。壺は外面に平行叩きを施し、内面の當て具痕を丁寧になで消すもの（23・25）と軟質焼成で外面に格子叩きを施し、内面に當て具痕をとどめるもの（24）がある。23・25は内面の當て具痕のナデ消しからみて6世紀中葉ごろと推定される。24は6世紀後半以後の混在品か。

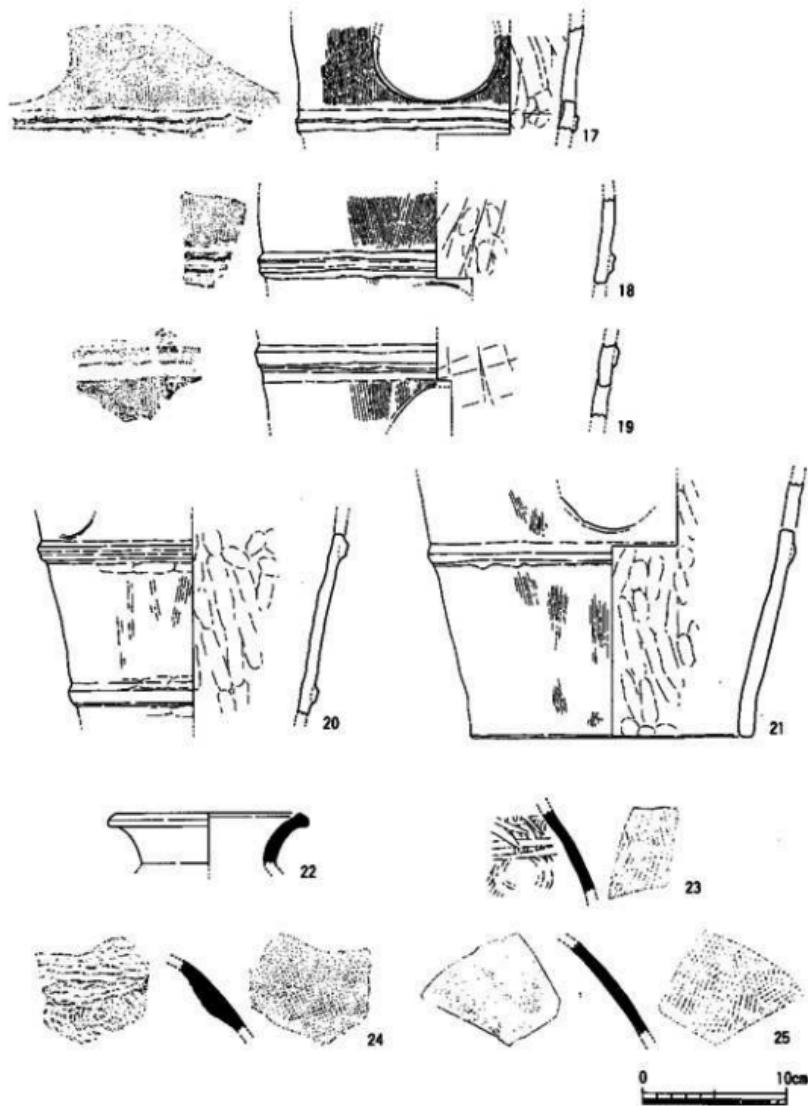


第6図 C地区出土遺物①



0 10cm

第7図 C地区出土遺物②



第8図 C地区出土遺物③

(2) D地区出土遺物 (第9~13図)

D地区では1トレンチの谷部埋積土から土師器・陶磁器・瓦質土器・土師質土器・瓦・鋳型等の鋳造関係遺物が出土した。

土師器 (第9図26・27)

小皿 (26)・坏 (27) がある。小皿は完形品で、底部はヘラ切り後にハケメを施す。中世後半頃の所産。

須恵器 (第9図28~31)

坏 4点、壺口縁部 1点がある。28はかえり付の7世紀中葉頃の坏身。29は7世紀後葉頃の皿底部。30は8世紀頃の坏である。31は口縁部が内側して肥厚する壺の口縁部。

陶磁器 (第9図32~41)

32は陶器小皿で外面に炭化物が付着する。33~38は備前系陶器の灯明皿で33のみ内面に受け部が短く立ち上がる。39は内外面鉄釉で口縁部端反の磁器猪口である。産地は不明。40・41は内面に生掛け施文をもつ磁器酒杯で、19世紀後半頃の美濃産か。

瓦質土器・土師質土器 (第9図42~51)

42は口縁部が直立する瓦質土器の茶釜である。43・44は瓦質の羽釜。45は土師質の焙烙底部片。46は体部下端に文様帯をもつ土師質の三足火鉢。47・48は口縁部が肥厚する土師質壺である。49は壺の底部で底面に粗いハケメを施す。50は高脚部状の土師質土器で坏部底面に穿孔をもつ。内外面の粘土接合痕が明瞭で粗放な作りである。51は土師質の堀蓋で上面は丁寧なナデ調整を施すが、下面是底面に粗く太めのヘラミガキを施すほかは未調整。

軒瓦 (第10図52~62)

52~58は巴文軒丸瓦、59は菊文の駆斗瓦、60~62は唐草文軒平瓦である。61は中央に宝珠形の文様をもつ。

鋳造関係遺物 (第11図63~83)

赤色化した鋳型、スサ入り粘土塊、銅錢・銅片等の銅製品が出土した。

63~78は鋳型である。これらは2~4cm大に細かく碎かれたものが多く、赤色化して片面に鋳面をもつ。器種を特定できるものが少ないが、梵鐘や仏像など仏教関係のものが多いものと考える。鋳型は構成する粘土素材で2種類に区分できる。A種はきめ細かな素地で0.5mm以上の砂粒を含まない精良な粘土を使用するもので、裏面はナデ調整され概して薄い。B種はスサ入りで8mmほどの石英粒を多量に含み、表裏いずれかの面が剥落か未調

整のもので厚みをもつ。

63・64はA種で厚さ3~5mm。梵鐘の乳の鋳型である。蓮瓣状を呈し、高さ3.5cmをはかる。細かな錫線が描かれる。基部は低い段状の圓線を巡らせる。裏面は丁寧なナデ調整。65はA種で厚さ4mm。裏面はナデ調整面に幅6mm長さ1.4cm以上の表面が粗い隆帯が貼り付く。梵鐘撞座の蓮華文と推定される。

66~70はB種の鋳型で裏面はすべて剥落面である。剥落面にはスサや大粒の石英粒が多いが、表面の鋳面はA種と同様な精良な面である。断面を詳細に観察すると表面から3~4mmまでが精良な粘土であり、A種鋳型の裏面に粗い粘土が貼り付いた状況を示す。粘土の接合境には乾燥痕跡はみられず、連続的に貼り付けている。いずれも表面は扁平で形状不明の文様が描かれる。

67~75はA種の扁平な鋳型である。厚さは8~12mmで裏面はナデ調整。72を除き側縁の立ち上がりが遺存する。表面の文様は75を参考にすると、2条の圓線で囲まれた直径8.6cmの円形部分と、それに取り付いて扇状文様を2個以上連結させた棒状突起が3~4cm間隔で配置されるものである。器種は不明であるが、裏面のナデの状況や側縁部の立ち上がりは76~78の仏像鋳型に類似する。

76~78はA種でやや厚めの一群である。仏像と推定される鋳面を留め、他より立体的な鋳面をもつことにより、厚みが増している。76は小片のために推定を域を出ないが、やや外反する腕部分に2条の腕輪を締め、手の甲部分で衣襞が斜交するように観察される。77は図の右上方に意匠化した顔面とその下位に単位の大きな裳、さらに藤手状の意匠を付属するものと考えられる。側縁には錫杖を持ち、衣襞と斜交する。78は腹部付近の破片と推定され、2条の突線で帶を表現する。帶から下は単位の大きな裳があり、右端には雲状の衣襞が派生するように観察される。これらの仏像は腕輪や錫杖をもつ点などから密教系統と作風で、大きさの点では顔面や腹部の比率から全長20cm程度と考えられる。また立体的とはいえ単独の仏像とするには彫り込みの肩が明瞭でないことから、器面への浮き彫り状の様相が想像される。江戸時代中葉以降に製作された梵鐘で袈裟棒文様が消失して拡大された空間を使用して仏像や飛天像を鋳付けることが流行する¹⁾。これらの類例と比較するとこの鋳型から推定される仏像大きさと概ね一致するものが多い。乳や撞座とあわせて大型の梵鐘を構成する仏像である可能性を指摘しておく。

79・80は弧状にカーブする厚め器面の下端部にナデ調整面をもつもので、スサ入りのきわめて粗い粘土を使用する。80は外面にA種と同様の粘土を薄く貼り付け、ナデ調整を行

っている。79は外面は剥落面であるが内面は粗いヘラケズリ面を留めている。梵鐘鋳型を構成するものとすれば、下端部の「駒の爪」とされる部分に該当する。79は下端部から7cmほどのところに細い沈線がみられ、「草の間」上端の突線の可能性がある。構造的には79は外型、80は内型に該当する。

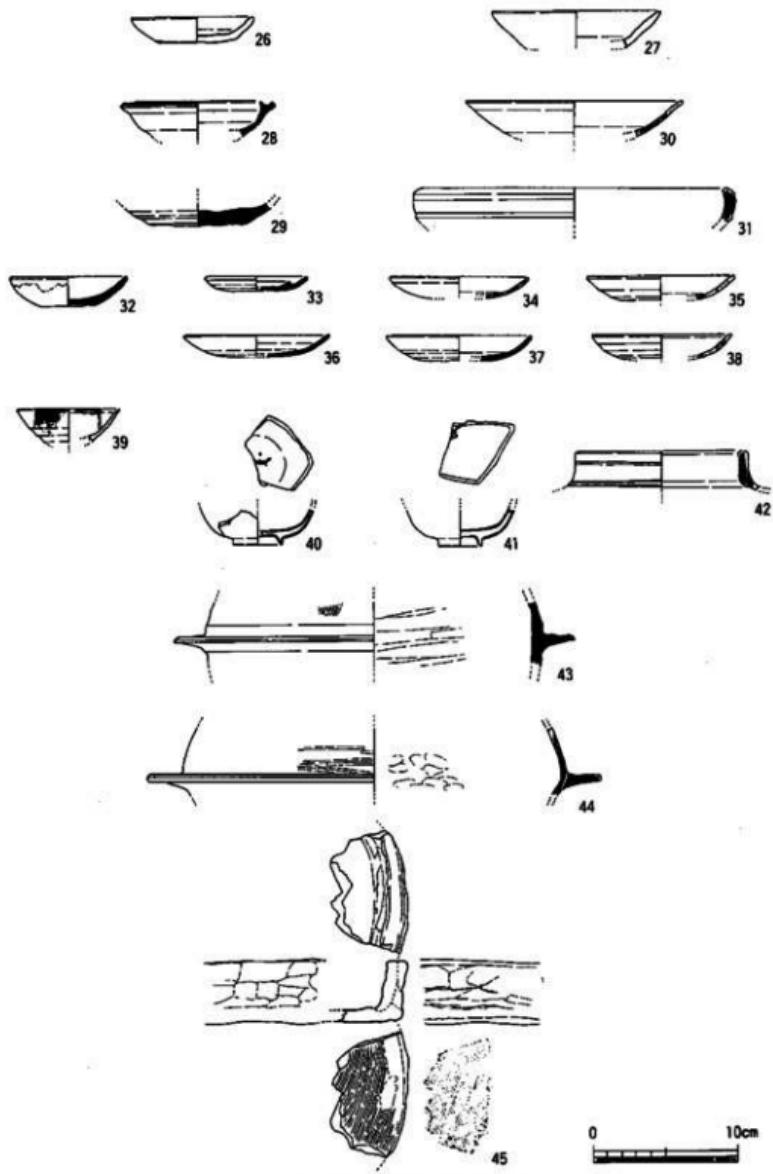
81～83は鋳面は緩やかなS字状のカーブが認められ、梵鐘肩部の内型と考えられる。B種の鋳型で、外面に精良粘土を貼り付け丁寧なナデ調整を施す。

このほか、圓化していないB種の裏面と同じく粗い砂粒を含み、スサ入りの粘土で覆われた塊が多数出土している。調査範囲の関係上鋳造に関する遺構は検出されていないが、このような梵鐘を中心とした鋳型やスサ入り粘土塊の出土は近隣に鋳造施設のあったことが窺える。

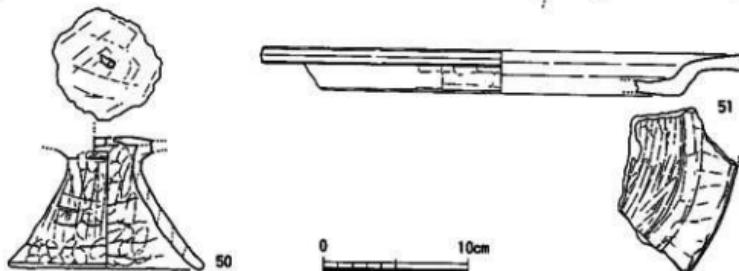
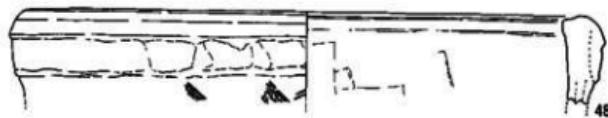
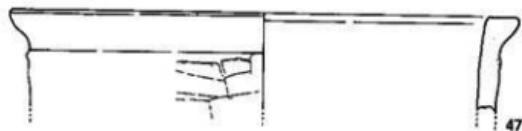
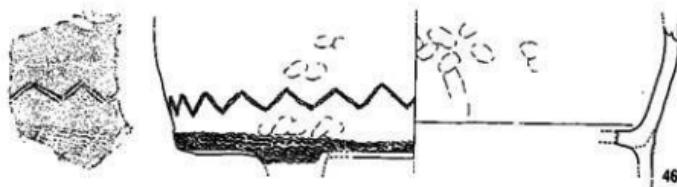
金属器類（第11図）

84～95は銅錢や薄い板状銅片である。銅錢は寛永通宝と半錢の2種で、半錢のうち1つは明治14年の銘がある。

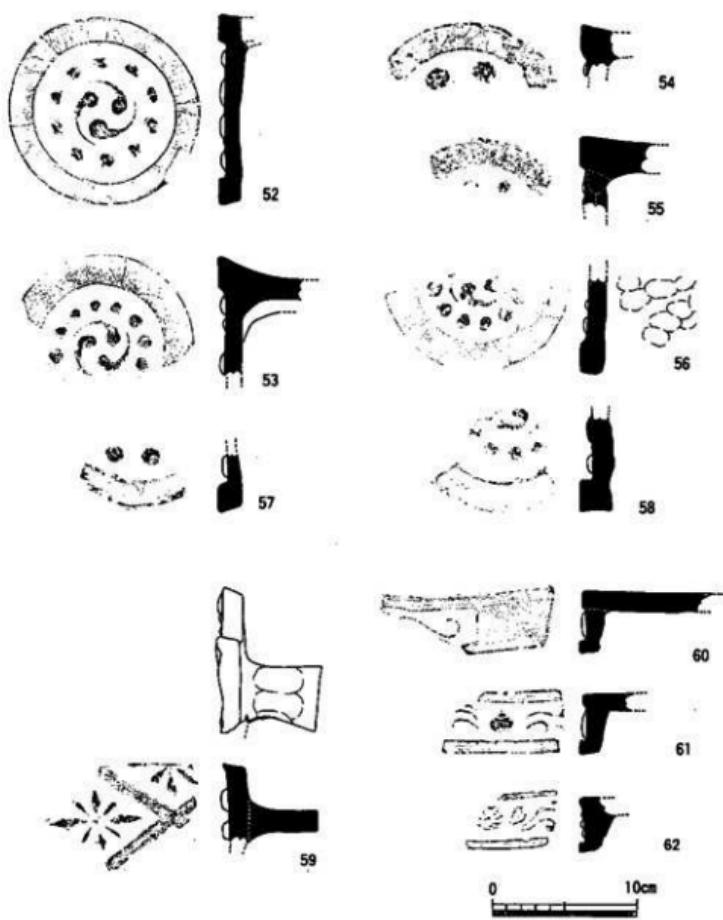
* 1 坪井良平 1970『日本の梵鐘』角川書店、同 1976『梵鐘』学生社



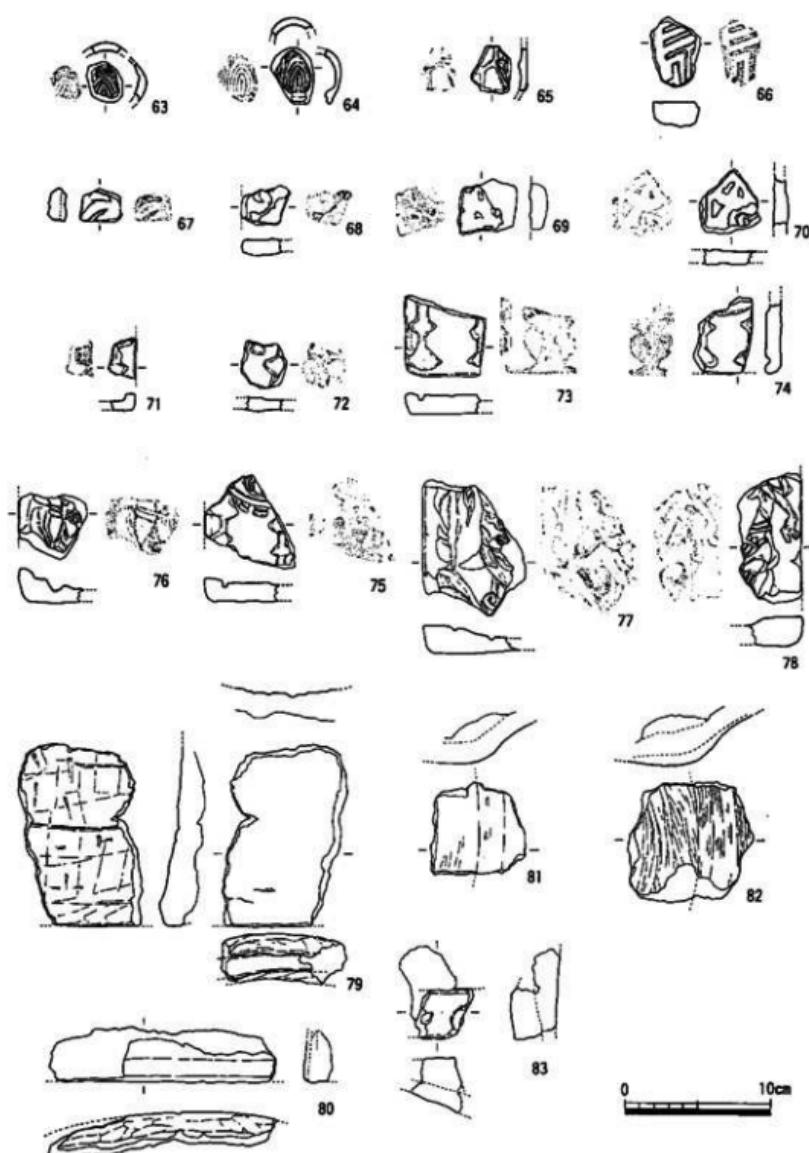
第9図 D地区出土遺物①



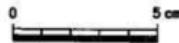
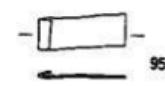
第10図 D地区出土遺物②



第11図 D地区出土遺物③



第12図 D地区出土遺物④



第13図 D地区出土遺物⑤

第5章 まとめ

C地区（飯野東分山崎南遺跡）出土の埴輪

出土した埴輪は、きわめて齊一的な様相をもつ一群である。これらは、客土層出土とはいへ周辺に山崎古墳群の存在を考慮すれば、すでに破壊された北側に古墳を想定し、破壊時の残土に含まれたものと考えるのが妥当である。分布の上ではまとまりがよく、一つの古墳に所属する埴輪と考えたい。

出土した埴輪の様相は、穴窯焼成の導入以降の川西編年V期に相当する。県内のV期の埴輪は普通寺市王墓山古墳出土資料をはじめ、中小古墳に数多く確認されている。それらは必ずしも一律の特徴を備えているものではなく、口縁部形態や凸帯形状等からいくつかの系統に整理されるものと考える。今回の資料はそのような系統整理を行う際の基礎資料になり得るものである。

D地区鋳造関係遺物の評価

予備調査中にここで図化したもののはかにコンテナ約2杯分遺物が出土した。それらはほとんどがスサ入りの粘土塊であり、それに近世末～近代の陶磁器が少量含まれるという組成であった。調査時に、粘土塊は土塀かあるいは壁土を構成したものであり、整地された平坦地を中心とし、保護措置に相当しないその時期の宅地が存在したものと考えた。少量出土した鋳型も、当時は鋳型と気付かずしてそれ以上の評価を与えなかった点は反省すべきである。整理に当たって遺物を見直すと、一部を除いて梵鐘の鋳型と考えられるものが多く、それが近代であっても、少なくともこの場所においては後に続く産業化された鋳造工場などは存在しないのであって、香川県下で遅くとも奈良時代から平安時代ごろに始まる鋳造生産の、近代産業化直前の状況を把握する重要な資料になり得た可能性はある。ただし、今回調査を行った地点は、後に述べるように伊勢神社の境内前の平坦地が谷に面する地点であり、今回出土した遺物は多くが谷に落ち込んだ状態で出土している。したがって、今回の道路工事予定地と伊勢神社境内前の平坦地には、鋳造関係の遺構が未だ埋没している可能性が高いことになる。

さて、これらの鋳造関係遺物のうち鋳型については構成する粘土をA種、B種に区分した。A種はきわめて精良な粘土で粗い砂粒は含まない。それに対してB種は時に1cmを越

えるような大きな石英粒あるいは粗いスサを含むものである。この2種の粘土が同一の個体で鋳型面と裏面で使い分けられているものがあった。梵鐘鋳型の諸例を参考にすると、このA種は「上げ真土」と考えられる。そしてB種は「粗真土」あるいは「素焼き外型」となろう。また、乳や仏像部分は別づくりとなる「サク土素焼離型」(イケコミ手法)で裏面が丁寧なナデ調整となることに合致する*1。

梵鐘の型式からみると、乳の装飾が著しい点、仏像が表現されさらにその意匠化が進む点からみて、江戸時代中葉を遡ることはあり得ない*2。トレンチで出土した銅製品のうち明治14年の銅鏡がある点や同時に出土した19世紀後半の美濃産磁器などからみて明治年間に相当するものと考えてよいであろう。

調査地はすでに記したように伊勢神社の境内前の平坦地が谷に向かって傾斜する前端部に相当する。伊勢神社の創建年代は不明であるが、例えば近世段階の北野天満宮の鋳込みが、物見遊山的な一般大衆の享楽の一つとして存在したとの指摘*3があるように、近隣の神社境内でなんらかの契機で鋳込みが行われることもありえたであろう。このような鋳込みは「出吹き*4」と言われ、近代産業として定着する以前に各所で「出吹き」を行う鋳物師集団が存在した可能性が考えられる。ちなみに香川県下で近代産業として発達した鋳物師は明治12年に書写された「由緒鋳物師人名*5」によれば、5名おり本遺跡に近いのは鷹足郡土居村の鋳物師がある。これは後に鋳造工場として丸亀市内に移動して展開する系譜がある。また、西讃の別の集団は江戸時代に移動しながら現在の位置に定着したことが伝えられている*6。このように鋳造技術が近代産業として定着する前段階、未だ移動性の高い鋳物師集団が存在した段階に行われた一過性の鋳造施設であった可能性が高いものといえる。

* 1 五十川伸夫 1994『梵鐘の鋳造遺跡』[考古学ジャーナル] 372、ニューサイエンス社
本書校正中に五十川氏より当資料について、特に鋳型の部位などの詳細なご教示を得た。
記して感謝申し上げる次第である。

* 2 坪井良平 前掲書、奈良国立文化財研究所 1994『梵鐘実測図完成 上・下』

* 3 五十川伸夫 前掲書

* 4 神崎勝 1993『梵鐘の鋳造遺跡とその変遷』[考古学研究] 40-1

* 5 村内政雄 1972『由緒鋳物師人名録』[東京国立博物館紀要] 第7号

* 6 濱戸内海歴史民俗資料館編 1990『香川県の諸職—香川県諸職関係民俗文化財調査報告書一』香川県教育委員会

飯野東分山崎南遺跡
遺物觀察表

凡　　例

胎　　土

白……白色砂粒	大……鉱物・砂粒の径が1.1mm以上	多……鉱物・砂粒を多く含む
茶……茶色砂粒	中…… ♪ 0.6～1.0mm	少…… ♪ 少量含む
灰……灰色砂粒	小…… ♪ 0.5mm以下	微…… ♪ 僅かに含む
透……透明砂粒		

含有鉱物等（埴輪）

含有鉱物等の名称を記載し、多く含まれるものは（ ）内にその粒子の大きさをmm単位で示した。

色　　調　　『新版標準土色帖(1992年版)』(日本色研事業株式会社)による表記

□ (底) 径／最大径　　すべて cm·g に統一した

飯野東分山崎南遺跡 遺物観察表 (1)

遺物番号	報告書番号	報告書選擇名	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調査	内面調査	残存率	形態上の特徴
22	8 7	C地区 表保	須恵器 磁	(12.6)	少	白・黒・茶。小~中。	にぶい青色 (2.5Y 6/3)	にぶい青色 (2.5Y 6/3)	青灰色(2.5 Y 5/1)	回転ナデ	平行タキ	1/8	
23	8 7	C地区 6トレス土層	須恵器 磁		白、少	にぶい青色 (2.5Y 6/3)	青灰色(2.5 Y 5/1)	青灰色(2.5 Y 5/1)	平行タキ	当て具痕	小破片		
24	8 7	C地区 東北傾斜地	須恵器 磁		灰・白、透、少~ 中、多	にぶい青色 (2.5Y 6/3)	灰黄色 (7/2)	灰黄色(2.5 Y 5/1)	格子タキ後 ハケ	当て具痕	破片		
25	8 7	C地区 6トレス土層	須恵器 磁		灰・白、少、少	灰黄色(N5/)	灰色(N6/)	灰色(N6/)	平行タキ	当て具痕	破片		
26	9 8	D地区 表保	土師器 皿	8.3	1.75	5.4	黒・茶・灰、少、多	浅黄褐色(Y 8/4)	浅黄褐色(Y 8/4)	底部: ハケ開裂 ハケ後	回転ナデ	完存	
27	9 8	D地区 1トレス	土師器 皿	(11.4)		白・透・黒、少、少	橙色(7.5 Y R 7/6)	橙色(7.5 Y R 7/6)	回転ナデ	回転ナデ	1/6		
28	9 8	D地区 表保	須恵器 皿	(8.6)		白、小~中、多	灰色(N5/)	灰色(N4/)	面部ナデ	面部ナデ	1/7		
29	9 8	D地区 表保	須恵器 皿		(7.0)	黒・白・透、少~中、 多	白灰色(N7/)	白灰色(N7/)	面部ナデ、 ハケ切り継ナデ	回転ナデ	1/8		
30	9 8	D地区 表保	須恵器 皿	(14.8)		灰・白・透、少~中、 多	灰色(N6/)	灰色(N6/)	面部ナデ	面部ナデ	1/8		
31	9 8	D地区 表保	須恵器 皿	(20.8)		白・黒・茶、少、少	胎: 灰白色 (2.5 G Y 8/1) 灰白色(Y 4/1)	胎: 青オリーブ (2.5 G Y 8/1) 灰白色(2.5 G Y 4/1)	面部ナデ	回転ナデ	1/8		
32	9 8	D地区 1トレス	陶器 小皿	7.9	2.0	3.7	稍織	浅青色(2.5 Y 7/3)	灰色(Y 6/1)	回転ナデ、 軸ヘラ削り	回転ナデ	完存	施釉、質入
33	9 8	D地区 1トレス	陶器 灯明	(6.7)	1.0	(3.1)	黒・白、微	淡青褐色(Y R 3/6 4/6)	青褐色(2.5 Y 4/6)	回転ヘラ削り	回転ナデ	1/7	内面にかえり
34	9 8	D地区 1トレス	陶器 灯明	(9.4)		白・黒、少、少	にぶい青褐色 (2.5 Y 4/4)	青赤褐色(Y R 5/6)	回転ナデ、回	回転ナデ	1/6		
35	9 9	D地区 1トレス	陶器 灯明	(10.0)		小、少、微	にぶい青褐色 (2.5 Y 4/4)	にぶい青褐色 (2.5 Y 5/4)	回転ヘラ削り	回転ナデ	破片		
36	9 8	D地区 1トレス	陶器 灯明	(9.8)	1.5	黒・白、少、少	にぶい青褐色 (2.5 Y 5/4)	青赤褐色(2.5 Y 5/6)	回転ヘラ削り	回転ナデ			
37	9 8	D地区 1トレス	陶器 灯明	(9.8)	1.75	茶・白、少、少	褐灰色(5 Y R 4/1)	灰褐色(5 Y R 5/2)	回転ヘラ削り	回転ナデ	1/6		

飯野東分山峰南遺跡 遺物觀察表 (2)

遺物番号	地図番号	解説書遺跡名	器種	口径(cm)	底径(cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴
38	9 9	D地区 1トレ	陶器 灯明 直	(9.5)		白・黒、小、微 透明	にぶい赤褐色 (2.5Y R 5/4)	同様ナダ 板ヘラ削り	回転ナダ	回転ナダ	破片	
39	9 9	D地区 1トレ	磁器 猪口	(6.9)		精緻	胎: 透明	胎: 白色	施物、回転ナ デ	回転ナダ	1/8	内外面施物の 部分剥げ
40	9 9	D地区 1トレ	磁器 酒杯		(3.2)	精緻	胎: 灰白色 (7.5 Y 8/1) 具類: ?	胎: 灰白色 (5 Y 8/1)	回転ナダ	回転ナダ	1/3	生掛け施物
41	9 9	D地区 1トレ	磁器 酒杯		(2.8)	精緻	胎: /	胎: 灰白(N 8 Y 8/1) 具類: 鎌背	施物、回転ナ デ	1/2	生掛け施物	
42	9 9	D地区 1トレ	瓦質土器 茶釜	(11.7)		白・黒、少 白・黒	暗灰色(N 3/)	暗灰色(N 3/)	回転ナダ	回転ナダ	破片	
43	9 9	D地区 1トレ	瓦質土器 羽釜			白・黒、少 白・黒	灰白色(7.5 Y 7/1)	灰白色(7.5 Y 4/1)	ハケ、剥落 回転ナダ	板ナダ	1/8	
44	9 9	D地区 1トレ	瓦質土器 羽釜			白・黒、少 赤・黒、白・透 赤・黒、多	灰白色(2.5 Y 4/1)	灰白色(2.5 Y 4/1)	ハケミガキ、 焼けナダ	指押焼物ナ ダ	1/8	
45	9 9	D地区 1トレ	土師質土器 焼			白・黒、中、多 白・灰、茶・黒、 白・透、小	淡薄色(2.5 Y 7/3)	淡薄色(2.5 Y 7/3)	板ナダ、ハケ 板面ハケ	板ナダ、ナダ 破片		
46	10 9	D地区 1トレ	土師質土器 火鉢			白・灰、茶・黒、 中、多	暗灰色(10 Y R 4/1)	暗灰色(10 Y R 7/1)	板ナダ	板ナダ	破片	
47	10 9	D地区 1トレ	土師質土器 (34.4)			白・透、小~中, 多	黑色(2.5 Y 2/ 1)	にぶい黒褐色 (10 Y R 6/3)	回転ナダ、板 回転ナダ	板ナダ	1/8	
48	10 9	D地区 1トレ	土師質土器 焼	37.4		白・灰、茶・黒、 中、多	にぶい青褐色 (10 Y R 6/3)	にぶい青褐色 (10 Y R 7/4)	板ナダ、板ナ デ	板ナダ後板ナ デ	破片	
49	10 9	D地区 1トレ	土師質土器 焼		(20.1)	黒・白・透、小~中, 多	にぶい青褐色 (10 Y R 7/3)	にぶい青褐色 (10 Y R 7/4)	板ナダ、ハケ 板ナダ後板ナ デ	板ナダ	1/8	
50	10 10	D地区 表保	土師質土器 离合状		12.9	茶・白・透、小 ~中、多	淡褐色(5 Y R 8/4)	淡褐色(5 Y R 8/4)	指押、ナダ	完存		
51	10 10	D地区 表保	土師質土器 直	(32.6)	2.9	(24.9) ~大、 多、透、小	にぶい青褐色 (10 Y R 5/4)	にぶい青褐色 (10 Y R 5/4)	板ナダ	板ナダ	1/8	
52	11 11	D地区 1トレ	重ね瓦	重ね瓦	13.0	厚さ 1.5	暗灰色(N 3/)	暗灰色(N 3/)	ナダ	ナダ		
53	11 11	D地区 1トレ	軒丸瓦	軒丸瓦	6.0	灰・白、少 多	灰色(N 5/)	灰色(N 5/)	板ナダ、ナダ	板ナダ、ナダ	?	珠文8.巴文

飯野東分山崎南遺跡 遺物観察表 (3)

遺物番号	博物館番号	報告書添削名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面部業	内面部業	残存率	形態上の特徴
54	11 11	D地区 1トレ	軒丸瓦	R.当径 6.0		茶・黒・白、少~中、灰白色	N(7)	灰白色	N(7)	ナデ	板ナデ	?	珠文2
55	11 11	D地区 1トレ	軒丸瓦	(13.4)		白、少、少	灰(6)	灰(6)	板ナデ	板ナデ	板ナデ	1/2	
56	11 11	D地区 1トレ	軒丸瓦	(13.8)		白・透、少	暗灰色	N(3)	暗灰色	N(3)	ナデ	指揮後板ナデ 後ナデ	1/2
57	11 11	D地区 1トレ	軒丸瓦	R.当径 6.5		白・透、少、多	灰(6)	灰(6)	板ナデ	指揮後板ナデ	指揮後板ナデ	?	
58	11 11	D地区 1トレ	軒丸瓦	垂丸瓦 重垂 13.2		厚さ 2.2	白・灰、少	暗灰色	N(3)	ナデ	板ナデ、ナデ	破片	
59	11 11	D地区 1トレ	瓦質			白、少、少		灰(4)	灰(4)	板ナデ、ナデ	板ナデ	1/2	
60	11 11	D地区 1トレ	軒平瓦	垂丸瓦 重垂 4.2		厚さ 1.3	白・透、少~中、 透	灰(4)	灰(4)	ナデ、板ナデ ナデ	板ナデ	板片	
61	11 -	D地区 1トレ	軒平瓦	現存長 3.6		白、少、少	灰(4)	灰(4)	板ナデ、ナデ	板ナデ、ナデ	板ナデ	1/2	
62	11 -	D地区 1トレ	軒平瓦			灰・白・透、少~中、 透	灰白色 7/1)	灰白色 7/1)	板ナデ	板ナデ	板ナデ		
63	12 12	D地区 1トレ	輪型			白、少、多		板色	(5)Y R7/	ナデ	板ナデ	破片	
64	12 12	D地区 1トレ	輪型			白・透、少	板色 6/6)	板色 6/6)	板色 6/6)	板色 6/6)	板色 6/6)	板色 6/6)	破片
65	12 12	D地区 1トレ	輪型			白・黒、少、黒	にぶい青褐色 (10 Y R6/4)	にぶい青褐色 (10 Y R6/4)	ナデ	ナデ	ナデ	小破片	
66	12 12	D地区 1トレ	輪型			白・黒、少、少		板色 6/6)	板色 6/6)	板色 6/6)	板色 6/6)	板色 6/6)	破片
67	12 12	D地区 1トレ	輪型			白・黒、少、少		にぶい褐色 (7.5 Y R6/4)	ナデ	ナデ	ナデ	小破片	
68	12 12	D地区 1トレ	輪型			黒・白・透、少~大、 多		透褐色 (2.5 Y 7/3)	透褐色 (2.5 Y 7/3)	ナデ	ナデ	小破片	
69	12 12	D地区 1トレ	輪型			白・茶・黒、少、多		板色 6/6)	板色 6/6)	板色 6/6)	板色 6/6)	小破片	

飯野東分山岭南遺跡 遺物観察表 (4)

遺物番号	標本図版番号	報告書遺物名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴
70	12	D地区 1トレ	鋤型				白・透、小~大、 多		[に]ぶい橙色 (7.5 Y R 6/4)	ナデ			破片
71	12	D地区 1トレ	鋤型				白・黒、小、少		橙色(5 Y R 7/ 8)	ナデ			小破片
72	12	D地区 1トレ	鋤型	厚さ 0.9			白・灰・黒、小、多	[に]ぶい黄褐色 (10 Y R 6/4)	[に]ぶい黄褐色 (10 Y R 6/3)	ナデ			小破片
73	12	D地区 1トレ	鋤型				白・灰、小、多		橙色(5 Y R 6/ 6)	指押、ナデ			破片
74	12	D地区 1トレ	鋤型				白、少、多		橙色(5 Y R 6/ 6)	指押、ナデ			破片
75	12	D地区 1トレ	鋤型				白、少、多		[に]ぶい黄褐色 (10 Y R 6/4)	ナデ			破片
76	12	D地区 1トレ	鋤型				黒・白・透、小、多		橙色(5 Y R 6/ 6)	指押、ナデ			破片
77	12	D地区 1トレ	鋤型				黒・白、小、多		橙色(7.5 Y R 7/6)	ナデ、横ナデ			破片
78	12	D地区 1トレ	鋤型				白・黒、小、多		橙色(5 Y R 7/ 8)	ナデ、横ナデ			破片
79	12	D地区 1トレ	鋤型				白・茶・灰・透、小 ~大、多	透微色(2.5 Y 8/6)			ヘラ削り		破片
80	12	D地区 1トレ	鋤型				白・灰・茶・透、小 ~大、多		橙色(7.5 Y R 6/6)				破片
81	12	D地区 1トレ	鋤型				白・灰・茶・透、小 ~大、多		[に]ぶい黄褐色 (10 Y R 6/4)	[に]ぶい黄褐色 (10 Y R 6/4)	ヘラ削り		破片
82	12	D地区 1トレ	鋤型				白・灰・茶・透、小 ~大、多	橙色(5 Y R 6/ 6)	明黄褐色(10 Y R 7/6)	ナデ			破片
83	12	D地区 1トレ	鋤型				白・茶・透、小~大、 多		[に]ぶい黄褐色 (10 Y R 7/4)	ナデ			破片
94	13	D地区 1トレ	鋤製品				最大幅 3.7		触灰色(5 G 6/ 1)				表面に触跡
95	13	D地区 1トレ	鋤製品				最大幅 3.0		触灰色(5 G 6/ 1)				表面に触跡

地盤観察表 (1)

地盤名	固版番号	測定部	残存部位置	深さ (mm)	元色 (外面)	色調 (断面)	含有物等 (単位は mm)	焼成	口縫部形態	透孔	凸帯形態	外表面調整	内面調整	参考
C地区 6トレス 土層	1 6	朝顔	頭部	(21.5)	浅緑褐色 R7/6	橙色(5Y 8/6)	にぶい黄 石英(10 YR5/3)	土筋質 (軟)	三角形状	タテハケ (6条/cm)	ヨコハケ (8条/cm)	粘土質 合頁		
C地区 6トレス 土層	2 6	口縫	頭部	(22.0)	灰黄色 (2.5Y 6/2)	褐色(10 YR5/4)	にぶい黄 石英(-1.0)	土筋質 (硬)	直口、端部 横み上り	平口、端部 横み上り	タテハケ (6条/cm)	ヨコナデ		
C地区 6トレス 土層	3 6	口縫	頭部	(18.5)	褐色(7.5 YR5/6)	褐色(7.5 YR6/6)	にぶい黄 石英(-1.5) (-2.5)、黒色 鉱物	土筋質 (軟)	直口、端部 横み上り	平口、端部 横み上り	タテハケ (6条/cm)	ヨコナデ		
C地区 表探	4 6	口縫	頭部	(22.8)	にぶい黄 褐色(10 YR5/3)	褐色灰 色(5B G4/1)	石英(-1.5)	須毛質 (硬)	直口、端部 横み上り	直口、端部 横み上り	タテハケ (7条/cm)	指押さえ		
C地区 表探	5 6	口縫	頭部	(27.0)	にぶい黄 褐色(10 YR5/3)	褐色灰 色(5G Y4/1)	石英(-3.0)	須毛質 (硬)	直口、端部 横み上り	直口、端部 横み上り	タテハケ (7条/cm)	指ナデ		
C地区 6トレス 土層	6 6	口縫	頭部	(27.4)	にぶい黄 褐色(10 YR5/3)	褐色灰 色(7.5Y R6/6)	石英(-1.5)	土筋質 (硬)	直口、端部 横み上り	直口、端部 横み上り	タテハケ (6条/cm)	ヨコナデ	4と側 面性あり	
C地区 6トレス 土層	7 6	口縫	頭部	(14.8)	にぶい黄 褐色(7.5Y R5/4)	褐色(5Y R6/8)	灰黄色 (2.5Y 7/2)	土筋質 (軟)	上端凹面 横み下に開 け隙をなす	上端凹面 (10条/cm)	タテハケ (10条/cm)	指押さえ		
C地区 表探	8 6	口縫	頭部	(18.7)	褐色(5Y R6/6)	褐色(5Y R6/8)	灰黄色 (2.5Y 7/2)	土筋質 (軟)	上端凹面 横み下に開 け隙をなす	上端凹面 (6条/cm)	タテハケ (6条/cm)	指押さえ		
C地区 6トレス 土層	9 6	口縫	頭部	(19.3)	にぶい黄 褐色(10 YR5/3)	褐色(5Y R6/6)	灰黄色 (2.5Y 7/2)	土筋質 (軟)	上端平凹面 凸筋下端を へり下す	上端平凹面 (5条/cm)	タテハケ (5条/cm)	指押さえ	歯滅期 着	
C地区 6トレス 土層	10 6	口縫	頭部	(22.5)	褐色(7.5 YR6/6)	褐色(7.5 YR6/6)	灰黄色 (2.5Y 7/2)	須毛質 (硬)	上端凹面 横み下に開 け隙をなす	上端凹面 (4条/cm)	タテハケ (4条/cm)	指ナデ		
C地区 表探	11 6	口縫	頭部				石英(-1.5) (-1.0)、チヤー ート、赤色 鉱物	土筋質 (軟)	上端凹面	タテハケ	指押さえ	歯滅期 着		

地盤観察表 (2)

遺構番号	遺構名	断面	残存部	元長さ	元幅	色調 (内面)	色調 (外面)	色調 (断面)	色調 (外)	含 有 物 質	単位 (mm)	焼 成	口縁部形態	部形態	通孔	凸凹形態	外縁調整	内面調整	備考
12 6	C地区 6ドレ盤 土槽	円筒	胸部	(21.3)	褐色(5Y R6/8)	褐色(5Y R6/8)	灰黄色(2.5Y 2/2)	石英(-1.0), 長石 (~1.0), チヤート (~-1.5), 黑色鐵粒	土師質 (軟)			圓錐状, 凸 凹下に開口	凸凹状, 凸 凹下に開口	タテハケ (7条/cm)	指押さえ	燒成期 著			
13 6	C地区 表探	円筒	胸部	(20.0)	褐色(7.5 YR7/6)	褐色(7.5 YR7/6)	灰黄色(2.5Y 2/2)	石英(~3.0), 長石 (~-1.5), チヤート 黑色鐵粒	土師質 (軟)			上端凹面 凸凹下端を ヨコナナデ	上端凹面 凸凹下端を ヨコナナデ	タテハケ (6条/cm)	指押さえ	燒成期 著			
14 6	C地区 表探	円筒	胸部	(19.8)	褐色(7.5 Y 6/6)	褐色(7.5 YR6/8)	灰黄色(2.5Y 2/2)	石英(~3.0), 長石 (~-0.5), チヤート 黑色鐵粒	土師質 (軟)			上端凹面 凸凹下に開 口ヨコナナデ	上端凹面 凸凹下に開 口ヨコナナデ	タテハケ (5条/cm)	指ナナデ	凸部貼付面に 斜面沈積			
15 6	C地区 表探	円筒	胸部	(22.4)	褐色(5Y R6/6)	褐色(5Y R6/6)	灰黄色(2.5Y 2/2)	石英(~2.5), チヤ 赤色鐵粒	土師質 (軟)			上端凹面 凸凹下端を ヨコナナデ	上端凹面 凸凹下端を ヨコナナデ	タテハケ (5条/cm)	指押さえ	燒成期 著			
16 6	C地区 6ドレ盤 表探	円筒	胸部	(24.0)	褐色オリ ーブ色(5 Y 5/3)	褐色(10 YR5/3)	褐色(10 YR5/3)	褐色(7.5 G 4/1)	褐色 黑色鐵粒	石英(~1.5), 長石 (~-0.5), 黑色鐵粒 黑色鐵粒		規則質 面(未 然面 還元)	上端凹面 凸凹下端を ヨコナナデ	タテハケ (5条/cm)	指ナナデ				
17 7	C地区 6ドレ盤 土槽	円筒	胸部	(20.0)	にじみ 褐色(5Y 6/4)	褐色(5Y 2/2)	暗灰褐色 (2.5Y 2/2)	石英(-2.5), 長石 (5B G 4/1)	規則質 面(未 然面 還元)			円形	上端凹面 凸凹下端を ヨコナナデ	タテハケ (6条/cm)	指ナナデ				
18 7	C地区 表探	円筒	胸部	(24.5)	褐色(5Y R6/8)	褐色(5Y R6/8)	灰黄色(2.5Y 2/2)	石英(-2.5), 長石 (~-1.0), 黑色鐵粒	土師質 (軟)			円形	上端凹面 凸凹下に開 口ヨコナナデ	タテハケ (5条/cm)	指ナナデ				
19 7	C地区 6ドレ土槽	円筒	胸部	(25.0)	褐色(5Y R6/6)	褐色(5Y R6/6)	灰黄色(2.5Y 2/2)	石英(-1.5), 長石 (~-1.0), チヤート 黑色鐵粒	土師質 (軟)			円形	上端凹面 凸凹下に開 口ヨコナナデ	タテハケ (5条/cm)	指ナナデ				
20 7	C地区 表探	円筒	胸部	(21.3)	褐色(7.5 YR6/6)	褐色(7.5 YR6/6)	灰黄色(2.5Y 2/2)	石英(~6.0), チヤ 赤色鐵粒	土師質 (軟)			円形	上端凹面 凸凹下に開 口ヨコナナデ	タテハケ (5条/cm)	指ナナデ				
21 7	C地区 6ドレ土槽	円筒	底部	(19.2)	褐色(5Y R7/8)	褐色(5Y R7/8)	灰褐色(2.5Y R7/8)	石英(~3.0), 長石 (~-3.0), チヤート 黑色鐵粒	土師質 (軟)			円形	上端平坦 杭張せす面 取り	タテハケ	指ナナデ	燒成期 著			

龍川五条遺跡Ⅱ

図版

図版 1



前池地区 全景

図版 2

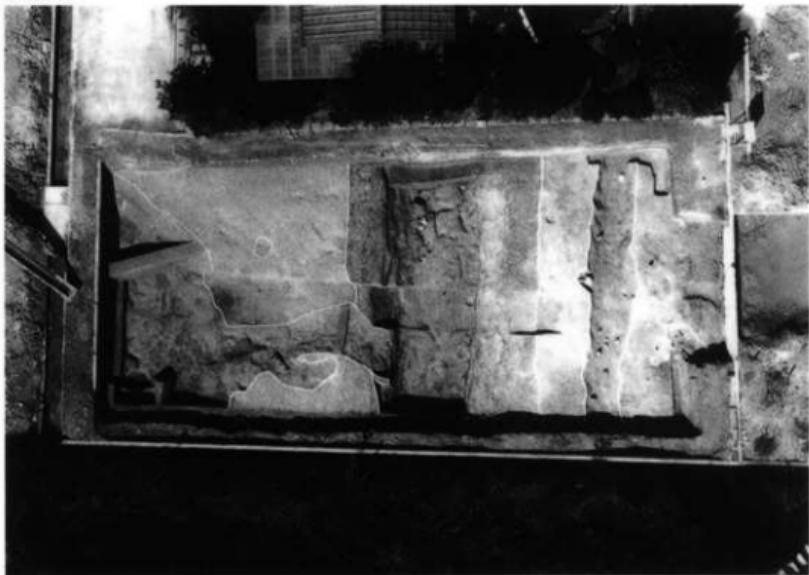


IVB区 全景



V①②区 全景

図版 4



(1) V④区 全景



(2) V⑥区 全景



前池地区弥生前期面 全景（西より）

図版 6



(1) 前池地区 東半部 (南より)



(2) 前池地区 SD49 の砂礫層基盤



(1) 前池地区 SD49 土層断面③ (東より)



(2) 前池地区 SR04・SD49 合流部土層断面④ (西より)

図版 8



(1) 前池地区 SD49 最下層土器出土状況（東より）



(2) 前池地区 SD50 土器出土状況（東より）

図版 9



(1) 前池地区 SD50 土器出土状況（東より）



(2) 前池地区 SR04（東より）

図版10



(1) 前池地区 SX07及び小ピット群（西より）



(2) 前池地区 SR04 基盤河川自然木出土状況（東より）



(1) V④区 SD51 土層断面（南より）



(2) V④区 SD51 (北東より)

図版12



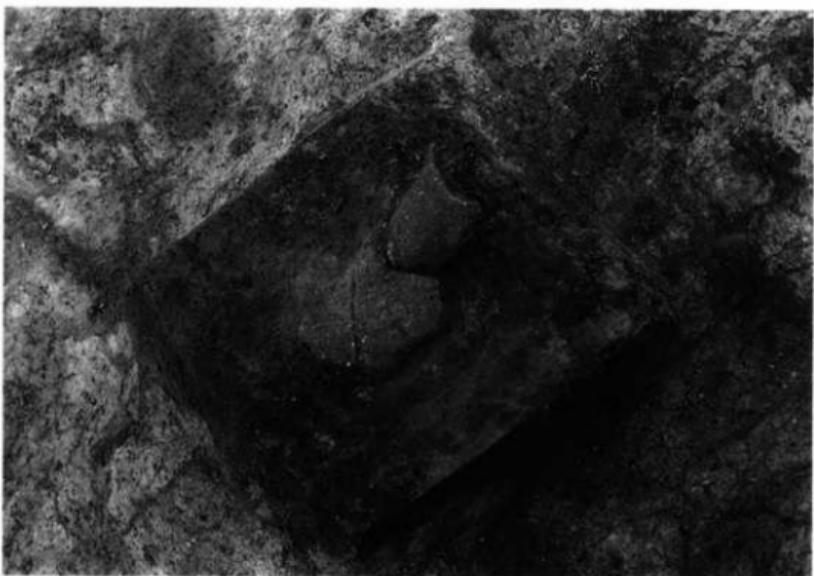
(1) IVB区 SR05 北半河床面（南より）



(2) IVB区 SR05 土層断面①（南より）



(1) IVB区 SR05 土層断面③(北より)



(2) IVB区 SR05 土器出土状況

図版14



(1) V④区 SD52 (西より)



(2) V④区 SD52 土層断面 (西より)



(1) V④区 SD52 高杯出土状況



(2) IV区 SR06 全景（南より）

図版16



(1) IVB区 SR06 北半部（南より）



(2) IVB区 SR06 (南より)



(1) IVB区 SR06 (南より)



(2) IVB区 SR06土層断面② (南より)

図版18



(1) IVB区 SR06 土層断面③ (南より)



(2) IVB区 SR06 土層断面④ (北より)



(1) IVB区 SR06 土層断面⑥（南より）



(2) IVB区 SR06 土層断面⑦（南より）

図版20



(1) V④区 SR06 土層断面⑨ (南東より)



(1) V④区 SR06 土層断面⑨ (南より)



(1) IVB区 SR06 木製品等出土状況（南より）



(2) IVB区 SR06 断面⑥ 木製品（3465）出土状況（南より）